

茨城県笠間市

寺上遺跡 2  
行者遺跡 2

畑地帯総合整備事業(小原地区)寺上遺跡発掘調査報告書

2013

笠間市教育委員会  
関東文化財振興会株式会社

茨城県笠間市

寺上遺跡 2  
行者遺跡 2

畑地帯総合整備事業(小原地区)寺上遺跡発掘調査報告書

2013

笠間市教育委員会  
関東文化財振興会株式会社



寺上遺跡 調査区全景



行者遺跡 調査区全景

## 序

笠間市は、茨城県のほぼ中央に位置し、北西部には八溝山系が、南西部には吾国山・難台山・愛宕山が連なり、中央を北西部から東部にかけて澗沼川が大地を潤す自然豊かな地域です。また、河川流域や台地上より数多くの埋蔵文化財が確認されていることから、原始・古代より人々が生活を営むうえで最適の地域であったといえます。

今回の調査は県営畑地帯総合整備事業に伴う寺上遺跡の発掘調査であります。この調査の結果、奈良・平安時代の丘陵斜面に立地した集落跡から、住居跡が多数発見されました。また、耕作土中から瓦塔片が出上りました。これらの発掘調査成果によって、地域の歴史を知る上で重要な資料を得ることができました。この報告書を通して郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化向上の一助として多くの人々に広く活用されますことを強く願っている次第です。

最後に、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大なるご指導・ご協力を賜りました関係機関並びに関係者に対しまして心より感謝申し上げます。

平成 25 年 3 月

笠間市教育委員会  
教育長 飯 島 勇

## 例 言

- 1 本書は、茨城県笠間市小原地区に所在する寺上遺跡及び行者遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、畑地帯総合整備事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査による記録保存を目的として実施された。
- 3 調査及び報告書作成は、笠間市教育委員会の指導・委託を受けて、関東文化財振興会株式会社が実施した。
- 4 遺跡の所在地、調査面積、調査期間は以下の通りである。

所在地 笠間市小原2320番地ほか

調査面積 17000㎡

寺上遺跡・・・15800㎡、行者遺跡・・・1200㎡

調査期間 平成23年10月25日～平成24年3月15日

整理期間 平成24年9月19日～平成25年3月15日

- 5 調査・整理担当者、筆跡分担については、以下の通りである。

寺上遺跡 宮田 和男 (D区調査、D区整理・執筆、遺物撮影・編集)

鹿島 直樹 (E・F区調査、E区整理・執筆)

小野 麻人 (F区整理・執筆)

以上、関東文化財振興会株式会社

行者遺跡 加藤 忠 (遺構調査、遺構の整理・執筆) 笠間市教育委員会

佐々木藤造 (遺物の整理・執筆)

小野 麻人 (執筆、遺物撮影・編集)

関東文化財振興会株式会社

- 6 調査で得られた資料は笠間市教育委員会で保管している。

- 7 調査及び報告書作成に際し、下記の諸氏・機関からご指導・ご協力を賜りました。記して感謝を申し上げます。

能島清光 川崎純徳 枝川永男 川井正一 斎藤弘道 松田政基 櫻村直行 原信田正夫 土生朗治

後藤 成 綿引英樹 宮田忠洋 刈谷崇文 池内寛 大久保隆史 茨城県教育委員会 栃茨城県教育財団

茨城県県央農林事務所 小原土道改良区 篠原電工 塚田工務店 JTB空撮 カワロ産業

- 8 本書の作成作業にあたっては、青木毅彦 市毛友則 川又恵美子 菊池芳子 木村浩 倉田典子 佐久間弘美 佐久間憲子 佐久間淳子 田口麻子 田辺伸子 中里ひろみ 萩原宏季 益子光江 村山卓 森島みづ子の協力を得た。

- 9 発掘調査参加者は以下の通りである。

青木誠 飯田昭 稲見和子 稲見幸子 岩田時彦 枝川幸光 海老沢武 大山年明 小坂部克己 鬼沢勲

大堤博江 小山義則 加藤輝雄 川又恵美子 川又誠二 郡司ゆき子 小久保勝司 今野春雄 今野美登里

斉藤幸一 佐久間亜貴 佐久間順美 佐久間憲子 佐久間弘美 佐藤武志 佐藤としえ 佐藤利男

塩畑勝利 篠原一郎 鈴木潤一 鈴木とし江 鈴木浩 高口平江 高野正行 高安幸且 高柳悦子

鶴井みどり 豊島英則 中村伊重 根矢稔 野村正子 壺きよ江 幅増男 吹野昇 斎倉秋之助 藤田経子

正木信行 益子光江 丸山麻由美 武藤瑞良 八巻省三 山口致辰 山崎正光 横田忠利 吉口壺

## 凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +17,094,606\text{m}$ 、 $Y = +9,221,847\text{m}$ の交点を基準点(A1)とし、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々50m四方の大調査区に分割した。なお、この原点は世界測地系による基準点である。また、調査区は便宜上、A～F区の6区分に分け、A～C区が第1地点、D～F区が第2地点と呼称した。以上、本設定は、先行発行された第1地点の設定に準じている。
- 2 本書で使用した地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図、笠間市発行2千5百分の1都市計画図である。
- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社)を使用した。
- 4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。
  - (1) 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構	SI-住居跡	SD-溝跡	SA-横列	SK-土坑	P-ピット	T-トレンチ
遺物	P-土器	TP-拓本記録土器	Q-石器・石製品	M-金属製品		
	DP-土製品	T-瓦				
土層	K-攪乱					

- (2) 遺構全体図は200分の1、遺構実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。
- (3) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

竪穴住居跡・土坑・横列	…1/60	溝跡	…1/40, 1/80, 1/160
土器	…1/3・2/3	土製品	…1/3・1/5
石器・石製品	…1/3	金属製品	…1/2
鉄滓	…1/3		

- (4) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	竪構築材		竈火床面		焼土		貼り床
	柱当たり痕		黒色処理		灰釉陶器		鉄製品断面
	自然軸		煤附着				
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属製品
■	瓦	—	硬化面				

- 5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。
  - (1) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
  - (2) 計測値の( )内の数値は現存値を、[ ]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m、cmgで示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。
  - (3) 備考欄は、土器の残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- 6 竪穴住居跡の主軸は、竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例：N-10°-E)。

# 目 次

## 写真写真版

序

例 言

凡 例

目 次

第 I 章 調査に至る経緯と経過	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査の経過	1
第 3 節 調査方法	2
第 II 章 遺跡の位置と環境	3
第 1 節 地理的環境	3
第 2 節 歴史的環境	3
第 III 章 調査の概要と基本順序	7
第 1 節 調査の概要	7
第 2 節 基本順序	7
第 IV 章 寺上遺跡 2	13
第 1 節 竪穴住居跡	13
第 2 節 構 列	175
第 3 節 溝 跡	176
第 4 節 土 坑	181
第 5 節 遺構外出土遺物	191
第 6 節 総 括	199
第 V 章 行者遺跡 2	203
第 1 節 竪穴住居跡	203
第 2 節 溝 跡	209
第 3 節 土 坑	213
第 4 節 総 括	214

写真写真版

抄 録

費 付

## 寺上遺跡 2 挿図目次

第 1 図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図	4	第 6 図 F 区遺構全体図	11
第 2 図 調査地区の位置図	6	第 7 図 第 1 号住居跡	14
第 3 図 基本土層図	7	第 8 図 第 1 号住居跡出土遺物	15
第 4 図 D 区遺構全体図	9	第 9 図 第 2 号住居跡	17
第 5 図 E 区遺構全体図	10	第 10 図 第 2 号住居跡出土遺物	18

第11区	第3号住居跡	21	第57区	第26号住居跡	86
第12区	第3号住居跡出土遺物	22	第58区	第26号住居跡出土遺物	87
第13区	第4号住居跡	24	第59区	第27号住居跡	89
第14区	第4号住居跡出土遺物	25	第60区	第27号住居跡出土遺物	89
第15区	第5号住居跡	28	第61区	第28号住居跡	90
第16区	第5号住居跡出土遺物	29	第62区	第28号住居跡出土遺物	91
第17区	第6号住居跡	32	第63区	第29号住居跡	93
第18区	第6号住居跡出土遺物	33	第64区	第29号住居跡出土遺物	94
第19区	第7号住居跡	34	第65区	第30号住居跡	95
第20区	第7号住居跡出土遺物	35	第66区	第30号住居跡出土遺物	96
第21区	第8号住居跡	37	第67区	第31号住居跡	97
第22区	第8号住居跡出土遺物	38	第68区	第31号住居跡出土遺物	98
第23区	第9号住居跡	42	第69区	第32号住居跡	100
第24区	第9号住居跡出土遺物	43	第70区	第32号住居跡出土遺物	101
第25区	第10号住居跡	44	第71区	第33号住居跡	102
第26区	第10号住居跡出土遺物	45	第72区	第33号住居跡出土遺物	103
第27区	第11号住居跡	47	第73区	第34号住居跡	104
第28区	第11号住居跡出土遺物	48	第74区	第34号住居跡出土遺物	105
第29区	第12号住居跡	50	第75区	第35号住居跡	106
第30区	第12号住居跡出土遺物	51	第76区	第35号住居跡出土遺物	107
第31区	第13号住居跡	52	第77区	第36号住居跡	109
第32区	第13号住居跡出土遺物	53	第78区	第36号住居跡出土遺物	109
第33区	第14号住居跡	54	第79区	第37号住居跡	110
第34区	第14号住居跡出土遺物	55	第80区	第37号住居跡出土遺物	111
第35区	第15号住居跡	56	第81区	第38号住居跡	112
第36区	第15号住居跡出土遺物	57	第82区	第40号住居跡	113
第37区	第16号住居跡	58	第83区	第40号住居跡出土遺物	114
第38区	第16号住居跡出土遺物	59	第84区	第41号住居跡	115
第39区	第17号住居跡	60	第85区	第41号住居跡出土遺物	116
第40区	第17号住居跡出土遺物	62	第86区	第42号住居跡	118
第41区	第18号住居跡	65	第87区	第42号住居跡出土遺物	119
第42区	第18号住居跡出土遺物	66	第88区	第43号住居跡	121
第43区	第19号住居跡	68	第89区	第44号住居跡	123
第44区	第19号住居跡出土遺物	69	第90区	第44号住居跡出土遺物	124
第45区	第20号住居跡	70	第91区	第45号住居跡	128
第46区	第20号住居跡出土遺物	71	第92区	第45号住居跡出土遺物	130
第47区	第21号住居跡	72	第93区	第47号住居跡	131
第48区	第21号住居跡出土遺物	73	第94区	第48号住居跡	132
第49区	第22号住居跡	74	第95区	第51号住居跡	133
第50区	第22号住居跡出土遺物	75	第96区	第52号住居跡	134
第51区	第23号住居跡	77	第97区	第52号住居跡出土遺物	134
第52区	第23号住居跡出土遺物	79	第98区	第53号住居跡	136
第53区	第24号住居跡	80	第99区	第53号住居跡出土遺物	138
第54区	第24号住居跡出土遺物	81	第100区	第55号住居跡	142
第55区	第25号住居跡	83	第101区	第55号住居跡出土遺物	142
第56区	第25号住居跡出土遺物	84	第102区	第56号住居跡	144



第103図	第56号住居跡出土遺物	146	第121図	第5・6清跡	177
第104図	第57号住居跡	149	第122図	第7号清跡	178
第105図	第57号住居跡出土遺物	150	第123図	第7号清跡川土遺物	179
第106図	第58号住居跡	152	第124図	第9号清跡	180
第107図	第58号住居跡出土遺物	154	第125図	第1号土坑	181
第108図	第59号住居跡	158	第126図	第1号土坑出土遺物	183
第109図	第59号住居跡出土遺物	159	第127図	第2号土坑	185
第110図	第60号住居跡	161	第128図	第2号土坑出土遺物	185
第111図	第60号住居跡出土遺物	162	第129図	その他の土坑	186
第112図	第61号住居跡	164	第130図	その他の土坑出土遺物	189
第113図	第61号住居跡出土遺物	165	第131図	遺構外出土遺物①縄文時代	191
第114図	第62号住居跡	167	第132図	遺構外出土遺物②古代遺物	193
第115図	第62号住居跡出土遺物	169	第133図	遺構外出土遺物③中・近世遺物	194
第116図	第63号住居跡	171	第134図	寺上遺跡の住居配置(7世紀)	199
第117図	第63号住居跡川土遺物	171	第135図	寺上遺跡の住居配置(8世紀)	200
第118図	第64号住居跡	172	第136図	寺上遺跡の住居配置(9世紀)	201
第119図	第64号住居跡出土遺物	174	第137図	寺上遺跡の住居配置(10世紀)	201
第120図	第1号棟列	175			

## 寺上遺跡2 表目次

表1	第1号住居跡出土遺物観察表	15	表22	第22号住居跡出土遺物観察表	76
表2	第2号住居跡出土遺物観察表	20	表23	第23号住居跡出土遺物観察表	78
表3	第3号住居跡出土遺物観察表	23	表24	第24号住居跡出土遺物観察表	82
表4	第4号住居跡出土遺物観察表	27	表25	第25号住居跡出土遺物観察表	85
表5	第5号住居跡出土遺物観察表	31	表26	第26号住居跡出土遺物観察表	88
表6	第6号住居跡出土遺物観察表	33	表27	第27号住居跡出土遺物観察表	90
表7	第7号住居跡出土遺物観察表	35	表28	第28号住居跡出土遺物観察表	92
表8	第8号住居跡出土遺物観察表	40	表29	第29号住居跡出土遺物観察表	94
表9	第9号住居跡出土遺物観察表	43	表30	第30号住居跡出土遺物観察表	96
表10	第10号住居跡出土遺物観察表	45	表31	第31号住居跡出土遺物観察表	99
表11	第11号住居跡出土遺物観察表	49	表32	第32号住居跡出土遺物観察表	101
表12	第12号住居跡出土遺物観察表	51	表33	第33号住居跡出土遺物観察表	103
表13	第13号住居跡出土遺物観察表	53	表34	第34号住居跡出土遺物観察表	105
表14	第14号住居跡出土遺物観察表	55	表35	第35号住居跡出土遺物観察表	108
表15	第15号住居跡出土遺物観察表	57	表36	第36号住居跡出土遺物観察表	109
表16	第16号住居跡出土遺物観察表	59	表37	第37号住居跡出土遺物観察表	111
表17	第17号住居跡出土遺物観察表	63	表38	第38号住居跡出土遺物観察表	112
表18	第18号住居跡出土遺物観察表	66	表39	第40号住居跡出土遺物観察表	114
表19	第19号住居跡出土遺物観察表	69	表40	第41号住居跡出土遺物観察表	116
表20	第20号住居跡出土遺物観察表	20	表41	第42号住居跡出土遺物観察表	120
表21	第21号住居跡出土遺物観察表	73	表42	第43号住居跡出土遺物観察表	122

表13	第44号住居跡出土遺物観察表	126	表55	第61号住居跡出土遺物観察表	166
表14	第45号住居跡出土遺物観察表	129	表56	第62号住居跡出土遺物観察表	170
表15	第48号住居跡出土遺物観察表	132	表57	第63号住居跡出土遺物観察表	171
表16	第51号住居跡出土遺物観察表	133	表58	第64号住居跡出土遺物観察表	173
表17	第52号住居跡出土遺物観察表	135	表59	第7号溝跡出土遺物観察表	179
表18	第53号住居跡出土遺物観察表	140	表60	第1号土坑出土遺物観察表	182
表19	第55号住居跡出土遺物観察表	142	表61	第2号土坑出土遺物観察表	185
表20	第56号住居跡出土遺物観察表	148	表62	その他の土坑出土遺物観察表	189
表21	第57号住居跡出土遺物観察表	151	表63	その他の土坑一覽表	190
表22	第58号住居跡出土遺物観察表	156	表64	遺構外出土遺物①概文時代	192
表23	第59号住居跡出土遺物観察表	159	表65	遺構外出土遺物②古代	197
表24	第60号住居跡出土遺物観察表	163	表66	遺構外出土遺物③中・五世	197

## 寺上遺跡2 写真図版目次

### 【遺構写真】

#### PL.1 寺上遺跡

調査区全景

#### PL.2 寺上遺跡

D区全景

F区全景

E区全景

#### PL.3 寺上遺跡

第1号住居跡完掘状況(南東から)

第1号住居跡1層(南から)

第1号住居跡竈穴掘状況(南東から)

第1号住居跡ビット2土層(北東から)

第2号住居跡完掘状況(南から)

第2号住居跡遺物出土状況(南から)

第2号住居跡土層(南東から)

第2号住居跡竈穴掘状況(南東から)

#### PL.4 寺上遺跡

第2号住居跡竈土層(南東から)

第2号住居跡竈断ち割り(南東から)

第2号住居跡ビット5土層(東から)

第2号住居跡ビット3土層(東から)

第3号住居跡完掘状況(南から)

第3号住居跡遺物出土状況(南から)

第3号住居跡遺物出土状況(南東から)

第3号住居跡1層(南西から)

#### PL.5 寺上遺跡

第3号住居跡竈完掘状況(南から)

第3号住居跡竈遺物出土状況(南から)

第3号住居跡竈土層(南東から)

第4号住居跡完掘状況(南から)

第4号住居跡遺物出土状況(南から)

第4号住居跡遺物出土状況(北西から)

第4号住居跡遺物出土状況(南から)

第4号住居跡土層(南西から)

#### PL.6 寺上遺跡

第4号住居跡竈掘方土層(南から)

第5号住居跡完掘状況(南東から)

第5号住居跡遺物出土状況(南から)

第5号住居跡遺物出土状況(南東から)

第5号住居跡土層(南から)

第5号住居跡竈完掘状況(南東から)

第5号住居跡竈土層(南東から)

第5号住居跡竈掘方土層(南から)

#### PL.7 寺上遺跡

第6号住居跡完掘状況(南東から)

第6号住居跡竈土層(南東から)

第6号住居跡ビット1土層(東から)

第7号住居跡完掘状況(南から)

第7号住居跡遺物出土状況(南から)

第7号住居跡遺物出土状況(南から)

第7号住居跡遺物出土状況(南東から)

第7号住居跡1層(南東から)

#### PL.8 寺上遺跡

- 第8号住居跡完掘状況（南から）
- 第8号住居跡遺物状況（南から）
- 第8号住居跡遺物出土状況（北から）
- 第8号住居跡遺物出土状況（南から）
- 第8号住居跡遺物出土状況（北から）
- 第8号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第8号住居跡土層（東から）
- 第8号住居跡土層（南東から）
- PL.9 寺上遺跡
- 第8号住居跡竈完掘状況（南から）
- 第8号住居跡竈遺物出土状況（南から）
- 第8号住居跡竈土層（南東から）
- 第8号住居跡竈土層（南から）
- 第9号住居跡完掘状況（南から）
- 第9号住居跡ピット1土層（北東から）
- 第9号住居跡ピット2土層（北東から）
- 第9号住居跡竈完掘状況（南から）
- PL.10 寺上遺跡
- 第10号住居跡完掘状況（南から）
- 第10号住居跡遺物出土状況（南から）
- 第10号住居跡遺物出土状況（南西から）
- 第10号住居跡土層（南から）
- 第11号住居跡完掘状況（南東から）
- 第11号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第11号住居跡遺物出土状況（北東から）
- 第11号住居跡遺物出土状況（北東から）
- PL.11 寺上遺跡
- 第11号住居跡土層（南から）
- 第11号住居跡ピット1土層（北東から）
- 第11号住居跡ピット3土層（北東から）
- 第11号住居跡竈完掘状況（南東から）
- 第11号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第11号住居跡竈土層（南東から）
- 第12・59号住居跡完掘状況（南東から）
- 第12・59号住居跡1層（東から）
- PL.12 寺上遺跡
- 第59号住居跡竈完掘状況（南から）
- 第12号住居跡完掘状況（南東から）
- 第13号住居跡土層（南東から）
- 第14号住居跡完掘状況（南から）
- 第14号住居跡ピット1土層（土層）
- 第14号住居跡竈完掘状況（南から）
- 第15号住居跡完掘状況（南東から）
- 第15号住居跡1層（南西から）
- PL.13 寺上遺跡
- 第15号住居跡竈完掘状況（南東から）
- 第16号住居跡完掘状況（南東から）
- 第16号住居跡1層（南東から）
- 第16号住居跡遺物完掘状況（北東から）
- 第16号住居跡竈完掘状況（南東から）
- 第17号住居跡完掘状況（南東から）
- 第17号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第17号住居跡遺物出土状況（北東から）
- PL.14 寺上遺跡
- 第17号住居跡土層（北東から）
- 第17号住居跡ピット2土層（北東から）
- 第17号住居跡ピット3土層（北東から）
- 第17号住居跡竈完掘状況（南東から）
- 第17号住居跡竈土層（西から）
- 第17号住居跡惣方土層（南東から）
- 第18号住居跡完掘状況（南東から）
- 第18号住居跡土層（北東から）
- PL.15 寺上遺跡
- 第18号住居跡竈完掘状況（南東から）
- 第18号住居跡竈土層（南から）
- 第19号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第19号住居跡1層（西から）
- 第19号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第19号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第19号住居跡竈土層（西から）
- 第20号住居跡完掘状況（南東から）
- PL.16 寺上遺跡
- 第20号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第20号住居跡土層（南西から）
- 第21号住居跡完掘状況（南東から）
- 第21号住居跡竈完掘状況（南から）
- 第21号住居跡竈土層（南から）
- 第22号住居跡完掘状況（南から）
- 第22号住居跡遺物出土状況（南東から）
- 第22号住居跡遺物出土状況（南から）
- PL.17 寺上遺跡
- 第22号住居跡土層（西から）
- 第22号住居跡竈完掘状況（南から）
- 第22号住居跡竈土層（南から）
- 第23・24号住居跡完掘状況（南東から）
- 第23・24号住居跡竈完掘状況（南から）
- 第23・24号住居跡1層（南西から）
- 第23号住居跡竈完掘状況（南南東から）
- 第23号住居跡遺物出土状況（北東から）
- PL.18 寺上遺跡
- 第23号住居跡ピット2土層（北東から）
- 第23号住居跡ピット3土層（北東から）

第24号住居跡竈完掘状況（南西から）

第24号住居跡竈土層（南東から）

第24号住居跡竈土層（西から）

第25号住居跡完掘状況（南東から）

第25号住居跡土層（南東から）

第25号住居跡ビット4土層（北東から）

PL.19 寺上遺跡

第25号住居跡竈完掘状況（南東から）

第25号住居跡竈土層（東から）

第26号住居跡遺物出土状況（南南東から）

第26号住居跡土層（北東から）

第28号住居跡完掘状況（東から）

第28号住居跡遺物出土状況（南東から）

第28号住居跡遺物出土状況（南東から）

第28号住居跡1層（北東から）

PL.20 寺上遺跡

第29号住居跡完掘状況（南西から）

第29号住居跡土層（南東から）

第29号住居跡ビット3土層（北東から）

第29号住居跡ビット4土層（北東から）

第29号住居跡土層（西から）

第29号住居跡竈完掘状況（南西から）

第29号住居跡竈土層（南から）

第30号住居跡完掘状況（南東から）

PL.21 寺上遺跡

第30号住居跡土層（東から）

第30号住居跡竈完掘状況（南東から）

第30号住居跡竈土層（南東から）

第31号住居跡遺物出土状況（南から）

第31号住居跡遺物出土状況（南東から）

第32号住居跡完掘状況（南から）

第32号住居跡竈完掘状況（南から）

第32号住居跡竈土層（南から）

PL.22 寺上遺跡

第33号住居跡完掘状況（南から）

第33号住居跡土層（東から）

第35号住居跡完掘状況（西から）

第35号住居跡遺物出土状況（西から）

第35号住居跡遺物出土状況（南東から）

第35号住居跡土層（南から）

第35号住居跡竈完掘状況（西から）

第35号住居跡竈土層（南西から）

PL.23 寺上遺跡

第36号住居跡完掘状況（南から）

第36号住居跡竈完掘状況（南から）

第36号住居跡遺物出土状況（南から）

第36号住居跡竈土層（東から）

第37号住居跡遺物出土状況（南から）

第37号住居跡土層（南から）

第38号住居跡完掘状況（南西から）

第40号住居跡遺物出土状況（南から）

PL.24 寺上遺跡

第40号住居跡土層（東から）

第40号住居跡遺物出土状況（南東から）

第40号住居跡竈土層（東から）

第41号住居跡遺物出土状況（南から）

第41号住居跡遺物出土状況（東から）

第41号住居跡土層（西から）

第42号住居跡遺物出土状況（南西から）

第42号住居跡遺物出土状況（北東から）

PL.25 寺上遺跡

第42号住居跡遺物出土状況（南東から）

第43号住居跡完掘状況（南から）

第43号住居跡土層（東から）

第43号住居跡竈完掘状況（南から）

第44・45号住居跡完掘状況（南東から）

第44・45号住居跡遺物出土状況（南東から）

第44号住居跡遺物出土状況（南東から）

第44号住居跡遺物出土状況（東から）

PL.26 寺上遺跡

第44号住居跡遺物出土状況（北から）

第44号住居跡遺物出土状況（北東から）

第44号住居跡遺物出土状況（北から）

第45号住居跡遺物出土状況（南東から）

第45号住居跡遺物出土状況（東から）

第45号住居跡土層（南から）

第45号住居跡遺物出土状況（南東から）

第45号住居跡土層（南から）

PL.27 寺上遺跡

第52号住居跡完掘状況（南から）

第52号住居跡土層（東から）

第53号住居跡完掘状況（南から）

第53号住居跡遺物出土状況（南東から）

第53号住居跡遺物出土状況（南東から）

第53号住居跡遺物出土状況（東から）

第53号住居跡土層（南東から）

第53号住居跡土層（南東から）

PL.28 寺上遺跡

第53号住居跡ビット4土層（北東から）

第53号住居跡竈完掘状況（南から）

第53号住居跡竈遺物出土状況（南から）

第53号住居跡竈土層（南東から）

第53号住居跡竪堀方土層（北西から）  
第54号住居跡完掘状況（南東から）  
第55号住居跡完掘状況（北東から）  
第55号住居跡土（南東から）

#### PL.29 寺上遺跡

第56号住居跡完掘状況（南から）  
第56号住居跡遺物出土状況（南東から）  
第56号住居跡遺物出土状況（東から）  
第56号住居跡遺物出土状況（東から）  
第56号住居跡遺物出土状況（東から）  
第56号住居跡遺物出土状況（北東から）  
第56号住居跡土層（南東から）  
第56号住居跡ビット2土層（北東から）

#### PL.30 寺上遺跡

第56号住居跡ビット3土層（北東から）  
第56号住居跡竪完掘状況（南から）  
第56号住居跡竪上層（南東から）  
第56号住居跡竪堀方土層（西から）  
第57号住居跡完掘状況（南から）  
第57号住居跡土層（南東から）  
第57号住居跡竪完掘状況（南東から）  
第58号住居跡完掘状況（南から）

#### PL.31 寺上遺跡

第58号住居跡遺物出土状況（南から）  
第58号住居跡遺物出土状況（南西から）  
第58号住居跡土層（南東から）  
第58号住居跡ビット2土層（南東から）  
第58号住居跡竪完掘状況（南から）  
第58号住居跡竪土層（北東から）  
第60号住居跡完掘状況（南から）  
第60号住居跡土層（東から）

#### PL.32 寺上遺跡

第60号住居跡竪完掘状況（南から）  
第60号住居跡遺物出土状況（南から）  
第60号住居跡竪土層（北東から）  
第61号住居跡完掘状況（南東から）  
第61号住居跡遺物出土状況（南から）

第61号住居跡遺物出土状況（南から）  
第61号住居跡竪完掘状況（南東から）  
第62・63号住居跡完掘状況（南から）

#### PL.33 寺上遺跡

第62・63号住居跡遺物出土状況（南から）  
第62号住居跡遺物出土状況（南から）  
第63号住居跡竪堀方状況（南東から）  
第64号住居跡完掘状況（南東から）  
第64号住居跡遺物出土状況（北西から）  
第64号住居跡遺物出土状況（北東から）  
第64号住居跡竪完掘状況（南東から）  
第64号住居跡竪土層（東から）

#### PL.34 寺上遺跡

第5・6号溝跡完掘状況（東から）  
第5号溝跡土層（南から）  
第7号溝跡完掘状況（北から）  
第9号溝跡完掘状況（南西から）  
第7号溝跡土層（東から）  
第9号溝跡土層（北東から）

#### PL.35 寺上遺跡

第1号横列完掘状況（東から）  
第1号横列ビット1土層（東から）  
第1号土坑完掘状況（北から）  
第1号土坑遺物出土状況（南西から）  
第1号土坑遺物出土状況（南から）  
第1号土坑土層（西から）  
第2号土坑完掘状況（西から）

#### PL.36 寺上遺跡

第3号土坑完掘状況（南東から）  
第6号土坑完掘状況（南から）  
第7・8号土坑完掘状況（北から）  
第9号土坑完掘状況（東から）  
第11号土坑完掘状況（南東から）  
第34号土坑完掘状況（南東から）  
第34号土坑土層（南から）  
第36号土坑完掘状況（北から）

- PL.37 寺上遺跡  
 遺物1 (第1号住居跡)  
 遺物2 (第1号住居跡)  
 遺物3 (第2号住居跡)  
 遺物4 (第2号住居跡)  
 遺物5 (第2号住居跡)  
 遺物6 (第2号住居跡)  
 遺物7 (第2号住居跡)  
 遺物8 (第2号住居跡)  
 遺物10 (第2号住居跡)  
 PI.38 寺上遺跡  
 遺物9 (第2号住居跡)  
 遺物11 (第2号住居跡)  
 遺物12 (第2号住居跡)  
 遺物13 (第2号住居跡)  
 遺物14 (第3号住居跡)  
 遺物16 (第3号住居跡)  
 遺物17 (第3号住居跡)  
 遺物18 (第3号住居跡)  
 PL.39 寺上遺跡  
 遺物19 (第3号住居跡)  
 遺物20 (第3号住居跡)  
 遺物21 (第3号住居跡)  
 遺物2 (第3号住居跡)  
 遺物22 (第3号住居跡)  
 遺物24 (第3号住居跡)  
 遺物25 (第4号住居跡)  
 遺物26 (第4号住居跡)  
 遺物27 (第4号住居跡)  
 PL.40 寺上遺跡  
 遺物28 (第4号住居跡)  
 遺物29 (第4号住居跡)  
 遺物30 (第4号住居跡)  
 遺物32 (第4号住居跡)  
 遺物33 (第4号住居跡)  
 遺物34 (第4号住居跡)  
 遺物35 (第4号住居跡)  
 遺物36 (第5号住居跡)  
 PL.41 寺上遺跡  
 遺物37 (第5号住居跡)  
 遺物38 (第5号住居跡)  
 遺物39 (第5号住居跡)  
 遺物40 (第5号住居跡)  
 遺物41 (第5号住居跡)  
 遺物42 (第5号住居跡)  
 遺物43 (第5号住居跡)  
 遺物44 (第5号住居跡)  
 遺物46 (第5号住居跡)  
 遺物47 (第5号住居跡)  
 PL.42 寺上遺跡  
 遺物48 (第5号住居跡)  
 遺物49 (第5号住居跡)  
 遺物50～52 (第5号住居跡)  
 遺物53 (第5号住居跡)  
 遺物54 (第6号住居跡)  
 遺物56 (第6号住居跡)  
 遺物57 (第6号住居跡)  
 遺物58 (第6号住居跡)  
 遺物60 (第7号住居跡)  
 PL.43 寺上遺跡  
 遺物63 (第7号住居跡)  
 遺物64 (第7号住居跡)  
 遺物65 (第7号住居跡)  
 遺物66 (第7号住居跡)  
 遺物67 (第8号住居跡)  
 遺物68 (第8号住居跡)  
 遺物69 (第8号住居跡)  
 遺物70 (第8号住居跡)  
 PL.44 寺上遺跡  
 遺物71 (第8号住居跡)  
 遺物72 (第8号住居跡)  
 遺物74 (第8号住居跡)  
 遺物75 (第8号住居跡)  
 遺物77 (第8号住居跡)  
 遺物78 (第8号住居跡)  
 遺物79 (第8号住居跡)  
 遺物80 (第8号住居跡)  
 PL.45 寺上遺跡  
 遺物81 (第8号住居跡)  
 遺物82 (第8号住居跡)  
 遺物86 (第9号住居跡)  
 遺物87 (第10号住居跡)  
 遺物88 (第10号住居跡)  
 遺物89 (第10号住居跡)  
 遺物90 (第10号住居跡)  
 遺物91 (第10号住居跡)  
 遺物92 (第10号住居跡)  
 PL.46 寺上遺跡  
 遺物93 (第10号住居跡)  
 遺物94 (第10号住居跡)  
 遺物95 (第10号住居跡)  
 遺物96 (第11号住居跡)  
 遺物97 (第11号住居跡)  
 遺物98 (第11号住居跡)  
 遺物99 (第11号住居跡)  
 遺物100 (第11号住居跡)  
 遺物102 (第11号住居跡)  
 PI.47 寺上遺跡  
 遺物105 (第11号住居跡)  
 遺物106 (第11号住居跡)  
 遺物107 (第12号住居跡)  
 遺物108 (第12号住居跡)  
 遺物110 (第12号住居跡)  
 遺物111 (第13号住居跡)  
 遺物112 (第13号住居跡)  
 遺物113 (第14号住居跡)  
 遺物114 (第14号住居跡)  
 PL.48 寺上遺跡  
 遺物115 (第14号住居跡)  
 遺物116 (第15号住居跡)  
 遺物117 (第15号住居跡)  
 遺物118 (第15号住居跡)  
 遺物119 (第16号住居跡)  
 遺物120 (第16号住居跡)  
 遺物121 (第16号住居跡)  
 遺物122 (第16号住居跡)  
 遺物123 (第17号住居跡)  
 遺物124 (第17号住居跡)  
 PL.49 寺上遺跡  
 遺物125 (第17号住居跡)  
 遺物126 (第17号住居跡)  
 遺物127 (第17号住居跡)  
 遺物128 (第17号住居跡)  
 遺物129 (第17号住居跡)  
 遺物130 (第17号住居跡)  
 遺物131 (第17号住居跡)  
 遺物132 (第18号住居跡)  
 PL.50 寺上遺跡  
 遺物133 (第18号住居跡)  
 遺物135 (第18号住居跡)  
 遺物136 (第18号住居跡)  
 遺物137 (第18号住居跡)  
 遺物138 (第18号住居跡)  
 遺物139 (第18号住居跡)

- 遺物140 (第18号住居跡)  
遺物142 (第18号住居跡)  
PL.51 寺上遺跡  
遺物141 (第18号住居跡)  
遺物143 (第18号住居跡)  
遺物144 (第18号住居跡)  
遺物145 (第19号住居跡)  
遺物146 (第19号住居跡)  
遺物147 (第19号住居跡)  
遺物148 (第19号住居跡)  
遺物149  
PL.52 寺上遺跡  
遺物150 (第20号住居跡)  
遺物151 (第20号住居跡)  
遺物152 (第20号住居跡)  
遺物153 (第20号住居跡)  
遺物154 (第21号住居跡)  
遺物156 (第22号住居跡)  
遺物157 (第22号住居跡)  
遺物158 (第22号住居跡)  
遺物159 (第22号住居跡)  
遺物160 (第22号住居跡)  
PL.53 寺上遺跡  
遺物161  
遺物161 (第22号住居跡)  
遺物162 (第22号住居跡)  
遺物163 (第23号住居跡)  
遺物164 (第23号住居跡)  
遺物165 (第23号住居跡)  
遺物166 (第24号住居跡)  
遺物167 (第24号住居跡)  
遺物168 (第24号住居跡)  
PI.54 寺上遺跡  
遺物169 (第23号住居跡)  
遺物171 (第23号住居跡)  
遺物175 (第23号住居跡)  
遺物176 (第23号住居跡)  
遺物177 (第23号住居跡)  
遺物178 (第23号住居跡)  
遺物179 (第25号住居跡)  
遺物181 (第25号住居跡)  
遺物182 (第25号住居跡)  
遺物183 (第25号住居跡)  
PL.55 寺上遺跡  
遺物186 (第26号住居跡)  
遺物187 (第26号住居跡)  
遺物188 (第26号住居跡)  
遺物189 (第26号住居跡)  
遺物191 (第26号住居跡)  
遺物192 (第26号住居跡)  
遺物193 (第26号住居跡)  
遺物194 (第26号住居跡)  
遺物197 (第27号住居跡)  
PL.56 寺上遺跡  
遺物195 (第26号住居跡)  
遺物195 (第26号住居跡)  
遺物195 (第26号住居跡)  
遺物195 (第26号住居跡)  
遺物198 (第27号住居跡)  
遺物199 (第27号住居跡)  
遺物200 (第27号住居跡)  
遺物201 (第28号住居跡)  
遺物202 (第28号住居跡)  
遺物204 (第28号住居跡)  
遺物206 (第28号住居跡)  
PL.57 寺上遺跡  
遺物205 (第28号住居跡)  
遺物208 (第29号住居跡)  
遺物209 (第29号住居跡)  
遺物210 (第29号住居跡)  
遺物211 (第29号住居跡)  
遺物212 (第29号住居跡)  
遺物213 (第29号住居跡)  
遺物214 (第30号住居跡)  
遺物215 (第30号住居跡)  
遺物216 (第30号住居跡)  
PL.58 寺上遺跡  
遺物217 (第30号住居跡)  
遺物218 (第31号住居跡)  
遺物219 (第31号住居跡)  
遺物220 (第31号住居跡)  
遺物221 (第31号住居跡)  
遺物222 (第31号住居跡)  
遺物223 (第31号住居跡)  
遺物224 (第31号住居跡)  
遺物225 (第31号住居跡)  
遺物226 (第32号住居跡)  
PI.59 寺上遺跡  
遺物227 (第32号住居跡)  
遺物229 (第32号住居跡)  
遺物229 (第32号住居跡)  
遺物230 (第32号住居跡)  
遺物231 (第32号住居跡)  
遺物233 (第33号住居跡)  
遺物234 (第34号住居跡)  
遺物235 (第34号住居跡)  
遺物236 (第35号住居跡)  
遺物237 (第35号住居跡)  
PL.60 寺上遺跡  
遺物238 (第35号住居跡)  
遺物239 (第35号住居跡)  
遺物240 (第35号住居跡)  
遺物241 (第35号住居跡)  
遺物242 (第35号住居跡)  
遺物243 (第35号住居跡)  
遺物244 (第35号住居跡)  
遺物245 (第35号住居跡)  
遺物245 (第35号住居跡)  
PL.61 寺上遺跡  
遺物246 (第36号住居跡)  
遺物247 (第36号住居跡)  
遺物248 (第36号住居跡)  
遺物249 (第37号住居跡)  
遺物250 (第37号住居跡)  
遺物251 (第37号住居跡)  
遺物252 (第38号住居跡)  
遺物253 (第39号住居跡)  
遺物254 (第40号住居跡)  
PL.62 寺上遺跡  
遺物255 (第40号住居跡)  
遺物255 (第40号住居跡)  
遺物258 (第40号住居跡)  
遺物259 (第41号住居跡)  
遺物260 (第41号住居跡)  
遺物262 (第41号住居跡)  
遺物262 (第41号住居跡)  
PL.63 寺上遺跡  
遺物263 (第41号住居跡)  
遺物264 (第41号住居跡)  
遺物265 (第41号住居跡)  
遺物266 (第41号住居跡)  
遺物267 (第41号住居跡)  
遺物268 (第42号住居跡)  
遺物269 (第42号住居跡)  
遺物270 (第42号住居跡)  
遺物271 (第42号住居跡)  
遺物272 (第42号住居跡)  
PL.64 寺上遺跡  
遺物273 (第42号住居跡)





PL.77 寺上遺跡

遺物405 (第61号住居跡)

遺物406 (第61号住居跡)

遺物407 (第61号住居跡)

遺物408 (第61号住居跡)

遺物410 (第62号住居跡)

遺物411 (第62号住居跡)

遺物412 (第62号住居跡)

遺物413 (第62号住居跡)

PL.78 寺上遺跡

遺物414 (第62号住居跡)

遺物417 (第62号住居跡)

遺物418 (第62号住居跡)

遺物419 (第62号住居跡)

遺物420 (第62号住居跡)

遺物421 (第62号住居跡)

遺物422 (第63号住居跡)

遺物423 (第63号住居跡)

PL.79 寺上遺跡

遺物424 (第64号住居跡)

遺物425 (第64号住居跡)

遺物426 (第64号住居跡)

遺物427 (第64号住居跡)

遺物429 (第64号住居跡)

遺物430 (第64号住居跡)

遺物433 (第7号溝跡)

遺物433 (第7号溝跡)

遺物464 (第5号溝跡)

遺物465 (第7号溝跡)

PL.80 寺上遺跡

遺物434 (第1号土坑跡)

遺物435 (第1号土坑跡)

遺物436 (第1号土坑跡)

遺物437 (第1号土坑跡)

遺物438 (第1号土坑跡)

遺物439 (第1号土坑跡)

遺物440 (第1号土坑跡)

遺物440 (第1号土坑跡)

遺物441 (第1号土坑跡)

遺物442 (第1号土坑跡)

PL.81 寺上遺跡

遺物443 (第1号土坑跡)

遺物444 (第1号土坑跡)

遺物445 (第1号土坑跡)

遺物446 (第1号土坑跡)

遺物447 (第1号土坑跡)

遺物448 (第1号土坑跡)

遺物449 (第2号土坑跡)

遺物450 (第2号土坑跡)

遺物451 (第2号土坑跡)

遺物453 (第6号土坑跡)

PL.82 寺上遺跡

遺物454 (遺構外)

遺物455 (遺構外)

遺物456 (遺構外)

遺物457 (遺構外)

遺物458 (遺構外)

遺物458 (遺構外)

遺物459 (遺構外)

遺物463 (遺構外)

PL.83 寺上遺跡

遺構外出土遺物 (縄文)

中3

中6

中8

## 行者遺跡2 挿図目次

第138図 行者遺跡遺構全体図……………	12	第145図 第1号溝跡……………	210
第139図 第1号住居跡……………	203	第146図 第1号溝跡出土遺物……………	211
第140図 第1号住居跡出土遺……………	204	第147図 第2号溝跡出土遺物……………	212
第141図 第2号住居跡……………	205	第148図 第1号土坑……………	213
第142図 第2号住居跡出土遺……………	206	第149図 小原城と周辺の堀……………	217
第143図 第3号住居跡……………	207	第150図 穴戸荘と主な城館……………	219
第144図 第3号住居跡出土遺……………	208		

## 行者遺跡2 表目次

表67 第1号住居跡出土遺物観察表……………	204	表69 第3号住居跡出土遺物観察表……………	208
表68 第2号住居跡出土遺物観察表……………	206	表70 第1号溝跡出土遺物観察表……………	211

## 行者遺跡2 写真図版目次

### PL.84 行者遺跡

- 第1号住居跡遺物出土状況(南から)
- 第1号住居跡土層(南西から)
- 第1号住居跡遺物出土状況(南西から)
- 第2号住居跡遺物出土状況(北東から)
- 第2号住居跡土層(北から)
- 第2号住居跡遺物出土状況(北から)
- 第2号住居跡遺物出土状況(北から)
- 第3号住居跡遺物出土状況(南から)

### PL.85 行者遺跡

- 第3号住居跡土層(南東から)
- 第3号住居跡遺物出土状況(西から)
- 第3号住居跡遺物出土状況(東から)
- 第1号溝跡完掘状況(西から)
- 第1号溝跡土層(西から)
- 第1号溝跡ピット完掘状況(南から)
- 第2号溝跡完掘状況(西から)

### 第2号土坑完掘状況(南西から)

### PL.86 行者遺跡

- 遺物1(第1号住居跡)
  - 遺物2(第1号住居跡)
  - 遺物3(第1号住居跡)
  - 遺物4(第1号住居跡)
  - 遺物5(第2号住居跡)
  - 遺物8(第2号住居跡)
  - 遺物10(第3号住居跡)
- ### PL.87 行者遺跡
- 遺物9(第3号住居跡)
  - 遺物11(第3号住居跡)
  - 遺物12(第3号住居跡)
  - 遺物14(第1号溝跡)
  - 遺物15(第1号溝跡)
  - 遺物16(第1号溝跡)
  - 遺物17(第1号溝跡)

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

畑地帯総合整備事業は、農業に伴う道路・灌漑施設・農地などの生産基盤を総合的に整備することによって、作物品質の向上、生産作物の拡大、反収の増加、輸送費の削減、荷傷みの防止など、より高い生産性と品質のさらなる向上を目指している。

笠岡市では目標となる基本施策を総合計画で定め、農林業の振興を図ることを目的とした産業振興プロジェクトが重点的に進められている。また、農業生産基盤の整備の一環として、平成13年に小原地区土地改良区が設立され、茨城県の指導の下、効率的な畑作農業地域を作るための整備事業が実施されている。

この整備事業の計画地は常盤線をはさんで南北に分かれている。この地区には市内最大級の山王塚古墳を有する一本松古墳群があり、重要な遺跡の包蔵地である。このことから整備事業計画の中で平成15年に三本松遺跡の発掘調査、平成16・17年に小原遺跡の発掘調査、平成20年に竇谷遺跡・長峰東遺跡・長峰西遺跡の発掘調査、さらに平成21年に行者遺跡の発掘調査が行われ、多大な成果が得られている。

今回の整備事業計画地は寺上遺跡の範囲内であることから、笠岡市教育委員会は平成21年度に笠岡市文化財保護審議会委員の能島清光氏に試掘調査を依頼した。その結果トレンチから住居跡が確認され、出土遺物などから奈良・平安時代を主体とした集落があることが鑑定された。

工事主体者である県央農林事務所は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要と判断し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

これを受けて、笠岡市教育委員会は入札により関東文化財振興会株式会社と委託契約を締結して調査を依頼した。笠岡市教育委員会・県央農林事務所・関東文化財振興会株式会社は三者協議を行い、文化財保護法第92条第1項の規定による発掘調査届出を茨城県教育委員会教育長へ提出、茨城県埋蔵文化財指導員の川崎純徳氏、笠岡市文化財保護審議会委員の能島清光氏を指導委員として平成23年11月25日から平成24年3月15日まで、発掘調査を実施することとなった。

### 第2節 調査の経過

当遺跡の調査は、発掘調査が平成23年10月25日から平成24年3月15日までの期間、整理作業は平成24年9月19日から平成25年3月15日までの期間、実施した。その経過は、10月25日から調査区の草刈り作業を行い、11月25日から簡便作業による遺構確認作業を経たのち遺構調査に取り掛かった。調査区の終了に伴い、ラジコンヘリを用いた調査終了状況の写真撮影を行ったのち、茨城県教育庁文化による終了確認を行った。

発掘調査終了後は、出土遺物・遺構の図面・撮影画像を整理室に移管し、出土遺物の洗浄・注記・接合や遺構図面の整理、撮影画像の整理などを行った。その後、遺物の実測や写真撮影、報告書の原稿執筆、図面の版下作成などの作業を進めた。出土遺物・遺構図面・遺物図面・撮影画像は整理・分類後、台帳を作成し、これらを笠岡市教育委員会に返還した。

### 第3節 調査方法

#### (1) 発掘調査

調査エリアに柵を設け、安全確認を行い、作業員の健康状態の確認、準備体操を十分に行った後、遺構確認面をジョレンを用いて精査し、確認された遺構を移植ゴテで掘り下げ、本格的な遺構調査に入った。堅穴住居跡は、土層観察用のベルトを十字に残し掘り下げ、出土した遺物は出土状態を詳細に記録して取り上げた。土坑及びピットなどは半載し、遺構の埋没状況などを確認した。

確認した遺構の調査記録は、平面・断面測量及び写真撮影に対応した。測量は世界測地系に基づいた数値をGPS測量により求め、基準点・水準点を設置し、これらをもとにグリッドの設置及び平面・断面測量を行った。グリッドの設置は、調査区内に5m×5mの方眼を被せ、方眼の交点に4本のグリッド杖を基準として設置し、光波測距儀を用いて平面測量を行った。遺構図面は平面・断面図とも1/20縮尺で作成した。

遺構写真は、調査の進捗状況に併せて随時撮影を行い、撮影機材は35mmの一眼レフカメラとデジタルカメラで撮影し、白黒フィルム・カラーリバーサルフィルムと1200万画素相当のデジタルデータで記録した。

調査終了段階において、ラジコンヘリを使用した終了状況写真を撮影した。



「準備体操」



「表土除去作業」



「遺構調査風景」

#### (2) 整理調査

発掘調査で出土した遺物や撮影した写真、記録した図面は、事前にすべての点数を確認し、その後、遺物洗浄作業や写真の整理、図面の修正などに取りかかった。

遺物の洗浄作業は、土器に二次的な痕跡を加えないよう丁寧にいった。出土遺物への注記はインクジェットプリンターで行い、注記終了後には遺物を時期・器種・部位等に分類し、接合作業に移行した。これらの遺物はセメダインで接合し、補強等が必要な遺物に関しては焼き石膏を使用した。

遺物接合の終了を受け、すべての出土遺物に対し分類を行うとともに、掲載遺物を選定し、実測作業に入った。その後、方眼紙に等倍で実測し、実測原因を600dpiの画素数でスキャンし、デジタルトレースした。

遺構図面は修正作業を行い、その後、報告書に掲載する図面を仮版組みし、トレースを行った。

写真図版は、遺構調査時に撮影した遺構の写真と、洗浄・接合後の遺物の写真をそれぞれ仮版組みし、適切なキャプションを付け、デジタルデータ化した。



「遺物注記作業」



「遺物接合・修復作業」



「図面修正・図版作成」

## 第二章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

笠間市は茨城県のはほぼ中央にあり、小原地区は笠間市域東部の旧友部地区にある。また当地域を含めた市域北東部は、八溝山系鷄足山塊から連なる友部丘陵域に属している。

寺上遺跡は小原地区の京寄りにあり、潤沼前川から北西方向に延びる小支谷を遡った友部丘陵南東端の緩斜面上、標高40m～70m上に立地する。

行者遺跡はその丘陵の末端の傾斜が緩やかになった台地上にあり、小支谷を挟んで寺上遺跡と対峙している。また行者遺跡の東側には谷津が入り、谷津は来た方向に向かって深く入り込んでいる。なお、行者遺跡は小原集落の中心にある小原神社からは北北西方向にあたり、宅地と畑・山林の境界域付近で、現況は畑地と竹林が密生して茂る荒蕪地となっている。

### 第2節 歴史的環境

寺上遺跡及び行者遺跡の立地する小原地区は、先行して調査された高寺古墳群や一本松古墳群、中世小原地区の存在が知られているが、近年小原地区で行われている発掘調査により、三本松遺跡や小原遺跡、埴谷遺跡、長峰東遺跡、長峰西遺跡など、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代の各集落遺跡を主体にし、中・近世に至るまで、長きに渡って人々の生活跡が残っていることが明らかとなってきている。

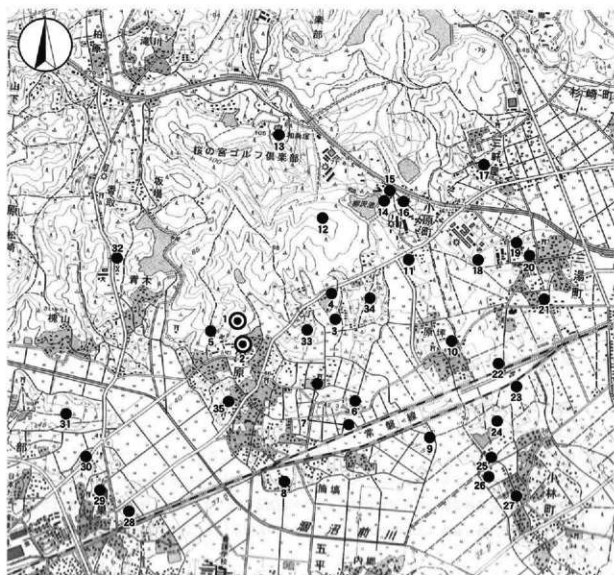
旧石器時代では、長峰西遺跡から珪質頁岩製のナイフ形石器が出土しているが、行者遺跡（土生ほか2011）から瑪瑙製の削器が、埴谷遺跡（土生ほか2011）では数十点の石刃と石核1点、不定形剥片が集中するユニットが確認されている。

縄文時代では、小原地区内における遺構・遺物の出土は少ないものの、埴谷遺跡C地区、長峰東遺跡、小原遺跡において陥穴が確認され、埴谷遺跡では前期の住居跡が1軒確認されている。また、遺構に伴わないものの、長峰東遺跡や寺上遺跡では前期中葉の岡山Ⅱ式や黒浜式等、長峰西遺跡では早期前葉の無文土器および前期中葉・中期後半・後期前半といった縄文土器が報告されている。

弥生時代では、後期後半期に堅穴住居跡の数が非常に多くなり、三本松遺跡で15軒、小原遺跡で2軒、埴谷遺跡C区で10軒、長峰東遺跡で9軒、長峰西遺跡で7軒、行者遺跡で1軒が確認されている。以上から、本遺跡を含めると弥生時代後期後半の住居軒数は県内でも特に多い地域と見られ、弥生時代後期後半から終末期にいたる生活の痕跡が少しずつ明らかになってきている。

古墳時代では、小原地区内からは古墳時代前期・中期・後期の集落が見られるが、長峰東遺跡からは弥生時代終末から古墳時代前期への移行期と推測できる堅穴住居跡と土器が確認されている。古墳時代前期の時期は埴谷遺跡に生活数が多く、方形周溝墓も造られている。

古墳時代後期には三本松遺跡や小原遺跡、長峰西遺跡等に集落の広がりが見られる。この時期は後期古墳の造営が盛んな時期に対応しているものと思われる。小原地区の古墳群では、一本松古墳群と高寺古墳群があげられ、一本松古墳群には直径約53mの大形墳の山王塚古墳がある。また高寺古墳群は台地上からの丘陵斜面地にかけて8～9基確認されているが、そのうち高寺2号墳は、潤沼内径推定25mの円墳と見られ花崗岩の割



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡分布図 (1:25,000)

1 寺上遺跡	2 行者遺跡	3 長峰東遺跡	4 喜平塚遺跡	5 高寺古墳群
6 小原遺跡	7 一本松古墳群	8 塚崎古墳	9 三本松遺跡	10 原坪古墳群
11 原古墳	12 大日山古墳群	13 和尚塚古墳	14 柳沢古墳群	15 三軒塚家群
16 三軒屋古墳群	17 杉崎遺跡	18 沢山遺跡	19 宮前遺跡	20 三湯館跡
21 舞台遺跡	22 舞台西遺跡	23 向山遺跡	24 新道地北遺跡	25 新道地南遺跡
26 連中前遺跡	27 中の内遺跡	28 田端内遺跡	29 家前遺跡	30 掃部塚古墳群
31 北平遺跡	32 香取、坂場遺跡	33 長峰西遺跡	34 境谷遺跡	35 小原城跡

石積の横穴式石室を持ち、墳丘市東部からは武人埴輪や円筒埴輪が、石室内からは下類、刀や鏃などの鉄製品が出土している。なお、高寺古墳群に属すると見られる行者遺跡からは、高寺2号墳に先行する時期の2基の古墳が確認され、人物・馬形の形象埴輪と多数の円筒埴輪が出土している。

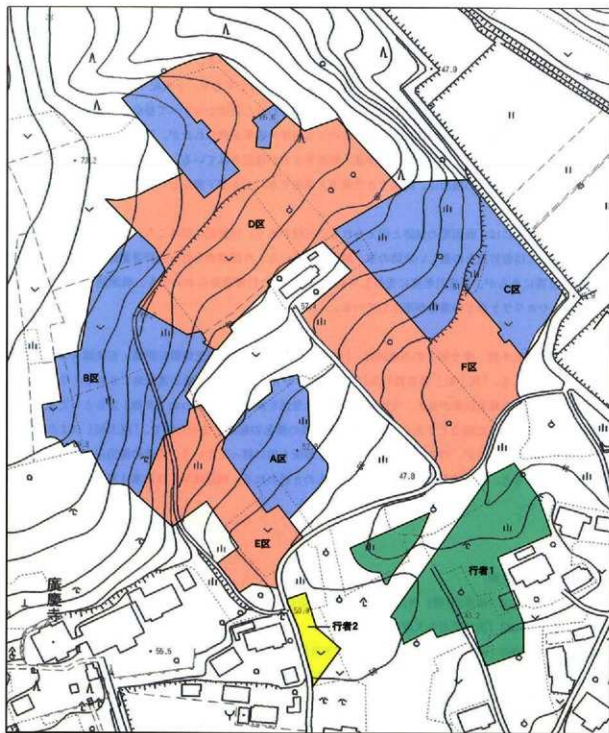
奈良・平安時代には、8世紀中頃から急激に塚穴住居が増加しており、9世紀～10世紀にかけて集落が継続している様子が窺え、小原地区内において発掘調査が行われた遺跡からすべて奈良・平安時代の集落の跡が確認されている。寺上遺跡A～C区の調査においても同様の成果が得られたが、特に祭祀的要素が感じられる多数の土師器皿、灯明皿、ミニチュア甕や壺、獣歯骨などが確認されている。なお、奈良時代になってからのこのような急激な集落の増加は、隣接する笠岡市入瀬や水戸市木葉下瀬などの須恵器生産地帯の発展との関わりも想定される。

中世のこの地区には、戦国期の城跡と伝えられる小原城があり、16世紀の初めころ、厩見氏の居城として造られ戦国末期には佐竹氏との激しい攻防の末、滅ぼされている。今回調査を行った行者遺跡は小原城跡の北東約1.2kmの位置にあるが、平成21年度に先行して調査がなされた行者遺跡においても、戦国期に比定される遺構（堀跡）やカワラケなどの遺物が出している。

茨城の地名由来と小原 律令制下の当町域は、「和名抄」に見える常陸国茨城郡石間郷・安侯郷および那賀郡茨城郷に比定される。「風土記」那賀郡の条に「茨城虫」が見え、当町の小原が讀称地とされる。また茨城郡の条にも「茨城」の地名伝承が見え、大臣族眞坂命が上着氏を攻めた際に使った「茨城」からとった説、征伐のため茨で城をつくった説などがある。茨城郷は茨城郡の郡名の起源となった地で、「風土記」によれば、古くは茨城郡衙が置かれたが、のち那賀郡に編入され、郡衙も他に移ったという。古代の沼河川流域を中心に小鶴荘が立荘されると、当町域も河荘域に包括されたものと思われる。河荘は早くは治承4年（1180）の皇嘉門院御状に見える。（『茨城県地名大辞典』より抜粋）

#### 参考文献（発行年度順）

- 瓦吹 堅 1976 『高寺2号墳』 茨城県那賀郡教育委員会
- 志田謙一他 1983 『茨城県地名大辞典』 角川書店
- 広瀬和雄 1992 『前方後円墳の畿内編年』 『前方後円墳集 畿内編』 山川出版社
- 江崎良夫 1995 『土汙北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書 原出口遺跡Ⅲ』  
茨城県教育財団文化財調査報告第94集、財団法人茨城県教育財団
- 早川 泉 2003 『二本松遺跡』 友部町二本松遺跡発掘調査会
- 青田 寿 2005 『小原遺跡』 友部町小原遺跡発掘調査会 大成エンジニアリング㈱
- 大賀 健 2010 『長峰百遺跡』 笠岡市教育委員会 尚勾玉工房 Mogi
- 土生朗治ほか 2011 『行者遺跡 - 県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書 - I』  
笠岡市教育委員会 尚毛野考古学研究所
- 土生朗治ほか 2011 『瑞谷遺跡2 - 県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書 - I』  
笠岡市教育委員会 尚毛野考古学研究所
- 松田政基ほか 2012 『寺上遺跡 - 県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書 - I』  
笠岡市教育委員会 尚毛野考古学研究所



笠間市発行 2千5百分の1都市計画図

第2図 調査区の位置図



### 第三章 調査の概要と基本層序

#### 第1節 調査の概要

寺上遺跡は小原地区の東寄りにあり、潤沼前川から北西方向に延びる小支谷を越った友部丘陵南東端の緩斜面上、標高40m～70m上に立地する。今回調査が行われたD～F区の調査面積は15,800㎡で、調査前の現況は雑木林と畑地である。

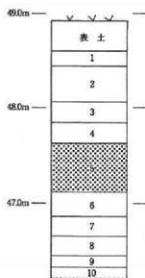
調査によって、奈良時代、平安時代を中心とした遺構と遺物が確認された。確認された遺構は、竪穴住居跡61軒（奈良・平安時代）、溝跡4条（時期不明）、横列1列（時期不明）、土坑38基である。遺物は遺物コンテナ（60×40×20cm）に78箱出土し、主な遺物は縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高台付坏・鉢・壺・甗）、須恵器（坏・高台付坏・高坏・高盤・甗・甗・甗）、灰輪陶器（碗）、陶磁器（播鉢など）、土製品（瓦塔）、石器（砥石）、石製品（紡錘車）、金属製品（刀子・釘）、銅製品（耳環・古銭）などである。

行者遺跡は前述した丘陵の末端で傾斜が緩やかになった台地上にあり、小支谷を挟んで寺上遺跡と対峙している。調査前の現況は雑木林と畑地で、調査面積は1,200㎡である。前回の調査によって、弥生時代から平安時代までの複合遺跡であることが明らかとなった。

今回の調査では弥生時代の竪穴住居跡2軒と古墳時代の竪穴住居跡1軒、中世の堀跡1条、溝跡1条、土坑1基が確認された。遺物は遺物コンテナ（60×40×20cm）に2箱出土し、主な遺物は弥生土器（甗、炉器台）、土師器（高坏）、陶磁器（播鉢など）、馬歯骨などである。

#### 第2節 基本層序

##### （行者遺跡エリアの基本層序）

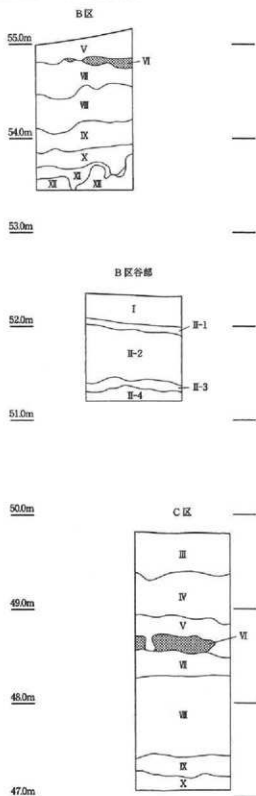


調査区の中央部、標高48.9m地点で、中世の堀跡の断面を利用して記録した。表土は黒褐色の耕作土層で、表土直下の1層はソフトロームの褐色土層で、遺構の確認面は1層上面である。2層以下4層までは黄褐色のハードローム層である。5層は2～3mmの鹿沼バミス純層で、6～8層は再び褐色ローム層で粘性がある。9～10層にかけてはさらに粘性が強い褐色粘質土層である。（行者遺跡報告書抜粋）

- 1 褐色 ソフトローム
- 2 黄褐色 橙色小ブロック上層に少量、1・3層と比べ明るい褐色で非常に固いブロック状のハードローム
- 3 黄褐色 3層よりもやや柔らかく、やや暗いハードローム
- 4 黄褐色 鹿沼バミス少量
- 5 黄褐色 2～3mmの粒径の純粋な鹿沼バミス層、固く崩れあり
- 6 褐色 黒色粒やや多い、粘性有り
- 7 褐色 黒色粒少量、粘性有り
- 8 褐色 橙色粒多量、黒色粒少量、明褐色中ブロック中量、粘性有り
- 9 褐色 黒色粒、橙色粒やや多い、粘性強い
- 10 褐色 黒色粒多量、粘性非常に強い

第3-1図 基本土層図（行者遺跡）

〈寺上遺跡エリアの基本層序〉



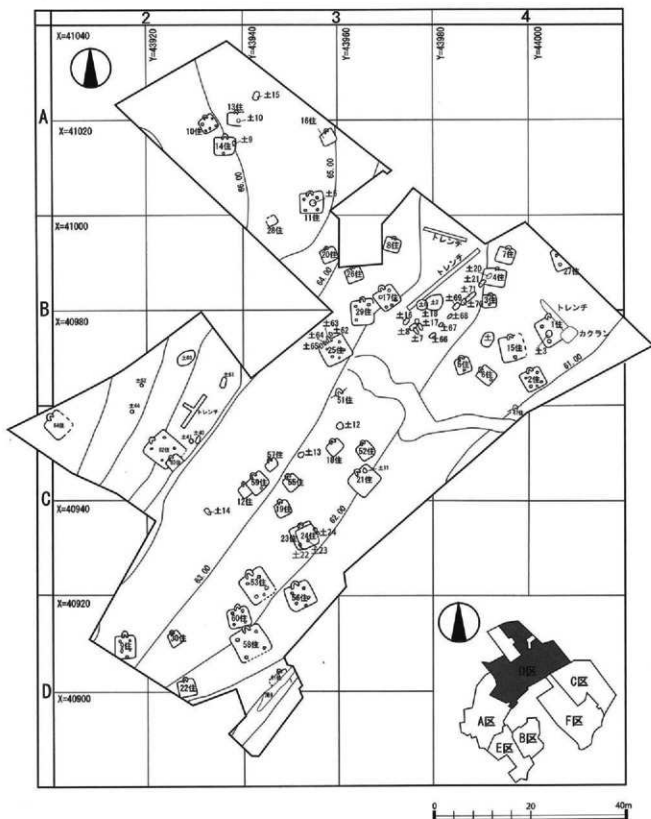
基本層序は標高55m地点と、傾斜地から平地に移る崖面の標高50m地点及び谷部で記録している。

層序はIからXII層まで認められ、I層は表土層、II層は谷部の黒褐色土層で、II-1～4層に分かれている。II-1層は谷部において古代の遺構確認面となっている。III～V層は黄褐色ハードローム層で、III層はIV・V層に比べて色調が明るい。V・VI層には赤城-鹿沼テフラ(Ag-KP:31,000～32,000年前)が混入する。とくにVI層で多量に包含され、一部に窠み状の層位が見受けられた。VI層は赤城-鹿沼テフラの一次堆積層に相当し、複数のフォールユニットが認められる。VII～VIII層は粘性があり締まりの強い褐色土で、混入物が少ない。IX～XII層は粘性のある明褐色土で、XI層は黒色粒の含有量が多く、XII層は礫を多量に含んでいる。(寺上遺跡報告書抜粋)

- |      |      |  |
|------|------|--|
| I    | 暗褐色  | 締まり弱い。表土層  |
| II-1 | 黒褐色  | ローム小ブロック微量、ローム粒多量、しまり強い                            |
| II-2 | 黒褐色  | ローム中ブロック多量、ローム粒多量、しまり強い                            |
| II-3 | 黒褐色  | ローム小ブロック微量、ローム粒中量、しまり強い、粘性強い                       |
| II-4 | 黒褐色  | ローム大ブロック微量、ローム粒中量、焼土粒微量、しまりやや軟らかい、粘性強い             |
| III  | 黄褐色  | IV層よりもやや明るいハードローム、非常に硬い                            |
| IV   | 黄褐色  | III層よりもやや暗いハードローム                                  |
| V    | 黄褐色  | テフラKP少量、ハードローム                                     |
| VI   | 明黄褐色 | テフラKP純層、しまり普通                                      |
| VII  | 褐色   | 軽石粒少量、しまり非常に強い、粘性あり                                |
| VIII | 褐色   | 軽石粒少量、しまり非常に強い、粘性あり                                |
| IX   | 褐色   | 黒色粒微量、軽石粒やや目立つ、しまり非常に強い、粘性強い                       |
| X    | 明褐色  | 黒色粒少量、ローム小ブロック微量、粘土少量、テフラ小ブロック微量、軽石粒、しまり非常に強い、粘性あり |
| XI   | 明褐色  | ローム小ブロック少量、黒色粒多量、軽石粒、しまり非常に強い、粘性強い                 |
| XII  | 明褐色  | 粘土多量、黒色粒微量、テフラ小ブロック少量、礫多量、乳白色の軽石粒多量、しまり普通、粘性あり     |

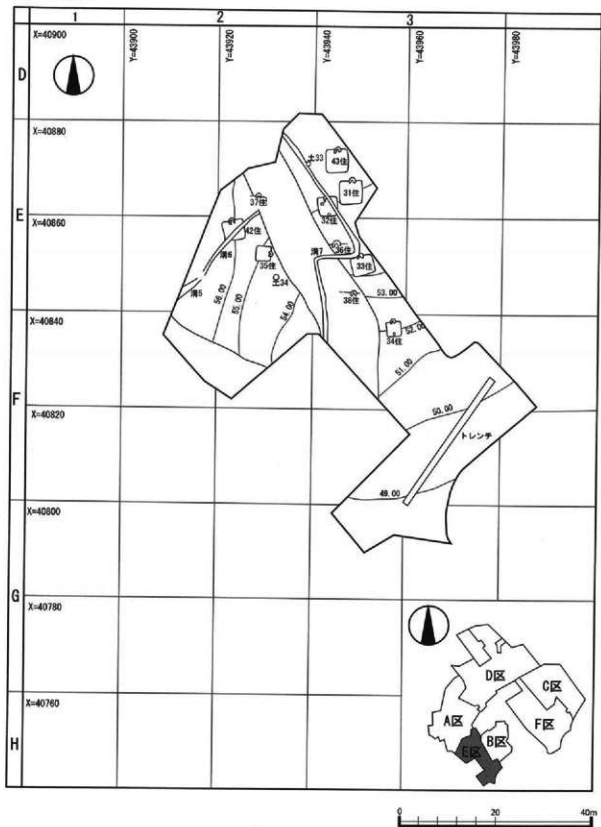
第3-2図 基本土層図 (寺上遺跡)

# 寺上遺跡



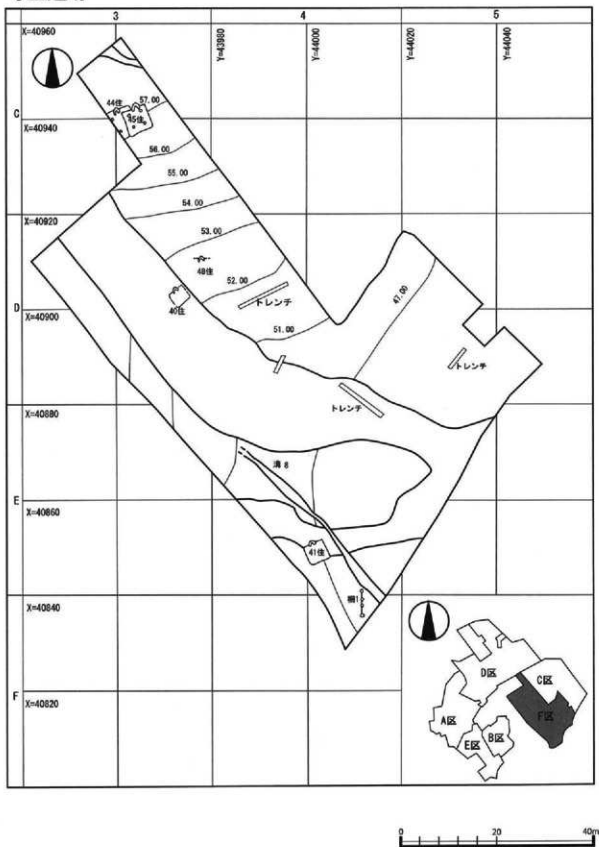
第4図 寺上遺跡D区遺構全体図

# 寺上遺跡



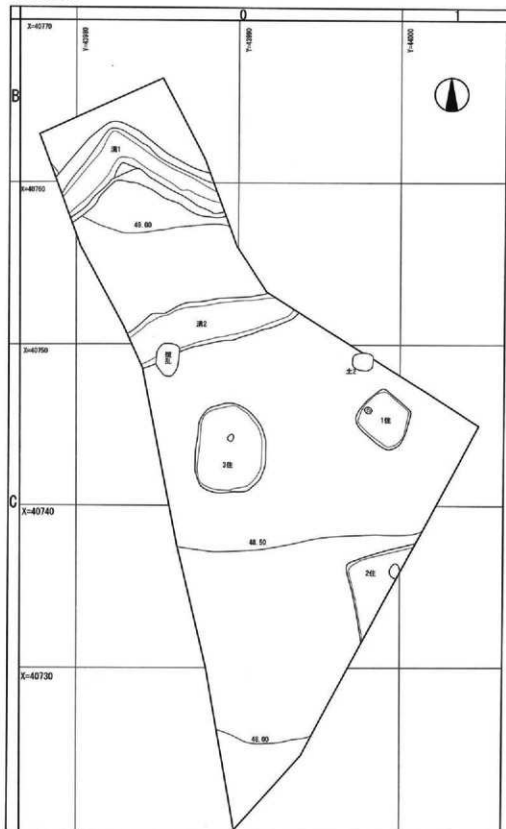
第5図 寺上遺跡 E区遺構全体図

# 寺上遺跡



第6図 寺上遺跡F区遺構全体図

行者遺跡



第 138 図 行者遺跡遺構全体図

## 第四章 寺上遺跡2

### 第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、D区から46軒、E区から10軒、F区から3軒確認された。時期的には7世紀後半から9世紀後半に比定される住居である。

#### 第1号住居跡（第7・8図、第1表、PL3・37）

位置：D調査区B4グリッド、標高59.8m地点にある。

重複関係：中央部を第3号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸（9.0）m、短軸（7.7）mで、主柱穴の位置から方形もしくは長方形を呈していたものと推測される。

主軸方向：N-27°-W

残存壁高：確認面から最大高20cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：大半は削平されており、詳細は不明であるが、遺存している竪前面部分は、竈構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散している状態であった。

ピット：3箇所で確認され、いずれも主柱穴と考えられる。また本来主柱穴が設置されていたと推測される本跡南東部は後世の掘削により壊されており、主柱穴は検出されなかった。なお、P3とP4で柱抜き取りの痕跡が確認された。P1：55×48cm、深さ49cm、P2：50×45cm、深さ47cm、P3：92×89cm、深さ53cmである。

#### P1土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭沼バミスブロック少量、やや締まりあり

#### P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微粉、締まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
3. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量、締まり強い（柱抜き取り痕）
4. 褐色 ロームブロック少量、炭沼バミスブロック少量、やや締まりあり

#### P3土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微粉、締まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微粉
3. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量、締まり強い（柱抜き取り痕）
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭沼バミスブロック少量、やや締まりあり

竈：北壁中央部東寄りであり、砂質粘土で構築されている。竈口部から煙道部までは98cmである。木跡は大半が削りされているため堆積層は薄く、基部も基部のみの検出となったが、前部の最大幅は約76cmを測り、内壁の一部が炭化により変硬化していることが確認された。火床部は床面から8cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ10cmほど掘り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、上部で段状となる。

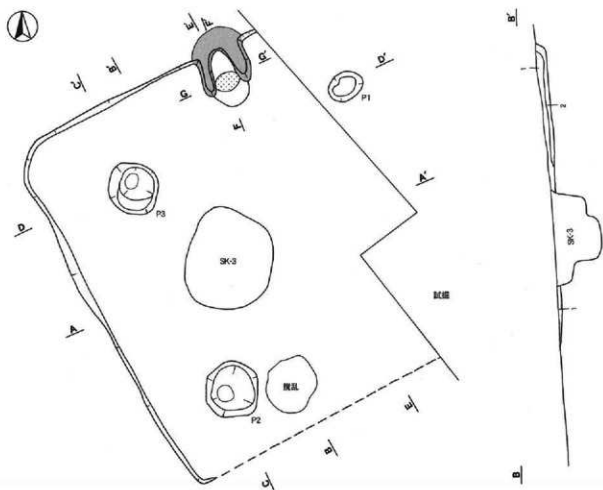
#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミスブロック少量、締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化した微砂、炭化粒子微量、炭沼バミスブロック少量、締まりあり
3. 灰褐色 ロームブロック微粉、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量
4. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い
5. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
2. 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量



A 600m

A'



C

C'



D

D'



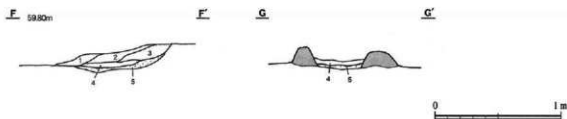
E

E'



第7-1图 第1号住居跡①

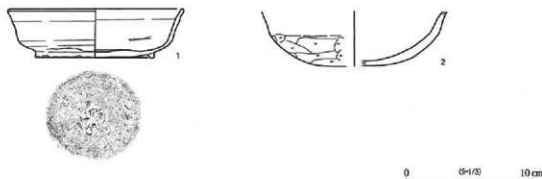




第7-2図 第1号住居跡②

遺物：須恵器片6点（坏・高台付坏類4点、甕類2点）、土師器片75点（坏・高台付坏類8点、甕類67点）。本跡は斜面部に面し覆土も薄く、耕作地であるため混入したのも多く、遺物に時期差があった。固化した1・2の遺物はいずれも北西部から出土しているものであるが、1の須恵器高台付坏は床面から、2の非ロクロ坏は床面に近い覆土下層から出土したものである。

所見：出土遺物数は少なく、遺物も7世紀後半から8世紀後葉に比定されるものまで様々で、遺物だけでは本跡の時期を特定するには至らなかったが、わずかに出土した遺物が8世紀前葉から中葉に比定されるものが比較的多いことから、住居南絶時期は8世紀前葉と推測される。



第8図 第1号住居跡出土遺物

第1号住居跡（表1）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	13.8	4.1	9.3	長石、石英	5GY5/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部面転ヘラケズリ 口縁部ロクロナデ/付高台、内外面ロクロナデ	No.1	100% PL37
2	土師器	坏		(4.5)		白色、長石、石英、小礫	5GY4/1 灰色	口縁部内外面ロクロナデ/底部下半手持ちヘラケズリ	4E1層	40% PL37

## 第2号住居跡（第9・10図、第2表、PL3・4・37）

位置：D調査区B4グリッド、標高59.6m地点にある。

規模・平面形：長軸4.8m、短軸4.6mで方形を呈する。

主軸方向：N-25° - W

残存壁高：確認面から最大高44cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：ほぼ全周し幅12～24cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、本跡中央部がよく硬化している。竈全面には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが散見された。

ビット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ビットと考えられる。また、P3とP4で柱抜き取りの痕跡が確認された。P1：65×59cm、深さ44cm、P2：58×46cm、深さ44cm、P3：108×75cm、深さ75cm、P4：95×79cm、深さ55cm、P5：48×33cm、深さ25cmである。

#### P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり
3. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

#### P2土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼パミス微量
2. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量

#### P3土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり
3. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い（柱抜き取り痕）

#### P4土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック少量、炭化粒子微量
3. 褐色 ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック少量、炭化粒子微量（柱抜き取り痕）

#### P5土層解説

1. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い
2. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い

竈：北壁中央部やや東寄りであり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは108cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面直中、第1～3層に含有される砂質粘土ブロックが崩落土の一部と考えられる。また袖部は比較的良好に遺存しており、内壁は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約120cmで、火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としている。煙道部は壁外へ20cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

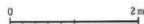
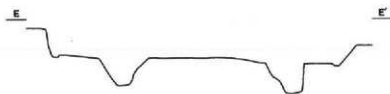
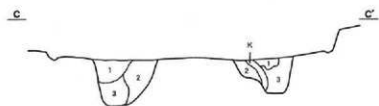
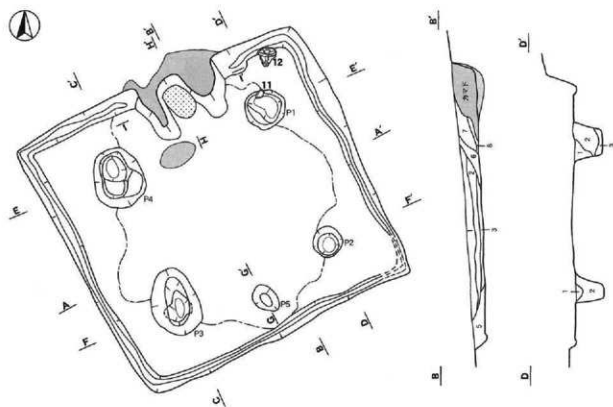
1. 褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり
3. 灰褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量、鹿沼パミスブロック少量
4. 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い
5. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い
6. 灰色 砂質粘土ブロック多量
7. 灰黄褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量
8. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒中量
9. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒少量
10. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック中量、砂質粘土粒中量
11. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
12. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量、炭化物少量
13. 灰褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック少量、締まり弱い
14. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な埋没状況を示している。第8層には電線構材と考えられる砂質粘土ブロックが確認された。

#### 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼パミス少量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
4. 褐色 ロームブロック少量、炭化物少量、粘性・締まり弱い
5. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化物少量、炭化粒子少量、鹿沼パミスブロック少量
6. 褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック少量
7. 褐色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
8. 暗褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、粘性弱い

遺物：須恵器片96点（坏・高台付坏類72点、蓋5点、盤2点、甕類17点）、土師器片196点（坏・高台付坏類13点、甕類183点）、土製品1点（支脚）。床面あるいは床面に近い面から確認された遺物の多くは竈東側から出土しており、11の須恵器片や12の土師器片が相当する。また、埋め戻しの段階で投棄または混入したと考えられる遺物は瓦土層のものが多い傾向にあり、7の須恵器片や9の須恵器蓋などである。なお、13の土師器支脚は、砂質粘土ブロックと共に竈袖部前から確認されたもので、竈が壊された時に共に崩れ落ちたものと推測される。所見：時期は住居崩壊後に投棄された遺物からみて8世紀中葉と考えられる。



第9-1図 第2号住居跡①

H. 9980m

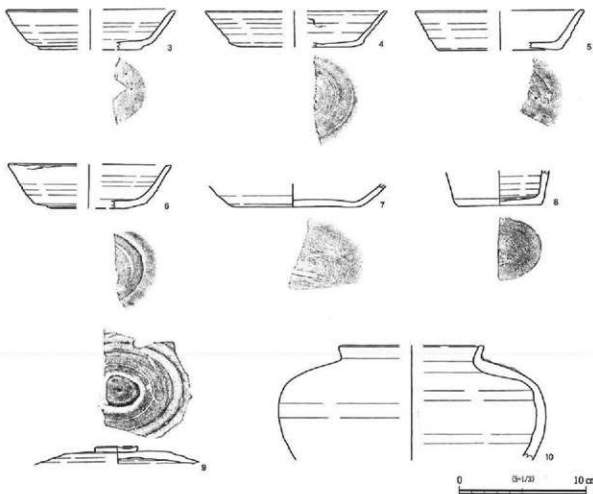
H'

L

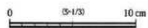
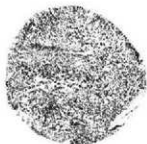
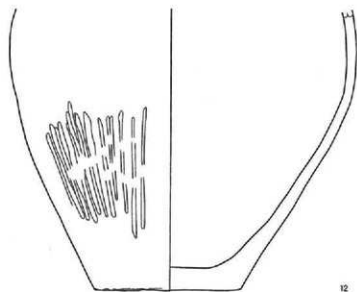
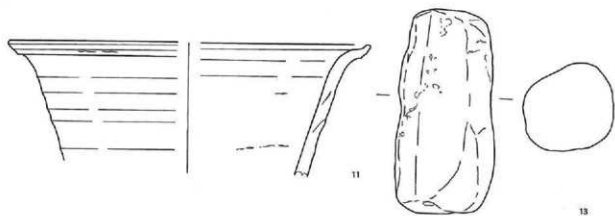
L'



第9-2図 第2号住居跡②



第10-1図 第2号住居跡出土遺物①



第 10 - 2 図 第 2 号住居跡出土遺物②

第2号住居跡(表2)

番号	種類	形状	口径	径	底径	粘土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	灰皿器	坪	(134)	42	(80)	白色、赤褐色、小礫	5GY5灰色	体部内外面ロクロナデ/底部より種し後調整へ用漆/口縁部及び底部面ヘラケズリ	1区2層 4区1層	40% PL37
4	灰皿器	坪	(143)	38	(87)	赤石、石英、小礫、斜状灰礫	10GY6/1 緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部面ヘラケズリ	P3	40% PL37
5	灰皿器	坪	(134)	42	(93)	長石、石英、小礫	10G6/1 緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部面ヘラケズリ/口縁部及び底部面調整灰	4区2層	30% PL37
6	灰皿器	平	(128)	46	(65)	白色、斜状灰礫あり	5GY6/1 ネリブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部面ヘラケズリ/底部調整灰	J区2層	40% PL37
7	灰皿器	坪	(24)	94		長石、石英、小礫	7.5Y6/3 ネリブ灰	体部内外面ロクロナデ/底部面ヘラケズリ、ヘラケ屑/重台の仕立	1区1層	20% PL37
8	伊豆器	コップ形土鉢	(36)	66		白色	5B3調整灰色	体部内外面ロクロナデ/体部下面ヘラケズリ/底部調整灰ヘラケ	2区1層	30% PL37
9	伊豆器	盃	(19)			長石、石英、斜状灰礫、小礫	7.5GY4/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部面ヘラケズリ/つまみ部付	3区1層	50% PL38
10	伊豆器	定置皿	(115)	(121)		長石、石英、小礫	2.5GY6/1 ネリブ灰色	内外面ロクロナデ、内外面自然乾	1区2層	10% PL37
11	伊豆器	盃	(280)	(104)		白色、長石、石英	10GY5/1 緑灰色	調整灰あり/内外面ロクロナデ	No.2	10% PL38
12	土師器	盃	(220)	114		白色、長石、石英、小礫	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	調整面ナデ、外面方位斜方向ヘラケズリ、と位の調整ヘラケミ	No.1	30% PL38

番号	種類	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	粘土	特徴	出土位置	備考
13	支脚	5.8	7.9	16.4	935	黄母、小礫	2bYR5/1にぶい赤褐色	カマド右側部	100% PL38

## 第3号住居跡(第11・12図、第3表、PL.4・5・38・39)

位置：D調査区B 4グリッド、標高60.9m地点にある。

規模・平面形：長軸3.08m、短軸2.68mの長方形を呈する。

主軸方向：N-2°-W

残存壁高：確認河から最大高38cmを測り、垂直に立ち上る。

壁溝：東壁の南部を除き全周し、幅15～23cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平状で、中央部が硬化している。

ピット：1箇所確認され、P1～P4は柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：24×24cm、深さ28cmで、出入口ピットである。

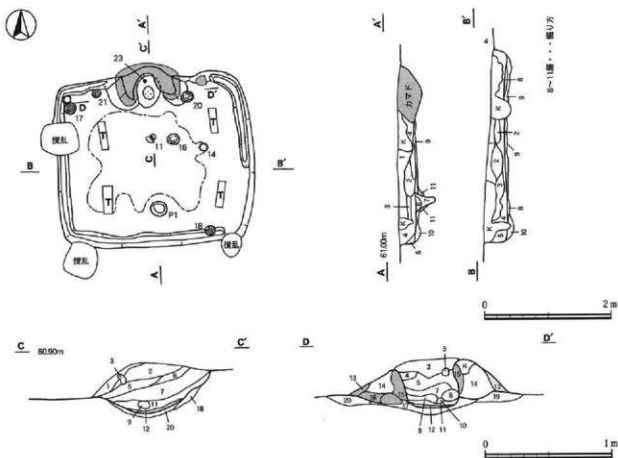
P1土層解説(住居跡地層性に準じる)

- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘まり弱い
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘りあり

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。また焚口部から煙道部までは62cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面中、砂質粘土ブロックを含む第5・7・9層が崩落土と考えられる。竈部は比較的良好に遺存しており、竈部内面は被熱により変色しているのが確認された。竈部の基礎はロームブロックを竈部中央に据えて周囲を砂質粘土で構築したもので、竈部最大幅は約126cmである。また火床部の西縁部側から出土した石塊は、赤く被熱しており、木束支脚として据えられていたものと考えられる。この火床部は床面から8cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。・煙道部は焚口へ18cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、粘り弱い
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
- 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量



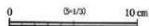
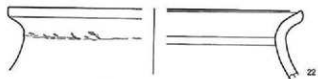
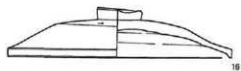
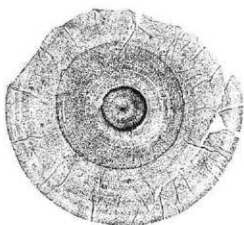
第11図 第3号住居跡

- |           |  |
|-----------|--|
| 5. 褐色     | ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物微量            |
| 6. 灰黄褐色   | ローム粒子少量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック中量、粘性弱く締まりあり                    |
| 7. 灰褐色    | ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い、炭化粒子少量、粘性弱く締まりあり |
| 8. 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、炭化粒子少量、しまり弱い                                    |
| 9. じい暗褐色  | 焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量、しまりややあり                            |
| 10. 灰褐色   | ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量                          |
| 11. じい暗褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い                              |
| 12. 暗褐色   | ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量                                |
| 13. 暗褐色   | ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量                               |
| 14. 褐色    | ロームブロック多量、ローム粒子微量、締まりあり                                |
| 15. 灰褐色   | ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量                  |
| 16. 褐色    | ロームブロック多量、砂質粘土粒子中量、粘性あり                                |
| 17. 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量                                 |
| 18. 褐色    | ロームブロック多量、ローム粒子中量、粘性弱い                                 |
| 19. 褐色    | ロームブロック中量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり                       |
| 20. 暗灰色   | ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量                             |

遺構埋没状態：ロームブロックと鹿沼パミスブロック主体の人為的な堆積状況を示している。なお、第4層のロームブロックは、壁部の崩落土と推測される。

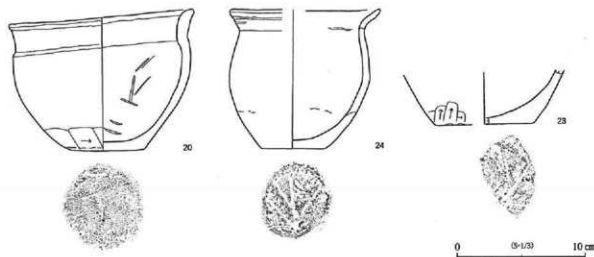
## 土層解説

- |         |   |
|---------|---|
| 1. 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まり弱い                      |
| 2. 暗褐色  | ロームブロック微量、ローム粒子少量                         |
| 3. 褐色   | ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、鹿沼パミスブロック微量    |
| 4. 褐色   | ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量、鹿沼パミスブロック微量、粘性弱い |
| 5. 褐色   | ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼パミスブロック少量、粘性弱い  |
| 6. 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり                       |
| 7. 暗褐色  | ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い                |
| 8. 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量                            |
| 9. 褐色   | ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い                |
| 10. 褐色  | ロームブロック中量、ローム粒子少量                         |
| 11. 暗褐色 | ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり             |



第 12 - 1 圖 第 3 号住居跡出土物①





第12-2図 第3号住居跡出土遺物②

遺物：須恵器片13点（坏・高台付坏類1点、蓋4点、甕類8点）、土師器片41点（坏・高台付坏類3点、甕類38点）。床面から確認された遺物の多くは北壁付近と竈前面を主体に散見され、17の須恵器蓋、20の土師器鉢、21の土師器甕が相当する。その他、住居中央部からは14の新治窯産の須恵器坏、16の須恵器蓋などが出土している。

所見：図化した遺物は床面あるいは床面に近いレベルで出土したものであり、住居跡廃絶時に遺棄あるいは投棄されたものと推測される。これらの遺物からみて本跡の時期は8世紀後葉頃と考えられる。なお、本跡から新治窯産の須恵器坏が確認されたが、当集落跡からは数点出土しているだけで、大半が木葉下・大淵窯産である。

第3号住居跡（表3）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	須恵器	坏		4.8	8.1	雲母、褐色、白色、長石、石英	5Y6/3 オリーブ黄色	体部内外面クロコナデ/底部回転ヘラ切り後一部手持ちヘラケズリ/底部下層及び底部周縁磨成	No.2 1E1層	PL38
15	土師器	坏	[12.5]	[2.7]		白色	2.5YR3/1 暗赤褐色	口縁部内外面ヨココナデ/底部下手持ちヘラケズリ	3E2層	10%
16	須恵器	蓋	18.0	4.0	長石、石英	5YR7/3 にぶい褐色	体部内外面クロコナデ/天井部回転ヘラケズリ/つまみ部磨成	No.3	100% PL38	
17	須恵器	蓋	18.9	[3.0]	長石、石英、針状結晶	10G6/1 緑灰色	体部内外面クロコナデ/天井部回転ヘラケズリ/つまみ部磨成	No.5	90% PL38	
18	須恵器	蓋	16.0	[2.4]	長石、石英、針状結晶	SBS/1青灰色	体部内外面クロコナデ/天井部回転ヘラケズリ/つまみ部磨成	No.4	90% PL38	
19	須恵器	甕		(5.9)		長石、石英、小礫	5Y6/3 オリーブ黄色	口縁部内外面クロコナデ、外面磨擦文	3E1層	5% PL39
20	土師器	鉢	15.4	11.6	6.5	長石、石英、小礫	5YR6/6褐色	頸部内外面ヨココナデ/胴部外面ナデ、内面ヘラナデ/底部多方向の手持ちヘラケズリ	No.1	95% PL39
21	土師器	甕		(5.2)	8.1	長石、石英、小礫	5YR6/4 にぶい褐色	胴部内外面ナデ、外面一部履位ヘラケズリ/底部外面くびれ部横位ナデ、底部木葉痕	No.7	20% PL39
22	土師器	甕	[23.4]	(5.2)		雲母、白色、長石、石英	2.5YR4/2 灰褐色	口縁部・頸部外面ヨココナデ、胴部内面横位ヘラナデ	カマド 2/4土	5% PL39
23	土師器	甕	(4.3)	[8.0]		長石、石英、小礫	2.5YR6/4 にぶい赤褐色	胴部外面ヘラナデ、内面ナデ/底部木葉痕/二次焼成	No.8	5%
24	土師器	小形甕	[11.9]	11.3	5.1	雲母、長石	5YR5/2 灰褐色	口縁部内外面ヨココナデ、外面北縁状の凹み/胴部輪縁のみ、外面ナデ/底部木葉痕	No.9	PL39

第4号住居跡（第13・14図、第4表、PL5・6・39・40）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.9m地点にある。

重複関係：西部を第20・21号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸4.76m、短軸3.88mの長方形を呈する。

主軸方向：N-9° - E

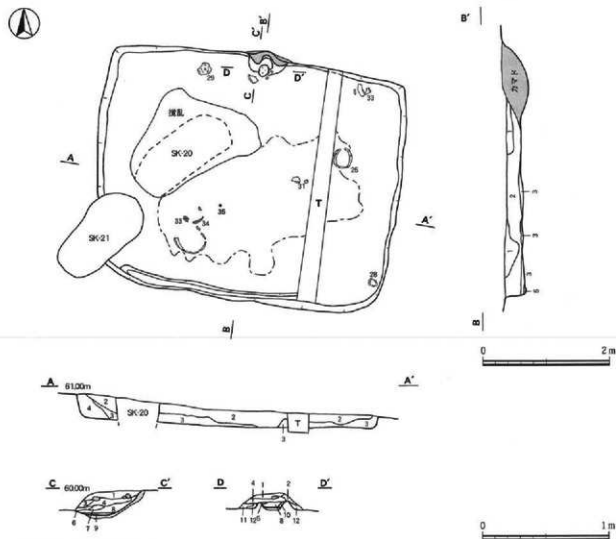
残存壁高：確認面から最大高38cmを測り、垂直に立ち上がる。

壁溝：南部のみ確認され、幅16～20cmで断面はU字形である。

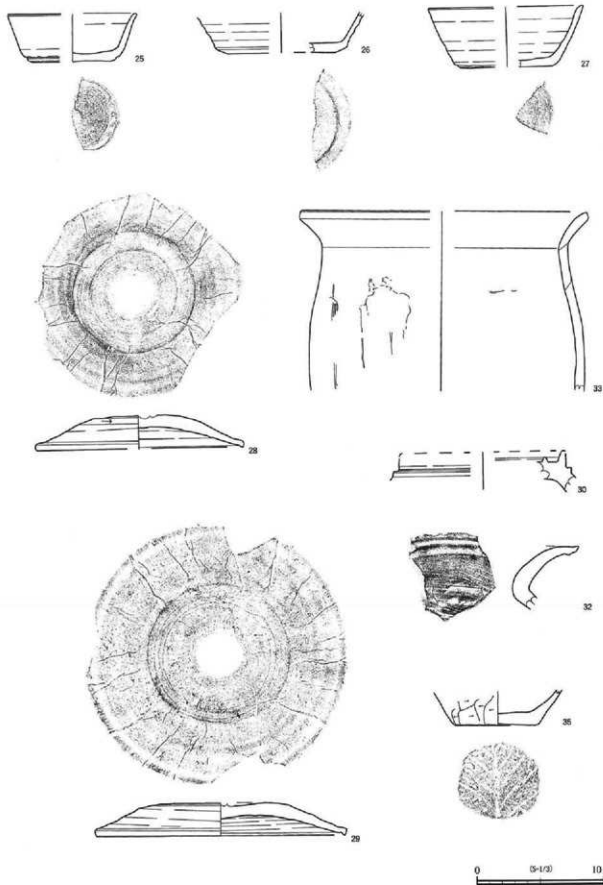
床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは、支柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

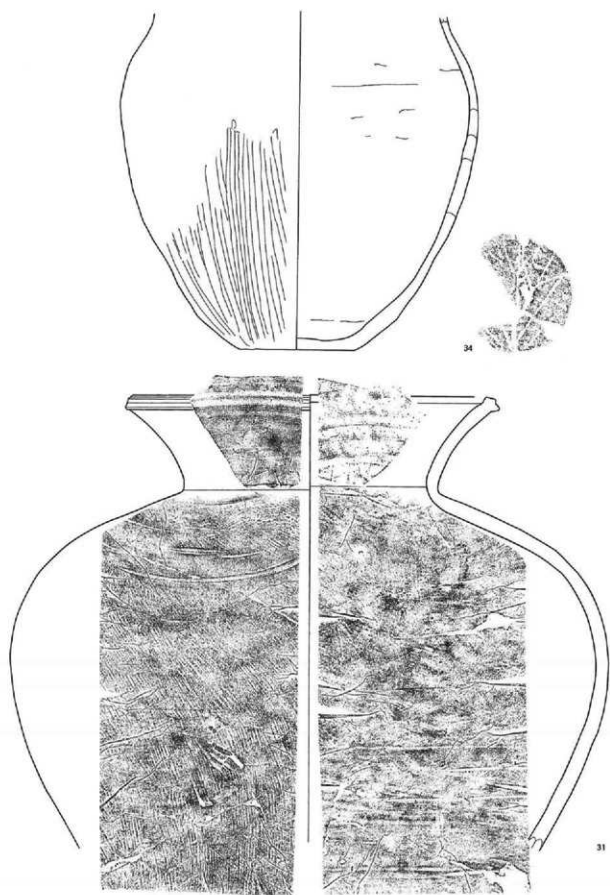
竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは40cmである。袖部の遺存状態は非常に悪く、袖部の基部と推測される砂質粘土ブロックが幅約50cmほど確認された程度であり、内壁の被熱による硬化面等の情報は得られなかった。火床部は床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としており、被熱により硬化した部分が認められた。煙道部は壁外へ12cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、上部で段状となる。



第13図 第4号住居跡



第 14 - 1 図 第 4 号住居跡出土物①



第 14 - 2 图 第 4 号住居跡出土遺物②

## 土層解説

1. 灰褐色 romeブロック少量、rome粒少量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2. 灰褐色 romeブロック少量、rome粒少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
3. 暗褐色 rome粒子少量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子中量
4. 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子中量、炭化粒子少量、粘性弱く締まりあり
5. 灰褐色 romeブロック少量、rome粒少量、砂質粘土ブロック少量
6. 暗褐色 rome粒少量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子少量
7. 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量
8. 灰褐色 砂質粘土粒子少量、炭化物少量、焼土ブロック少量
9. 暗褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
10. 暗褐色 romeブロック少量、rome粒少量
11. 灰褐色 romeブロック少量、rome粒少量、焼土ブロック少量、炭化物少量
12. 灰褐色 romeブロック少量、rome粒少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物少量

遺構埋没状態：romeブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

## 土層解説

1. 暗褐色 rome粒子少量、泥沼バミス少量
2. 暗褐色 rome粒子少量、炭化物少量、泥沼バミス少量、締まり弱い
3. 褐色 romeブロック少量、炭化粒子少量
4. 暗褐色 rome粒少量、炭化粒子少量
5. 褐色 rome粒少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い

遺物：須恵器片141点（坏・高台付坏68点、蓋7点、蓋17点、盤4点、円面瓦1点、甕頸37点）、土師器片226点（坏・高台付坏類2点、甕頸224点）。遺物の多くは覆土最下層から出土しており、住居廃絶後に投棄あるいは埋土中に混入したものと推測され、25・27の須恵器坏、28の須恵器蓋、34・35の土師器甕が相当する。なお、本跡の床面直上から出土した遺物は29の須恵器蓋と31の須恵器甕の2点であるが、いずれも逆位で確認されたものである。特に31は最大胴径46cmを測り、比較的大きなものであり、当遺跡から出土した甕の中では最大である。しかし床面には33を損え置いた痕跡はどこにも窺えず、床面出土の遺物ではあるものの、本跡に作うものか否かは不明である。なお、30の円面瓦の破片は、北西部の覆土下層から出土したもので、混入したものと考えられる。

所見：床上に柱を持たない遺物構造であることや、住居廃絶時に遺棄あるいは投棄された遺物から判断して、時期は8世紀中葉～後葉と考えられる。

第1号住居跡（表4）

番号	種類	形状	口径	器高	底径	胎土	色面	手法の特徴はか	出土位置	備考
25	須恵器	坏	105	39	170	灰乙、石英、小礫、片状鉄屑	10G5/1 緑灰色	内外外面ロクロナデ/底面加粒ヘラケズリ/横リタリナデ、高台状を呈する	No12	40% PL39
26	須恵器	坏		32	186	黒色、白色、黒石、石英	6B6/1 黄灰色	内外外面ロクロナデ、外面下層加粒ヘラケズリ/底面加粒ヘラケズリ	3区2層	15% PL39
27	須恵器	坏	124	49	174	黒石、石英、小礫	5D6/1 古灰色	内外外面ロクロナデ/底面内側ヘラケズリ/底面加粒ヘラケズリ	4区1層 4区2層	20% PL39
28	須恵器	蓋	166	27		灰乙、片状鉄屑	75G/6/1 緑灰色	内外外面ロクロナデ/天部加粒ヘラケズリ	No4	80% PL40
29	須恵器	甕	204	27		黒石、白色、黒石、石英、小礫	10G5/1 緑灰色	内外外面ロクロナデ/天部加粒ヘラケズリ	No11	95% PL40
30	須恵器	円面瓦	133	33		黒石、石英	5A6/1 灰褐色	内外加粒ヘラケズリ	4区2層	3% PL40
31	須恵器	甕	272	360		灰乙、小礫	10B6/1 黄灰色	口縁部・頸部ロクロナデ/胴部上下外面タテキ・外面あて具表/ト下内外面ナデ	No7	70%
32	須恵器	甕		33		白色、石英	10B6/1 黄灰色	内外外面ロクロナデ/胴部外面ヘラケズリによる赤灰、下部に横粒ヘラケズリ/口縁部加粒	4区1層	3% PL40
33	土師器	甕	23<	144		黒色、白色、黒石、石英、小礫	25YR4/3 赤褐色	内外外面ナデ、外面下半加粒ヘラケズリ/胴部外面ナデ/口縁部内外面ロクロナデ/二次焼成	No1 No5	10% PL40
34	土師器	甕		268	90	黒色、白色、黒石、石英	25YR6/6 灰色	内外外面ナデ、外面加粒ヘラケズリ/胴部内面ナデ、下部加粒ヘラケズリ	No8	30% PL40
35	土師器	甕		238	66	黒色、白色、黒石、石英、小礫	25YR6/6 灰色	内外外面ナデ、外面加粒ヘラケズリ/胴部内面ナデによる加粒ヘラケズリ、外面黒灰/二次焼成	No10	10% PL40

第5号住居跡 (第15・16図、第5表、PL 6・40・41・42)

位置：D調査区B 4 グリッド、標高60.8m地点にある。

規模・平面形：長軸3.36m、短軸3.30mの方形を呈する。

主軸方向：N-19° -W

残存壁高：確認面から最大高36cmを測り、外傾して立ち上がる。

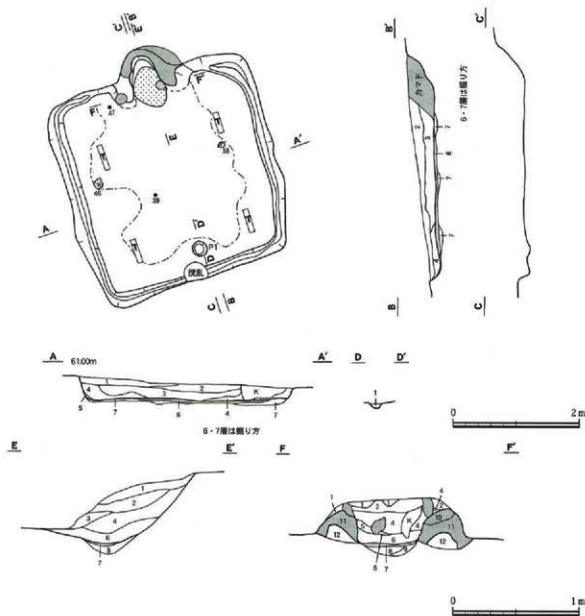
壁溝：ほぼ全周し、幅12～30cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、竈前面部分と住居中央部がよく硬化している。

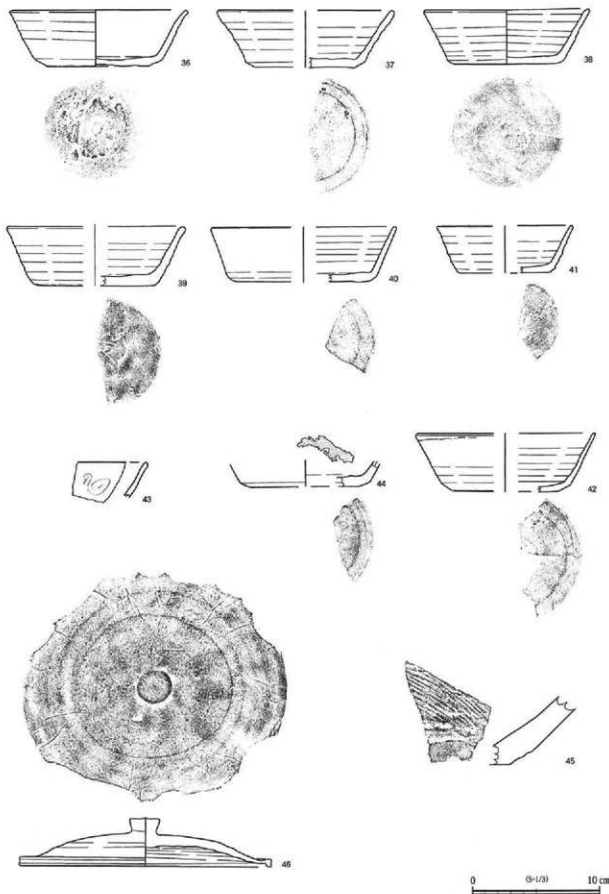
ピット：1箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：32×22cm、深さ45cmで、出入口ピットである。

P1土層解説

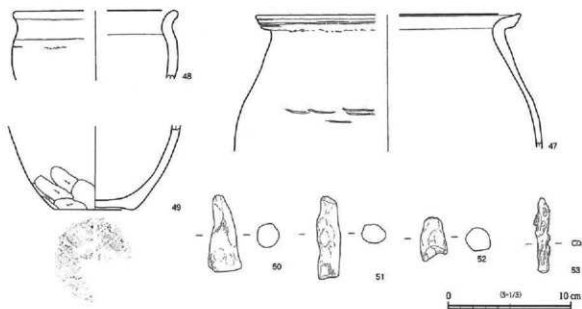
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第15図 第5号住居跡



第 16 - 1 図 第 5 号住居跡出土遺物①



第16-2図 第5号住居跡出土遺物②)

甕：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚き口から煙道部までは80cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。また、袖部の基礎は地山（第12層）を造り出し、上部に砂質粘土（第11層）で構築されたもので、袖部の最大幅は約48cmである。火床部は床面から11cmほど掘りくぼめて火床面としているが、硬化している感じはなかった。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり
3. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量
4. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い
5. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
6. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
7. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量
8. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
9. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼パミス微量
10. 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い
11. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子少量、炭化物微量
12. 褐色 ロームブロック、甕袖部の芯材として活用（地山ではあるが分層表記した。）

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが甕前付近から確認されている。第6・7層はロームブロックを主体としており、住居床下の掘り方層である。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、鹿沼パミス微量
3. 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量、鹿沼パミス微量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼パミス少量
5. 褐色 ローム粒子少量、鹿沼パミス少量
6. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量、炭化粒子微量
7. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量



遺物：須恵器片95点（坏・高台付坏類73点、蓋7点、壺5点、甕類10点）、土師器片132点（坏・高台付坏類1点、甕類131点）、鉄製品1点（釘）。本跡中央部を主体に散見されるが、大半が覆土下層から出土したものである。36～46は共髹具であるが、いずれも須恵器製品である。43の須恵器坏の体部外面には、鳥のような模様が発着されており、南東部の覆土上層から出土している。44の坏は底部内面に漆の跡が残る。なお、47～49は土師器煮炊き具で47は常総甕の破片である。

所見：当遺跡からは、本跡のように共髹具が須恵器製品で占める時期が主体で、新たに土師器坏（糸切り）・灰釉陶器が共存する時期の住居も確認されている。時期は、共髹具の特徴から8世紀中葉～後葉と考えられる。

第5号住居跡（表5）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
36	須恵器	坏	14.1	4.6	8.1	白色、灰石、石英、赤褐色、小礫	23GY4/1 オレンジ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ作り無調整	1区層	50% PL40
37	須恵器	坏	(14.0)	4.6	(7.8)	白色、灰石、石英、赤褐色、小礫	72SY6/3 オレンジ黄色	体部内外面ロクロナデ/体部下端及び底部回転ヘラナデ	3区層上	40% PL41
38	須恵器	坏	13.1	4.4	8.8	長石、石英、小礫、針状状物	10CA/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ作り後一方筋のヘラケズリ/口縁部及び底部回転ヘラ	No.1 4区層	70% PL41
39	須恵器	坏	(14.2)	4.8	(3.6)	黒石、石英、小礫	50YS/1 オレンジ灰色	体部内外面ロクロナデ/体部下端回転ヘラナデ/底部回転ヘラ作り、ヘラ底す	No.5	40% PL41
40	須恵器	坏	(14.6)	4.5	(10.6)	小礫	68CG/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/体部下端及び底部回転ヘラケズリ/体部下端及び底部回転ヘラナデ	3区層上	25% PL41
41	須恵器	坏	(10.8)	3.8	(7.2)	白色、灰石、石英、赤褐色	10V4/1灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラナデ	3区層上	30% PL41
42	須恵器	坏	(14.2)	4.7	(8.2)	灰色、灰石、石英、小礫	68CG/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ作り	1区層上 3区層上	40% PL43
43	須恵器	甕		(3.3)		灰石、石英	50YS/1明 オレンジ灰色	体部外面水鳥型着	2区層	30% PL41
44	須恵器	坏		(2.1)	(8.2)	白色磁子、有状状物	50GY/1明 オレンジ灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ(左)/見込みに平行着	1区層	50% PL41
45	須恵器	甕		(5.4)		白色、灰石、石英、小礫	58CG/1 暗赤灰色	体部外面平行タタキ、内面ナデ	4区層	20%
46	須恵器	壺	20.1	3.9		褐色、灰石、石英、黒色のセムロイ下地の灰色面出し	50GY/4暗 オレンジ灰色	体部内面ロクロナデ/つまる部回転/体部外面及びつまみ部厚くなる自然輪により調整不明	No.5	80% PL41
47	土師器	甕	(21.6)	(10.8)		黒石、白灰、赤石、石英	51YS6/4 にんじ色	頸部内外面ヘラナデ/口縁部内外面ロクロナデ/口縁外面はヘラ先により調整	No.7	50% PL41
48	土師器	壺	(13.2)	(5.8)		黒石、白灰、赤石、石英	25YS5/4 にんじ色	頸部内外面ナデ・内面厚着/口縁部内外面ロクロナデ	2区層 2区層上	50% PL42
49	土師器	甕		(6.8)	6.4	灰石、石英	51YS6/4 にんじ色	頸部内面ナデ、外面垂直線状のヘラケズリ後ナデ・下部無調整/底部木炭着	2区層上 3区層上 1区層上	10% PL42

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	胎土	特徴	出土位置	備考
50	不明品	6.9	2.0	1.6	17.0	赤石、白灰、赤石、黒色磁子	25YR6/6褐色・灰質の粘土層を挟みに配った形状	3区層上	PL42
51	不明品	3.6	2.2	1.9	13.2	赤石、黒色磁子	25YR6/6褐色	3区層上	PL42
52	不明品	6.1	2.8	1.9	23.6	黒石、石英	51YR6/3にんじ色	2区層上	PL42

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
53	釘	6.2	1.4	0.4	5.6	鉄	前部長方形	3区層上	PL42

第6号住居跡 (第17・18図、第6表、PL7・42)

位置：D調査区B4グリッド、標高60.2m地点にある。

規模・平面形：長軸〔4.35〕m、短軸〔3.56〕mで隅丸方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-52°-W

残存壁高：覆土の大半が削平されており、わずかに遺存している部分の壁高は確認面から8cmである。

壁溝：検出されていない。

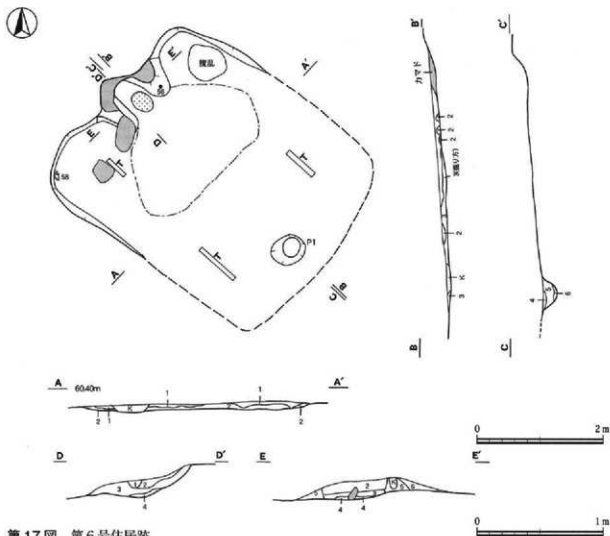
床：遺存していた竈前面部分では、よく踏み固められ硬化していた。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：50×44cm、深さ22cmで、出入口ピットである。

P1土層解説 灰砕埴積層の4～5層)

4. 埴 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まりあり
5. 埴 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり強い
6. 埴 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

竈：北西壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは〔116〕cmである。大半が削平されており、袖部の基部と火床部および煙道部の一部が確認されただけであった。袖部の最大幅は〔100〕cmであり、袖部はロームブロック（第5層）を芯材としている。火床面は判然とせず、被熱により硬化したブロック状の焼土の広がりが床面から4cmほど下がった位置にわずかに認められたため、この面を火床面と判断した。煙道部は壁外へ10cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、上部で段状となる。



第17図 第6号住居跡

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、焼沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、焼沼バミスブロック少量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
5. 褐色 ロームブロック多量、締まりあり
6. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

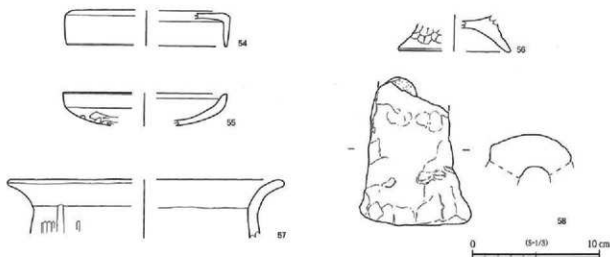
遺構埋没状態：削平により遺存している土層は2層のみであるが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的な埋没が見られる。第3層はロームブロックを主体としており、住居床下の堆積層と考えられる。

## 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼沼バミス微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、焼沼バミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
5. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い
6. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片10点（坏・高台付坏類5点、蓋5点）、土師器片34点（坏・高台付坏類2点、甕類32点）、土製品1点（支脚）。本跡南部の床面は削平されており、確認された遺物はすべて北部から出土したものである。図化した中では56の土師器碗と58の土製支脚は床面から出土しているが、覆土が薄く、遺物も破片のため、遺棄されたものか投棄されたものかは不明である。

所見：出土遺物が少なく、大半が細片であるため時期を特定するだけの根拠に乏しいが、7世紀後半頃と推測される。また当遺跡で本跡のように主軸が50度以上西に振れた住居は3軒あるが、時期差は大きい。



第18図 第6号住居跡出土遺物

第6号住居跡(表6)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	須恵器	甕	[12.6]	[3.0]	[13.0]	白色、長石、石英	5B/G3/1 暗青灰色	内外面ロクロナデ/黒色煎突	2区1層	2% PL42
55	土師器	坏	[12.8]	[2.8]		紫母、白色、長石	25YR5/3 に、多い赤褐色	口縁部内外面ロコナデ・内面黒色発煙/底部手持ちヘラケズリ/二次焼成	4区1層	16%
56	土師器	碗		[3.1]	[8.8]	黒色、白色、長石、石英	25YR5/4 に、多い赤褐色	内外面ロクロナデ・外面縦位ヘラケズリ/見込み部ミガキ/二次焼成	No.1	5% PL42
57	土師器	甕	[22.0]	[5.0]		紫母、白色、長石、石英、小礫、針状鉱物	5YR6/9褐色	胴部外面縦位ヘラナデ・内面ナデ/胴部口縁部内外面ロコナデ	覆土	2% PL42
番号	器種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	胎土	特徴	出土位置	備考	
58	支脚		8.6	[12.7]	330	紫母、小礫	5YR4/6赤褐色/外面煎頭供あり	No.4	40% PL42	

第7号住居跡 (第19・20図、第7表、PL.7・42・43)

位置：D調査区B4グリッド、標高60.3m地点にある。

規模・平面形：本跡の東部分が削平されていたが、床部硬化面の範囲から長軸 [3.60] m、短軸 [3.20] mで北壁に竈が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-20°-E

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央や西寄りであり、砂質粘土で構築されている。大半が削平され、火床部と袖部の基部及び煙道部のみが確認されただけである。袖部の基礎は地山を遣り出し、その周囲に砂質粘土で構築されている。火床部は床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

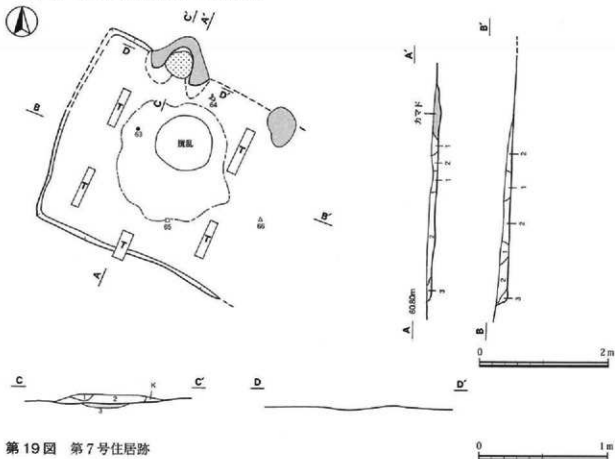
土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 灰褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、砂質粘土粒子少量、粘まり・粘性ともに弱い
3. 暗赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・粘まりともに弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、判然としない部分も多いが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的堆積の可能性が高い。

土層解説

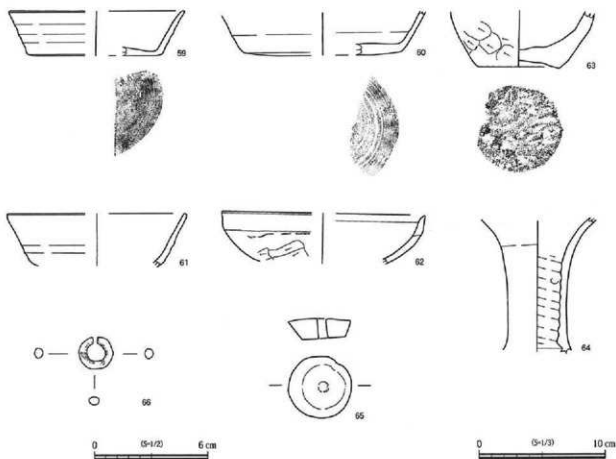
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量



第19図 第7号住居跡

遺物：須恵器片7点（坏・高台付坏類7点）、土師器片40点（坏・高台付坏類8点、甕類32点）、灰輪陶器1点（長頸瓶）、金属製品1点（耳環）、石製品1点（紡錘車）。床面から確認された遺物は、竈袖部付近から出土した64の須恵器長頸瓶と東部から確認された66の銅製耳環である。耳環は金メッキ製で、一部合金が遺存している。

所見：銅製耳環が確認されたが、本跡の東部から南部にかけて大きく削平されており主柱穴や出入口ピットも確認できないため、本跡に伴うものかどうかは判然としなかった。ただ本跡床面と同レベルで出土したことから、本跡出土の可能性が高いと判断し取り上げたものである。時期は住居跡廃絶時に投棄された遺物からみて8世紀前半と考えられる。



第20図 第7号住居跡出土遺物

第7号住居跡（表7）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	須恵器	坏	(14.2)	37	(10.6)	黒色、白色、 黒色のセルロ イド状の吹き 出し	5GY7/1明 りーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケ ズリ	1E1層	25%
60	須恵器	坏		(3.6)	(12.6)	黄母、小礫	5GY6/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ・内面黒色付着物 /底部回転ヘラケズリ	3E 覆土 4E1層	15% PL42
61	原形器	坏	(14.4)	(4.3)		長石、石英、 小礫	N6/0灰色	体部内外面ロクロナデ	1E1層	10%
62	土師器	坏	(16.2)	(4.0)		黄母、黒色、 白色、長石、 石英	5YR7/4 にぶい褐色	口縁部内外面ヨコナデ/底部下手持ち ヘラケズリ・歯ナデ/二次焼成	3E1層	25%
63	土師器	甕		(4.6)	6.4	長石、石英、 小礫	2.5YR6/6 棕色	胴部外面手持ちヘラケズリ/底部内外面 指ナデ	No.2	5% PL43
64	須恵器	長頸瓶		(10.8)		白色	10G6/1 緑灰色	胴部内外面ロクロナデ	No.1	10% PL43

番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
65	粘土棒	4.9	5.1	0.8	167	強磁片	外石欠損後、揃って成形	No.3	100% PL43

番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
66	調整瓦	1.79	1.75	0.5	5.3	赤土	全体に緑青が箇所/一部に金メッキ遺存	No.1	100% PL43

### 第8号住居跡(第21・22図、第8表、PL 8・9・43・44・45)

位置：D調査区B3グリッド、標高63.4m地点にある。

規模・平面形：長軸4.68m、短軸4.26mの方形を呈する。

主軸方向：N-11°-E

残存壁高：確認面から最大高66cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平床である。焼失による住居の構築材と考えられる炭化材が多数見受けられ、また、竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが竈前面に多量確認された。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは約120cmである。内壁は被熱により赤変している。また袖部の最大幅は約150cmで、ロームブロックを芯材として砂質粘土で構築されている。火床部は床面から14cmほど掘りくぼめて火床面とし、火床部奥には土製の支脚が正位で遺存していた。煙道は壁外へ96cmほど削り出して造られ、火床部から煙道部へは一旦段をなしその後、外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭沼バミス微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、粘りあり
- 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒少量、焼土ブロック微量、焼土粒少量、炭化物微量
- 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
- 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子中量、焼土粒子微量
- 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒少量、炭化物微量
- 黒褐色 炭化物多量、炭化粒子多量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化物中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
- 黒褐色 炭化物多量、炭化粒多量、焼土粒子微量、粘り・粘りとも同い
- 黒褐色 炭化物多量、炭化粒多量、焼土ブロック微量、焼土粒微量
- 灰褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
- 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量
- 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック微量、粘りあり(竈部芯材)

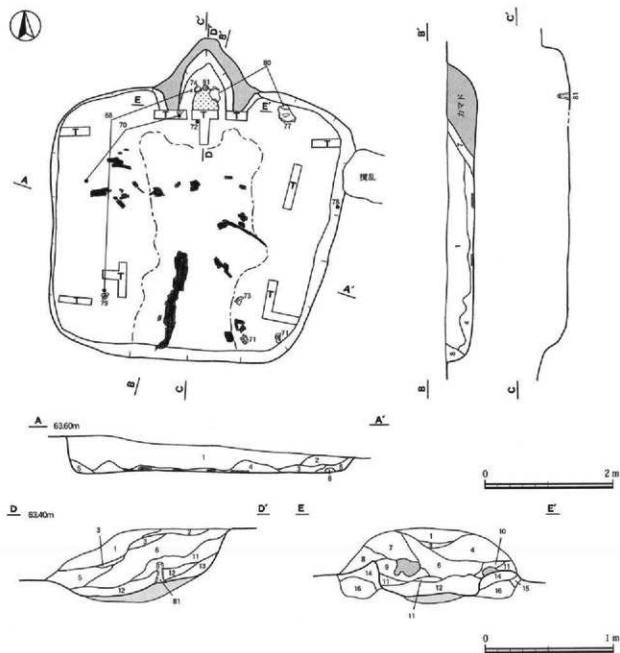
遺構埋没状況：第1層はロームブロック主体の層で厚く堆積しており、住居焼失直後の一括投棄と考えられる。なお、床面だけでなく覆土下層中にも住居跡構築材と考えられる炭化材や炭化物が確認されている。また第7層は竈構築材の砂質粘土ブロックを含有している層で、電材が流れたものと考えられる。なお、第8層は第1・4層を掘り込んでいるようにも見え、後世の擾乱の可能性があったが、明確な根拠を持ってなかったため層位に含めた。

#### 土層解説

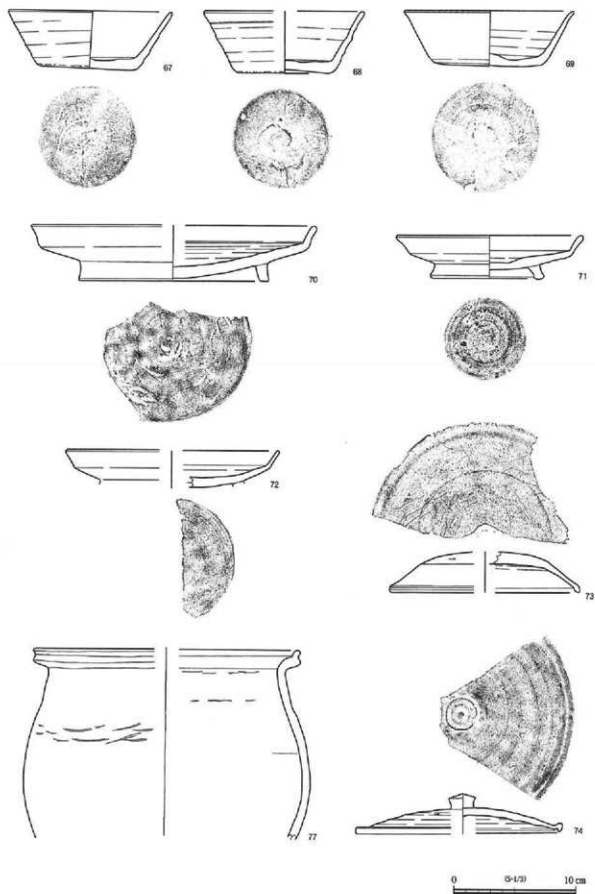
- 褐色 ロームブロック中量、ローム粒少量、炭沼バミスブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化物中量、炭沼バミスブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化物中量
- 暗褐色 ロームブロック微量、炭化材多量、炭化物中量、焼土粒子少量
- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒少量、炭化物微量、炭沼バミスブロック少量
- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒少量
- 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量

遺物：須恵器片170点（坏・高台付坏類92点、蓋24点、盤18点、甕類36点）、土師器片34点（坏・高台付坏類10点、甕類24点）、石製品1点（不明）、鉄製品1点（鏃）。住居の構築木材が放射線状に炭化した状態で多数確認されているが、床面から確認された土器片はない。また覆土下層から確認された土器片は、住居前面から掘り鉢状に出土しており、投棄されたものと考えられる。68の須恵器坏は、竈内と南壁際から出土した破片が接合したもので、同じく70の須恵器盤も竈内と住居西部の破片が接合している。

所見：焼失住居である。住居の構築材が放射線状に炭化した状態で確認されており、焼失時に上屋部が崩落したものと推測される。また確認された土器類はすべて覆土中から出土したもので被熱の痕跡もないことから、失火ではなく住居跡廃絶時あるいは廃絶直後に意図的に焼失させた住居であると推測できる。時期は投棄された遺物からみて8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

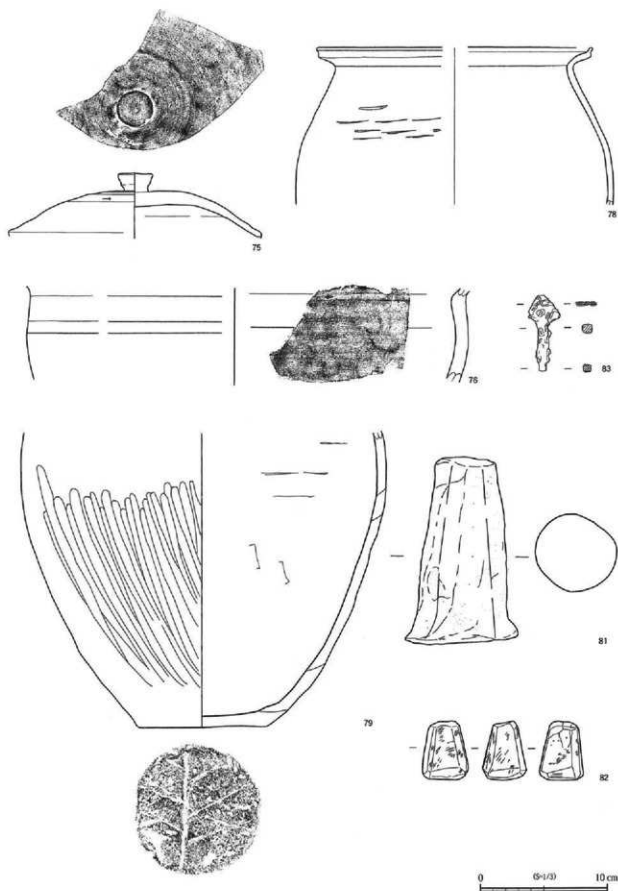


第21図 第8号住居跡

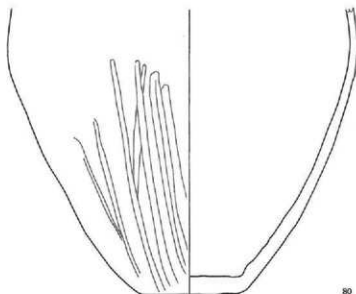


第22-1図 第8号住居跡出土遺物①





第22-2図 第8号住居跡出土遺物②



80



0 0-1/2 10 cm

第22-3図 第8号住居跡出土遺物③

第8号住居跡(表8)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	須恵器	坏	13.6	4.7	8.2	長石、石英、小礫、針状鉱物	5BGS/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り/口縁部及び底部黒線塗	1区1層 1区2層 3区2層	80% PL43
68	須恵器	坏	(13.4)	5.0	7.6	白色、長石、石英、針状鉱物	25GY2/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後一部持ちヘラズリ・底部ヘラ記号	No.7 No.19	50% PL43
69	須恵器	坏	14.1	4.6	8.9	白色、長石、石英、小礫、針状鉱物	10GS/1 緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後黒調整・ヘラ記号	3区2層 3区3層	90% PL43
70	須恵器	鉢	(23.8)	4.5	(15.8)	長石、石英、小礫	5BGS/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ後一部ヘラナデ/付高台・接合部回転ヘラズリ	No.16 No.26	25% PL43
71	須恵器	鉢	15.6	3.6	9.4	長石、石英、小礫、黒色のセルロイド状の吹き出し	25GY5/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ・ヘラ記号/付高台・接合部ナデ	No.5	60% PL44
72	須恵器	鉢	(17.6)	(3.1)	(11.8)	白色、長石、石英	5BGS/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ/付高台・接合部ナデ/高台欠損後、欠部を修り盛として再利用	No.12	30% PL44
73	須恵器	蓋	(15.8)	(3.3)		長石、石英	10GS/1 緑灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラズリ後ロクロナデ	No.4	40%
74	須恵器	蓋	(18.6)	3.3		長石、石英、小礫、黒色のセルロイド状の吹き出し	10GS/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラズリ/つまみ部付	No.17	25% PL44
75	須恵器	蓋	(19.6)	(5.1)		長石、石英、小礫	5G4/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラズリ/つまみ部付	No.27	30% PL44
76	須恵器	蓋		(7.7)		白色、長石、石英	5GY7/1明 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ	2区1層	2%
77	土師器	甕	(21.8)	(16.1)		白色、長石、石英、小礫	25YR6/4 にぶい褐色	胴部内外面ナデ、外面上半部ヘラナデ、口縁部内外面ロクロナデ/二次焼色	No.1	10% PL44
78	土師器	甕	(21.2)	(12.5)		白灰母、白色、小礫	5YR6/8褐色	胴部外面回転ヘラナデ、内面ナデ/頸部・口縁部内外面ロクロナデ	No.2	5% PL44
79	土師器	甕	(23.5)	9.8		白灰母、赤色、長石、石英	5YR6/3 にぶい褐色	胴部外面ナデ・下半部ヘラミガキ、内面ヘラナデ/底部木炭灰	No.7	50% PL44
80	土師器	甕	(23.1)	8.2		雲母、長石、石英	25YR5/3 にぶい赤褐色	胴部外面ナデ・下半部ヘラミガキ、内面ヘラナデ/底部木炭灰	No.1 No.8 2区覆土	30% PL44

番号	部 種	長小径 (cm)	長大径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)	胎 土	特 徴	出土位置	備考
81	支脚	45	87	15.3	790		SVRS/1陶 灰・TSYRに白い筋色、ZSYNS/8明赤褐色を垂する/外周 底面痕あり	カマド	PL45
番号	部 種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特 徴	出土位置	備考
82	不明瓦	46	3.1	3.0	70.0	面成岩		瓦土	100% PL45
番号	部 種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特 徴	出土位置	備考
83	炊爨	61	25	0.5-0.6	11.8	灰	段数的断面止方形	3k2型	

## 第9号住居跡（第23・24図、第9表、PL9・45）

位置：D調査区D2グリッド、標高63.5m地点にある。

規模・平面形：本跡の大半は削平されており詳細は不明であるが、主柱穴の位置や当集落跡の住居跡形態からみて、長軸 [5.04] m、短軸 [4.40] mで北壁に竈が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-0°

残存壁高：削平されており不明である。

壁溝：検出されていない。

床：わずかに竈前から住居跡中央部にかけて確認されたが、遺存部は平坦でよく踏み直められていた。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。またP1・P2・P4で柱抜き取りと柱当たり面の痕跡が確認された。P1：50×33cm、深さ64cm、P2：38×31cm、深さ82cm、P3：60×45cm、深さ20cm、P4：65×55cm、深さ38cm、P5：55×39cm、深さ36cmである。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まりあり
2. 暗褐色 ローム粒子少量、塵浴バミス微量
3. 暗褐色 炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い（柱抜き取り痕）
4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量

## P2土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、塵浴バミス微量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い（柱抜き取り痕）

## P3土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量、塵浴バミス微量
2. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量

## P4土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性あり
2. 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、締まり弱い
3. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量、焼土粒子少量（柱抜き取り痕）

## P5土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、塵浴バミス微量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。大半が削平され、火床部と煙道部のみの確認となった。火床部から煙道部までは114cmあったものと推測されるが、袖部は後述の攪乱により壊されており、竈構築材の砂質粘土ブロックが散在している程度であった。また袖部の蓋部の最大幅は約120cmである。煙道部は壁外へ70cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

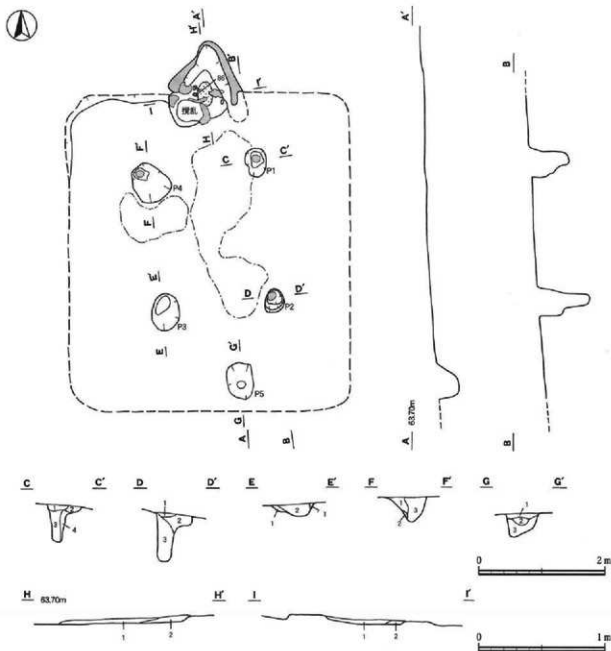
土層解説

1. 黄灰色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
2. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

遺物：須恵器片8点（坏・高台付坏類5点、壺3点）、土師器片19点（坏・高台付坏類1点、甕類18点）。床面が露出した状態で確認されており、出土した遺物は竈内あるいは支柱穴内で確認されたもので、いずれも細片である。85の須恵器壺はP4内から、86の須恵器坏は竈火床面上から出土している。

所見：出土した遺物の大半は9世紀代のものである。しかし出土数が少なくいずれも細片であるため、本跡の時期を詳細に特定するには至らなかった。



第23図 第9号住居跡



第24図 第9号住居跡出土遺物

第9号住居跡(表9)

番号	類別	容積	口径	容積	底径	胎土	色調	手泥の特徴はか	出土段階	備考
85	須恵器	甕	(15.6)	(1.3)		灰白、石灰、 針状織物	1006/1 緑灰色	内野田ロクロナデ	P4	2%
86	須恵器	杯	(14.8)	(4.5)		白色、叉石、 石灰	1006/2 オリーブ灰赤	外野田外周ロクロナデ	No.2	10% PL45

## 第10号住居跡(第25・26図、第10表、PL10・45)

位置：D調査区A2グリッド、標高66.0m地点にある。

規模・平面形：長軸3.56、短軸3.20mで長方形を呈する。

主軸方向：N-34°-W

残存壁高：確認面から最大高28cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：ほぼ全周し、幅24～36cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：28×28cm、深さ18cm、P2：46×36cm、深さ12cm、P3：40×34cm、深さ18cm、P4：50×44cm、深さ22cm、P5：36×30cm、深さ34cmである。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭沼バミスブロック少量、やや締まりあり

## P2土層解説

1. 黒褐色 U・M粒と微砂、炭化物微砂、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭沼バミス微量

## P3土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い

## P4土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミスブロック少量

## P5土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 U・M粒と少砂、炭沼バミス微砂

障：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚火口から煙道部までは120cmである。大半が削平されており埋没過程の判断はできなかった。袖部の基礎は地山を造り出し、上部に砂質粘土で構築されたもので、袖部の最大幅は約108cmである。煙道部は壁外へ50cmほど張り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒と微砂、砂質粘土ブロック少量
2. 灰褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、締まり弱い

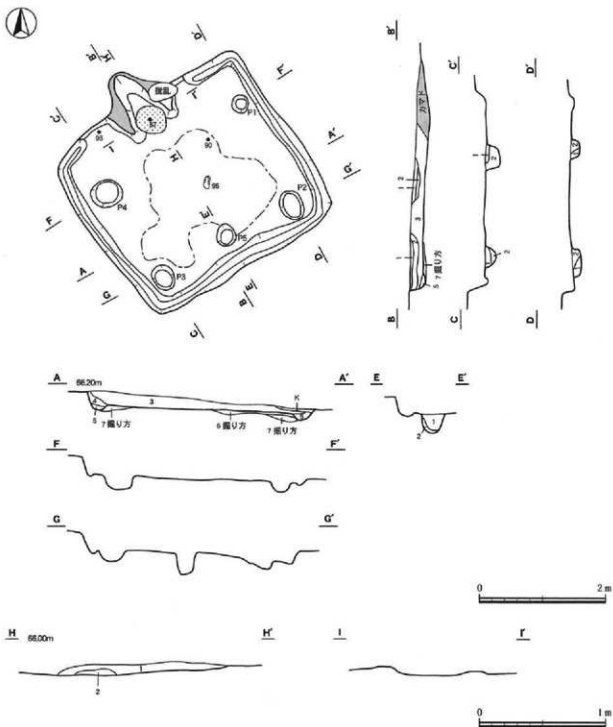
遺構埋没状態：ロームブロックを主体とした人為的な堆積状況を示している。第6・7層は住居の掘り方層である。

## 土層解説

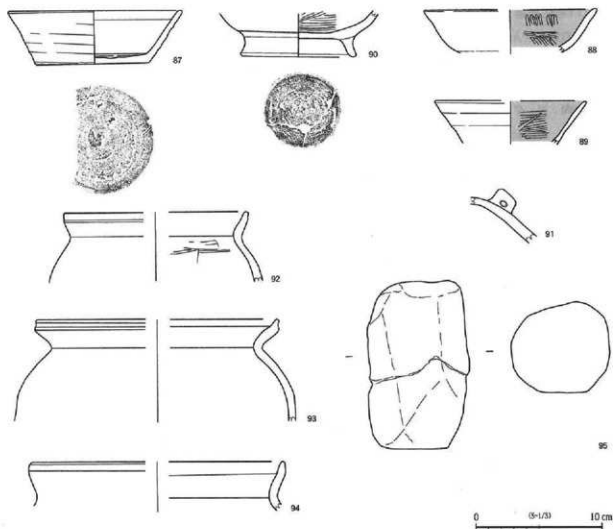
1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、炭沼バミスブロック少量
2. 褐色 ローム粒子少量、炭沼バミス少量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、炭沼バミス微量、締まり弱い
4. 暗褐色 U・Mブロック少量、炭化粒子微量
5. 暗褐色 ローム粒と少砂、炭化粒子微量
6. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量
7. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片38点（坏・高台付坏類15点、蓋9点、甕類14点）、土師器片120点（坏・高台付坏類12点、甕類106点）。竈内及び竈周辺を主体に散見されるが、破片が多く被熱の痕跡もないことから、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。87須恵器坏は竈内から、88・89の土師器坏は住居南東部の覆土下層から、95の土製支脚は中央部床面から出土している。

所見：本跡出土の遺物は投棄されたものが大半を占めるが、固化した遺物は廃絶直後に投棄あるいは遺棄されたものである。時期は遺物の形状から、9世紀前半と考えられる。



第25図 第10号住居跡



第26図 第10号住居跡出土遺物

第10号住居跡(表10)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
87	須恵器	坏	13.6	4.4	9.2	白色	5D65/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後無調整/口縁部及び底部黒線繪成	No.5	PL45
88	土師器	坏	[13.8]	(3.5)		雲母、白色、 長石、石英、 針状鉱物	7.5Y R 6/4 にぶい橙色	体部外面ロクロナデ・下縁回転ヘラケズリ、内面ヘラミガキ後黒色処理	3区2層	10% PL45
89	土師器	坏	[12.0]	(3.5)		雲母、白色、 長石、石英、 赤褐色	5Y R 6/4 にぶい橙色	体部外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ後黒色処理	3区2層	5% PL45
90	土師器	碗		(3.5)	9.2	白色、長石、 石英、小礫、 針状鉱物	2.5YR5/6 明赤褐色	体部外面下縁ヘラナデ、内面ヘラミガキ/底部回転ヘラケズリ/付高台、ロクロナデ/二次焼成	No.1	30% PL45
91	須恵器	瓶底面		(4.2)		黒色粒子、白 色粒子、小礫	10GY5/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/耳はヘラ整形	2区2層	5% PL45
92	土師器	壺	[14.6]	(5.5)		雲母、黒色、 白色、長石、 石英	2.5YR5/6 明赤褐色	胴部外面ナデ、内面ヘラナデ/頸部、口縁部内外面ロコナデ	2区2層	5% PL45
93	土師器	壺	[18.8]	(8.1)		白色、長石、 石英、赤褐色、 小礫	5YR6/4 にぶい橙色	胴部内外面ナデ/頸部、口縁部内外面ロコナデ	No.2	10% PL45
94	土師器	壺	[19.8]	(4.0)		白色、長石、 石英、赤褐色、 小礫	5YR5/1 黒褐色	頸部、口縁部内外面ロコナデ	カマド敷土	5% PL45

番号	器種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	胎土	特徴	出土位置	備考
95	瓦脚	5.4	6.6	13.7	650	雲母、赤褐色ブ ロック、黒色	5YR5/3にぶい赤褐色		PL45

第11号住居跡（第27・28図、第11表、PI.11・46・47）

位置：D調査区A3グリッド、標高64.8m地点にある。

重複関係：北東部を第5号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸5.10m、短軸5.08mの方形を呈する。

主軸方向：N-6° W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、ほぼ外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平円で、竈構築材と推測される砂質の粘土塊が竈前部の床面に飛散していた。

ピット：5箇所確認された。P1～P4は主柱穴と考えられるが、P5は位置的に出入口ピットかどうか判断しなかった。P1：35×29cm、深さ46cm、P2：47×42cm、深さ46cm、P3：46×30cm、深さ46cm、P4：45×44cm、深さ36cm、P5：28×21cm、深さ6cmである。

P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、灰泥バミス少量、やや締まりあり
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、灰泥バミスブロック少量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
4. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、焼土ブロック微量

P2土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、灰泥バミスブロック少量
2. 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

P3土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、灰泥バミスブロック少量、やや締まりあり
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、灰泥バミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、灰泥バミスブロック少量
4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

P4土層解説

1. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、焼土ブロック微量
2. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、灰泥バミスブロック少量、やや締まりあり

P5土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cmである。大井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第1層が崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約140cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、赤く硬化している。煙道部は壁外へ22cmほど閉り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がり上部で段状となる。

土層解説

1. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量
3. 赤褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量、粘性弱く締まりあり
4. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量

遺構埋没状態：環土下層（第2層）はロームブロック主体の人為的な堆積状況を示しているが、覆土上層（第1層）は粒子が細かく均一的な堆積状況を示しており、山頂側からの自然堆積である。

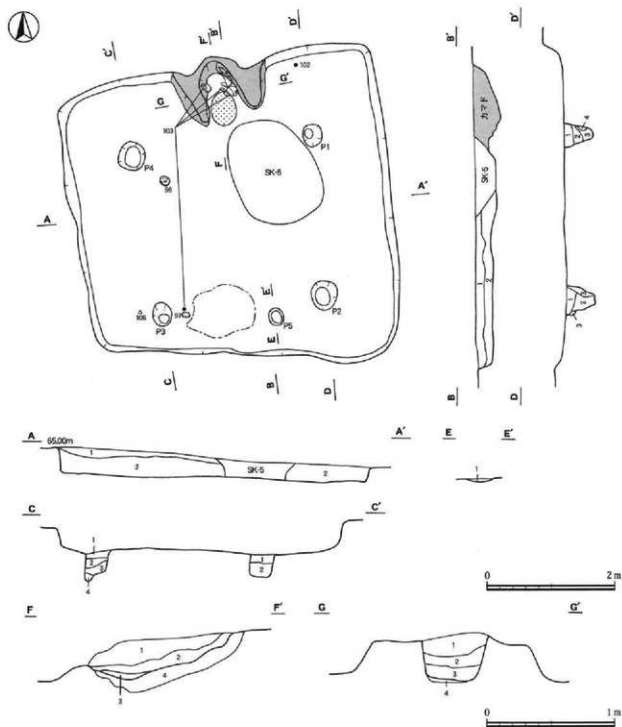
土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

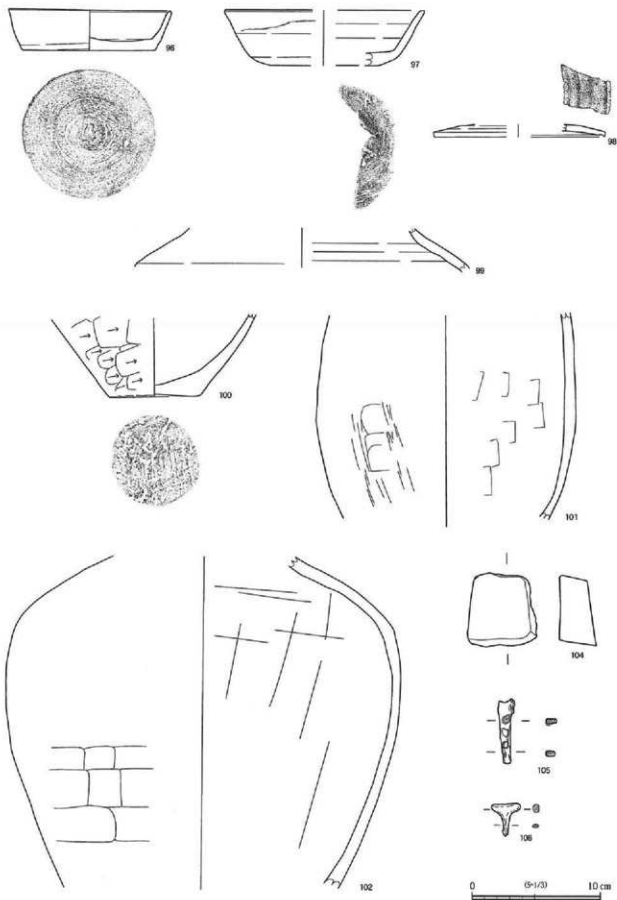
遺物：須恵器片75点（坏・高台付坏類51点、蓋12点、甕類12点）、土師器片253点（坏・高台付坏類15点、甕類238点）、土製品2点（支脚片2点）、石製品1点（砥石）。灰化した遺物は竈内と住居全体から確認されたものであるが、主に覆土最下層から出土しており、本跡に伴う遺物は少ない。また103の土師器瓶は竈内とP3近くから出土した破片が接合したものである。なお、104の砥石と105の鉄製品はいずれも覆土上層から確認されたもので、埋土中に混入したものである。



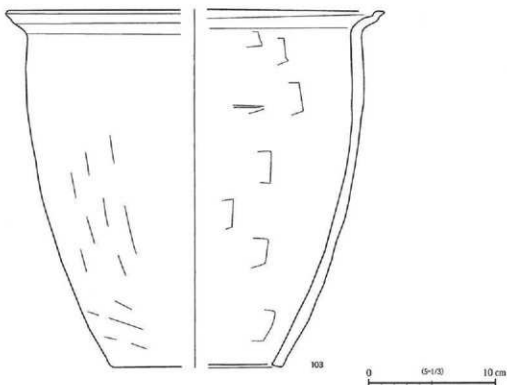
所見：本跡に伴う遺物は少なく、時期は明確ではないが、覆土下層や竈内から出土した遺物には8世紀前葉に比定されるものが多い。なお、床上に主柱をもつ建物構造であることため、8世紀代に造られた住居と推測される。



第27図 第11号住居跡



第28-1圖 第11号住居跡出土遺物①



第28-2図 第11号住居跡出土遺物②

第11号住居跡 (表11)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	甕	環	12.8	3.4	10.3	白色、長石、石英、小礫	5G6/1緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部弱転ヘラケズリ	No.4	80% FL46
97	甕	環	[15.8]	4.4	[8.4]	白色、長石、石英	5B6G/1青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部周縁磨滅	No.3 1区覆土	30% FL46
98	甕	蓋	[13.4]	(1.0)		白色、長石、石英	10GY5/1緑灰色	体部内外面ロクロナデ	1区1層	3% FL46
99	甕	蓋		(3.6)		白色	10B6G/1青灰色	体部内外面ロクロナデ	3区1層	2% FL46
100	土師器	甕		(6.4)	7.0	赤褐色、小礫	5YR4/1緑灰色	胴部外面手持ちヘラケズリ、内面ヘラナデ/底部ヘラナデ	1区覆土	5% FL46
101	土師器	甕		(16.3)		雲母、赤褐色、小礫、針状産物	5YR4/1緑灰色	胴部内外面上半部ナデ、外面下半部ヘラケズリ後ナデ・内面下半部ヘラナデ	1区覆土	5%
102	土師器	甕		(28.4)		雲母、黒色、白色、針状産物	*5YR6/4にぶい橙色	胴部外面ケズリ後ナデ、内面ヘラナデ/胴部外面ナデ/底部ヨコナデ	No.1 1区覆土 No.7 検出面 赤マド覆土	30% FL46
103	土師器	甕	[29.5]	28.7	[13.4]	白色、小礫	7.5YR6/4にぶい橙色	胴部外面上半部ナデ・下半部ケズリ後ナデ、内面ヘラナデ/胴部、口縁部内外面ヨコナデ	No.3 No.5 No.6	50%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
104	砥石	(5.0)	5.5	2.8	148	硬質砂岩	1面のみ使用	4区1層	

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
105	不明品	15.2	1.3	0.4	2.8	鉄	断面扁平な長方形	1K1層	PL47

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
106	不明品	2.5	2.4	0.6	6.8	銅	T字型を呈する	No.10	PL47

### 第12号住居跡 (第29・30図、第12表、PL11・12・47)

位置：D調査区C2，C3グリッド、標高63.4m地点にある。

重複関係：東部を第59号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：住居跡東部が第59号住居跡に掘り込まれているため明確ではないが、遺存部の形態から長軸〔2.6〕m、短軸〔2.20〕の方形または長方形と推定される。

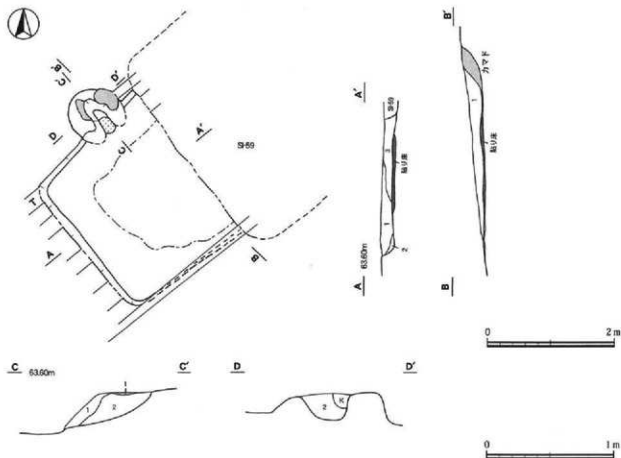
主軸方向：N-42°-W

残存壁高：確認面から最大高20cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。



第29図 第12号住居跡

竈：北壁にあるものと推測され、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは〔84〕cmである。耕作用トレンチャーにより大半が壊されている。袖部は構築材である砂質粘土ブロックが散在しており範囲は明確ではないが、最大幅は約〔80〕cmである。煙道部は壁外へ〔52〕cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、甍沼バミスブロック少量、締まりあり
2. 暗赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり

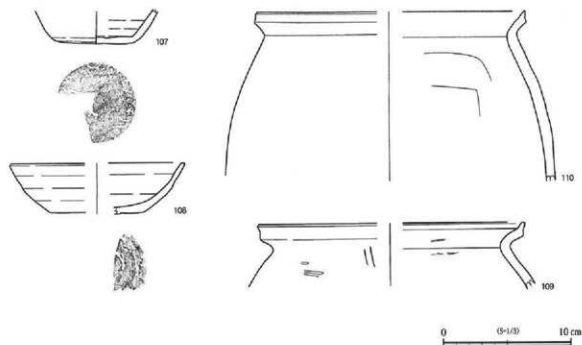
遺構埋没状態：覆土にロームブロックや焼土粒子や炭化粒子を含む人為的な埋没状況が見られる。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3. 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い

遺物：須恵器片42点（坏・高台付坏類35点、甍類7点）、土師器片80点（坏・高台付坏類12点、甍類68点）遺物はすべて竈内または覆土中から出土したもので、床面直上から確認されたものはなかった。またいずれの遺物も細片であるため、埋土中に混入したものと考えられる。

所見：時期は住居跡に伴う遺物がなく、また遺物年代も様々であり判然としませんが、覆土中の遺物の多くが8世紀中葉から後葉に比定されるものであることや、住居内に主柱穴をもたない造りであることから、8世紀後葉あるいは9世紀前葉と推測される。



第30図 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡（表12）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	須恵器	坏	〔92〕	〔2.9〕	6.2	黒色、白色、長石、石英	5B06/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部同軸ヘラ切り後一部持ちヘタケズリ/置台の圧痕	3区1層	30% PL47
108	土師器	坏	〔13.6〕	4.0	〔7.4〕	黄母、白色	5YR6/3褐色	体部内外面ロクロナデ/底部同軸ヘラ切り	甍類	20% PL47
109	土師器	甍	〔21.2〕	〔5.0〕		黄母、白色、長石、石英	2.5Y R5/6 明赤褐色	胴部外面ナデ、内面ヨコナデ/頸部、口縁部内外面ヨコナデ	1区覆土	5%
110	土師器	甍	〔20.8〕	〔13.3〕		黄母、長石、石英、小礫	5YR6/4 にょい褐色	胴部外面ナデ、頸部、内面ヘラナデ/頸部、口縁部内外面ヨコナデ	1区覆土 4区覆土	5% PL47

第13号住居跡（第31・32図、第13表、PL12・47）

位置：D調査区A2、A3グリッド、標高65.3m地点にある。

重複関係：南東部を第10号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：住居跡東部が削平されているが、硬化した床面の範囲から、長軸〔3.30〕m、短軸〔2.92〕mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-5°-W

残存壁高：確認面から最大高14cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

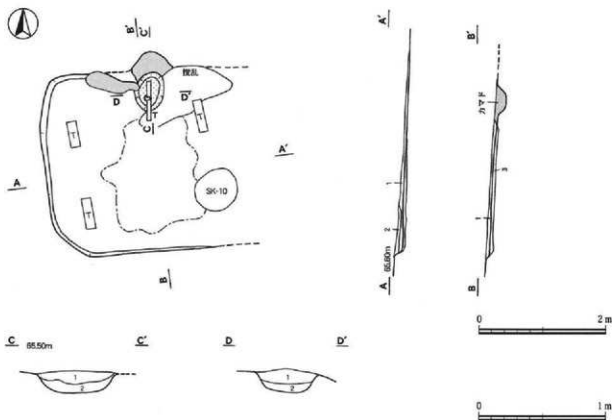
ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁にあったと推測されるが、大半が削平され、後世の攪乱もあり、火床部だけの調査となった。火床部は床面から5～10cmほど掘りくはめて火床面を造り出しており、被熱により赤く硬化している。煙道部は削平されており、壁外への削り出しや火床部からの立ち上がり等の情報は得られなかった。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、粘土粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗赤褐色 粘土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、詰まり弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており埋没状況は不明であるが、住居掘り方層は遺存しており、ロームブロックを主体とした第3層が相当する。



第31図 第13号住居跡

## 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、塵沼バミス微量、締まり弱い
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片5点（坏・高台付坏類1点、蓋1点、甕類3点）、土師器片20点（坏・高台付坏類3点、甕類17点）。遺物数は少なく、いずれも細片である。竈内からは土師器の甕片が1点確認されたのみで、他は住居跡の覆土内からのものである。

所見：床面がほぼ露出した状態で確認されたため、遺物から時期を特定するには至らなかった。しかし床上に4本の支柱を持たない小振りな住居跡であることや、竈が北壁に埋め込まれたように附設されているなど、住居形態は9世紀代の特徴をもつ。



第32図 第13号住居跡出土遺物

第13号住居跡（表13）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	土師器	坏	[160]	(38)		黒色、石英	SYR6/4 にふい寄せ	体部外面ヨコナデ・下縁部回転ヘラズリ、内面黒色処理/二次焼成	1EK1層	5% PL47
112	須恵器	甕		(20)		黒色、白色、 長石、石英、 黒色のセルロ イド状の吹き 出し	SDG6/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラズリ	1EK1層	5% PL47

第14号住居跡（第33・34図、第14表、PL12・47）

位置：D調査区A2、A3グリッド、標高66.2m地点にある。

重複関係：東部を第9号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：本跡の大半は削平されておりその規模は明確に把握できなかったが、当集落跡の住居跡形態からみて、北壁に竈が付設された長軸 [4.04] m、短軸3.96mの方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-0° - W

残存壁高：覆土の大半が削平されているため詳細は不明である。

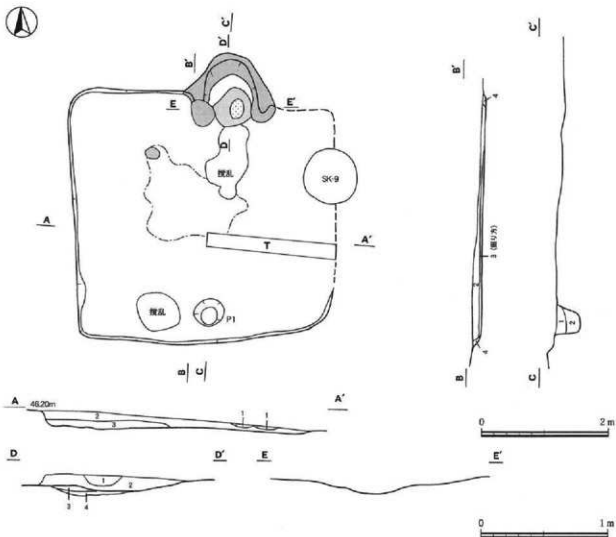
壁溝：検出されていない。

床：遺存部はほぼ平坦であり、中央部がやや硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：48×42cmで深さ38mである。

## P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、塵沼バミスブロック少量、やや締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、塵沼バミスブロック微量、締まり弱い



第33図 第14号住居跡

竈：北壁中央部やや東に附設されていたと推測されるが、大半が削平されておりまた後世の攪乱も見られるため、情報はあまり得られなかった。焚口部から煙道部までは [104] cmで、最大幅は約 [130] cmである。なお、西袖部は攪乱で壊されていたが、東袖部の基礎は地山を造り出していることが確認された。また火床部は床面から5cmほど掘りくぼめて火床面としており、わずかに赤く硬化している。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1. 暗褐色 焼土ブロック微量、礫まりあり
2. 暗灰色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量
3. 暗赤褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、炭化粒子少量、礫まり弱い
4. 暗褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量

遺構埋没状態：覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており人為的な埋没が見られるが、本跡の大半は削平されており、明確な埋没状況は不明である。

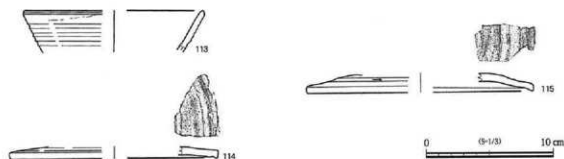
土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量、厩沼バミス少量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、厩沼バミス微量、礫まり弱い
3. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



遺物：須恵器片11点（坏・高台付坏類6点、蓋3点、甕類2点）、土師器片26点（坏・高台付坏類2点、甕類24点）。遺物数は少なく、いずれも細片である。大半が住居跡の覆土内からのものである。

所見：床面がほぼ露出した状態で確認されたため、遺物から時期を特定するには至らなかった。しかし床上に4本の支柱を持たない小振りな住居跡であることや、竈が北壁に埋め込まれたように附設されているなど、住居形態は9世紀代の特徴をもっている。また本跡周辺には他に2軒の住居跡が確認されたが、隣接する第13号住居跡と主軸方向がほぼ同じであることから、双方の住居跡が同時期に営まれた可能性がある。



第34図 第13号住居跡出土遺物

第14号住居跡（表14）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
113	須恵器	坏	[14.0]	(3.3)		黒色、白色、針状産物	10BGS/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ	2区1層	3% PL47
114	須恵器	蓋	[16.2]	(0.9)		白色、針状産物	10Y5/2 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部面取ヘラケズリ	3区1層	5% PL47
115	須恵器	蓋	[17.6]	(1.4)		黒色、白色、針状産物、黒色の七カクイド状の吹き出し	10G6/1 緑灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部面取ヘラケズリ	4区1層	3% PL48

第15号住居跡（第35・36図、第15表、PL12・48）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.2m地点にある。

規模・平面形：本跡の大半は削平されておりその規模は把握できなかったが、竈や出入口ピットの位置から長軸 [5.14] m、短軸 [5.10] mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-20°-W

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部の東寄り部分に硬化面が認められた。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：60×45cm、深さ11cmである。

P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミス微量、絡まり弱い

竈：北壁部にあり、焚口部から煙道部までは142cmである。袖部の最大幅は約130cmで、袖部内壁と火床面は被熱により赤く硬化していることが確認された。煙道部は壁外へ34cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

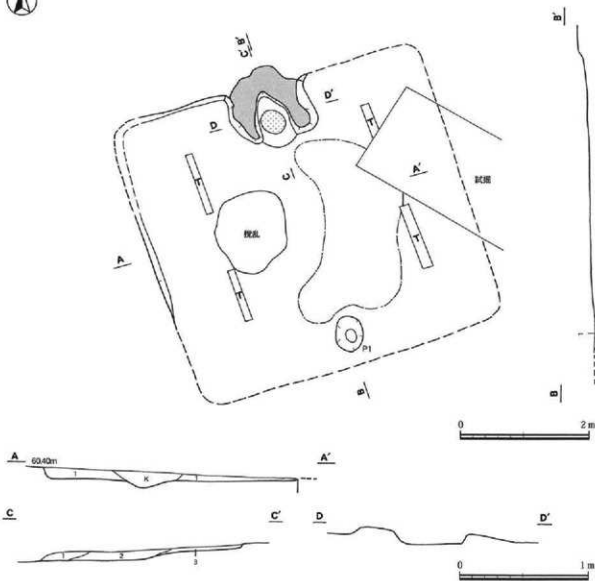
土層解説

1. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い
2. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
3. 暗赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、鹿沼バミス少量



第35図 第15号住居跡

遺物：須恵器片6点（坏・高台付坏類5点、甕頸1点）、土師器片99点（坏・高台付坏類21点、甕頸78点）。遺物数は少なくいずれも細片であるが、共器具は土師器非ロクロ坏が多く、須恵器製品は客体的である。

所見：床面がほぼ露出した状態で確認されたため遺物数が少なく、時期を特定するのは困難であるが、非ロクロ坏の形状などから、時期は7世紀後半と推測される。



第36図 第15号住居跡出土遺物

第15号住居跡（表15）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
116	土師器	坏	123	40		黒色、白色	25YR6/6褐色	底部外面ヘラケズリ、内面環文状のヘラミガキ/口縁部内外面ヨコナデ	6区1層	90% PL48
117	土師器	坏	[125]	[34]		雲母、黒色	7.5YR6/4 にぶい褐色	底部外面ヘラケズリ、内面ナデ/口縁部内外面ヨコナデ、外側に比喩縁紋2条	オマド覆土	25% PL48
118	土師器	坏	[144]	(44)		白色	5Y R3/1 黒褐色	底部外側ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ/口縁部内外面ヨコナデ/内外面とも黒色加脂	6区1層 1区1層	25% PL48

#### 第16号住居跡（第37・38図、第16表、PL13・48）

位置：D調査区A3グリッド、標高68.2m地点にある。

規模・平面形：長軸3.24m、短軸3.02mで方形を呈する。

主軸方向：N-33° -W

残存壁高：確認面から最大高54cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦である。硬化面は認められない。

ピット：床上からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり砂質粘土で構築されているが、煙道部と両袖部が後世の攪乱により壊されている。また天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2～4層が崩落土と考えられる。なお、袖部は攪乱を受けており、竈構築材と考えられる砂質粘土が北壁に貼り付いている様子が確認されただけであった。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としているが、被熱して硬化している部分はわずかであった。火床部から煙道部へは緩やかに立ち上がっていたものと推測される。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼パミス微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
3. 灰褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量、砂質粘土粒子少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物微量
5. 褐灰色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物微量、鹿沼パミスブロック微量

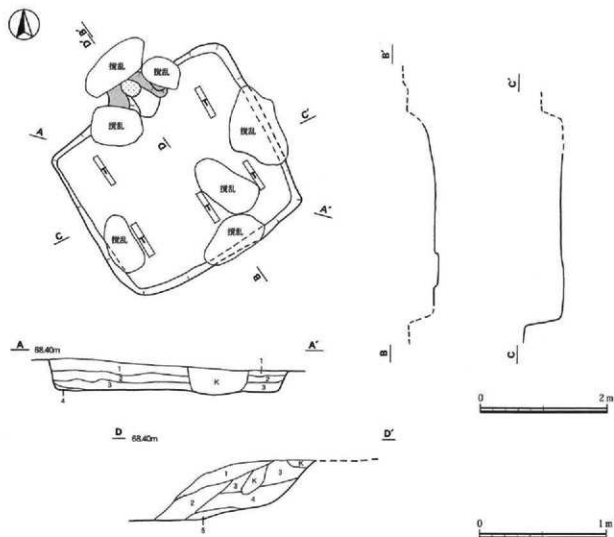
**遺構埋没状態：**覆土下層（第4層）はロームブロック主体の人為的な堆積状況を示しているが、覆土上層（第1～2層）は粒子が細かく均一的な堆積状況を示しており、山頂側からの自然堆積である。

**土層解説**

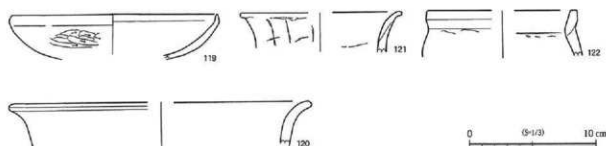
1. 暗褐色 ローム粒子微量（粒子はすべて微粒子）
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック少量

**遺物：**須恵器片35点（坏・高台付坏類22点、蓋1点、盤1点、甕類11点）、土師器片80点（坏・高台付坏類31点、甕類49点）。遺物は住居北西部から確認されたものが多く、大半が覆土上層から出土したもので、図化した遺物が相当する。また共膳具には土師器非ロクロ坏が多く見られたが、須恵器製品は少なく、客体的な時期である。他にも後世の耕作作業によって混入したと推測される須恵器製品が多数見られる。

**所見：**本跡は後世の擾乱により竈を中心に各所が壊され調査が難航した。竈を壊した擾乱は芋坑であろうか。時期は、遺物数が少なくいずれも細片であるため判然としませんが、7世紀後葉から8世紀前葉にかけての特徴を示す遺物がいくつか見られた。



第37図 第16号住居跡



第38図 第16号住居跡出土遺物

第16号住居跡 (表16)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
119	土師器	坏	[15.8]	(3.1)		紫母、白色、長石、石英	75Y6-6灰色	表部外面手持ちヘラケズリ、内面ヨコナデ/口縁部内外面ヨコナデ	4区1層	20% PL48
120	土師器	壺	[23.4]	(3.6)		白色	5YR5/3 にぶい赤褐色	胴部、口縁部内外面ヨコナデ	4区1層	2% PL48
121	土師器	壺	[12.8]	(2.9)		紫母、黒色、白色、長石、石英	5YK7/2 明褐色	輪轆み取/頸部、口縁部内外面ヨコナデ	4区1層	2% PL48
122	土師器	壺	[12.1]	(3.8)		紫母、白色	5YR5/4 にぶい赤褐色	胴部外面ヘラナデ、内面ナデ/頸部、口縁部内外面ヨコナデ	4区2層	2% PL48

## 第17号住居跡 (第39・40図、第17表、PL13・14・48・49)

位置：D調査区B3グリッド、標高62.9m地点にある。

規模・平面形：長軸4.74m、短軸4.72mの方形を呈する。

主軸方向：N-33° - W

残存壁高：確認面から最大高70cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。竈前面と住居中心部がよく硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。また、P1～P4で柱抜き取りの痕跡と柱当たり面が確認された。P1：40×30cm、深さ56cm、P2：38×40cm、深さ30cm、30m×30m、深さ50m、P3：55×39cm、深さ30cm、P4：52×49cm、深さ60cm、P5：28×23cm、深さ22cmである。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼パミスブロック少量、やや締まりあり

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼パミス微量、締まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)
5. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

## P3土層解説

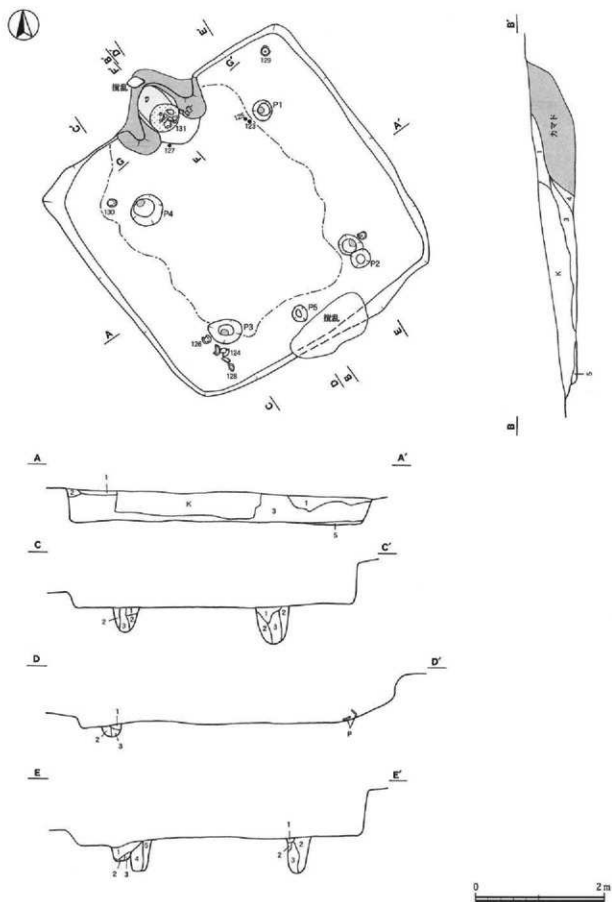
1. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)

## P4土層解説

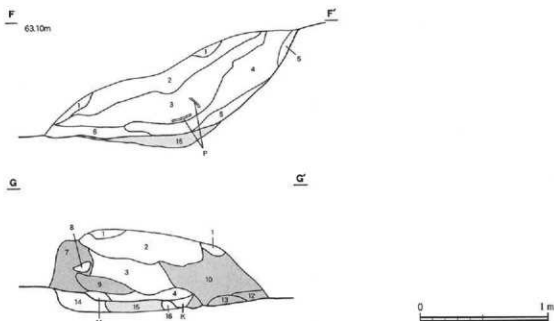
1. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)

## P5土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量



第 39 - 1 图 第 17 号住居跡①



第39-2図 第17号住居跡②

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築され、焚口部から煙道部までは138cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第2・3層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部の最大幅は約150cmである。なお、内壁は被熱により赤変している。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ58cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

- |          |                                       |
|----------|---------------------------------------|
| 1. 褐色    | ロームブロック少量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量、締まりあり    |
| 2. 灰褐色   | 砂質粘土ブロック多量、炭化粒子少量、焼土ブロック少量            |
| 3. 灰黄褐色  | ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量           |
| 4. 暗灰色   | ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量           |
| 5. 灰黄褐色  | ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量                    |
| 6. 灰色    | 砂質粘土ブロック多量                            |
| 7. 灰黄褐色  | ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量             |
| 8. 暗褐色   | ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子中量 |
| 9. 灰黄褐色  | 砂質粘土ブロック少量、砂質粘土粒子中量                   |
| 10. 灰褐色  | ロームブロック微量、砂質粘土ブロック中量、砂質粘土粒子中量         |
| 11. 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック焼土、焼土ブロック少量                   |
| 12. 灰黄褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量、炭化物少量             |
| 13. 灰褐色  | ロームブロック微量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量     |
| 14. 褐色   | ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量               |
| 15. 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性弱い     |
| 16. 灰褐色  | ロームブロック少量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量   |

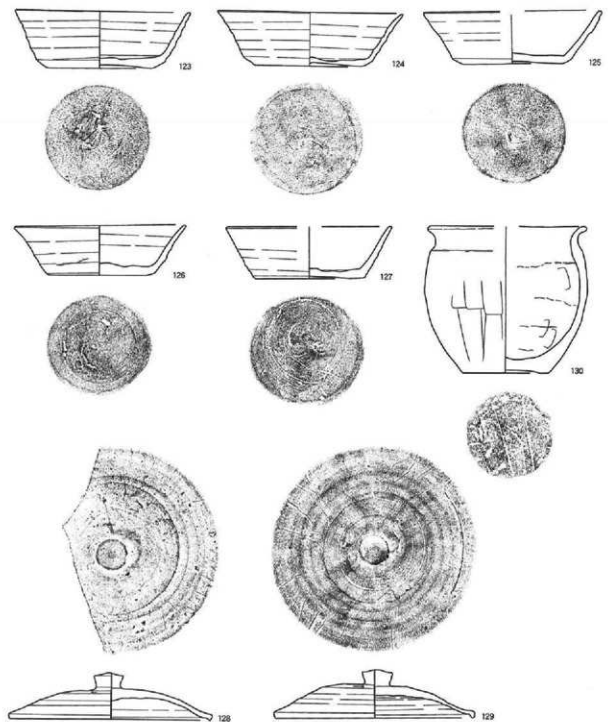
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第4層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 1. 暗褐色 | ローム粒子微量、炭化物微量                       |
| 2. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子少量                   |
| 3. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼パミスブロック少量 |
| 4. 褐色  | ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量                  |
| 5. 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼パミス微量、締まり弱い         |

遺物：須恵器片194点（坏・高台付坏類96点、蓋8点、盤2点、甕類88点）、土師器片268点（坏・高台付坏類5点、甕類263点）。竈内及び竈周辺と住居南西部を主体に散見される。共曇具は須恵器製品で占め、床面から

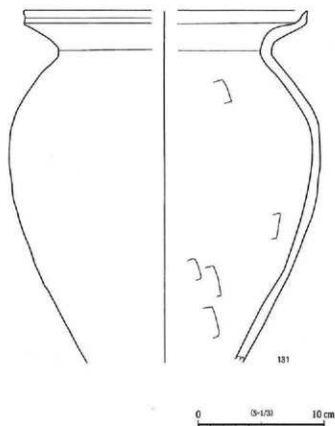
確認された坏類 (123・125) もすべて須恵器製品である。131の土師器甕は竈内から横位で出土したものであるが、破片を接合しても残存率は50%にも達していないため、住居廃絶後に投棄されたものと推測される。所見：本跡出土の須恵器坏の中には、底部調整法として底部へら切り後にへら跡を目立たなくするために軽く押さえているものが多い。底部切り離した後無調整となる段階直前の時期と考えられる。また、共膳具の大半が須恵器製品であることも加味し、時期は8世紀後葉と推測する。



0 9-1/3 10 cm

第 40 - 1 図 第 17 号住居跡出土遺物①





第40-2図 第17号住居跡出土遺物②

第17号住居跡 (表17)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	須恵器	坏	14.0	4.7	8.2	黒色、白色、 長石、石英、 小礫、黒色の セルロイド状の 吹き出し	5BG4/1 黄灰色	体部内外面ロクロナデ、外面下端ケズリ 後ナデ/底部回転ヘラ切り	No.3	95% PL48
124	須恵器	坏	[14.6]	4.4	8.6	黒色、白色、 小礫	5BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ、外面下端ヘラケ ズリ/底部回転ヘラ切り後多方向ヘラケ ズリ、頸部ヘラケズリ肩面/口縁部及 び底部周縁磨滅	No.7	90% PL48
125	須恵器	坏	[14.1]	4.2	7.8	白色、長石、 石英	10GY5/1 緑灰色	体部内外面ロクロナデ、外面下端回転ヘ ラケズリ、内面下端地状工具による沈 凹面/底部回転ヘラケズリ	No.3 1E2層 2E2層	50% PL49
126	須恵器	坏	13.6	4.1	7.7	黒色、白色、 小礫	5BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切 り後回転ヘラケズリ、ヘラ記号/口縁部 及び底部周縁磨滅	No.9	90% PL49
127	須恵器	坏	[13.0]	4.2	9.0	黒色、白色、 小礫、針状鉱 物	7SGY5/1 黄灰色	体部内外面ロクロナデ、足込み湯呑み状 の棧/底部回転ヘラ切り後回転ヘラケ ズリ、ヘラ記号/口縁部及び底部周縁磨滅	No.11	70% PL49
128	須恵器	甕	15.9	3.7		黒色、白色、 小礫、黒色の セルロイド状 の吹き出し	5GY5/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラ ケズリ/つまみ部修付後ロクロナデ	No.5	100% PL49
129	須恵器	甕	15.7	3.8		長石、石英、 針状鉱物	5BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラ記号/ 天井部回転ヘラケズリ/つまみ部修付後 ロクロナデ	No.1	100% PL49
130	須恵器	甕	[12.5]	11.8	6.6	帯赤、黒色、 白色 にふい赤褐色	5YR5/4 白色	胴部外面上半部縦位ヘラケズリ、下半部 ナデ、内面ヘラナデ/頸部、口縁部内外 面ヨコナデ、頸部外面ヘラ先による沈 凹面/底部木重痕	No.10	70% PL49
131	土師器	甕	[22.5]	(28.3)		帯赤、白色、 長石、石英、 小礫	5YR5/3 にふい灰色	胴部外面ナデ、内面ヘラナデ/頸部、口 縁部ヨコナデ	No.12	40% PL49

## 第18号住居跡（第41・42図、第18表、PL14・15・49～51）

位置：D調査区C3グリッド、標高62.2m地点にある。

規模・平面形：住居跡南部が農作用トレンチャーにより壊されているため不明な点が多いが、長軸3.42m、短軸〔2.76〕mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-42°-W

残存壁高：確認面から最大高58cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：遺構遺存部ではほぼ全周し、幅20～32cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦であるが、硬化面は認められない。

ピット：床面からは、支柱穴、出入りピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは89cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第4層が崩落上と考えられる。竈部は比較的良好に遺存しており、竈部内面は被熱により赤変している。竈部の最大幅は約118cmである。なお、火床部に遺存している石塊は被熱を受けており、本来支脚として据えられていたものと考えられ、火床面もまた被熱して赤変している。煙道部は葦がへ62cmほど削り出して潰られ、火床部から煙道部へは一旦段をなして立ち上がる。

### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒少量、炭化物微量
2. 褐色 ロームブロック多量、砂質粘土粒中平、締まりあり
3. 暗赤褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4. 次褐色 ロームブロック微量、砂質粘土ブロック多量、炭化物微量、炭沼バミズブロック少量
5. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
6. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭沼バミズ微量
7. 暗赤褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック中量、炭化物少量
8. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

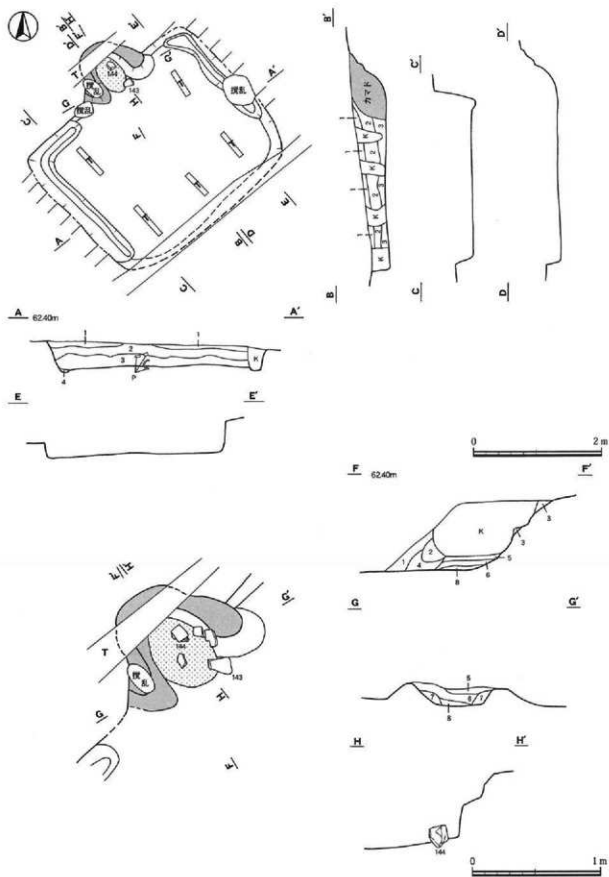
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

### 土層解説

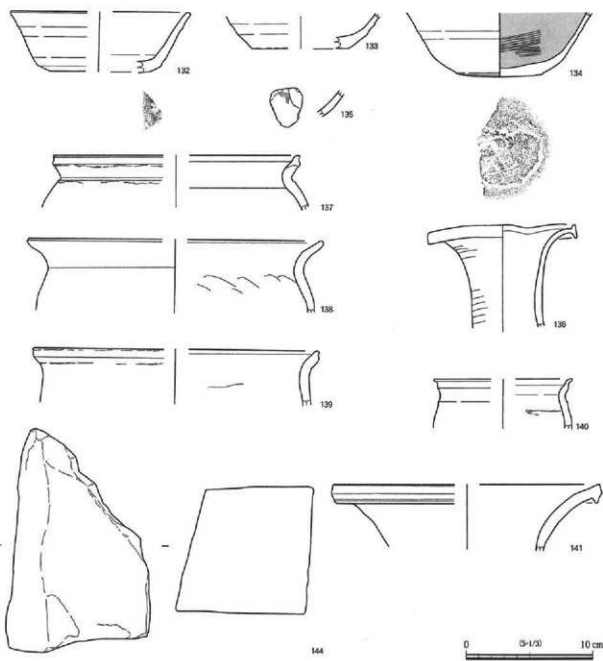
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物少量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、締まりあり

遺物：須恵器片70点（坏・高台付坏類41点、蓋点、高盤1点、壺類28点）、土師器片235点（坏・高台付坏類55点、甕類180点）。覆土中から確認された遺物が大半を占め、また破片が多く、残存率50%を超える遺物は竈内から出土した143の土師器破片と144の石塊のみであった。135の土師器坏の体部外面には墨書きの痕跡が見えた。また竈火床部から出土した144は被熱の痕跡があり、支脚として低用されていたと推測される。

所見：農作用トレンチャーにより大半の遺物は粉碎され、残存率50%を超える遺物は1点のみである。そのため遺物の出土位置や形状等は不明な点が多いが、須恵器坏の破片や常総型の土師器の形状などから、時期は8世紀後半と推測される。



第41图 第18号住居跡



第42図 第18号住居跡出土遺物

第18号住居跡 (表18)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	須恵器	坏	[14.4]	4.8	[7.9]	黒色、白色、 長石、石英、 針状鉱物	SBCS/1 青灰色	内外面口クロナダ/内面はいぬいに襷 を削す/口唇部・底部下縁磨減	1E2層	20% PL49
133	須恵器	坏		(2.5)	[7.6]	黒色、白色、 長石、石英	5GY7/1明 りーブ灰色	内外面口クロナダ/内面はいぬいに襷 を削す/底部磨減へラ切り	No.8	20% PL50
134	土師器	坏		(5.2)	6.8	雲母、白色、 長石、石英、 小礫	5YR4/1 緑灰色	体部内面へラミガキ、黒色処理/外面口 クロナダ/底部磨減へラ切り	2区岸南2	40%
135	土師器	坏		(2.3)		雲母、白色、 長石、石英、 小礫	5YR6/3 におい橙色	体部外縁磨付	3区2層	PL50
136	須恵器	長頸瓶	11.8	(8.3)		長石、石英、 針状鉱物	10GS/1 緑灰色	内外面口クロ目が顕著(右回転)/口縁 部ゆがみ	2区東面1	15% PL50

番号	種別	図様	口径	深さ	産地	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	土師器	葉	(19.2)	(4.1)		黒母、黒色、 白色	5YR5/3 にぶい赤褐色	1) 縁部・底部内外面ヨコナデ/口縁部外 面・底部外面下縁にヘラ丸を付てヨコ ナデ/断片的な外側ナデ	3a(1層)	5% PL50
138	土師器	葉	(21.8)	(5.7)		黒母、白色、 灰石、石灰	5YR5/3 にぶい赤褐色	口縁部・底部内外面ヨコナデ/断片的な ヘラナデ/外面ナデ	2c	5% PL50
139	土師器	葉	(22.0)	(4.9)		黒色、白色、 小塵	7.5YR7/2 明褐色	1) 縁部・底部内外面ヨコナデ/断片的な ヘラナデ・外面ナデ	1a(1層)	5% PL50
140	土師器	葉	(11.0)	(4.0)		黒母、白色、 赤褐色、灰石、 石灰	5YR6/4 にぶい褐色	1) 縁部・底部内外面ヨコナデ/断片的な 外面ナデ/断片的な縁部内面	遺土	5% PL50
141	須恵器	葉	(21.0)	(4.8)		黒母、黒色、 白色、針状炭 粉	2.5YR6/6 暗褐色	内外周ヨコナデ/口縁外面内面ヘラナ デ	1b(2層)	2% PL51
142	土師器	葉	(20.8)	(21.0)		黒母、長石、 石灰	5YR6/4 にぶい褐色	1) 縁部・底部内外面ヨコナデ/断片的な ヘラナデ/外面上ナデ・器底裏/ト下 ヘラズリ	SI-18 SI-19 No.3 遺土	50% PL50
143	土師器	葉	(20.2)	(26.9)		黒母、長石、 石灰	5YR4/3 にぶい赤褐色	1) 縁部・底部内外面ヨコナデ/外口にヘ ラ丸を付て器底裏を削り/断片的な ヘラナデ/外面ナデ	SI-18 SI-19 カメラ遺土2 遺土	60% PL51

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
144	文罫	17.7	11.1	10.1	2800	花崗岩	自然石を支脚として利用	カメラNo.1 61-83	PL51

## 第19号住居跡(第43・44図、第19表、PI.15・51)

位置：D調査区C3グリッド、標高62.6m地点にある。

規模・平面形：長軸3.50m、短軸〔3.44〕mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-25° - W

残存壁高：確認面から最大高42cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：西半分のみ幅4～16cmで通る。断面はじ字形である。

床：ほぼ平坦で、窓前部と住居中心部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：30×23cm、深さ16cmである。

## P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粘土少量、針状炭粉少量、雑まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粘土少量、雑まりあり

窓：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは108cmであるが、耕作用トレンチにより大半が壊され、火床部のみ残る。壁土層断面区中、砂質粘土ブロックを含む第2層が天井崩落上と考えられる。雑部は壊され明確ではないが、北壁に貼り付けられた砂質粘土の範囲から最大幅は約110cmと推測される。火床部は床面から6cmほど掘りくはめて火床面としており、土製の支脚が正位で遺存している。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子少量、炭化粘土少量、針状炭粉少量、雑まりあり
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量
3. 暗褐色 焼土粒子少量、炭化粘土少量、炭化物少量、粘性あり、雑まりあり
4. 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粘土少量、炭化物少量、炭化粘土少量

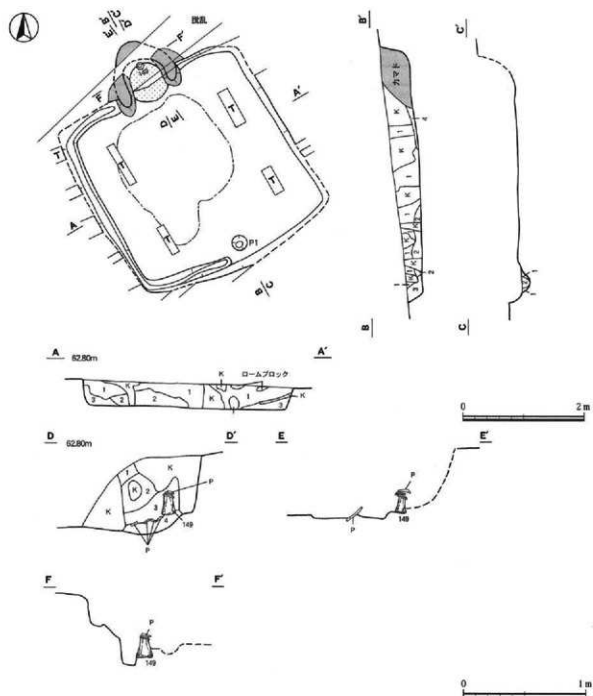
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

## 土層解説

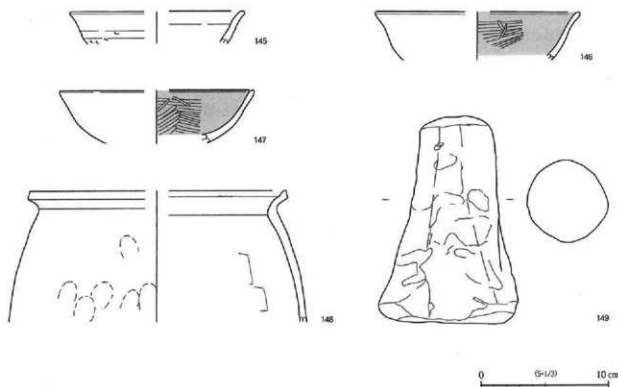
1. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
2. 褐色 ロームブロック少量、炭化粘土少量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粘土少量
4. 褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、炭化物少量、炭化粘土少量、雑まりあり

遺物：須恵器片81点（坏・高台付坏類56点、蓋4点、高盤1点、甕類20点）、土師器片231点（坏・高台付坏類5点、甕類225点）。共膳具は須恵器製品で占め、甕はいわゆる常総甕が主流を占める。大半の遺物は竈内と覆土中から出土したものである。竈内からは149の土製支脚が出土しているが、煮炊き具の熱効率の調整を図るためか、支脚上に土師器甕5片が積み重ねられていた。なお、床面から確認された遺物はなかった。

所見：共膳具は須恵器製品が主体的で甕はいわゆる常総甕が主流を占める時期の住居である。時期は、住居内に主柱を持たないことや遺物の形状などから9世紀後葉と考えられる。



第43図 第19号住居跡



第44図 第19号住居跡出土遺物

第19号住居跡(表19)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
145	灰皿	平	[13.6]	(2.5)		雲母、白色、赤褐色、針状鉱物	5YR6/4 にぶい褐色	内外面ロクロナデ	1区1層	5% PLS1
146	土師器	平	[16.2]	(3.9)		雲母、白色、赤褐色	2.5YR6/6褐色	内面ヘラミガキ、黒色施釉/外面ロクロナデ	1区1層	5% PLS1
147	土師器	平	[15.4]	(4.2)		黒色、白色、小礫	5YR6/3 にぶい褐色	内面ヘラミガキ、黒色施釉/外面ロクロナデ	3区1層	5% PLS1
148	土師器	壺	[20.1]	(10.3)		雲母、白色、石灰	5YR4/1 褐色	口縁部・胴部内外面ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ・滑漉	掘土	10% PLS1

番号	器種	最小径 (cm)	最大径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	胎土	特徴	出土位置	備考
149	支脚	5.4	10.8	16.3	10600	雲母、黒色砂子、小礫	5YR4/1褐色/外面に滑漉	No.11	PLS1

## 第20号住居跡(第45・46図、第20表、PL16・52)

位置: D調査区B3グリッド、標高64.3m地点にある。

規模・平面形: 長軸3.10m、短軸2.94mで方形を呈する。

主軸方向: N-21°-W

残存壁高: 確認面から最大高26cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

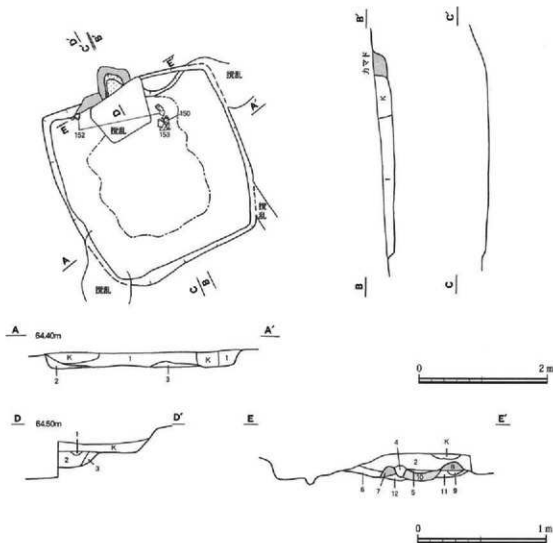
ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは(45)cmである。後世の攪乱により袖部と火床部の南半分が壊されている。遺存している袖部の内壁と火床面は被熱により赤変している。

煙道部は壁外へ38cmほど削り出して造られている。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、埋没バミスブロック少量、締まりあり
3. 暗褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、埋没バミスブロック少量、締まりあり
4. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
6. 褐色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり
7. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
8. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
9. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化物微量



第45図 第20号住居跡



10. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量  
 11. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量  
 12. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化物微量

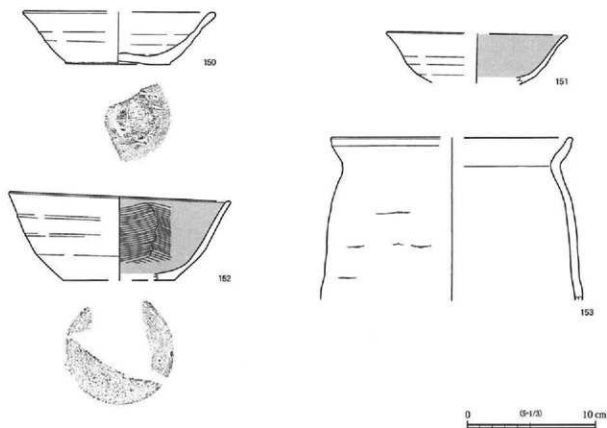
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

## 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物粒子微量  
 2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量  
 3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片42点（坏・高台付坏類24点、蓋7点、盤2点、甕頸9点）、土師器片161点（坏・高台付坏類20点、甕頸141点）。竈前面とその西側を主体に散見されるが、大半は覆土中から確認されたものである。152の土師器坏は、竈の前側と北壁際から出土した破片が接合したものである。

所見：時期は床上に主柱を持たない建物構造であることや、住居廃絶時に遺棄あるいは投棄された遺物の時期から判断して、9世紀後葉と考えられる。



第46図 第20号住居跡出土遺物

第20号住居跡（表20）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
150	須恵器	坏	〔15.2〕	4.2	〔8.1〕	薬母、白色、針状炭物	25YR6/6棕色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り/底部ヘラ記号（+）	No.1	25% PL52
151	土師器	坏	〔14.2〕	4.0		薬母、白色、石英、小礫	25YR6/3 に濃い棕色	内面ロクロナデ後ヘラミガキ・黒色処理/外面ロクロナデ	1E1層	15% PL52
152	土師器	坏	19.6	7.2	7.7	薬母、白色、小礫、針状炭物	5YR4/1 褐色	内面ヘラミガキ・黒色処理/外面ロクロナデ/体部下縁回転ヘララズリ（石）/底部回転ヘララズリ（石）	No.1 No.3	90% PL52
153	土師器	甕	〔19.2〕	〔13.0〕		白色、石英、小礫	25YR5/4 に濃い赤褐色	口縁部・頸部内外面ロクロナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ・磨頭板	No.1 1E1層	10% PL52

第21号住居跡 (第47・48図、第21表、PL.16・52)

位置：D調査区C 3グリッド、標高61.1m地点にある。

重複関係：東部を第11号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸〔5.80〕m、短軸〔4.96〕mである。住居跡覆土が削平され壁部が遺存していないため形状は不明であるが、床部の硬化面の範囲から方形または長方形と推定される。

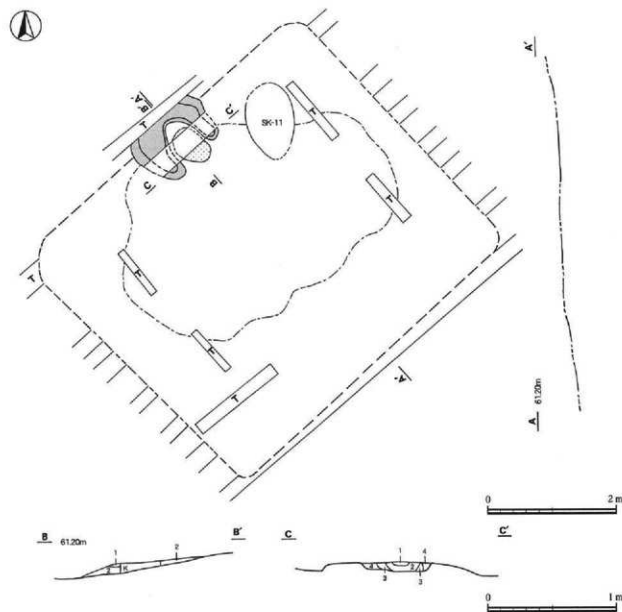
主軸方向：N-45° -W

残存壁高：遺存していない。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中央部に硬化している部分が認められる。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。



第47図 第21号住居跡

竈：北壁部にあるが、耕作用トレンチャーにより大半が壊されている。袖部は遺存部が少ないものの、竈構築材と考えられる砂質粘土が一部確認された。火床部と推測される部分には焼土粒子や焼土ブロックが散在している。なお、煙道部は攪乱が激しく、壁外への掘り込み等は不明である。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
2. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
3. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量
4. 暗赤褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック中量

遺構埋没状態：大半は削平されており、埋没状況は不明である。

遺物：須恵器片18点（坏・高台付坏類13点、甕類5点）、土師器片22点（坏・高台付坏類9点、甕類13点）。遺物はすべて細片で、竈内とその西側を主体に散見される。

所見：出土遺物が少なく、また耕作用トレンチャーによる混入もあり、遺物から時期を特定するには至らなかった。なお、当遺跡の住居跡の特徴として、山頂部に比較的近いA区北部やD区西部の住居跡は、主軸が山頂へ向いており、本跡もまた同様である。また、本跡のように床上に主柱を持たない住居は8世紀後半から認められることから、本跡の時期もまた当該期以降である可能性が示唆される。



第48図 第21号住居跡出土遺物

## 第21号住居跡（表21）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師器	坏	(8.6)	(2.6)		白色	25YR4/4 にぶい赤褐色	口縁部内外面ヨコナデ/内面ヘラミガキ/ 外面ケズリ後ナデ	2区1層	2% PL52
155	土師器	坏		(2.6)		雲母、黒色	5YR7/3 にぶい褐色	内面ヘラミガキ/外面ケズリ後ナデ	2区1層	2%

## 第22号住居跡（第49・50図、第22表、PL16・17・52）

位置：D調査区C3グリッド、標高63.5m地点にある。

規模・平面形：長軸3.78m、短軸3.72mで方形を呈する。

主軸方向：N-16°-W

残存壁高：確認面から最大高30cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈前面から南壁部にかけてよく硬化している。

ビット：床面からは主柱穴、出入口ビットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは133cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、内壁から奥壁にかけて被熱により赤変硬化している。袖部の最大幅は約30cmである。また火床

面は床面とはほぼ同レベルとなっており、火熱を受けて赤変していたが、はっきりとした硬化は認められなかった。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

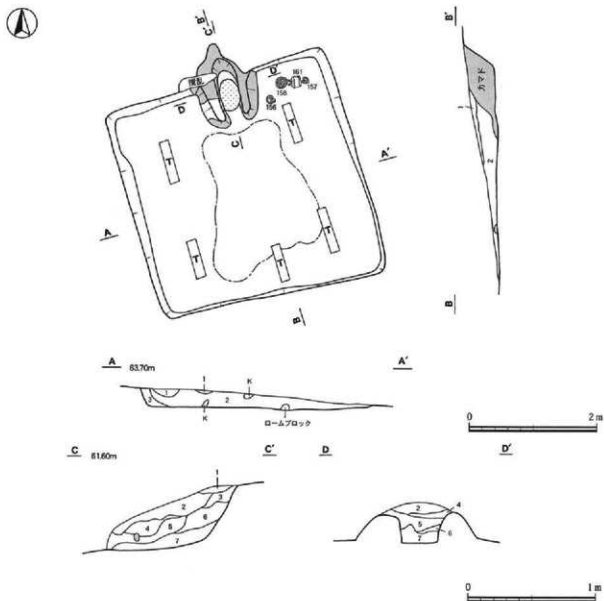
土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、鹿沼バミスブロック微量
4. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
6. 暗褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、締まりあり
7. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層のロームブロックは燻部崩落土と推測される。

土層解説

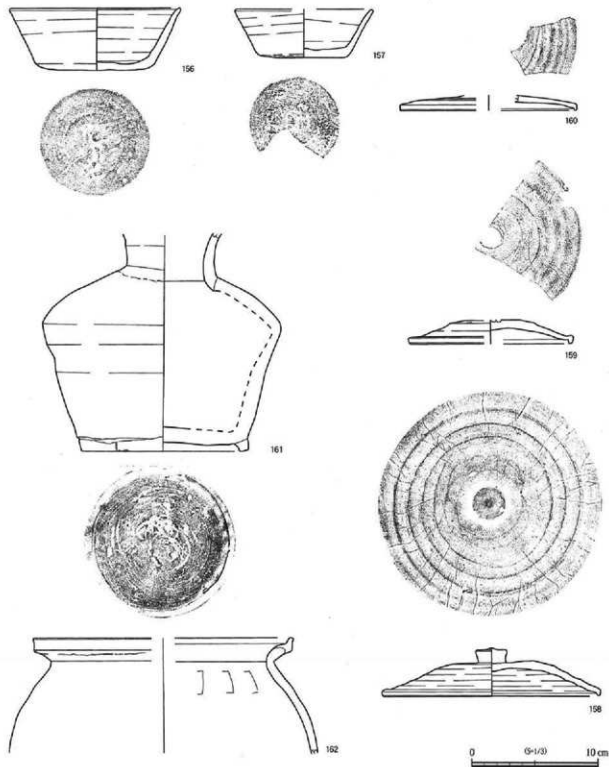
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量



第49図 第22号住居跡

遺物：須恵器片27点（坏・高台付坏類14点、蓋8点、甕類5点）、土師器片47点（坏・高台付坏類2点、甕類45点）。本跡に伴う遺物は少ないもの、竈東側から集中して確認されており、156・158須恵器蓋、161須恵器長頸瓶が相当する。特に156と158はほぼ完形で出土している。その他の遺物は覆土中から確認された遺物が大半である。

所見：床上に主柱を持たない住居である。時期は住居跡に遺棄された遺物から8世紀後葉と考えられる。



第50図 第22号住居跡出土遺物

第22号住居跡(表22)

番号	類別	径	口径	径高	底径	胎土	色	手泥の成分ほか	胎土位置	備考
156	灰窓部	埴	137	5.0	8.5	長石、石英	5GYS/1 オリーブ灰色	内外周ロクロナデ/底部内側ヘラ切り (右)・ヘラ削り( ) /口唇部・内周・半 外周部下縁・底面周縁部	No4	95% PL32
157	灰窓部	埴	110	3.9	7.1	長石、石英、 小礫	10GY/1 暗緑灰色	内外周ロクロナデ/底部内側ヘラ切り (右)・台座境口唇部	No1	50% PL52
158	灰窓部	埴	17.5	3.9		長石、石英、黒 色セロロイド、 赤の吹き出し	5BG6/1 黄灰色	体内内外周ロクロナデ/天井部内側ヘラ クスリ(左) /つまみ部部付後ロクロナ デ/洗面地成坪の母体・び灰色	No3	100% PL52
159	灰窓部	埴	132	1.9		黒色、白色、小 礫、針状磁鉄 質	7.5GYS/1 緑灰色	体内内外周ロクロナデ/天井部内側ヘラ クスリ(右) /つまみ部部付後ロクロナ デ/内周ヘラ削り( )	25x1層	25% PL52
160	灰窓部	埴	14.0	1.1		白色、針状磁 鉄質	10YS/3 オリーブ灰色	体内内外周ロクロナデ/天井部内側ヘラ クスリ	4x1層	5% PL52
161	灰窓部	埴	17.0	1.32		長石、石英、黒 色のセロロイド 赤の吹き出し	7.5GY8/1 緑灰色	外周ロクロナデ/須部縁合・底部縁合 ヘラクスリ(右) /高台縁合付の壁形質(側 面・洗面地成坪、底面周縁部)	No2	80% PL53
162	土庫部	埴	21.7	0.7		黄土、砂粒、 長石、石英	5YRS/4 赤い赤褐色	口唇部・頸部内外周ロクロナデ/側面内周 ヘラナデ・外周ナデ・縁部に細削り	3x1層 No5	10% PL53

## 第23号住居跡(第51・52页、第23表、P1.17・53・54)

位置：D調査区C3グリッド、標高61.6m地点にある。

重複関係：本跡発掘後、第24号住居跡へ造り替えが行われたと推測される。また南部を第22～24号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸5.60m、短軸5.24mで方形を呈する。

主軸方向：N-28°-W

残存壁高：確認面から最大高53cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：北縁際から西半際にかけて、幅16～36cmで巡っている。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、貼り床を施している。この貼り床は造り替えられた第24号住居跡作居においても使用されていたと推測される。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出人ロピットと考えられる。P1：38×30cm、深さ50cm、P2：48×35cm、深さ52cm、P3：25×21cm、深さ64cm、P4：31×29cm、深さ50cm、P5：64×43cm、深さ30cmで、P5は出入口ピットである。なお、P1・P4には柱抜き取りの痕跡が、P1～P4には柱の当たりと推測される痕跡が認められている。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量、炭沼バミスブロック少量、腐り弱い
2. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
3. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子少量(柱抜き取り)

## P3土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量、腐り弱い
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

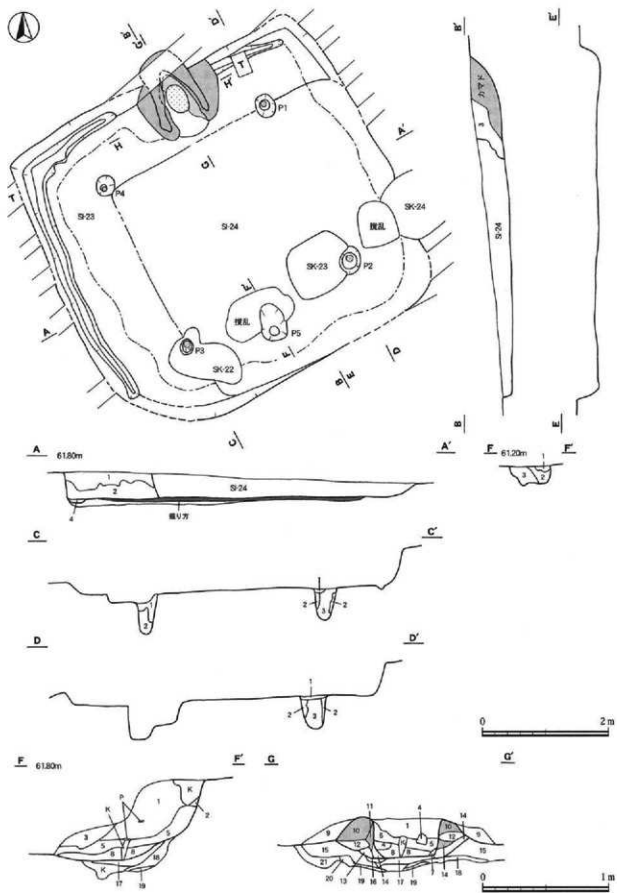
## P4土層解説

1. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子少量
2. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量
3. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量、腐り弱い(柱抜き取り)

## P5土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、腐り弱い
2. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

電：北壁中央部からやや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。耕作用トレンチャーにより一部壊されているが、焼口部から煙道部までは140cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面四中、砂質粘土ブロックを多量に含む第8層が崩落上で、焼土ブロックは天井部の内壁と推測される。また袖部の最大幅は約52cmで、袖部の基礎は白色粘土ブロック(第12層)を芯材にし周囲を砂質粘土(第10～14層)で構築している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。なお、煙道部は壁外へ34cmほど割り出して造られ、火床部から煙道部へは一段をなして緩やかに立ち上がる。



第51圖 第23号住居跡

## 土層解説

1	明褐色	ロームブロック散見、ローム粒子少量、遊離バミス塊少量
2	褐色	ロームブロック少量、雜りあり
3	褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック散見、焼十粒少量、炭化物少量
4	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック散見、炭化物少量
5	明褐色	炭化灰子散見、焼土粒子散見、しまり強い
6	明褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
7	明褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物少量
8	灰褐色	砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
9	明褐色	ロームブロック少量、炭化灰子少量、遊離バミスブロック少量
10	灰黄褐色	ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
11	灰褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量

12	暗褐色	白色粘土ブロック中量、焼土ブロック少量(確認不明)
13	灰褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック多量
14	灰黄褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
15	灰褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック少量
16	褐色	ロームブロック多量、粘りあり
17	褐色	ロームブロック多量、ローム粒子中量、粘り強い
18	褐色	ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック散見、雜りあり
19	暗褐色	ロームブロック中量、ローム粒子中量、焼土ブロック散見
20	褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック散見

遺構埋没状態：大半が第24号住居跡に埋されているが、遺存部からはロームブロック主体の人為的な堆積状況が窺取される。また第3層には藏構梁材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。なお、第5層は住居掘り方の堆積層で、ロームブロックを主体としている。

## 土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化灰子少量
2	褐色	ロームブロック少量、炭化物少量、雜り強い
3	暗褐色	ロームブロック少量、遊離バミスブロック少量、炭化物少量、炭化粒少量
4	褐色	ロームブロック少量、ローム粒子少量
5	褐色	ロームブロック少量、炭化物少量

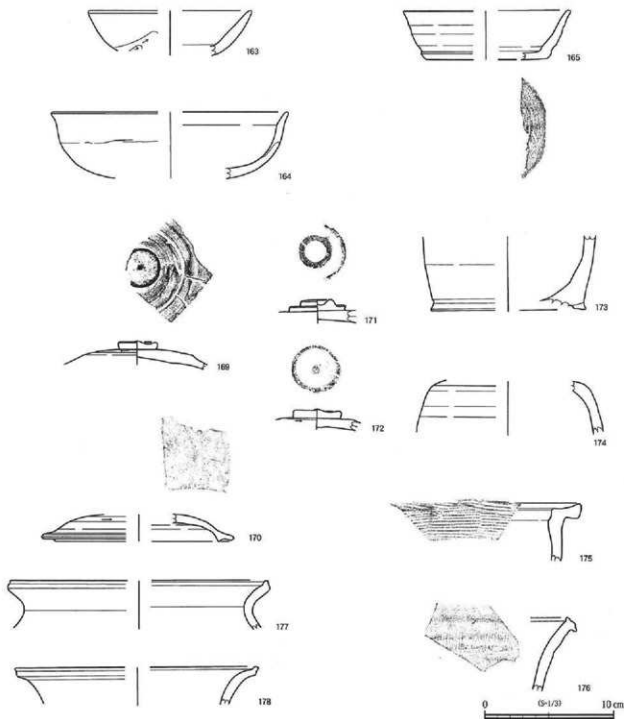
遺物：須臾器片20点(杯・高台付杯類8点、蓋2点、甕類10点)、土師器片60点(杯・高台付杯類2点、甕類58点)。大半が第24号住居跡に埋されており、遺物の多くは竈内から出土しているが、すべて細片である。また、図4した遺物の中には後世の擾乱により入り込んだ遺物もあり、165の須臾器杯や175の須臾器甕などが相当する。なお、竈から出土した163の須臾器杯や、覆土中から出土した164の須臾器杯は、古い様相を示している。

所見：本跡は第24号住居跡と重複しているが、本跡床部はそのまま第24号住居跡でも使用されていることから、造り替えが行われたと判断した。なお第23・24号土坑は、調査当初、支柱穴の補助柱穴の可能性があると考え調査を行っていたが、本跡より新しい遺構であることが判明し、土坑番号を付けて対応した。また本跡の廃絶時期は遺存部が少なく判断としないが、造り替えられた第24号住居跡の時期が8世紀後半と考えられることや竈内から確認された須臾器杯から、7世紀後半から8世紀前半と推測される。

第23号住居跡(表23)

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	手造の跡は何か	出土位置	備考
163	須臾器	杯	(130)	(38)		白色	SR6/1 黄灰色	内外面ロクロナデ、胴部下半持ちヘラケズリ	カマド	15% PL53
165	須臾器	杯	(132)	4.0	3.6	白色、赤褐色	100Y6/1 橙灰色	内外面ヨコナデ/胴部は滑り滑り、外周部黒褐色の細線ヘラナデ/底面細線ヘラケズリ(右)	2区	30% PL53
164	須臾器	杯	(188)	(5.3)		黄赤、白色	26YR6/6橙赤	口縁部内外面ロクロナデ/体部内面ヨコナデ、外周ケズリ後コナデ	カマド カマド西方1区	13% PL53
169	須臾器	甕		(1.8)		白色、小粒	5GY6/1 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/つまり底付後周面にロクロコナデ/胴部細線ヘラケズリ(左)	1区1層	20% PL54
170	須臾器	甕	(15.1)	(2.2)		黄赤、黒色	10Y7/2 灰白色	内外面ロクロナデ/胴部細線ヘラケズリ/口縁部細線ヘラケズリ	灰土	10%
171	須臾器	甕		(2.0)		黒色、白色	5GY7/1 小粒 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/つまり底付後周面にロクロナデ	1区1層	2%
172	須臾器	甕		(1.8)		山、黄褐色	5GY6/1 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/胴部細線ヘラケズリ(右)/つまり底付後周面にロクロナデ	3区	2%
173	須臾器	甕		(6.0)	(12.2)	白色、小粒、針状砂物	10Y4/1灰色	内外面細線ロクロナデ/外周部細線ヘラケズリ(右)/高台部後周面ヘラケズリ(右)	2区1層	2%
174	須臾器	甕		(4.3)		黒色、白色	7.5Y7/2 灰白色	内外面ロクロナデ/胴部1条の輪	2区	2% PL54
175	須臾器	甕		(2.7)		白色、小粒	10GY6/1 軟褐色	胴部ヨコナデ/胴部明確	1区1層	2% PL54
176	須臾器	甕		(5.9)		白色、針状砂物	10GY6/1 軟褐色	内外面ロクロナデ	2区	2% PL54
177	土師器	甕	(208)	(3.8)		黄赤、白色、赤褐色、小粒	5YR6/6黄赤	口縁部・胴部内外面ヨコナデ	掘土	2% PL54
178	土師器	甕	(194)	(2.3)		白色、白色、赤褐色	5YR6/4 にがい黄褐色	口縁部・胴部内外面ヨコナデ/口縁下部に細線ヘラケズリ	1区1層	2% PL54





第 52 図 第 23 号住居跡出土遺物

第24号住居跡 (第53・54図、第24表、PL17・54)

位置：D調査区C3グリッド、標高61.6m地点にある。

重複関係：第23号住居跡廃絶後に造り替えが行われ、後世に、南部を第22～24号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸4.14m、短軸3.88mで方形を呈する。

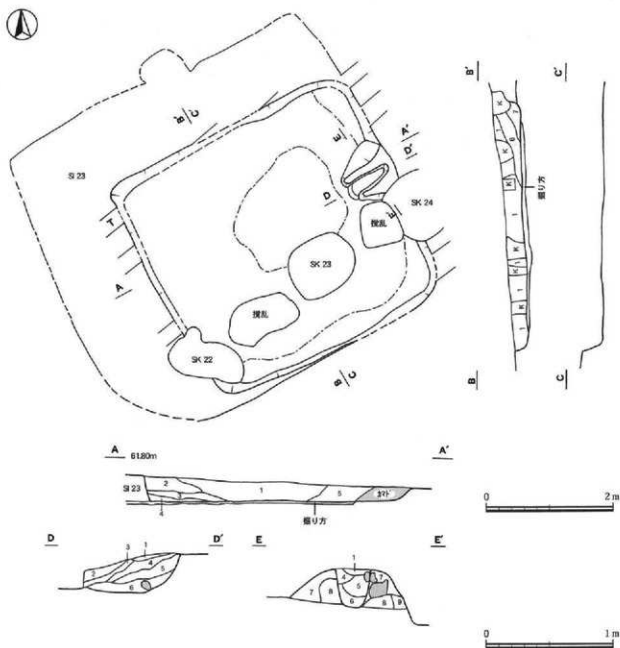
主軸方向：N-62°-E

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、第23号住居跡の貼り床を本跡でも使用している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。



第53図 第24号住居跡

竈：東壁中央部やや北寄りにあり砂質粘土で構築されているが、竈南東部が第24号土坑に壊されている。焚口部から煙道部までは80cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第5層が崩落土と考えられる。また袖部はロームブロックを芯材（第8層）にし、砂質粘土で構築され最大幅は約20cmである。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としており、わずかに赤く硬化している。煙道部は壁外へわずかに8cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 褐色 炭化物中量、炭化粒子中量、焼土粒子微量
2. 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
4. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
5. 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子多量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
6. 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
7. 灰黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
8. 褐色 ロームブロック多量、締まりあり（袖部芯材）
9. 灰黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量

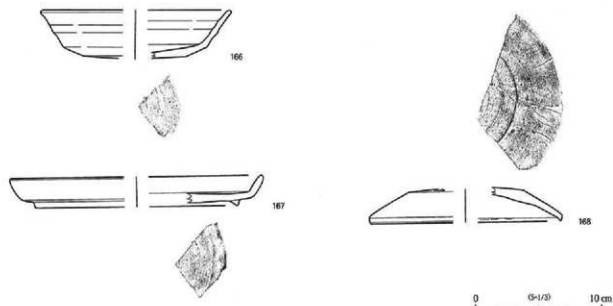
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第5層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。なお、覆土上層（第1層）は粒子が細かく均一的な堆積状況を示しており、自然堆積である。

## 土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子微量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3. 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
4. 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
5. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量
6. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量
7. 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物：須恵器片16点（坏・高台付坏類7点、蓋2点、甕類7点）、土師器片67点（坏・高台付坏類2点、甕類65点）。竈内とその東側を主体に散見されるが、後世の攪乱と農作用トレンチャーによって壊されており、大半の遺物は細片で占められている。また本跡に混入したものも多量とみられる。

所見：本跡は第23号住居跡の床部をそのまま使用していることから造り替えと推測される。また土層観察の結果、本跡廃絶後すぐに一部埋め戻しが行われているが、その後しばらくは放置されていたものと考えられる。時期は遺物が細片で特定できないが、8世紀後葉と推測される。



第54図 第24号住居跡

第24号住居跡（表24）

番号	種類	形状	口径	標高	底径	胎土	色調	下地の特徴ほか	出土位置	備考
166	須恵器	杯	[152]	39	[8.1]	白灰、石灰、小礫	10Y3/1 オリーブ黒色	内外面ロクロナデ/体壁下地及び底部留 鉄ヘタケズリ（右）	壁土	20% PLS3
167	須恵器	高澄	[204]	24	[162]	白灰、赤褐色、 針状形礫	10C6/1緑灰色	内外面いわいなロクロナデ/西白漆合	3区	5% PL23
168	須恵器	釜	[154]	(27)		白灰、小礫、 針状形礫	5B5/1 黄灰色	内外面ロクロナデ/西白漆合 鉄ヘタケズリ（右）	3区	20% PLS3

## 第25号住居跡（第55・56図、第25表、PL18・19・54）

位置：D調査区B3グリッド、標高63、4m地点にある。

重複関係：北西部を第63～65号土坑に、竈を62号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：本跡の南部は削平されており、明確にその規模を断定するに至らなかったが、遺存している主柱穴や出入口ピットから、長軸6.30m、短軸〔5.42〕mで北壁に竈が付設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-30°-W

残存壁高：確認面から最大高20cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平埧で、竈の前面部が硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：34×32cm、深さ64cm、P2：16×〔12〕cm、深さ20cm、P3：55×45cm、深さ40cm、P4：22×20cm、深さ20cm、P5：80×60cm、深さ30cmである。なお、P1とP4で柱抜き取りの痕跡が確認された。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まり弱い（柱抜き取り痕）
3. 褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微粉、炭化粒子微粒

## P3土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量

## P4土層解説

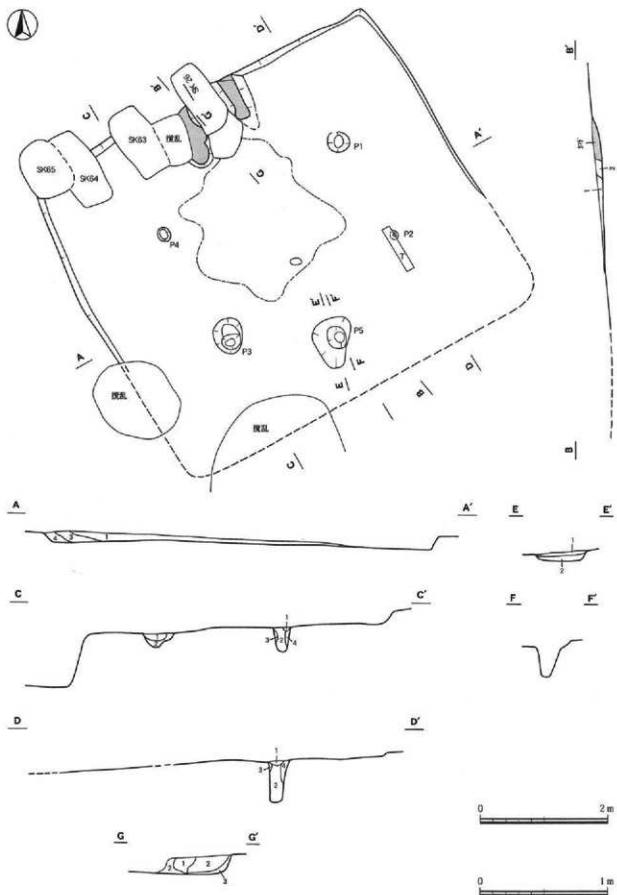
1. 暗褐色 ロームブロック微粉、炭化粒子微粉、炭化バミス微粒、締まり弱い
2. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い（柱抜き取り痕）
3. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化バミスブロック少量

## P5土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微粉、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

竈：北壁中央部からやや東寄りにあり砂質粘土で構築されているが、第62号土坑に壊され、確認できたのは袖部の断片である。しかしその袖部も一部被熱により赤変している部分が確認されただけであった。

1. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、炭化バミスブロック微量（埋戻し）
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭化バミスブロック少量
3. 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量



第 55 図 第 25 号住居跡

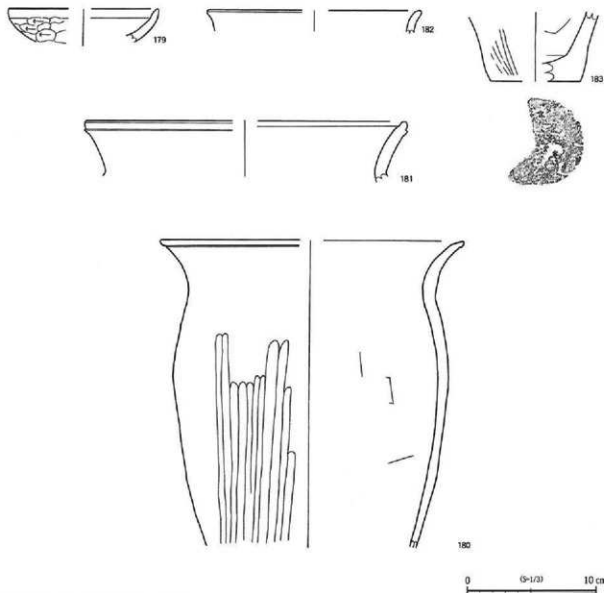
遺構埋没状態：各層にロームブロックを含み人為的な堆積状況を示しているものの、堆積層厚が薄く判然としなかった。また第2層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが、第4層には壁部の崩落と推測されるロームブロックが認められた。

土層解説

1. 褐 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
2. 褐 灰色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量
3. 褐 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、鹿沼パミスブロック少量
4. 褐 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片5点（坏・高台付坏類2点、甕類3点）、土師器片50点（坏・高台付坏類13点、甕類37点）。本跡南部は削平されており、遺物は竈内と北壁周辺でわずかに確認された程度で、床上から確認された遺物はなかった。

所見：堆積層厚が薄く、後世の擾乱も受けており、十分な情報を得ることはできなかった。また時期は、遺物が少なく細片であるため特定できなかったが、堀土中から確認された数点の土師器坏は7世紀後葉段階のものである。



第56図 第25号住居跡出土遺物

第25号住居跡(表25)

番号	種別	形状	口徑	幅高	基底	胎土	色裏	手法の特徴はか	出土位置	備考
179	土師器	坏	[11.5]	(2.8)			SY35/3 にぶい赤褐色	口縁部内外面ヨコナガ/底部内面ヘラナ グ/外底手持ちヘラナズリ	4区	10% PL51
180	土師器	壺	[23.8]	(25.3)			黄丹、黒石、 石灰、小礫 にぶい赤褐色	口縁部・頸部内外面ヨコナガ/頸部内面 ヘラナグ/外面上半ナブ/下半ヘラミギ	4区(内)	10%
181	土師器	壺	[25.2]	(4.6)			白土、白土、 石灰、針状結 晶	口縁部・頸部内外面ヨコナガ/口縁外面 にぶい赤褐色	4区	2% PL54
182	土師器	壺	[16.8]	(1.8)			白色 SY35/4 にぶい赤褐色	内外面ヨコナガ	3区	2% PL54
183	土師器	甗		(5.3)	(7.0)		白土、白色、 石灰、小礫 にぶい赤褐色	頸部内面ヘラナグ/頸部外面及び底面ナ ブ	覆土	5% PL54

## 第26号住居跡(第57・58図、第26表、PL19・55・56)

位置：D調査区B3グリッド、標高63.7m地点にある。

規模・平面形：長軸3.66m、短軸3.12mで方形を呈する。

主軸方向：N-21°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中央部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：50×45cm、深さ26cmである。

## P1土層解説

1. 褐色色 ローム粒子微量、ローム粒子少量
2. 暗褐色色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、粘り強い
3. 褐色色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは86cmで、築部幅は約30cmである。竈北東部は擾乱によって壊され遺存状態は悪く、内壁に一部被熱による赤変部分が認められただけである。火床部には厚い焼土層が認められ、火床面はゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ52cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。なお、第2層の焼土ブロックは天井部内盛材が被熱したもので、第3層の焼土ブロックは火床部の燃焼土と推測される。

## 土層解説

1. 褐色色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
2. 暗褐色色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量
3. 暗赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、粘り強い

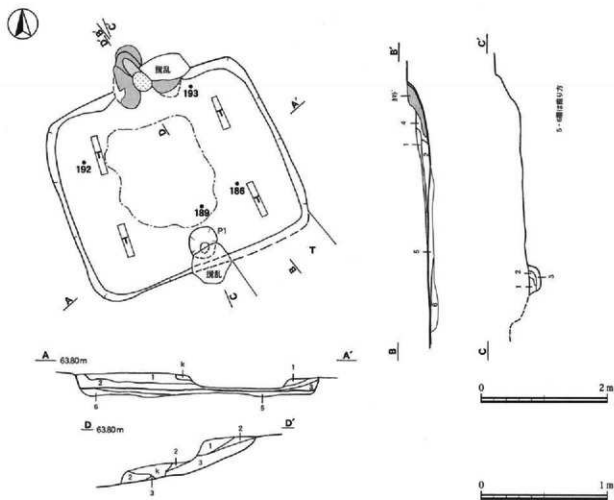
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第4層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。第5・6層はロームブロックを主体とした住居床下の堆積層と考えられる。

## 土層解説

1. 褐色色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 褐色色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
4. 褐色色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック少量、粘り強い
5. 褐色色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、炭質バミスブロック少量(張り方層)
6. 褐色色 ローム粒子少量、炭質バミスブロック少量(張り方層)

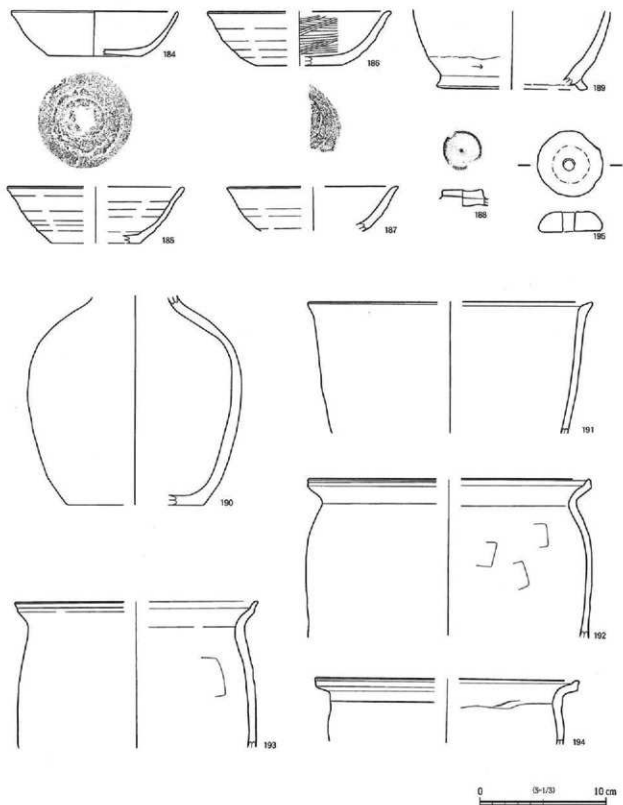
遺物：須恵器片78点（坏・高台付坏類57点、蓋9点、盤6点、甕類6点）、土師器片279点（坏・高台付坏類22点、甕類257点）、土製品1点（紡錘車）。すべて覆土中から確認されたもので、床面から出土した遺物はなく、床面に近い最下層から出土した遺物は186土師器坏、192土師器だけである。

所見：時期は遺物からみて9世紀前葉と考えられる。なお、9世紀代に比定される住居跡の主軸方向は、大型住居がほぼ真北を示すのに対し、本跡のような小型の住居は北西方向を示している。この傾向は、当集落の特徴のひとつとして挙げられる。



第57図 第26号住居跡





第 58 図 第 26 号住居跡出土遺物

第26号住居跡 (表26)

番号	類別	形状	口径	深さ	底径	出土	手注の状況ほか	出土状況	備考
184	灰層	坪	[134]	3.7	7.5	黒石、黒色 白色、石英	5G5/1緑灰色 内外面ていびいなロクロナデで壁を造り/ 底面緑へラケズリ(右)	カマド一筋 4区1層	90%
185	灰層	坪	[141]	4.5	7.0	黒石、黒色 白色、赤褐色 紅土磁片	7SGY6/1 緑灰色 内外面ロクロナデ(壁が剥落)/底面緑 へラケ切り	1区1層	20%
186	土層	坪	[144]	4.2	6.8	黒石、黒色 白色、石英 小礫	5YR6/6緑色 内面ヘラミダキ/外壁ロクロナデ/底面同 軸ヘラケズリ(右)	No.2	30% PL55
187	土層	坪	[136]	3.8		黒石、黒色 白色、石英	5YR6/4 にぶい褐色 内面ヘラミダキ/内面ロクロナデ	1区1層	10% PL55
188	灰層	産	[13]			白色	10G4/1暗緑灰 色 内面ロクロナデ/ツマミは消込後にロク ロナデで覆影	4区1層-1	3% PL55
189	灰層	産	[62]		[124]	白色、石英 小礫	5GY5/1 オリーブ灰色 内外面1口ロクロナデ/高台接合縁側部位に 両軸ヘラケナデ	No.3	5% PL55
190	灰層	産	[175]		[116]	黒石、石英 小礫多量含む	5G5/1緑灰色 内外面1口ロクロナデ	1区1層-1 2区1層	10%
191	土層	産	[225]		[105]	黒石、黒色 白色、石英 小礫	7SYR6/6褐色 口縁部・裏面内外面ロクロナデ/縁側内外 面ロクロナデ	3区1層-2	5% PL55
192	土層	産	[226]		[128]	黒石、白色 石英、小礫	7SYR6/4 にぶい褐色 口縁部・裏面内外面ロクロナデ/縁側内面 ヘラケ/外面ナデ	No.5 4区1層-1	10% PL55
193	土層	産	[194]		[117]	黒石、白色 小礫	5YR6/4 にぶい赤褐色 口縁部内外面縁側ヘラケナデ/裏面内外 面ロクロナデ/裏面内面ヘラケナデ/外面ナデ	No.1	15% PL55
194	土層	産	[211]		[51]	黒石、黒色 白色、石英 小礫	7SYR6/6褐色 口縁部内外面・縁側内外面ロクロナデ/裏 面内面ヘラケナデ/外面ナデ	1区1層-1	5% PL55

番号	直径	厚さ	孔径	重量(g)	材質	特徴	出土状況	備考
195	紡錘車	5.3	1.7	0.95	45.6		一部欠損	1区1層-1 90% PL56

## 第27号住居跡 (第59・60図、第27表、PL55・56)

位置：D調査区B4グリッド、標高58.9m地点にある。

規模・平面形：本跡南半分が調査区外にあると推測され、調査できた部分は長軸5.12m、短軸(2.88)mの範囲である。調査できた範囲から、方形もしくは長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-23°-W

残存壁高：確認面から最大高50cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：調査できた部分ではほぼ全周し、幅38～44cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、P2付近では簾構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。また住居中心部と推測される部分でよく硬化している。

ビット：2箇所確認された。いずれも土柱穴と考えられ、P1：57×57cm、深さ42cm、P2：56×52cm、深さ40cmである。またいずれのビットからも柱抜き取りの痕跡が認められた。

## P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、炭化粒子微量、塵屑/バミズブロック微量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量(柱抜き取り痕)

## P2土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量(柱抜き取り痕)

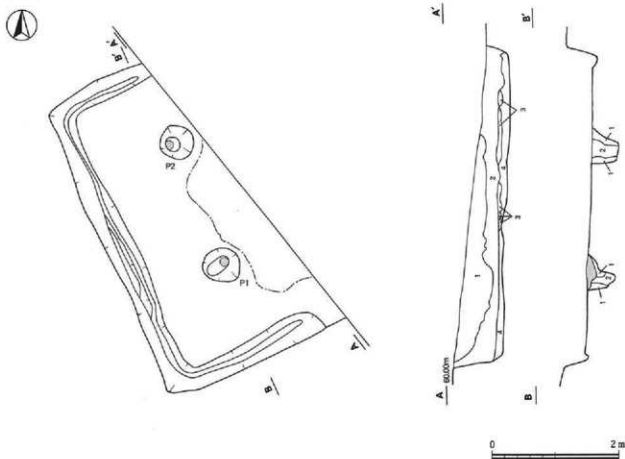
遺構埋没状態：覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的な埋没が見られる。

## 土層解説

- |        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 1. 暗褐色 | ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子微量     |
| 2. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量、焼土ブロック少量          |
| 3. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、糝まりあり     |
| 4. 褐色  | ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量、砂質粘土ブロック少量 |

遺物：須恵器片15点（坏・高台付坏類8点、高盤1点、甕類6点）、土師器片92点（坏・高台付坏類21点、甕類71点）。本跡の東半分が調査区外にあるため遺物数は少ない。また床面から出土した遺物はなく、すべて投棄、あるいは覆土中に混入したものである。

所見：本跡の時期は、南半分が調査区外にあるため明確ではないが、土師器坏の形状から7世紀後半と考えられる。



第59図 第27号住居跡

第60図 第27号住居跡出土遺物

第27号住居跡 (表27)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
197	土師器	坏	13.6	3.5		雲母、黒色	25YR5/6 明赤褐色	口縁部内外面ヨコナデ/底部内面粗い織文状ヘラミゴキ/外面ケズリ後ナデ	No.1 覆土	90% PL55
198	土師器	坏	[12.6]	(2.9)		白色	5YR3/1 黒褐色	口縁部内外面・底部内面ヨコナデ/底部外面ケズリ後ナデ	覆土-1	10% PL56
199	須恵器	高甕		(3.2)		黒色、白色	8GK5/1 青灰色	内外面ロクロナデ/外面にヘラ状工具による沈澱が確認する	カマド覆土	5% PL56
200	土師器	甕	[15.5]	(5.5)		雲母、白色	5YR 6/4 に赤い褐色	口縁部内外面ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ	覆土-1 カマド	10% PL56

第28号住居跡 (第61・62図、第28表、PL19・56・57)

位置：D調査区A 3, B 3グリッド、標高65.6m地点にある。

規模・平面形：長軸230m、短軸260mで方形を呈する。

主軸方向：[N-30° -W]

残存壁高：確認面から最大高45cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

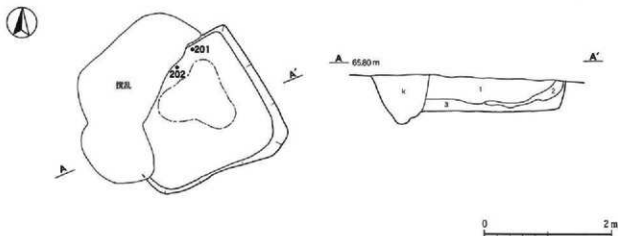
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。また第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

土層解説

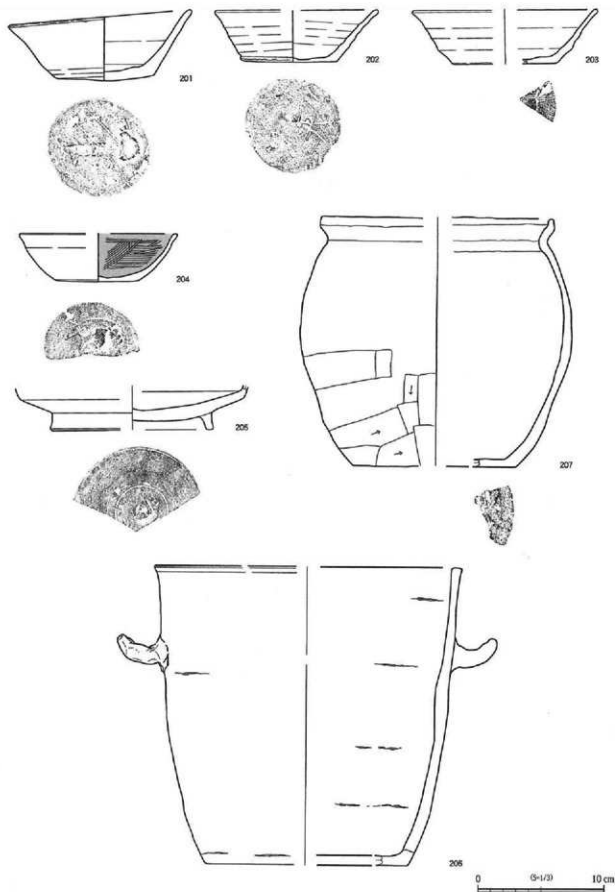
1. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、鹿沼バミスブロック少量

遺物：須恵器片105点 (坏・高台付坏類67点、蓋10点、盤6点、高盤2点、瓶9点、甕類11点)、土師器片185点 (坏・高台付坏類11点、甕類174点)。床面から確認された遺物は201須恵器坏で、床面に伏せた状態で出土している。その他は覆土中から出土した遺物である。なお、共懸具は須恵器製品が、煮炊き具は土師器製品が主体となっている。

所見：大きく攪乱を受けており、竈は確認できなかったが、竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが検出されたことや、床の一部が硬化していたことなどから、住居であると判断した。なお、時期は遺物からみて9世紀中葉から後葉と考えられる。



第61図 第28号住居跡



第 62 図 第 28 号住居跡出土遺物

第28号住居跡 (表28)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
201	須恵器	杯	146	57	7.7	小織	5GY5/1 ナリ、フ灰色	外側面ロクロナデ/足みに仕上げナデ/底面回転ヘラ切り→ヘラ定号(二)	No.4	90% PL56
202	須恵器	杯	[131]	4.2	7.7	白色、赤褐色、小織	5Y10/4 にぶい帯色	内外面ロクロナデ/底面回転ヘラ切り・ヘラ定号(一)	No.3	50% PL66
203	須恵器	杯	[148]	4.4	[8.5]	白色、灰石	5GY6/1 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/底面回転ヘラ切り・ヘラ定号(一)	1・2区掘下	10%
204	十師器	杯	[126]	3.9	6.6	小織	25Y15/6 明茶褐色	内面ヘラミヤキ・黒色熟練/内外面ロクロナデ/底面回転ヘラ切り	4区掘下	80% PL56
205	須恵器	釵		3.3	[12.9]	黄色、白色、小織	10GY6/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/底面回転ヘラナデ/ズリ(白)/灰台接合法内面にロクロナデ	掘上	30% PL57
206	須恵器	深	[24.2]	23.2	[16.0]	小織	10GY7/1 湖緑灰色	口縁部・頸部内外面ロクロナデ/胴部内外面ヘラナデ/取っ手後半ナデ製法	1・2区掘土	80% PL26
207	土師器	壺	[18.8]	17.2	[11.2]	赤褐色、小織	5YR5/4	口縁部・頸部内外面ロクロナデ/胴部内外面ヘラナデ/外面上半ナデ/下半ヘラナデ	オマド掘土	30%

第29号住居跡 (第63・64図、第29表、PL20・57)

位置：D調査区33グリッド、標高63.1m地点にある。

規模・平面形：長軸5.32m、短軸4.84mである。住居跡南東部が削平されているため断定できないが、遺存部の形態から方形または長方形と推定される。

主軸方向：N-6°-W

残存壁高：確認面から最大高36cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：遺存部では幅20～44cmで巡っていることが確認された。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、主柱穴で囲まれた範囲がより硬化している。

ピット：3箇所確認され、いずれも主柱穴である。P1：38×37cm、深さ30cm、P2：38×33cm、深さ28cm、P3：58×45cm、深さ40cmである。

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは150cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックや粒子を含む第5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約38cmである。火床部は床面から13cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

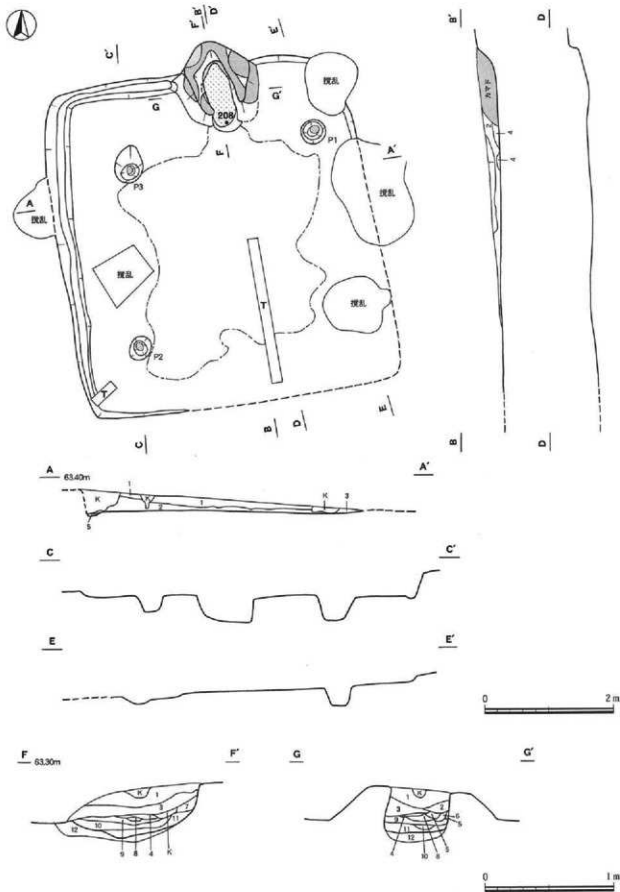
## 土層解説

1. 砂褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量
2. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒少量、焼土ブロック微量、煎沼/バミス微量
3. 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量、煎沼/バミス微量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、煎沼/バミス少量
5. 黄褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量
6. 砂褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子微量
7. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒少量
8. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化物中量、砂質粘土ブロック微量
9. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化物中量
10. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量、炭化粒子中量、焼土粒子少量
11. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物微量、炭化粒子少量
12. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒少量

遺構埋没状況：ロームブロック主体の人為的な単積状況を示している。第4層には電構素材と考えられる砂質粘土ブロックが、第5層には炊爨部の堆積土が確認されている。

## 土層解説

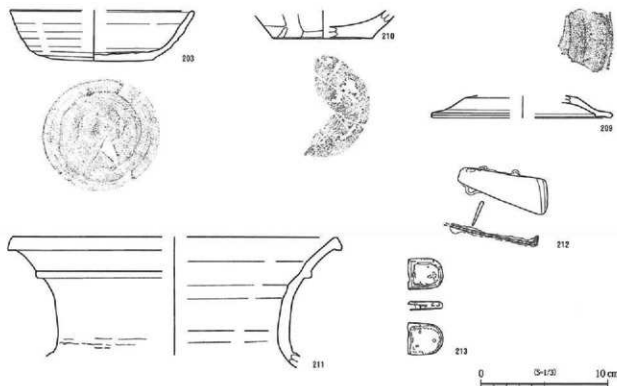
1. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、煎沼/バミスブロック微量
4. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量、煎沼/バミスブロック微量
5. 褐色 ロームブロック少量、ロームブロック微量、炭化粒子少量



第63図 第29号住居跡

遺物：須恵器片104点（坏・高台付坏類48点、蓋11点、甕類45点）、土師器片311点（坏・高台付坏類22点、甕類289点）、鉄製品2点（鎌1点、蛇尾1点）。竈前面部と中央部を主体に散見される。また床面から出土した遺物はすべて細片である。212の鎌と213の蛇尾は覆土中から出土したもので、投棄あるいは埋土に混入していたと考えられる。

所見：本跡は、竈の位置が北壁の中央部よりかなり東へ寄っている住居である。この傾向は8世紀代に比定される住居で特に多く、第1・60号住居跡などが相当する。竈を東方向へ寄せることによって竈西側に空間域を設け、その空間を何らかの用途で活用したのであろう。時期は遺物からみて8世紀前葉から中葉と考えられる。



第64図 第29号住居跡出土遺物

第29号住居跡（表29）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
208	須恵器	坏	〔14.6〕	4.1	9.2	白色、石英、小礫、針状鉄物	25GY6/1 オリブ灰色	内外面ロクロナデ/見込みは渦巻状の粗い隆・体部外面は階段状の段/底部面軽ヘラケズリ（右）	No.1 4区1層 覆土	50% PL57
209	須恵器	蓋	〔14.0〕	〔1.8〕		白色、石英	9GY5/1 オリブ灰色	内外面ロクロナデ/天井部刷毛ヘラケズリ（右）/口縁内側に退化したかえり	4区1層	5% PL57
210	土師器	甕		〔2.2〕	7.9	黒色、石英	25YR5/6 明赤褐色	内面ナデ/外面ケズリ後ナデ/底部木重削	3区1層	5% PL57
211	須恵器	甕	〔32.8〕	〔10.4〕		白色	7.5GY6/1 緑灰色	内外面ロクロナデ	1区1層 4区1層 カマド1/4	5% PL57

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
212	鎌	〔7.1〕	2.9	0.2	19.4	鉄	先端部欠損	覆土	PL57

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
213	蛇尾	2.77	2.58	0.8	14.4	鋼	3か所銜留め	覆土	PL57



## 第30号住居跡 (第65・66図、第30表、PL20・21・57・58)

位置：D調査区D2グリッド、標高12.6m地点にある。

規模・平面形：南西部が削平されているが、遺存部から長軸〔324〕m、短軸278mで長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-33°-W

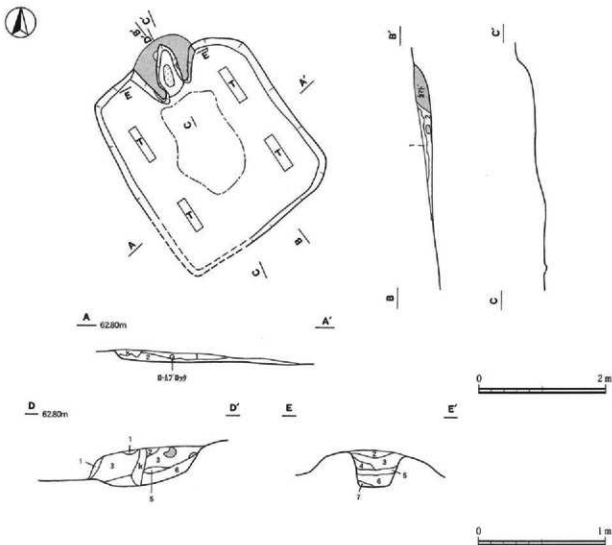
残存壁高：確認面から最大高12cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは82cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第3層が崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存しており、袖部内壁は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約70cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、火熱を受けているが硬化してはいない。なお、煙道部は壁外へ20cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。



第65図 第30号住居跡

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、炭化物微量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、底沼バミスブロック微量
5. 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、漆まり弱
6. 暗赤褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、漆沼バミスブロック微量
7. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量

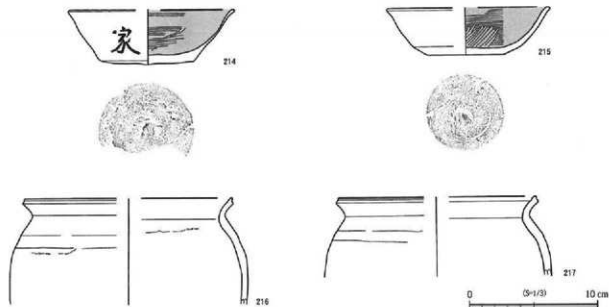
遺構埋没状態：覆土の層厚が薄く明確ではないが、遺存層ではロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。また第2層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

土層解説

1. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量

遺物：須恵器片9点（坏・高台付坏類5点、蓋1点、盤1点、甕類2点）、土師器片43点（坏・高台付坏類5点、甕類38点）214の土師器坏、216・217の土師器甕は本跡北部の覆土中から、215の土師器坏は竈内覆土上層から出土したものである。床面直上から確認された遺物はないものの、共膳具も煮炊具も須恵器製品が主体となっている。また、214の土師器坏には墨書「家」が記されている。

所見：本跡出土の墨書土器には、「家」と記されているものが4点確認されている。本跡以外ではA区第10号住居跡から1点、あとの2点は第44号住居跡からである。いずれも内黒の土師器坏の体部外面に記されていたものだが、記された方向には相違が見られ、坏を正位で置いた状態から見ると、縦方向に記したものの1点、横方向2点、斜め方向1点であった。なお、本跡の時期は、墨書土器等の遺物から9世紀後葉と考えられる。



第66図 第30号住居跡出土遺物

第30号住居跡（表30）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
214	土師器	坏	[13.4]	4.4	7.4	黄赤、灰石、赤褐色、石英、小礫	5YR7/4 にぶい橙褐色	内面ヘラミガキ・黒色処理/体部外面口タロナデ/底部回転ヘラ切り/体部外面磨(垂)	竈土	90% PL57
215	土師器	坏	[12.9]	3.8	6.0	赤褐色、石英、小礫、針状炭化物	5YR6/4 にぶい橙褐色	内面ヘラミガキ・黒色処理/体部外面口タロナデ/体部下端及び底部回転ヘラケズリ(右)	カマド上層	60% PL57
216	土師器	甕	[16.6]	(8.5)		白色、石英、小礫、針状炭化物	5YR5/4 にぶい赤褐色	口縁部・頸部ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ヨコナデ後ケズリ	1区	20% PL57
217	土師器	甕	[15.8]	(6.3)		石英、小礫、針状炭化物	2.5YR6/4 にぶい橙褐色	口縁部・頸部・胴部外面ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ	1区 下層	10% PL58

## 第31号住居跡 (第67・68図、第31表、PL21・58)

位置：E調査区E3グリッド、標高55.60m地点にある。

規模・平面形：南西部が削平されているが、遺存部から、長軸5.04m、短軸5.00mで方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-4° - W

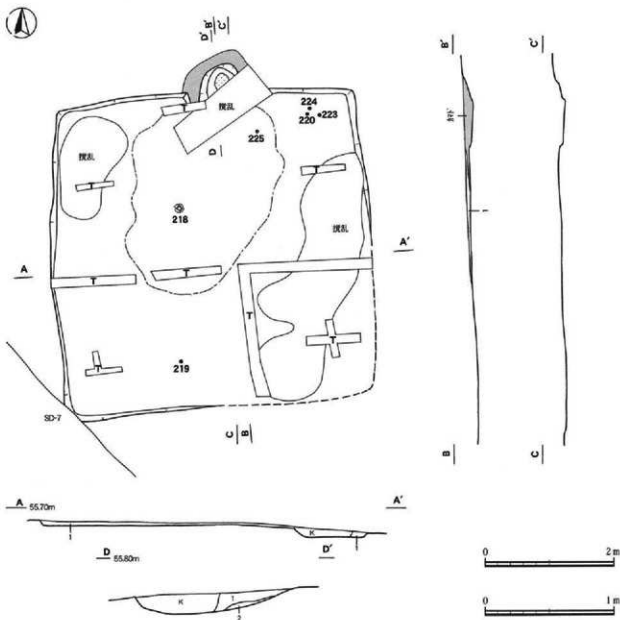
残存壁高：覆土の大半が削平されているため詳細は不明であるが、依存部は確認面から最大で高8cmを測る。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈周辺部が硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。覆乱によって焚口部から火床部南部と東袖部が破されており、遺構全体も削平されているため土層の層厚も薄く情報はあまり得られなかった。遺存してい



第67図 第31号住居跡

る火床部は床面から16cmほど掘りくぼめて火床面としており、一部に赤く硬化している部分が認められた。煙道部は壁外へ56cmほど削り出して造られている。

土層解説

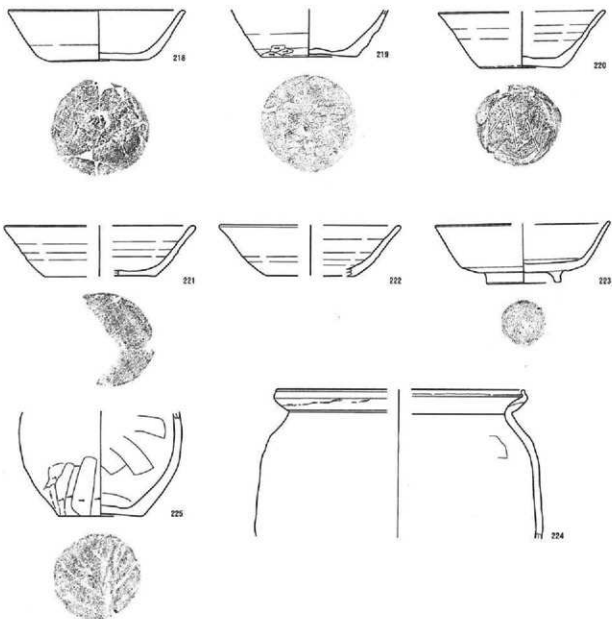
1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼パミスブロック少量
2. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い

遺構埋没状態：本跡の大半は削平されており、埋没状況は不明である。

土層解説

1. 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い

遺物：須恵器片49点（坏・高台付坏類44点、盤1点、甕類4点）、土師器片148点（坏・高台付坏類1点、甕類147点）。覆土の層厚は薄く、出土した遺物の大半は床面直上から確認されたものである。床面から出土した遺



第 68 図 第 31 号住居跡出土遺物

物は218～220の須志群坏、223の須志器高台付坏で、218は中央部やや北側の硬化面状から伏せた状態で、219は南端近くから正位で、220と223は東隅コーナー部からそれぞれ出土している。しかし、220や223は覆土中の破片と接合関係にあり、住居跡断絶後まもなく投棄されたと考えられる。

所見：時期は住居跡断絶時に遺棄された遺物からみて9世紀前半と考えられるが、遺構全体が削平されているため覆土の厚みが薄く十分な調査結果は得られなかった。なお、隣接する第32号住居跡とは規模や形状が酷似しており、時期も第32号住居跡が8世紀後半から9世紀初頭に比定されることから、建て替えの可能性が示唆される。

第31号住居跡(表31)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手坯の特徴ほか	出土位置	備考
218	須志群	坏	14.1	4.2	8.0	石灰、小礫、 針状物	5G4/1 桃緑灰色	体内外面ロクロナデ/底面内面ヘラケズリ、一部手坯ヘラケズリ	No.4	35% PL.58
219	須志群	坏		3.8	7.6	白色、小礫	2SG6/1 オリーブ灰色	体内外面ロクロナデ/底面内面ヘラケズリ、一部手坯ヘラケズリ、底面ヘラケ物/体部断面及び底面片断産出	No.3	60% PL.58
220	須志群	坏	(13.2)	4.5	6.6	白色、小礫	SGY6/1 オリーブ灰色	体内外面ロクロナデ/底面多方向手坯ヘラケズリ、底面ヘラケ物	No.1	30% PL.58
221	須志群	坏	(15.2)	4.1	(8.7)	白色、石灰、 小礫、針状物	10G4/1 桃緑灰色	体内外面ロクロナデ/底面手坯ヘラケズリ	4区	40% PL.58
222	須志群	坏	(14.0)	4.1	(7.0)	石灰、小礫、 針状物	10G4/1 桃緑灰色	体内外面ロクロナデ	1区1区	30% PL.58
223	須志器	高台坏	(13.8)	4.8	5.8	黄土、白色、 小礫	7xGY7/1 黄土、明桃灰色	付高台、底内面内面ナデ、沈降上のナデが外縁に一部	No.1 1区覆土	60% PL.58
224	土師器	甕	(19.8)	(11.9)		赤土、白色、 石灰	2GY25/6 明赤褐色	体内外面ヘラナデ、外面ナデ/内面・底面内面ロクロナデ	No.8	10% PL.58
225	土師器	甕		5.4	6.8	黄土、白色、 小礫	15YR5/4 にぶい赤褐色	体内外面ヘラナデ、外面上蓋ナデ、下部土質	2区 覆土	40% PL.58

## 第32号住居跡(表69・70図、第32表、PL.21・58・59)

位置：E調査区E3グリッド、標高55.7m地点にある。

規模・平面形：本跡の大半は削平されており、その規模は明確に把握できなかったが、当集落跡の住居跡形態からみて、北壁に竈が付設された、長軸(4.50)m、短軸4.32m方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：[N-9°-W]

残存壁高：遺存部では鋪設面から最大高16cmを測る。

壁溝：検出されていない。

床：攪乱により状態は不明である。

ピット：攪乱のため2箇所のみ確認された。P1は主柱穴でP2は出入口ピットと考えられる。P1：50×50cm、深さ50cm、P2：46×39cm、深さ29cmである。

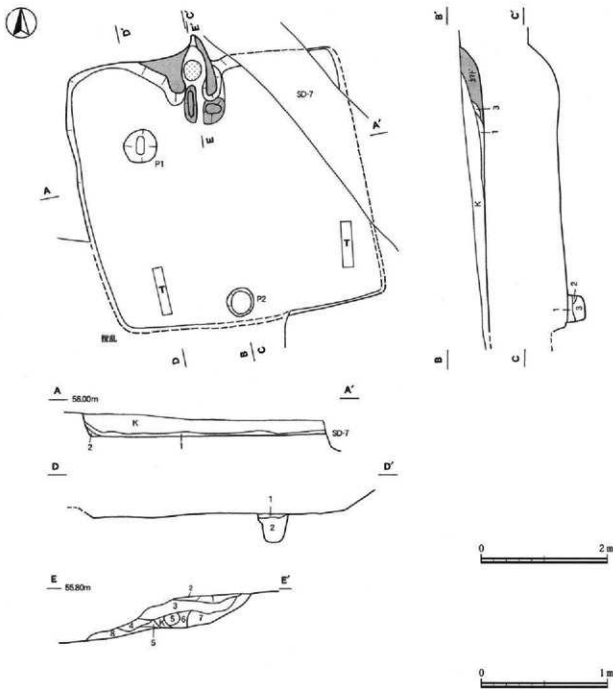
## P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック産量、炭化粒子微量、産出バミス産量
2. 暗褐色 ロームブロック産量、ローム粒子少量

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック産量、ローム粒子少量
2. 暗褐色 ローム粒子微量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ロームブロック産量、ローム粒子産量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面区中、砂質粘土ブロックを含む第7層が崩落上と考えられる。竈部の最大幅は約84cmで、内縁は被熱により赤変している。火床部は炭化物と粘土が混じった締まりの弱い層で、火床面は硬化していない。なお、煙道部は壁外へ30cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。



第69図 第32号住居跡

土層解説

- |        |  |
|--------|--|
| 1. 暗褐色 | ロームブロック微量、ローム粒子少量                              |
| 2. 暗褐色 | ロームブロック微量、ローム微量                                |
| 3. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量        |
| 4. 褐色  | ロームブロック微量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物微量    |
| 5. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量、鹿沼パミスブロック微量 |
| 6. 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、粘まり弱い            |
| 7. 褐色  | ロームブロック微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物粒子微量、鹿沼パミス少量  |
| 8. 橙   | 焼土ブロック多量、炭化物粒子少量、粘り弱い                          |

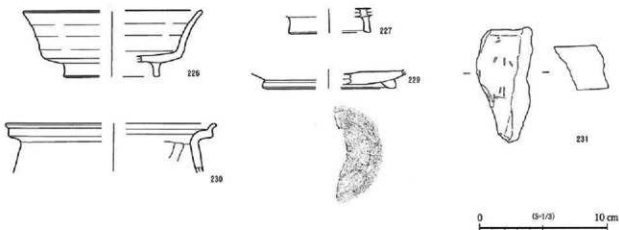
遺構埋没状態：擾乱により遺存している部分は少ないが、覆土に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的な埋没が見られる。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
2. 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

遺物：須恵器77片点（坏・高台付坏類40点、蓋4点、盤5点、高盤1点、鉢2点、甕類25点）、土師器片201点（坏・高台付坏類33点、甕類168点）。本跡中央部から南部にかけて擾乱で壊されているため、遺物は北西部を中心に確認されている。しかし床面直上から出土した遺物はなく、摩滅しているものや接合しない遺物も多いため、投棄あるいは埋土に混入したものと考えられる。なお、煮炊具は土師器製品が圧倒的に多く、須恵器製品は客体的である。

所見：時期は遺物から8世紀後半から9世紀初頭と考えられる。なお、本跡は北東部で接している第31号住居跡へと建て替えられた可能性が高い。



第70図 第32号住居跡出土遺物

第32号住居跡（表32）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
226	須恵器	高台付坏	[14.2]	5.3	[7.5]	黒色、白色、石英、小礫、黒色のセルロイド状の吹き出し	10G5/1緑灰色	体部内外面口ロナデ、体部下縁回転ヘラケズリ/付高台、内外面口ロナデ	4区1層	25% PL58
227	須恵器	高台付坏	(1.9)	(6.4)		白色、石英、小礫	10GY4/1黄緑灰色	底部内面口ロナデ/付高台、内外面口ロナデ	覆土	3% PL59
229	須恵器	盤	(1.5)	(10.4)		黒色、白色、石英、黒色のセルロイド状の吹き出し	10GY6/1緑灰色	底部内面口ロナデ、外部回転ヘラケズリ、底部ヘラ記号/付高台、内外面口ロナデ	2区1層	5% PL59
230	土師器	甕	[16.2]	(4.0)		黄緑、白色、石英、小礫	25YR4/3 におい黄褐色	胴部外面ナデ、内面ヘラケズリ/口縁部内外面ヨコナデ	4区1層	5% PL59
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考	
231	砥石	(8.9)	(3.1)	3.5	200	硬質砂岩	1面のみ使用	3区1層	PL59	

第33号住居跡（第71・72図、第33表、PL.22・59）

位置：E調査区F3グリッド、標高54.4m地点にある。

規模・平面形：調査中、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈であると断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-18°～22°-Wと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

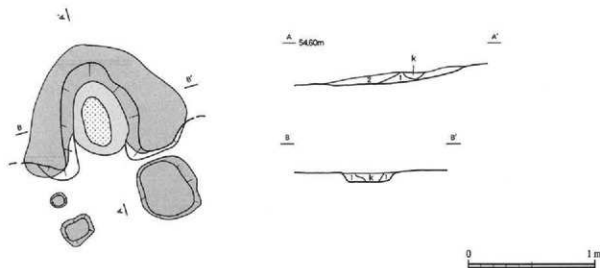
竈：焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため、竈と判断した。また、火床面と推測される面は赤変硬化しており、火熱を受けた地山がブロック化している様子が窺えた。

土層解説

1. 灰褐色 砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2. 灰黄褐色 ローム粒子微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック中量、粘性・締まりともに弱い

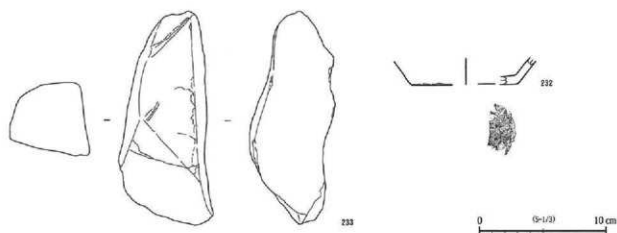
遺物：須恵器片2点（坏・高台付坏類）、土師器片12点（坏・高台付坏類4点、甕類8点）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物である。また細片が多く図化できた遺物はこの2点のみである。

所見：本跡の大半が削平されているため十分に情報を得ることができなかった。時期は判然としないが、出土遺物は8世紀～9世紀に比定されるものである。



第71図 第33号住居跡





第72図 第33号住居跡出土遺物

第33号住居跡 (表33)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	粘土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
232	須恵器	坏	(22)		(8.4)	白色、石英、小礫、針状灰物	SG4/1 増緑灰色	体部内外側、底部ロクロナデ	覆土	5%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
233	磁石	18.6	8.0	7.5	1090	硬質砂岩	支脚に転用か。	コマド覆土	PL59

## 第34号住居跡 (第73・74図、第34表、PL・59)

位置：E調査区F3グリッド、標高52.6m地点にある。

規模・平面形：長軸3.26m、短軸3.18mで方形を呈する。

主軸方向：N-9°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈周辺から住居中心部がよく硬化している。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：24×21cm、深さ24cmである。

## P1土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
- 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、黒沼バミスブロック少量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは64cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部の基礎は砂質粘土ブロックを芯材として構築されている。袖部の最大幅は約90cmで、内壁から奥壁にかけて被熱により赤変しているのが確認された。火床部は床面からわずかに掘りくぼめて火床面としており、赤く硬化している。煙道部は壁外へ54cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック微量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、黒沼バミスブロック少量
- 暗褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、黒沼バミスブロック少量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
- 褐灰色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり

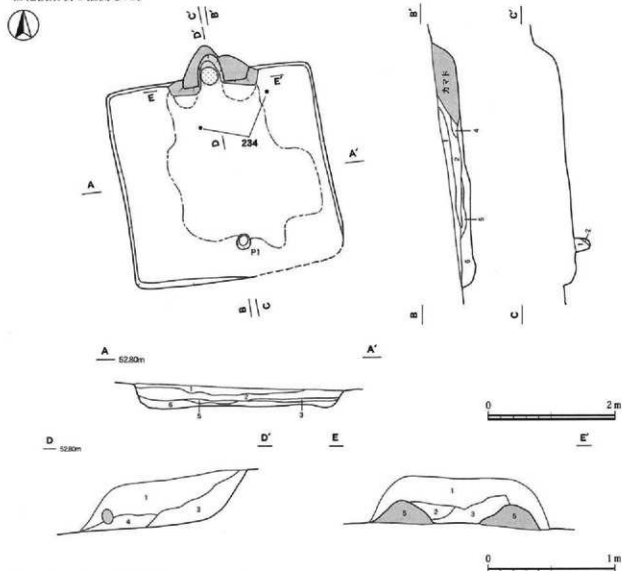
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第4層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。また、第5・6層はロームブロックを主体とした住居床下の堆積層と考えられる。

土層解説

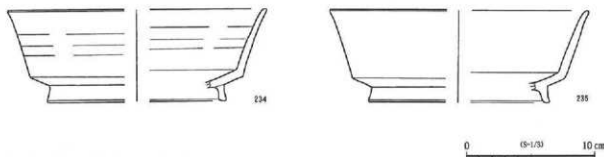
1. 褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 褐灰色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量
5. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
6. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、締まり弱い

遺物：須恵器片13点（坏・高台付坏類8点、甕類5点）、土師器片14点（坏・高台付坏類1点、甕類13点）。竈前面とその東側を主体に散見される。遺物はすべて竈内あるいは覆土中のもので、すべて細片である。固化した遺物は竈内から確認されている高台付坏であるが、火熱を受けた痕跡はなく、住居跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見：遺物はすべて細片で、床面から確認できた遺物もないことから、明確に断定することはできなかった。しかし、埋土中の遺物は8世紀代のもが多く、また住居内に主柱を持たない新しい建物構造であるため、8世紀後葉頃と推測した。



第73図 第34号住居跡



第74図 第34号住居跡出土遺物

第34号住居跡 (表34)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
234	須恵器	高台付杯	[30.4]	7.4	[14.2]	黒色、白色、石英、小礫、針状紅物、黒色のセムロイド状の吹き出し	10G5/1緑灰色	体部内外面ロクロナデ/付高台、内外面ロクロナデ	4区1層 カマF2/4 No.1 No.3	30% PL59
235	須恵器	高台付杯	[30.4]	7.4	[14.2]	黒色、白色、石英、針状紅物、黒色のセムロイド状の吹き出し	10G5/1緑灰色	体部内外面ロクロナデ/付高台、内外面ロクロナデ	No.2 カマF3/4	5% PL59

## 第35号住居跡 (第75・76図、第35表、PL.22・59・60)

位置：E調査区F2グリッド、標高56.7m地点にある。

規模・平面形：長軸3.30m、短軸3.00mで方形を呈する。

主軸方向：N-92° - E

残存壁高：確認面から最大高44cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈前面から出入口ピット周辺部にかけてよく硬化している。

ピット：3箇所確認された。P1・P2は本跡に伴うものか否か明確にはできなかった。P3は出入口ピットと考えられる。P1：32×28cm、深さ50cm、P2：52×46cm、深さ26cm、P3：22×16cm、深さ16cmである。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量

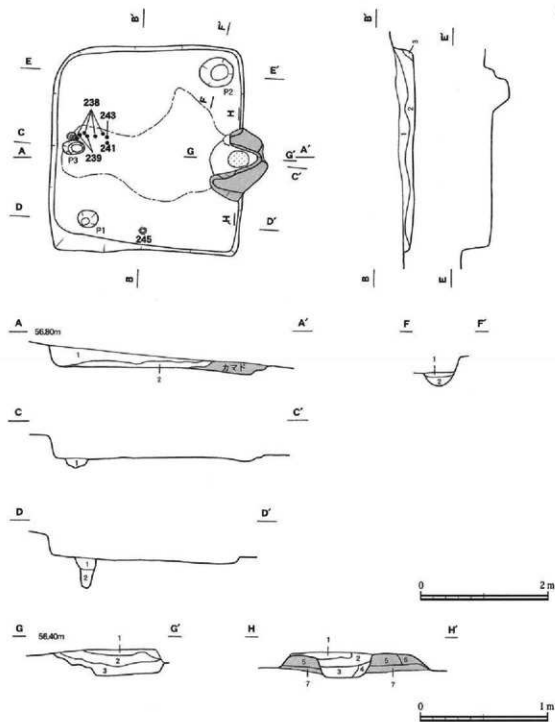
## P3土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

竈：東壁中央部からやや南寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは92cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部の最大幅は約104cmである。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ42cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。袖部の基部は、砂質粘土ブロックを多量に含む第7層である。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、塵溜バミス微量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック微量、炭化物微量
4. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子中量、焼土ブロック少量、粘性・締まりともに弱い
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
6. 暗褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
7. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり



第75図 第35号住居跡

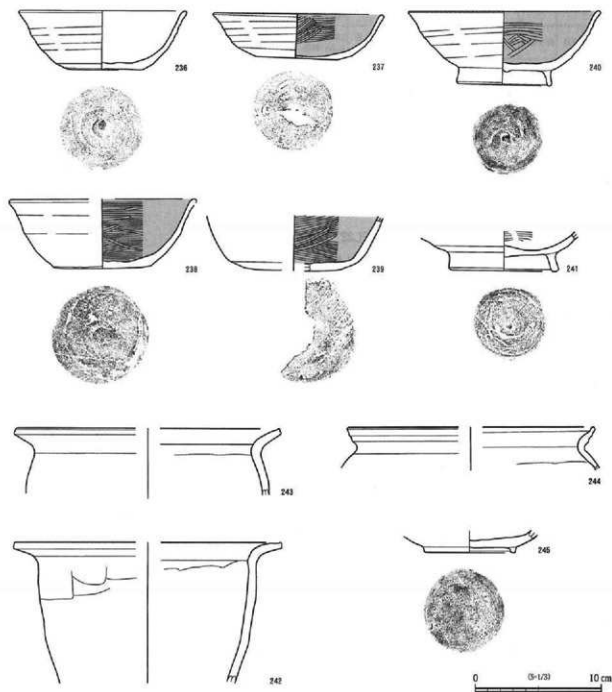
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層は壁部崩落土と考えられる。

土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロックブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量

遺物：須恵器片20点（坏・高台付坏類14点、蓋3点、甕類3点）、土師器片204点（坏・高台付坏類24点、甕類180点）、灰軸陶器1点（長頸瓶）。竈内から中央部にかけてと西壁周辺部からの出土が目立つが、特に床面直上から確認されたものはなかった。なお239の土師器坏は、埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。

所見：時期は、東壁に竈をもつ建物構造であることや出土遺物からみて9世紀後葉と考えられる。なお本跡のように東壁に竈をもつ住居跡は、当遺跡では本跡を含め7軒確認されている。時期は、8世紀代1軒、9世紀前半代1軒、9世紀後半～10世紀前半にかけて5軒であった。



第76図 第35号住居跡出土遺物

第35号住居跡 (表35)

番号	類別	径	口径	高さ	形状	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
226	須恵器	杯	134	4.8	6.3	黄母、赤瓦、小粒、針状炭屑 25YR5/6 明赤褐色	体部内外面ロクロナデ/底面削取ヘラ切り 段無調整/二次焼成・底面を中心した集 No.16	30% PL.59	
227	土師器	杯	136	3.5	6.3	白色、小粒、針状炭屑 25YR6/6褐色	体2/内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 底面黒色処理、外底ノコナデ/二次焼成 内面ヘラミガキ	No.5	98% PL.59
228	土師器	杯	(14.9)	5.6	7.8	黒色、白色、石英 5YR5/4 にぶい褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理/底面削取ヘラ切り後無調整	No.6 No.6 No.7 No.8	70% PL.60
229	土師器	杯	(4.5)	(7.4)	(7.4)	赤母、赤瓦、石英 5YR5/4 にぶい褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理/底面削取ヘラ切り後一部手 押らヘラミガキ	3R1層 No.5 No.6	30% PL.60
240	土師器	高台付杯	134	6.2	7.5	赤母、赤瓦、石英、針状炭屑 25Y.5/6 明赤褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理/底面削取ヘラミガキ/仕舞 台、内外面ロクロナデ/二次焼成	No.12	90% PL.60
241	土師器	高台付杯	(3.2)	(8.7)	(8.7)	赤母、赤瓦、白色、石英 25YR6/4 にぶい褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理/底面削取ヘラミガキ/仕舞 台、内外面ロクロナデ/二次焼成	No.9	25% PL.60
242	土師器	杯	(21.4)	(11.4)	(11.4)	赤母、赤瓦、白色、石英 5YR5/3 にぶい赤褐色	胴部外面ナデ、内面ヘラミガキ/口縁部内 外面ロクロナデ	No.2上層 4枚暫上	5% PL.60
243	土師器	杯	(21.2)	(5.3)	(5.3)	黄母、赤瓦、白色、石英 5Y.10/3 にぶい赤褐色	胴部外面ナデ、内面ヘラミガキ/口縁部内 外面ロクロナデ	No.9	5% PL.60
244	土師器	杯	(19.8)	(3.3)	(3.3)	赤母、赤瓦、白色、石英、針状炭屑 25Y.10/3 にぶい赤褐色	胴部外面ナデ、内面ヘラミガキ/口縁部内 外面ロクロナデ/二次焼成	オヤマ3/4	5% PL.60
245	灰陶器	碗	(1.7)	7.2	7.2	黒色、石英 7.5YR5/2 灰白色	体部外面下層・底面削取ヘラミガキ/付 合ホ、内外面ロクロナデ/灰土肌表面ト 緑色塗	No.1	10% PL.60

## 第36号住居跡 (第77・78図、第36表、PL.22・61)

位置：E調査区D3グリッド、標高54.9m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかつたため、詳細は不明である。

軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-11°-Eと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

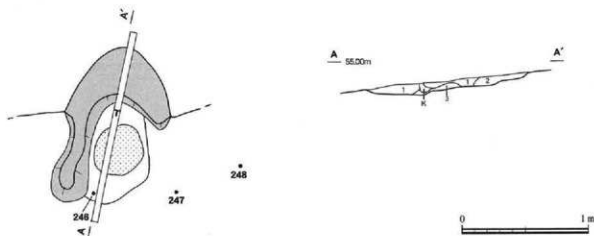
竈：径120前後の焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため、竈と判断した。火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。また、煙道部は壁外へ50cmほど削り出して造られている。

## 土層解説

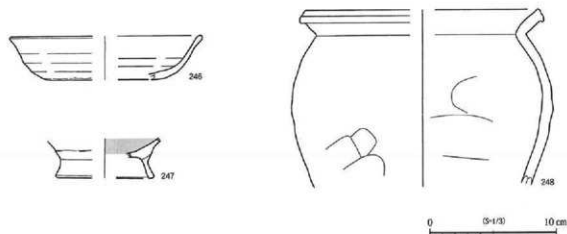
1. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量
2. 褐色 ロームブロック小量、ローム粒子少量、焼灰/バミス微粒
3. 暗赤褐色 焼土粒中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

遺物：須恵器片1点(杯・高台付杯類)、土師器片17点(杯・高台付杯類5点、甕類12点)。これらの遺物はすべて竈火床部出土の遺物で火熱を受けており、住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見：本跡の大半が削平されているため、十分に情報を得ることができず、時期も不明である。



第77図 第36号住居跡



第78図 第36号住居跡出土遺物

第36号住居跡 (表36)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
246	須恵器	坏	[15.2]	3.5	[9.4]	黄緑、黒色、白色、石英	SYR6/4 に、おい・褐色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後無調整	No.8	25% PL.61
247	土師器	高台付坏		(2.7)	(7.8)	黄緑、黒色、白色、石英	SYR6/4 に、おい・褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ後黒色処理/付高台、内外面ロクロナデ	No.18	5% PL.61
248	土師器	甕	[19.4]	(14.3)		黄緑、白色、石英	SYR6/3 に、おい・褐色	胴部外面ナデ、内面ヘラナデ/口縁部内外面コナデ	No.19	10% PL.61

## 第37号住居跡 (第79・80図、第37表、PL.23・61)

位置：E調査区E2グリッド、標高57.2m地点にある。

規模・平面形：大半を削平されているため、その規模及び形状は把握できなかった。

主軸方向：甕と北壁部からN-0°と推測した。

残存壁高：覆土の大半が削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：遺存部が少なく不明である。

ピット：遺存部からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：大半が削平され、火床面がほぼ露出した状態で北壁部から検出されたため、得られる情報は少なかったが、焚口部から煙道部までは96cmを測り、火床面はゴツゴツと赤変硬化しているのが一部認められた。なお、煙道部は壁外へ58cmほど削り出して造られている。

土層解説

1. じい赤褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子微量、埴まりあり
2. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
3. 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物微量、團沼ガミス少量
4. 橙褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

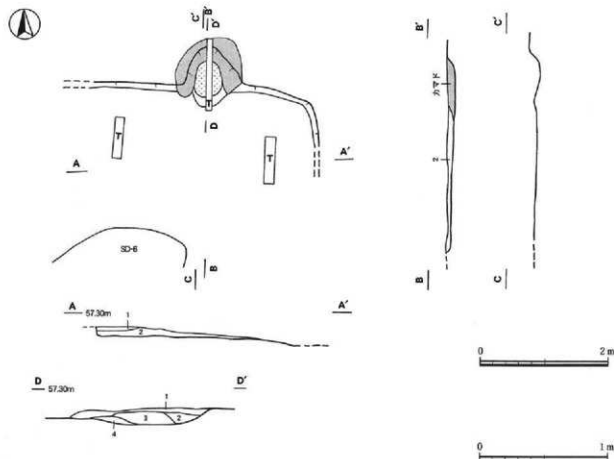
遺構埋没状態：覆土の層厚は薄く明確に把握することはできなかったが、遺存部はロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物少量

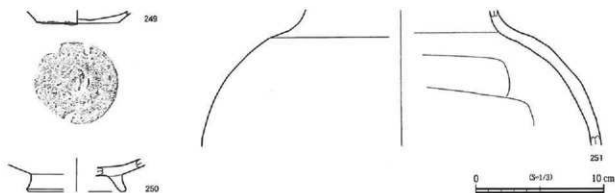
遺物：須恵器片59点（坏・高台付坏類54点、蓋1点、甕類4点）、土師器片107点（坏・高台付坏類28点、甕類79点）。竈前面とその東側を主体に確認されたが、床面から確認された遺物はなかった。

所見：本跡の大半が削平され、遺物も細片であるため、十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第79図 第37号住居跡





第80図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡 (表37)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
249	須恵器	坏		(1.1)	6.4	雲母、黒色、白色、石英、小礫	25YR6/6橙色	体部内外面ロクロナデ/底部圓転ヘラ切り後無調整	1E	20% PL61
250	土師器	高台付坏		(2.6)	[7.8]	雲母、石英、小礫	25YR6/6橙色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ/付高台、内外面ロクロナデ	4E	9% PL61
251	土師器	甕		11.1		砂粒、白色	5YR6/4にふい橙色	巻き上げ/内面ヘラナデ/外面ナデ一部ヘラナデ	No.1 2E 覆土	15% PL61

## 第38号住居跡 (第81図、第38表、PL61)

位置：E調査区F3グリッド、標高56.0m地点にある。

規模・平面形：調査中、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-3~7° - Eと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

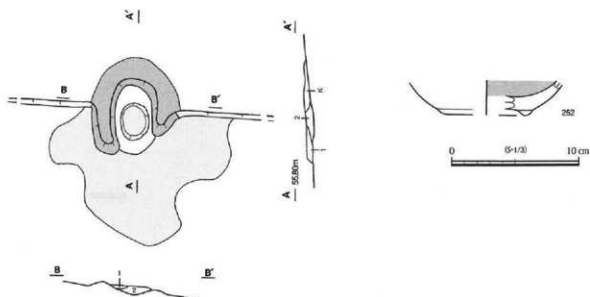
竈：径130cmの範囲で焼土が検出された。砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため竈と判断した。火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

## 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量、炭化粒子微量、締まりあり
- 2 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い

遺物：土師器片3点(坏・高台付坏類2点、甕類1点)。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物である。また細片が多く、図化できた遺物は1点のみである。

所見：本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため、十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第81図 第38号住居跡・出土遺物

第38号住居跡(表38)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
252	土師器	高台付杯		(27)	[7.5]	黄母	25YR5/4 にふい赤褐色	外部内外面ロクロナダ、内面ヘラミゼキ 後黒色処理/付高台、内外面ロクロナダ、 高台欠損後摩って成形し再利用	カマド裏土	5% PL61

#### 第40号住居跡(第82・83図、第39表、PL23・24・61・62)

位置：F調査区D4グリッド、標高52.0m地点にある。

規模・平面形：長軸3.84m、短軸3.44mで長方形を呈する。

主軸方向：N-38°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：本跡は横断するように試掘トレンチによって壊されているが、遺存部はほぼ平坦で、竈前面部から住居中心部にかけて硬化している。また床面全体には砂質粘土ブロックが散在していた。

ピット：床面からは支柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは112cmである。袖部は比較的良好に遺存しており、内壁は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約90cmである。火床部は床面から5cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ66cmほど削り出して遣られ、火床部から外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、締まりあり
2. 褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
3. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭化粒子微量
4. 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い
5. 赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まりあり

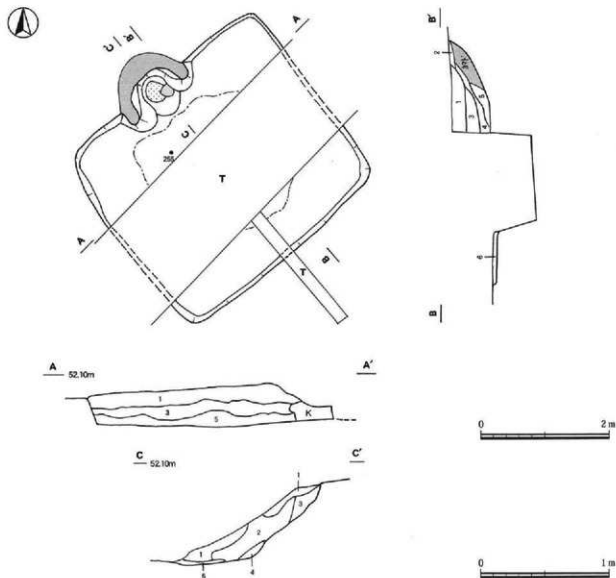
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第5・6層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

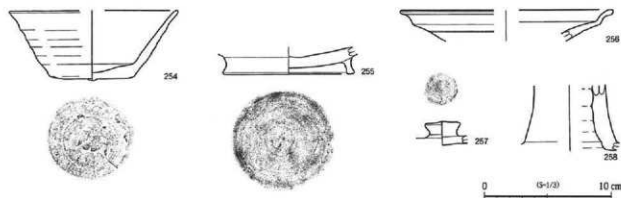
1. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、甕沼バミス微量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、甕沼バミスブロック少量
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量
5. 灰褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量、総まり弱い
6. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量

遺物：須恵器片143点（坏・高台付坏類102点、蓋6点、盤8点、甕類27点）、土師器片118点（坏・高台付坏類10点、甕類108点）。住居廃絶後に投棄されたと推測される遺物が多く、大半が甕や床面に散在した砂質粘土ブロックの上から確認されている。なお、共膳具は須恵器製品で占めるが、煮炊具には土師器製品が多く、須恵器製品は客体的である。

所見：出土遺物は、住居廃絶後に投棄あるいは堀土中に混入したものであるため、明確な時期の特定には至らなかったが、遺物は主に9世紀中葉に比定されるものである。



第82図 第40号住居跡



第83図 第40号住居跡出土遺物

第40号住居跡 (表39)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色黄	手法の特徴ほか	出土位置	備考
254	須恵器	杯	[13.4]	5.6	6.6	石英、小礫	25GY5/1 オリーフ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後無調整	4E1層	30% PL61
255	須恵器	壺	(2.2)	10.4		白色、石英、小礫	5G4/1 暗緑灰色	底面内外面ロクロナデ、底部回転ヘラクスリ/付高台、内外面ロクロナデ	No.2	20% PL62
256	須恵器	壺	[16.8]	(2.5)		白色、石英、小礫	25GY5/1 オリーフ灰色	体部内外面ロクロナデ、外面ヘラ痕が沈線状に遺存	4E1層 4E2層	20%
257	須恵器	蓋	(1.8)			黒色、白色、石英、針状鉱物	10GY6/1 緑灰色	内外面ロクロナデ、つまみ部添付	4E1層	3%
258	須恵器	瓶	(5.2)			黒色、白色、黒色のセルロイド状の吹き出し	5DK6/1 青灰色	内外面ロクロナデ	1E1層	3% PL62

第41号住居跡 (第84・85図、第40表、PL24・62・63)

位置：F調査区E5グリッド、標高47.8m地点にある。

規模・平面形：本跡東部は削平されており明確に把握することはできなかったが、当集落跡の住居跡形態からみて、長軸 [4.20] m、短軸4.00mで方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-28° - W

残存壁高：遺存部では確認面から最大高34cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：北東隅で一部確認され、幅20～42cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ平坦で、竈前部から南壁際の範囲でよく硬化している。

ピット：床面からは支柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁部にあったものと推測されるが、後世の攪乱により壊されたものと考えられる。

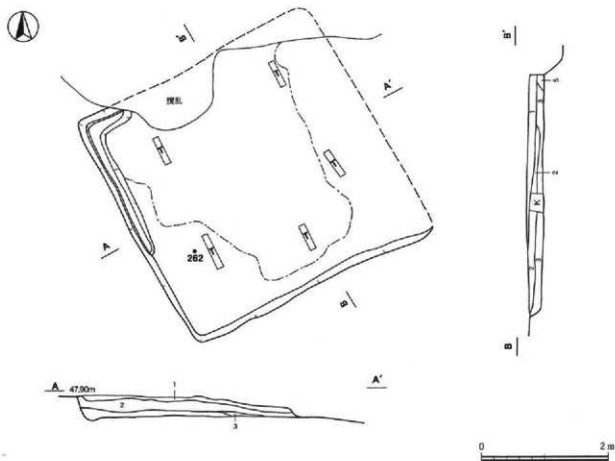
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第5層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

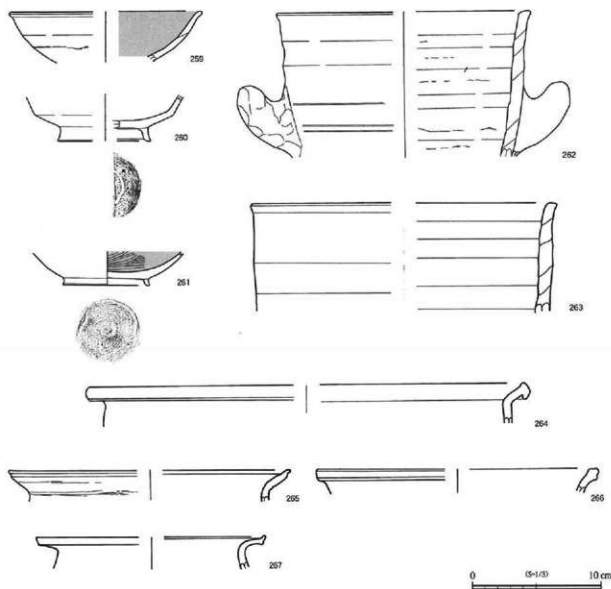
- |       |  |
|-------|--|
| 1. 地色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、鹿沼バミス少量                |
| 2. 地色 | ロームブロック中量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック少量            |
| 3. 地色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量                 |
| 4. 地色 | ロームブロック少量、炭化物少量                          |
| 5. 地色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量、粘性弱い |

遺物：須恵器片84点（坏・高台付坏類52点、蓋1点、盤1点、甕類30点）、土師器片209点（坏・高台付坏類26点、甕類182点、甌1点）。床面から確認された遺物はなく、すべて覆土中からのものであり、埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。262須恵器甌は中央部やや西寄りから出土したが、接合関係にある破片はなく、投棄されたものであろう。

所見：遺物はすべて住居跡廃絶後の埋め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものであるが、大半が9世紀後葉に比定される遺物であることや、床面に主柱をもたない建物構造であることから、これらの遺物とはほぼ同時期と推測される。



第84図 第41号住居跡



第 85 図 第 41 号住居跡出土遺物

第41号住居跡 (表40)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
259	土師器	坏	[15.2]	(4.2)		黄緑、黒色、 白色、石英、 針状磁物	25YR6/6褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理、体部外面下端ヘラケズリ	3区覆土	5% PL62
260	須恵器	高台付坏		(3.9)	[7.4]	黒色、白色、 石英、小礫	10Y4/2 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ/付高台、内外面ロクロナデ	覆土	30% PL62
261	土師器	高台付坏		(2.8)	6.8	黄緑、白色、 石英、小礫、 針状磁物	5YR6/6褐色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理、体部外面下端ヘラケズリ/ 底部回転ヘラケズリ/付高台、内外面 ロクロナデ	覆土	40%
262	須恵器	瓶	[20.0]	(12.0)		白色、石英、 小礫、針状磁 物	5B6/1 青灰色	胴部輪積み、内外面ロクロナデ/把手接 合	No.1 4区覆土	10% PL62
263	須恵器	瓶	[24.4]	(9.0)		白色、石英、 小礫、針状磁 物	10G4/1 緑緑灰色	胴部輪積み、内外面ロクロナデ	2区覆土	5% PL63
264	須恵器	壺	[34.6]	(3.2)		白色	5R3/1 暗紫灰色	胴部・口縁部内外面ロクロナデ、胴部外 面タキ肌	4区覆土	5% PL63
265	土師器	壺	[22.4]	(2.5)		砂粒	5YR6/6褐色	胴部・口縁部輪積み、内外面ロクロナデ	4区覆土	5% PL63
266	須恵器	壺	[21.8]	(2.0)		白色	10B64/1 暗紫灰色	胴部・口縁部ロクロナデ、口縁部内外 面及び口唇部回転ヘラナデ	4区覆土	5% PL63
267	土師器	壺	[18.4]	(2.8)		砂粒、雲母	5YR5/6 明赤褐色	胴部内外面ヘラナデ/口縁部ロクロナデ	3区覆土	5% PL63

## 第42号住居跡（第86・87図、第41表、Pt.24・25・63・64）

位置：B調査区F2グリッド、標高58.4m地点にある。

規模・平面形：住居跡東部が削平されているため明確な判断はできなかったが、床部の硬化した範囲と遺存した壁部の状態から長軸4.56m、短軸4.50mで方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-17°-W

残存壁高：確認面から最大高14cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈周辺から中央部にかけてよく硬化し、また中央部に火熱を受けた面が確認された。なお、床面中央部を中心に住居の上層構築材と考えられる炭化材が広がっている。

ピット：床面からは、主柱穴、出人Lピットともに検出されていない。

竈：北壁部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは（140）cmである。また、覆土の最下層である第8層を除き、焼土ブロックや砂質粘土ブロック土等の含有物は見当たらなかった。以上から、竈廃棄時に崩落した竈構築材を排除していたとしか考えられず、天井部の崩落上等も確認されなかった。なお、覆土第7層には多量の炭化物が含まれているが、層的に住居焼失時の産物と推測される。また、袖部は比較的良好に遺存しており最大幅は約110cmを測り、内壁は被熱により赤変している。火床面は床面とはほぼ同レベルとなっており、赤変している。煙道部は壁外へ50cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 褐 色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、罌まりあり
2. 褐 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物微量
3. 褐色色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土粒子微量
4. 暗褐色色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子微量
5. 暗褐色色 ロームブロック少量、炭化物微量
6. 暗褐色色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量、砂質粘土粒子少量
7. 暗褐色色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭化物多量、炭化粒子少量
8. 暗赤褐色 炭化物中量、炭化粒子多量、焼土ブロック中量、焼土粒子少量、罌まりあり
9. 褐色色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

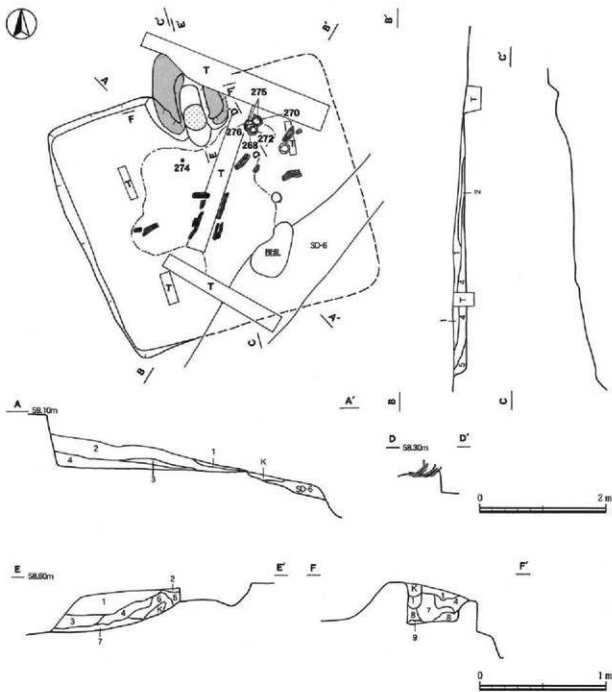
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示しているが、第4層には粘土ブロックや土層の柱材と考えられる炭化材が確認されており、本跡焼失時に落下した堆積層と考えられる。また第5層のロームブロックは壁部の崩落土と推測される。

## 土層解説

1. 褐色色 ローム粒子少量、焼泥バミス少量
2. 暗褐色色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼泥バミスブロック微量
3. 褐色色 ロームブロック少量、炭化粘土微量、焼泥バミスブロック少量、罌まりあり
4. 暗褐色色 ロームブロック少量、焼土ブロック中量、炭化材少量、炭化物少量、焼土ブロック中量、焼土粒子少量
5. 褐色色 ロームブロック中量、炭化物微量、炭化粒子少量

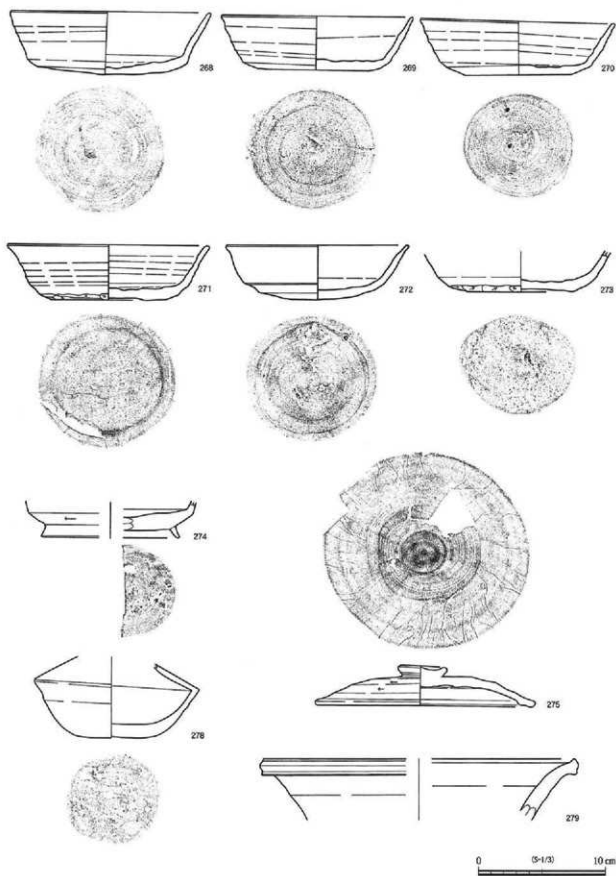
遺物：須恵器片63点（坏・高台付坏類38点、蓋5点、瓶1点、罌類19点）、土師器片82点（坏・高台付坏類3点、長頸瓶1点、壺類78点）。焼失住居であるため、多量の炭化材が床面から確認された。また掲載した遺物の中で完形に近い須恵器坏と蓋は、床上に積み重ねられた状態で出土していた。これらの遺物は、一部火熱を受けており、遺棄されたものである。

所見：焼失家屋である。時期は、遺棄された遺物からみて8世紀前半と考えられる。

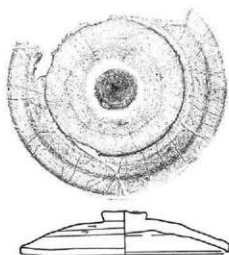


第 86 图 第 42 号住居跡

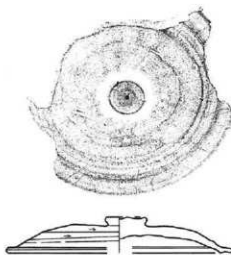




第 87 - 1 図 第 42 号住居跡出土遺物①



276



277

0 (9-1/8) 10 cm

第87-2図 第42号住居跡出土遺物②

第42号住居跡(表41)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
268	須恵器	坏	15.6	5.3	10.3	白色、小礫、針状鉱物、セルロイド状	25GY6/1 オリープ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ/口縁部や後が磨減	No.11	95% PL.63
269	須恵器	坏	15.2	4.5	9.6	白色、小礫、針状鉱物	75Y5/2 灰オリープ色	体部内外面ロクロナデ、体部下縁及び底部回転ヘラケズリ/口縁部内面磨り着	No.9	98% PL.63
270	須恵器	坏	15.2	4.7	8.4	白雲母、白色、セルロイド状	5GY6/1 オリープ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ後、回転ヘラケズリ	No.16-①	100% PL.63
271	須恵器	坏	15.6	4.7	8.4	雲母、白色、小礫、セルロイド状	5GY6/1 オリープ灰色	体部内外面ロクロナデ、体部下縁及び底部手持ちヘラケズリ	No.1	98% PL.63
272	須恵器	坏	14.2	4.5	8.8	白色、石英、小礫、セルロイド状	5GS/1緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部ヘラケズリ	No.10	98% PL.63
273	須恵器	坏	—	(3.3)	8.4	雲母、白色、赤褐色、小礫、セルロイド状	25GY5/1 オリープ灰色	体部内外面ロクロナデ、体部下縁手持ちヘラケズリ/底部回転ヘラケズリ後、手持ちヘラケズリ	No.15	60% PL.64
274	須恵器	高台付坏	—	(2.9)	(10.8)	白色、小礫、セルロイド状	10G4/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ/付高台、内外面ロクロナデ	No.6 1区	30% PL.64
275	須恵器	蓋	16.2	3.7	—	白色、小礫、セルロイド状	5R26/1 青灰色	体部外面回転ヘラケズリ、内面ロクロナデ/天骨部回転ヘラケズリ後ロクロナデ/つまみ部磨付	No.13 No.16-2	95% PL.64
276	須恵器	蓋	16.7	3.3	—	雲母、白色、赤色粒子、セルロイド状	5GY5/1 オリープ灰色	体部外面回転ヘラケズリ、内面ロクロナデ/天骨部回転ヘラケズリ後ロクロナデ/つまみ部磨付	No.12	85% PL.64
277	須恵器	蓋	(17.6)	2.9	—	雲母、白色、赤色粒子	25Y5/3 黄褐色	体部外面回転ヘラケズリ、内面ロクロナデ/天骨部回転ヘラケズリ後ロクロナデ/つまみ部磨付	覆土 1区 4区	75% PL.64
278	土器	壺	—	(6.6)	4.5	雲母、白色、赤褐色	5YR4/1 緑灰色	体部内外面ナデ	覆土 1区 4区	40% PL.64
279	須恵器	甕	(24.8)	(5.0)	—	黒色、白色、セルロイド状	10GS/1緑灰色	体部内外面ロクロナデ	1区	5% PL.64

## 第43号住居跡 (第88図、PL25)

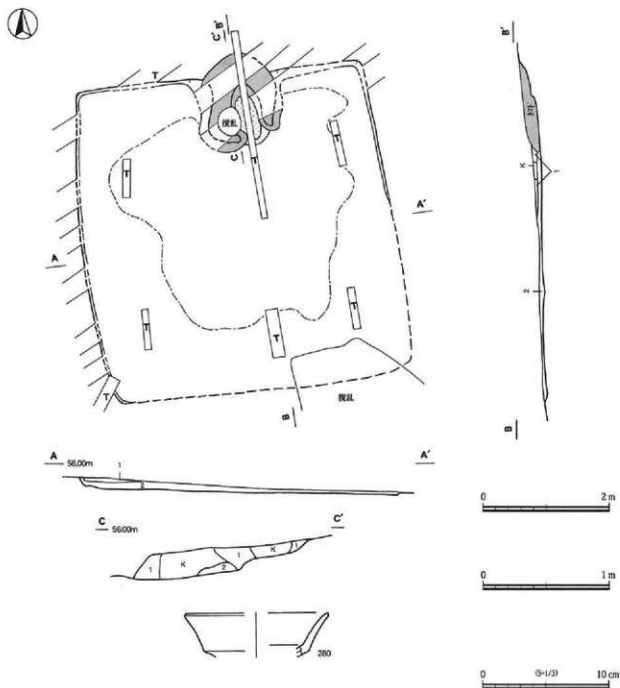
位置：E調査区E2グリッド、標高55.9m地点にある。

規模・平面形：耕作用トレンチャーによって破壊されており、また層厚が薄いため明確ではないが、遺存した床部の硬化面や壁部の状況から長軸5.06m、短軸4.86mで方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-6° - W

残存壁高：攪乱がひどく詳細は不明であるが、遺存部では確認面から最大高6cmを測る。

壁溝：検出されていない。



第88図 第43号住居跡・出土遺物

第43号住居跡（表42）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	粘土	色別	手法の特徴はか	出土位置	備考
280	須恵器	坏	〔14〕	〔35〕		白色、石英、小礫、片状磁鉄	25/5/1 細灰黄赤	体内外面ロクロナテ、体部下端部屈折ヘラウズリ	3区1層	5% PL66

床：ほぼ平坦で、竈周辺から中央部にかけてよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部やや東寄りであり、砂質粘土で構築されているが、耕作用トレンチャーにより壊され、判然としない部分が多かった。焚口部から煙道部までは約140cmほどであると推定されるが、煙道部もまた大きく破壊されている。袖部の最大幅は遺存した基部の最大幅が約126cmである。煙道部は壁外へ20cm以上は削り出して造られていたと推定され、火床部から煙道部へは一且段をなして緩やかに立ち上がる。

#### 土層解説

1. 褐色 炭化物多量、炭化粒子多量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
2. 灰褐色 砂質粘土ブロック少量、灰土ブロック少量

遺構埋没状態：攪乱や削平により遺存している土層は2層のみであるが、覆1に焼土粒子や炭化粒子が含まれており、人為的な埋没とみられる。

#### 土層解説

1. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、炭沼バミスブロック微量
2. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量、炭沼バミスブロック微量、粘性弱い

遺物：須恵器片11点（坏・高台付坏割6点、蓋2点、甕割3点）、土師器片11点（甕割）、鉄製品1点（不明）。耕作用トレンチャーによって破壊されており、また層厚が薄いため遺物も少なく、因化できた遺物は1点のみであった。280の須恵器坏は本跡北東部の覆土中から確認されたものである。

所見：覆土の大半が削平されており遺物も少ないため、時期を特定するには至らなかったが、当遺跡の特徴として、住居の主軸がほぼ北を示す大型住居は9世紀代が多い傾向にある点や、須恵器の坏の形状から、9世紀代と推測した。

#### 第44号住居跡（第89・90図、第43表、PL25・26・64～66）

位置：D調査区C4グリッド、標高57.0m地点にある。

重複関係：東部を第45号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：西部は調査区外にあり、東部は第45号住居跡に壊され、また掘乱がひどいため、その規模は把握できなかったが、遺存部の状況や当集落跡の住居跡形態からみて、北壁に竈が附設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

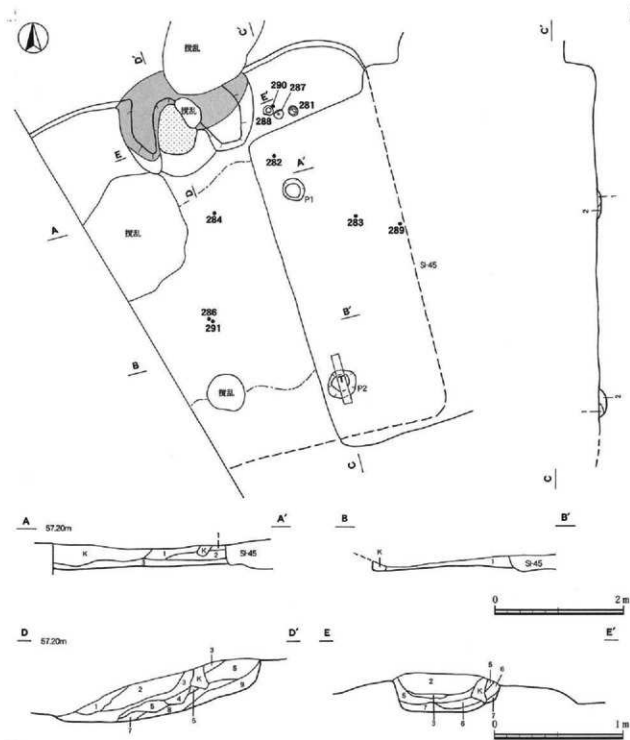
主軸方向：〔N-18°-W〕

残存壁高：確認面から最大高28cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

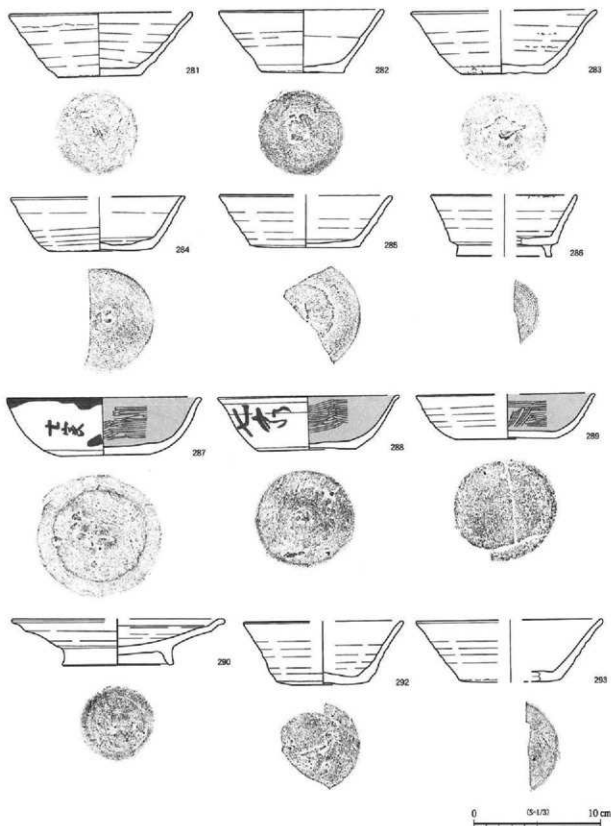
壁溝：検出されていない。

床：掘乱を受けていない本跡中央部では、ほぼ平坦で硬化している面が認められた。

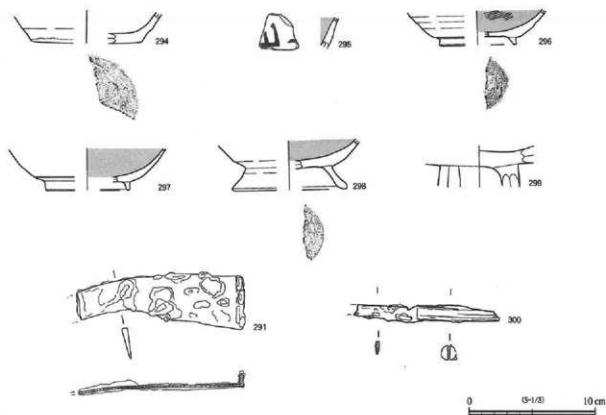
ピット：2箇所確認され、いずれも主柱穴と考えられる。P1：32×30cm、深さ8cm、P2：44×44cm、深さ12cmである。



第 89 図 第 44 号住居跡



第90-1図 第44号住居跡出土遺物①



第90-2図 第44号住居跡出土遺物②

## P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化物少量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭沼バミスブロック少量

## P2土層解説

1. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

竈：北壁部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは164cmであるが、竈北東部は後世の擾乱により壊されている。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約206cmである。火床面は床面とほぼ同レベルにあり、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ20cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾し、最後にほぼ垂直に立ち上がる。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 炭化物多量、炭化粒子多量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
3. 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
5. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子ブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミスブロック少量、締まりあり
6. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミスブロック少量
7. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い
8. におひ褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い
9. 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量

遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、炭沼バミスブロック少量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量、粘性弱い

遺物：須臾器片29点（杯・高台付坏類17点、蓋2点、盤2点、甕頭8点）、土師器片61点（杯・高台付坏類7点、甕類54点）。第45号住居跡と重複しているため遺存部分は少なく、遺物は100点にも満たないが、完形に近い遺物が良好な状態で出土している。竈東側からは287・288の土師器杯がほぼ完形の状態で確認され、体外外面に墨書「七家」が認められた。ほかに覆土中からは鎌と刀子が出土しているが、これらの遺物は運め戻しの段階で投棄あるいは掘土中に混入したものである。

所見：本跡発掘後に第45号住居跡へと建て替えられており、第45号住居跡より若干古い段階の9世紀後半と考えられる。また土師器杯2点の体外外面からは墨書「七家」が記されている。

第44号住居跡（表43）

番号	遺物	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の概要ほか	出土位置	備考
281	須臾器	杯	14.6	5.2	6.5	白色、石英、小礫、黒色のセルロイド状の吹き出し	73Y5/2 オリーブ灰色	体外外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切り後、一部半持ちヘラズリ、底部ヘラ記号	No.3	100% PL64
282	須臾器	杯	13.2	5.2	6.5	黒色、片物、石英、小礫	5GY6/1 オリーブ灰色	体外外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切り後、オリーブ灰色	No.1 4区覆土	90% PL65
283	須臾器	杯	[14.8]	5.1	6.6	白色、石英、針状鉱物	5GY6/1 オリーブ灰色	体外外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切り後、一部半持ちヘラズリ、底部ヘラ記号	No.6	50% PL65
284	須臾器	杯	[13.9]	4.4	8.1	白色、石英、赤褐色、小礫、針状鉱物	5BG4/1 帯灰色	体外外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切り後、一部半持ちヘラズリ、底部ヘラ記号	No.10	50% PL65
285	須臾器	杯	[13.8]	4.2	[8.7]	白色、石英、赤褐色	5BG5/1 帯灰色	体外外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切り後、無墨書	K	20% PL65
286	須臾器	高台付杯	[11.6]	4.9	[7.6]	白色、小礫	5GQ5/1 黄灰色	体外外面ロクロナダ/口縁部内面縁付外/付高台、ロクロナダ	No.8	90% PL65
287	須臾器	杯	[12.8]	5.1	[7.3]	白色、石英、セルロイド状	5HG6/1 古灰色	体外外面ヘラズリ/底部回転ヘラ切り	6区覆土	30% PL65
290	須臾器	杯	[14.8]	5.0	[8.0]	赤色、白色、赤褐色、小礫、針状鉱物	5GY6/1 オリーブ灰色	体外外面ロクロナダ	3区1区覆土	20% PL66
294	須臾器	杯		[2.5]	[5.5]	白色、石英、小礫	5HG5/1 黄灰色	体外外面ヘラズリ/底部回転ヘラ切り、底ヘラ記号	2区2区覆土	5%
289	土師器	杯	15.6	4.7	7.2	長石、石英、小礫、赤色粘土、針状鉱物	5Y10/6褐色	体外外面ロクロナダ、内面ヘラミガキ後染色処理、体外外面墨書「七家」、底部下回転ヘラズリ/底部回転ヘラズリ	No.2	85% PL66
288	土師器	杯	14.6	4.4	7.8	長石、石英、赤褐色、針状鉱物	5YR6/6褐色	体外外面ロクロナダ、内面ヘラミガキ後染色処理、体外外面墨書「七家」/底部回転ヘラズリ	No.1	90% PL66
289	土師器	杯	[14.2]	3.6	8.0	黒色、白色、石英、小礫、針状鉱物	5YR5/6 赤褐色	体外外面ロクロナダ、内面ヘラミガキ後染色処理/底部回転ヘラズリ	No.7	50% PL66
295	土師器	杯		[2.7]		黄褐色、白色、赤褐色	2S Y R 6/6 褐色	体外外面墨書「七家」、内面染色処理	3区1区覆土	5% PL66
296	土師器	高台付杯		[6.0]	[2.8]	黄褐色、白色、小礫、針状鉱物	5YR6/6褐色	体外外面ロクロナダ、外周下回転ヘラズリ、内面ヘラミガキ後染色処理、底部回転ヘラズリ、付高台、ロクロナダ	2区2区覆土	25% PL66
297	土師器	高台付杯		[6.4]	[3.3]	黄褐色、白色、石英、石英、赤褐色	5YR7/4 にぶい褐色	体外外面ロクロナダ、内面ヘラミガキ後染色処理/付高台、ロクロナダ	5区	20% PL66
298	土師器	高台付杯		[9.0]	[5.0]	黄褐色、黒色、白色、石英	5YR5/4 にぶい赤褐色	体外外面ロクロナダ、内面ヘラミガキ後染色処理/付高台、ロクロナダ	覆土	30% PL67
290	須臾器	蓋	[17.0]	3.7	8.8	黒色、白色、石英、小礫	2NGY4/1 オリーブ灰色	体外外面ロクロナダ/底部回転ヘラ切り、底部ヘラ記号/付高台、ロクロナダ	No.1	60% PL66
299	須臾器	高蓋		[3.5]		黒色、赤褐色のセルロイド状の吹き出し	10HG6/1 黄灰色	内外面ロクロナダ/底にオリーブヘラで穿つ	1区2区覆土	5%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	器	出土位置	備考
291	鎌	[11.6]	3.9	0.2	41.2	鉄	万部は短状	No.8	PL65
300	刀子	13.5	1.2	0.3	14.3	鉄	全部に一部未経熟	5区	PL67



## 第45号住居跡（第91・92図、第44表、PL25・26・67・68）

位置：D調査区C4グリッド、標高57.0m地点にある。

重複関係：西部で第41号土坑を掘り込んでいる。

規模・平面形：長軸（5.44）m、短軸5.07mで方形もしくは長方形を早するものと推測される。

主軸方向：N-22°-W

残存壁高：確認面から最大高45cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈構築材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。また住居中心部がよく硬化している。

ピット：4箇所確認され、いずれも主柱穴と考えられる。P1：52×42cm、深さ66cm、P2：62×54cm、深さ64cm、P3：65×54cm、深さ72cm、P4：56×56cm、深さ52cmである。また、柱抜き取りの痕跡がすべてのピットから確認された。

## P1土層解説

1. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、締まりあり
2. 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量、締まりあり
3. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量（柱抜き取り痕）
5. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、締まりあり
6. 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量、締まりあり

## P2土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い（柱抜き取り痕）

## P3土層解説

1. 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
3. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い（柱抜き取り痕）

## P4土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
3. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い（柱抜き取り痕）

竈：北壁中央部やや東寄りであり、砂質粘土で構築されている。狭口部から燻道部までは129cmである。天井部は崩落しており、竈土断面図中、砂質粘土ブロックや粒子を比較的多量に含む第6層が崩落土と考えられる。袖部の最大幅は約200cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により変色している。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。燻道部は壁外へ94cmほど削り出しで造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

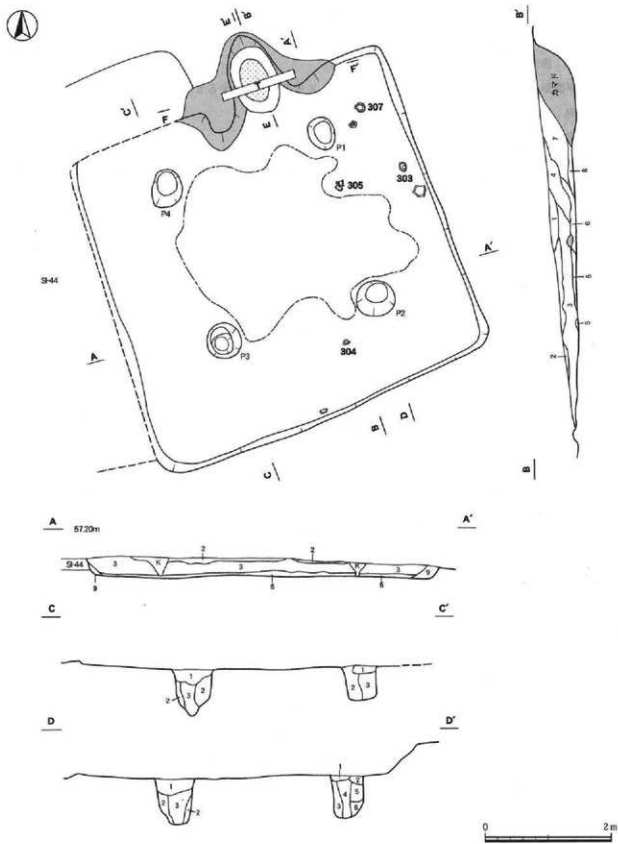
1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量
2. 暗褐色 炭化物少量、焼土粒子微量、炭沼バミスブロック少量
3. 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
5. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
6. 暗赤褐色 炭化物多量、炭化粒子多量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック中量、焼土粒子微量
7. 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
8. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
9. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い

遺構埋没状態：ロームブロック主体で覆土に焼土粒子や炭化粒子を含む人為的な堆積状態を示している。第

4・7層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

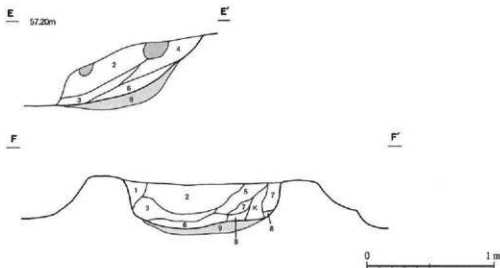
1. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
3. 灰褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、締まり弱い
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
5. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
6. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
7. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量
8. 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
9. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量



第91-1图 第45号住居跡①

遺物：須恵器片47点（坏・高台付坏類38点、蓋3点、盤2点、高盤2点、甕類2点）、土師器片146点（坏・高台付坏類22点、皿1点、甕類123点）、灰釉陶器1点（長頸瓶）。竈内と竈東側及び中央部やや東寄りを中心に散見される。床面直上から出土した遺物は304の須恵器坏で、中央部やや南寄りから伏せた状態で確認された。なお、底部にはヘラ記号が認められる。ほかの遺物は粗め戻しの段階で投棄あるいは埋土中に混入したものである。

所見：本跡は第44号住居跡を建て替えた住居である。また、本跡の廃絶時期は9世紀後葉に比定される第44号住居跡とさほど時期差がなく、遺物からは判断するのが困難であったため、土層の断面観察を主にし新旧を判断した。

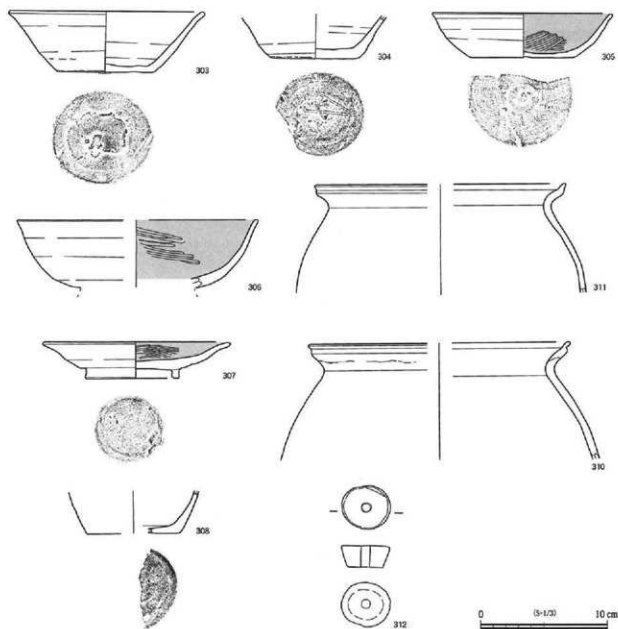


第91-2図 第45号住居跡②

第45号住居跡（表44）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
303	須恵器	坏	15.2	5.0	7.3	長石、石英、針状鉱物	7SY5/2 灰オリーブ色	体部内外面ロクロナデ、外面不明層着/底部回転ヘラ切り、作業台の圧痕あり	No.3	100% PL67
304	須恵器	坏		(3.6)	6.8	白色、石英、小礫	7SY6/3 オリーブ黄色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り、底部ヘラ記号	No.6	40% PL67
305	土師器	坏	(13.9)	3.7		霏母、白色、石英、小礫、針状鉱物	5YR6/6暗色	体部内外面ロクロナデ、外面下層回転ヘラズリ、内面ヘラミガキ後黒色処理/底部回転ヘラズリ	No.5	50% PL67
306	土師器	高台付坏	(18.6)	5.5		霏母、白色、石英、小礫	5YR7/4 にぶい暗色	体部内外面ロクロナデ、外面下層回転ヘラズリ、内面ヘラミガキ後黒色処理/付高台、ロクロナデ	3E	20% PL67
307	土師器	高台付坏	13.6	3.05	7.3	長石、石英、赤色靑子、針状鉱物	5YR5/6 暗赤褐色	体部内外面ロクロナデ、外面下層回転ヘラズリ、内面足込み平行・受部増位のヘラミガキ後黒色処理/付高台、ロクロナデ	No.1	85% PL67
308	須恵器	壺		(3.6)	(7.2)	白色、石英、小礫	5BG6/1 青灰色	胴部内外面ロクロナデ、内外面自然物/底部回転ヘラ切り	F1	10% PL67
310	土師器	甕	(20.2)	(9.9)		霏母、黒色、白色、石英、赤褐色	5YR4/6 赤褐色	胴部輪積み、内外面ナデ/胴部ココナデ/口縁部ココナデ	4E	10% PL67
311	土師器	甕	(19.4)	(9.9)		霏母、黒色、白色、石英、小礫	5YR5/4 にぶい赤褐色	胴部内面及び外面上部ヘラナデ、外面中下部ナデ/胴部内外面ココナデ/口縁部ココナデ	オマド覆土	10% PL68

番号	器種	径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
312	粘漆平	3.8	1.8	0.7	32.3	流紋岩	ていねいに磨って整形	No.8	



第92図 第45号住居跡出土遺物

第47号住居跡（第93図、PL46）

位置：D調査区C4グリッド、標高59.3m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-2~6° -Wと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

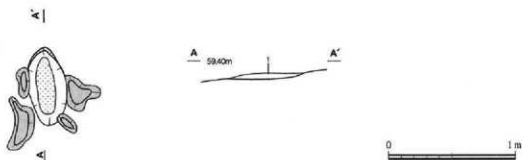
竈：径80cmほどの焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山に逆U字形の掘り込みが認められたため、竈と判断した。火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

土層解説

1. 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、糠まり弱い

遺物：須恵器片2点（坏・高台付坏類）、土師器片2点（甕類）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物であるが、細片のため図化できず掲載していない。

所見：本跡の大半が削平され、竈のみの調査であったため十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第93図 第47号住居跡

第48号住居跡（第94図、第45表、PL68）

位置：F調査区D4グリッド、標高52.4m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-3°-Wと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

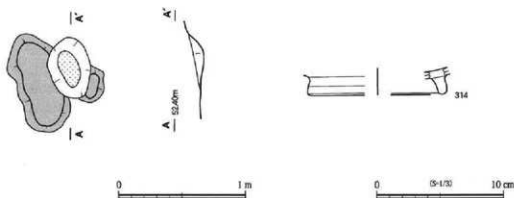
竈：径60cmほどの焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため竈と判断した。なお、火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

土層解説

1. 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、糠まり弱い

遺物：須恵器片9点（坏・高台付坏類3点、蓋1点、盤1点、甕類4点）、土師器片7点（甕類）。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物で、掲載した遺物は火床面から検出されたものである。

所見：本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第94図 第48号住居跡

第48号住居跡 (表45)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
314	須恵器	高台付坏		(22)	(106)	黒色・白色	10Y5/2 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/付高台、ロクロナデ	カマド	3% PL68

#### 第51号住居跡 (第95図、第46表、PL68)

位置：D調査区B3グリッド、標高627m地点にある。

規模・平面形：調査当初、火床面と砂質粘土ブロックの検出により住居跡の竈と断定したが、竈以外は確認できなかったため、詳細は不明である。

主軸方向：竈のみの判断によるため断定できないが、N-2~4° - Eと推測した。

残存壁高：削平されているため詳細は不明である。

壁溝：検出されていない。

床：検出されていない。

ピット：検出されていない。

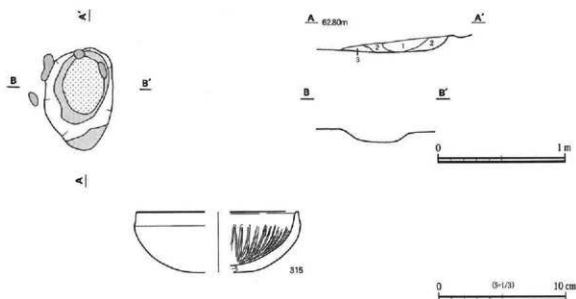
竈：径160cmほどの焼土が検出されたが、砂質粘土ブロックを含んでいることや地山の逆U字形の掘り込みが認められたため竈と判断した。なお、火床面と推測される面は赤変硬化しており、焼土のブロック化が認められた。

#### 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量
2. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、締まり弱い
3. 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い

遺物：土師器片6点 (坏・高台付坏類4点、甕類2点)。これらの遺物はすべて竈内出土の遺物で、掲載した遺物は火床面から検出されたものである。

所見：本跡の大半が削平され竈のみの調査であったため十分に情報を得ることができず、時期は不明である。



第95図 第51号住居跡・出土遺物

第51号住居跡 (表46)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
315	土師器	坏	[124]	4.8		雲母	5YR1/3 黒褐色	体部外面ヘラケズリ後ヘラナゲ、内面放射状ヘラミダキ/口縁部ヨコナデ	覆土	30% PL68

## 第52号住居跡 (第96・97図、第47表、PL68)

位置：D調査区C3グリッド、標高61.5m地点にある。

規模・平面形：本跡の東部は削平されており規模は明確に把握できなかったが、長軸 [3.60] m、短軸 [3.28] mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-42° -W

残存壁高：層厚が薄く詳細は不明であるが、遺存部では確認面から最大高10cmを測る。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、竈前面の住居中心部がよく硬化している。なお、北東部には砂質粘土ブロックや焼土が散在していた。

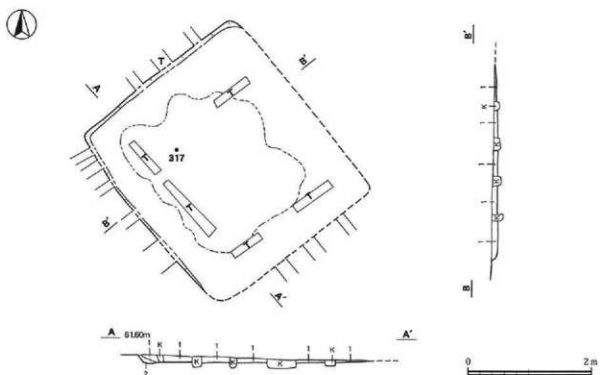
ピット：床面からは支柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：床面に広がる竈構茶材や焼土の範囲から、竈は北東壁部に附設されていたと推測されるが、耕作用トレンチャーにより壊されている。

遺構埋没状態：層厚が薄く明確に捉えることはできなかった。

## 土層解説

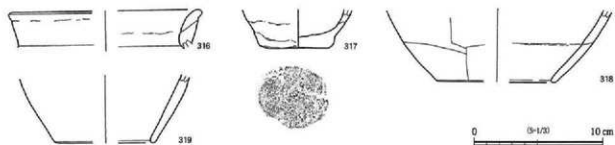
1. 暗褐色：ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量
2. 暗褐色：ロームブロック微量、炭化粒子微量



第96図 第52号住居跡

遺物：須恵器片12点（坏・高台付坏類4点、蓋4点、盤1点、甕類3点）、土師器片54点（坏・高台付坏類11点、甕3点、甕類40点）。耕作用トレンチャーによる攪乱を受けており、出土したこれら遺物が本跡に伴うものであるかどうかは判然としないが、床面からは317の土師器甕1点が確認された。その他はすべて覆土中から出土したものである。

所見：竈は耕作用トレンチャーにより壊されており、床面に広がる竈構築材や焼土の範囲から、竈は北東壁部に附設されていたと推測し、また床面の一部が硬化していることも併せ、住居と判断し調査を行った。なお、覆土の大半が削平されており遺物も少なく細片であるため、時期を特定するには至らなかった。



第97図 第52号住居跡出土遺物



第52号住居跡(表17)

番号	種類	形種	位置	高さ	底径	胎土	色産	手法の特徴ほか	出土位置	備考
316	土師器	甕	[152]	(15)		黄母、黒色、 白色、石灰 灰母、白色、 小礫、石灰	SYR4/6 に近い褐色	胴部輪轆み、肉外開コシナテ	1区	5% PL68
317	土師器	小形甕		(34)	4.8		SYR4/6 に近い白色	胴部輪轆み、内外開ナデ/底部ナデ・ 底ヘラナデ	N+1	20% PL68
318	土師器	甕		(6.5)	[84]	黄母、白色、 小礫、石灰	SYR4/6 に近い褐色	胴部外面輪轆ヘラナデ、内面輪轆・縁位 のヘラナデ、下拵部縁位ヘラナデ	1区	5% PL68
319	土師器	甕		(6.0)	[7.0]	黄母、白色、 小礫、石灰	SYR6/3 に近い白色	胴部外面輪轆・縁位のヘラナデ、下拵部縁位のヘラ ナデ、内面縁位のヘラナデ、下拵部ヘラナデ	カマド裏土	5% PL68

## 第53号住居跡(第98・99図、第48表、PI.27・28・68～70)

位置：D調査区C3、D3グリッド、標高61.9m地点にある。

規模・平面形：長軸6.60m、短軸6.00mで長方形を呈する。

主軸方向：N-35°-W

残存壁高：確認面から城人高60cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝：削平されている東部は不明であるが、その他は全周し、幅24～40cmで巡る。断面はじ字形である。

床：ほぼ平坦で、壁際を除く全域で硬化している。東壁寄りには焼土が固まって確認されたが、床面は火熱を受けておらず、住居跡廃絶時に投棄されたものと推測される。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入りピットと考えられる。P1：62×60cm、深さ76cm、P2：54×54cm、深さ68cm、P3：68×56cm、深さ66cm、P4：72×62cm、深さ42cm、P5：28×26cm、深さ12cmである。なお、P4で柱抜き取りの痕跡が、全てのピットで柱当たりの痕跡が確認された。

## P1土層解説

1. 褐色 romeブロック微量、rome粒子少量
2. 褐色 rome粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い

## P2土層解説

1. 褐色 romeブロック微量、rome粒子少量
2. 黒褐色 炭化粒子少量、炭化粒少量

## P3土層解説

1. 黒褐色 rome粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、粘性・締まりともに弱い
2. 褐色 rome粒子少量、炭化物微量

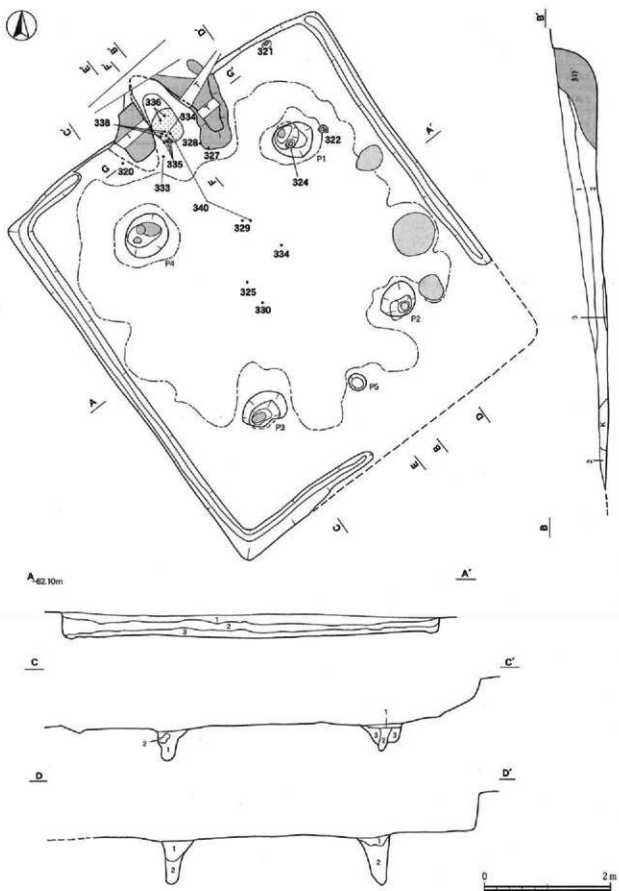
## P4土層解説

1. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒少量
2. 褐色 rome粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り灰)
3. 褐色 romeブロック微量、rome粒子少量

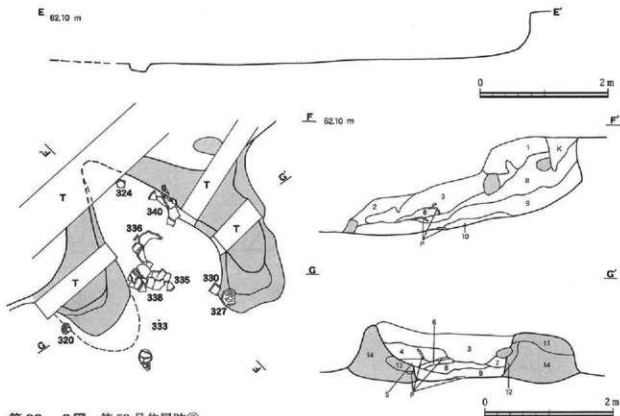
## P5土層解説

1. 褐色 rome粒子微量、炭化物微量、締まり弱い
2. 褐色 romeブロック微量、炭化粒少量、炭化粒微量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。薪作用トレンチャーによって壊されている部分があったが、焚口部から煙道部までは160cmと推測される。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第2・3層が崩落土と考えられる。また同様に砂質粘土ブロックを含む第7層は、内壁が崩落したものと推測される。袖部の最大幅は約180cmで比較的良好に遺存しており、内面は被熱により変色している。また袖部の基礎は粘土ブロックで構築されたもので、火床部は床面からわずかに張りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ74cmほど削り出して造られ、火床部からはほぼ垂直に立ち上がる。



第98-1图 第53号住居跡①



第98-2図 第53号住居跡②

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
2. 褐灰色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、砂質粘土ブロック少量
4. 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
5. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
6. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
7. 褐色 炭化粒微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
8. 黒褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量、砂質粘土ブロック少量
9. 暗赤褐色 ロームブロック微量、炭化物中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量
10. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子少量、焼土粒子少量、粘性・締まりともに弱い
11. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック中量
12. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
13. 褐灰色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、
14. 灰褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量、締まり弱い

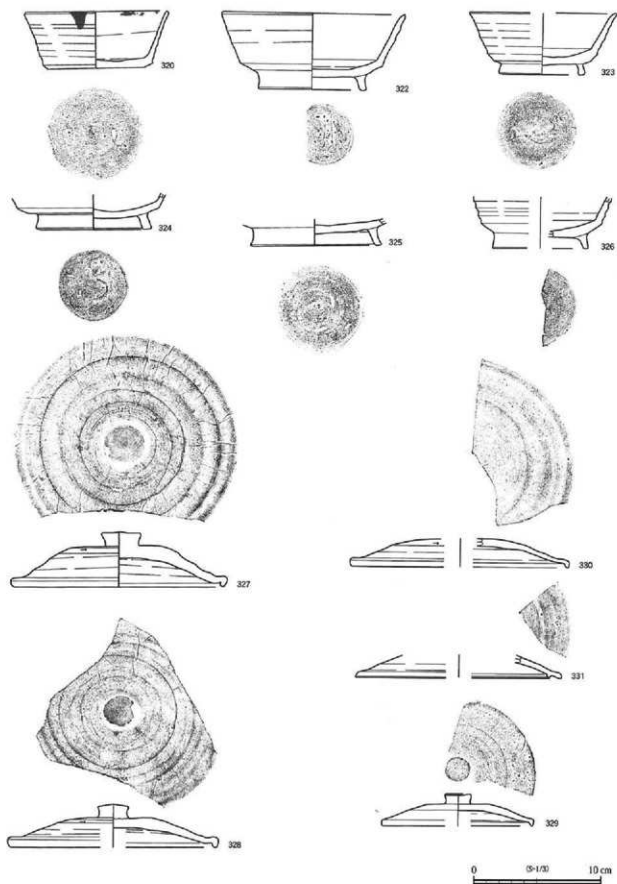
遺構埋没状態：覆土下層（第2・3層）はロームブロック主体の人為的な堆積状況を示しているが、覆土上層（第1層）は粒子が細かく均一な堆積状況を示しており、山頂側からの自然堆積である。

## 土層解説

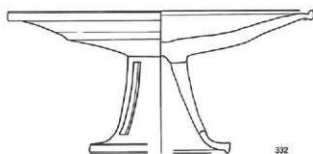
1. 褐色 ローム粒子微量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片243点（坏・高台付坏類90点、蓋55点、盤31点、高盤17点、甗1点、甗類49点）、土師器片585点（坏・高台付坏類7点、甗類578点）。竈内には遺棄された335・336の土師器甗に混じり投棄された324の須恵器坏、327の須恵器蓋が確認された。また竈天井部崩落後にも投棄された遺物が散見される。その他、住居跡全域に投棄あるいは遺棄された遺物が認められるが、特に中央部と竈東側に遺物が集中していた。なお、東壁周辺の床面には焼土塊が認められたが、床面は火熱を受けておらず、投棄されたものと考えられる。

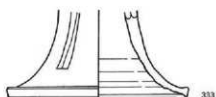
所見：竈内から大量の土器片が確認されたが大半は投棄されたもので、天井部崩落土の上にも須恵器坏や蓋が認められた。時期は遺物からみて8世紀中葉～後葉と考えられる。



第 99 - 1 图 第 53 号住居跡出土遺物①



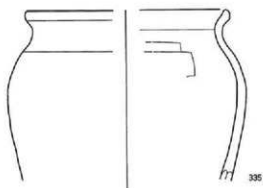
332



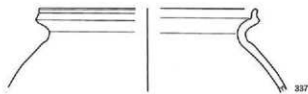
333



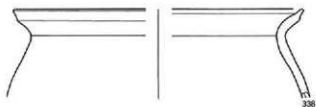
334



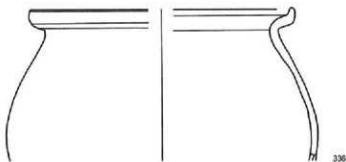
335



337



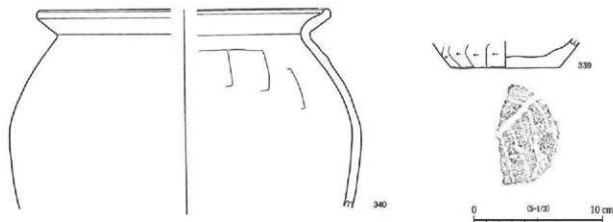
338



336

0 (5-1/3) 10 cm

第99-2図 第53号住居跡出土遺物②



第99-3図 第53号住居跡出土遺物③

第53号住居跡(表48)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
320	須恵器	坏	11.2	4.6	7.4	黒色、白色、石灰、小礫、黒色のセルロイド状の吹き出し	5G4/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/口縁部内外面焼付着、欠損部にも焼付着	No8	98% PL69
322	須恵器	高台付坏	14.1	6.3	8.3	白色、長石、小礫、針状鉱物	25GY5/1 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/口唇部磨光/底部回転ヘラケズリ/付高台、内外面ロクロナデ/底付も磨光	No2	80% PL69
323	須恵器	高台付坏	[11.4]	5.0	6.7	白色	5GY4/1暗 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ、底部ヘラ定号(二)付高台、内外面ロクロナデ	No2	50% PL69
324	須恵器	高台付坏		(2.8)	8.8	白色、小礫	10Y6/2 オリーブ灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ/付高台、内外面ロクロナデ	No3	40% PL68
325	須恵器	高台付坏		(2.2)	10.0	白色、小礫、針状鉱物	10BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ/付高台、内外面ロクロナデ	No11	20% PL68
326	須恵器	高台付坏		(4.2)	[7.4]	黒色、白色、小礫	10BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/付高台、内外面ロクロナデ	1区1層 4区1層	20%
327	須恵器	蓋	16.9	4.5		砂粒、黒色、白色、長石、小礫	5BG6/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ/つまみ部添付後ロクロナデ/体部内面ヘラ定号(一)内外面とも重ね焼きによる変色	No1	90% PL69
328	須恵器	蓋	[16.3]	3.5		黒色、白色、長石、石灰、針状鉱物	10BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ/つまみ部添付後ロクロナデ	No2	55% PL69
329	須恵器	蓋	[11.8]	2.6		白色、小礫	5BG6/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ/つまみ部添付	No9	25% PL69
330	須恵器	蓋	[17.0]	(2.3)		白色、石灰、小礫	5G4/1 暗緑灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ	No12	25% PL69
331	須恵器	蓋	[16.8]	(1.7)		黒色、白色、石灰	10BG5/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ	掘方	5% PL69
332	須恵器	高盤	24.2	11.5	[11.2]	黒色、白色	5BG6/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/通しを4ヶ所へうで穿つ二枚焼成を受ける	カマド掘方	50% PL70
333	須恵器	高盤		(7.2)	14.0	黒色、白色、石灰	10BG6/1 青灰色	体部内外面ロクロナデ/通しを4ヶ所へうで穿つ	カマド掘方	20% PL70
334	須恵器	甕	[28.4]	(11.9)		砂粒、長石、石灰、小礫、針状鉱物	5BG4/1 暗青灰色	内外面ロクロナデ/胴部外面にへら先による除染	No10	5% PL70

番号	位置	形状	面積	高さ	土質	築造	丁法の特徴ほか	出土位置	備考	
335	土師器	茶	[162]	[136]		黒砂、白色 赤褐色、石灰、 小礫	5YR5/6 暗赤褐色	扉部内面ヘラナデ、外面ナデ/須恵器コ ナデ/口縁部ヨコナデ二次焼成を受ける	カマドNo10	20% PL70
336	土師器	黒	[210]	[124]		黒砂、白色 スロリア	5YR5/3 にぶい赤褐色	扉部内面ヘラナデ、外面ナデ/須恵器コ ナデ/口縁部ヨコナデ二次焼成を受ける	カマドNo10	20% PL70
337	土師器	茶	[172]	[66]		黒砂、白色 石灰	2.5YR6/6 赤褐色	扉部内面ヘラナデ、外面ナデ/須恵器コ ナデ/口縁部ヨコナデ	2区1層	10% PL70
338	土師器	黒	[258]	[72]		黒砂、白色 石灰、小礫	5YR4/4 にぶい赤褐色	扉部内面ヘラナデ、外面ナデ/須恵器コ ナデ/口縁部ヨコナデ	カマド遺方 カマド遺方	10% PL70
339	土師器	黒		[24]	[84]	黒色、白色 石灰、小礫	2.5YR4/6 赤褐色	扉部内面ナデ、外面ヨコナデ/灰土 塗地	カマド遺方	5% PL70
340	土師器	黒	[222]	[159]		黒砂、砂粒	5YR5/3 にぶい赤褐色	口縁部・扉部内外面ヨコナデ/扉部内面 ヘラナデ/外面ナデ	カマドNo8 10、1区1層	20% PL70

## 第55号住居跡(第100・101図、第49表、PL28・70)

位置：D調査区C3グリッド、標高62.8m地点にある。

規模・平面形：長軸 [350] m、短軸31.2mで長方形を呈する。

主軸方向：N-43° -W

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、貼り床が施されている。各壁コーナー部以外でよく硬化している。

ピット：床面からは、主柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部にあったと推測されるが、擾乱によって壊されており、竈構築材である砂質粘土ブロックが散在し、火床部の一部が確認されたに過ぎない。火床面は床面から14cmほど掘りくぼめた地点にあったが、擾乱により赤く硬化したブロック状の焼土が一部認められたに過ぎない。本跡土層断面図中、第5層が相当する。

## 土層解説

- 暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子少量、炭化物少量、粘り弱い(本跡土層断面図5層)

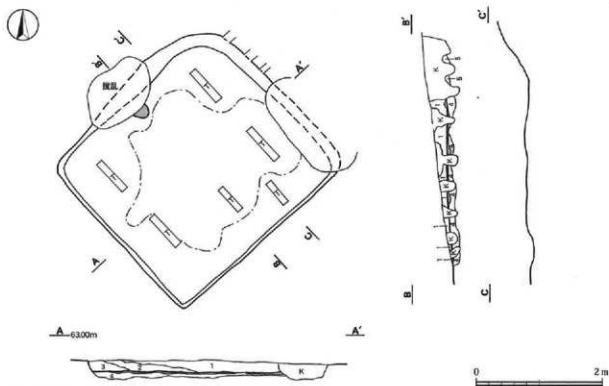
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な単層状況を示している。第3層のロームブロックは壁部の崩落とと考えられる。第4層は住居床下の堆積層で、ロームブロック主体であるが、一部焼土ブロックが混じっている層となっている。

## 土層解説

- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物少量
- 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
- 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック少量、粘土粒子少量、炭化物少量
- 灰褐色 ロームブロック中粒、焼土ブロック少量、炭化物少量、粘り弱い(掘り方)
- 暗赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、粘り弱い(不連続土層)

遺物：須恵器片42点(坏・高台付坏類26点、壺4点、高釜1点、甕類11点)、土師器片85点(坏・高台付坏類4点、甕類81点)。東部は削平されており覆土層も薄いので、遺物数は少なく、また耕作用トレンチャーで壊されているため大半が細片である。341の須恵器坏と342の須恵器長頸瓶は、いずれも覆土中から確認されており、埋め戻しの段階で投棄あるいは掘削中に混入したものである。

所見：耕作用トレンチャーによって遺物は細かく壊されているため時期は断定できないが、埋土中の須恵器坏片を見ると8世紀後半に比定されるものが大半を占めた。また、床土に主柱をもたない建物構造であることや、隣接する第18号住居跡と規模や構造、主軸方向が類似していることを併せて、時期は8世紀後半頃と推測した。



第100図 第55号住居跡



第101図 第55号住居跡出土遺物

第55号住居跡 (表49)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
341	須恵器	坏	[13.4]	4.9	[8.6]	雲母、黒色粒子、白色粒子	10GY7/1 明緑灰色	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ切り	2区覆土	15% PL70
342	須恵器	長圓瓶	[9.6]	[1.9]		赤粒	7.5GY6/1 緑灰色	内外面口クロナデ/底部回転ヘラ切り	2区1層	5%



## 第56号住居跡（第102・103図、第50表、P1.29・30・71・72）

位置：D調査区C3，D3グリッド、標高61.0m地点にある。

規模・平面形：長軸5.66m、短軸5.34mで方形を呈する。

主軸方向：N-30°-W

残存壁高：確認面から最大高64cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、産廃素材と推測される砂質の粘土塊が床面に残散していた。また、竈の前壁から住居中心部にかけて硬化している。

ピット：5箇所確認され、P1～P4は主柱穴でP5は出入口ピットと考えられる。P1：56×50cm、深さ52cm、P2：64×60cm、深さ68cm、P3：66×66cm、深さ70cm、P4：66×64cm、深さ44cm、P5：42×38cm、深さ12cmである。またP1～P3で柱抜き取りと柱当たりの痕跡が、P4では柱当たりの痕跡が認められた。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少し、炭化バミス微粉
2. 褐色 炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い（柱抜き取り後）
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化バミス微量
2. 暗褐色 ローム粒子微量（柱抜き取り後）
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い
4. 暗褐色 炭化物中量、炭化粒子中量、焼土粒子微量

## P3土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化バミス微粉
2. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、粘性・締まりともに強い（柱抜き取り後）
3. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、締まりあり

## P4土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量、締まりあり
3. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
4. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子少量、締まり弱い
5. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量

## P5土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは122cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを多量に含む第3・7層が崩落部と考えられる。袖部は良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約194cmである。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ74cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

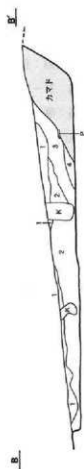
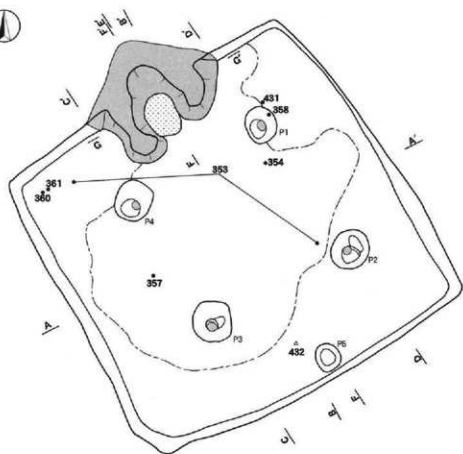
## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック中量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり
2. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、締まりあり
4. 黒褐色 炭化物中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
5. 暗褐色 炭化物少量、炭化物少量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
6. 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
7. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
8. 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量、粘性弱い

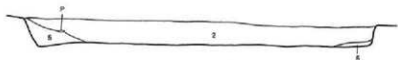
遺構埋没状況：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3・4層には産廃素材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

## 土層解説

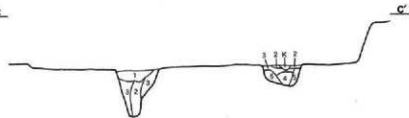
1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量
5. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子微量



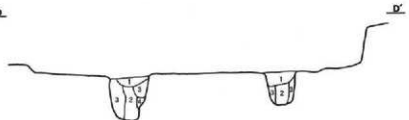
A 61.10m



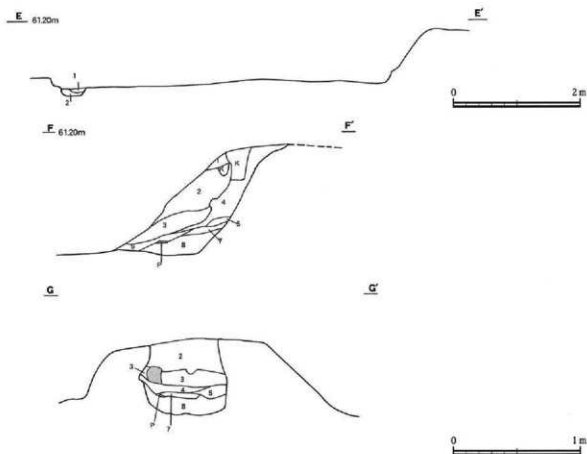
C



D



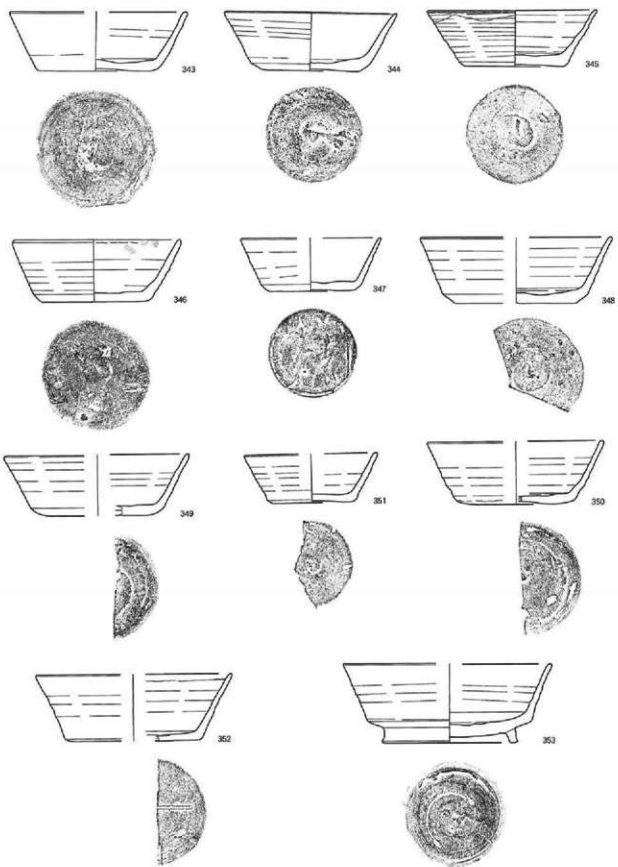
第102-1图 第56号住居跡①



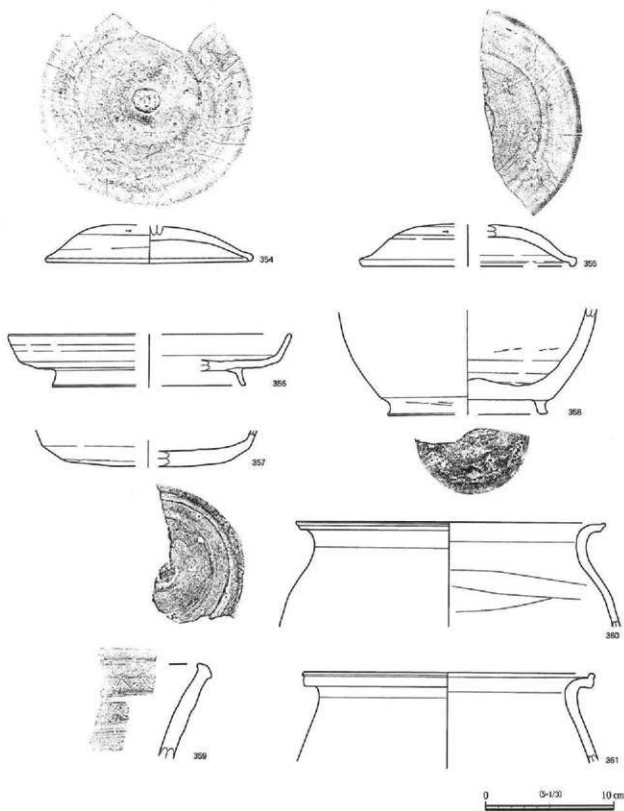
第 102 - 2 図 第 56 号住居跡②

遺物：須恵器片484点（坏・高台付坏類355点、蓋66点、盤16点、高盤4点、甕類43点）、土師器片221点（坏・高台付坏類17点、甕類204点）、石製品1点（砥石）。竈内のほか、床面一体から遺物が散見される。なお、床面や床面近くから遺物が多数認められるが、完形で出土した遺物はなく、また破片が接合して完形になる遺物も見当たらなかったため、住居廃絶後まもなく投棄された遺物が多いと推測される。投棄された353の須恵器高台付坏は中央部とP2付近及び竈西側から出土した破片が接合したものである。また竈内からは須恵器坏（349・352）が出土しているが、竈構築材である砂質粘土ブロック内から見つかったもので、火熱を受けた痕跡もないことから、竈を人為的に壊している最中に、遺物を投棄した可能性がある。

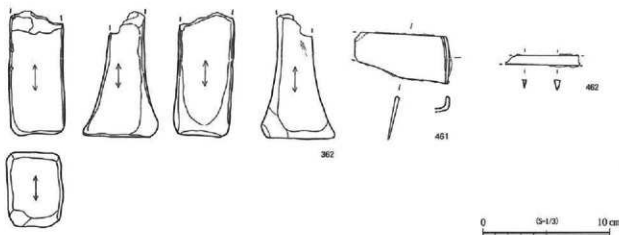
所見：時期は、廃絶後まもなく投棄された遺物から8世紀後葉と考えられる。なお、本跡周辺には、本跡も含め床上に4本の主柱をもつ比較的大型でしっかりとした造りの住居が目立ち、あたかも鬼高期の掘りの深いどっしりとした住居様式が引き継がれたかの印象を受ける。



第 103 - 1 図 第 56 号住居跡出土遺物①



第 103 - 2 図 第 56 号住居跡出土遺物②



第103-3図 第56号住居跡出土遺物③

第56号住居跡 (表50)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
343	須恵器	坏	[138]	4.7	8.7	白色粒子、小礫、針状鉱物	10G5/1 緑灰色	内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ(左)/底部ヘラ記号(二)	No.26	80% PL71
344	須恵器	坏	134	4.6	7.4	小礫、石英、針状鉱物	10G5/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後一部手持ちヘラケズリ	No.5 カマド裏土	80% PL71
345	須恵器	坏	131	4.5	7.6	小礫、石英	5G6/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後一部手持ちヘラケズリ/底部回転ヘラ切り/台座痕	No.6 3E	80% PL71
346	須恵器	坏	131	4.9	7.9	長石、石英	10G5/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り(右)	No.24	70% PL71
347	須恵器	坏	[108]	4.3	6.6	小礫、石英、針状鉱物、セルロイド状の吹き出し	10G5/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り	No.17	50% PL71
348	須恵器	坏	[149]	5.2	[9.4]	小礫、石英、セルロイド状の吹き出し	5D65/1 青灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り	1E	40% PL71
349	須恵器	坏	[144]	4.8	[8.0]	黒色粒子、白色粒子、石英	10GY6/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り	カマド裏ラタ土 内	40% PL71
350	須恵器	坏	[136]	5.0	[9.2]	黒色粒子、白色粒子、小礫	5GY6/1 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り	No.19	40% PL72
351	須恵器	坏	[104]	3.8	[6.0]	小礫、石英、黒色粒子、白色粒子	5D66/1 青灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後一部手持ちヘラケズリ	1E	40% PL71
352	須恵器	坏	[154]	5.3	[10.6]	石英、黒色粒子、白色粒子	5R65/1 青灰色	内外面ロクロナデ/底部手持ちヘラケズリ/底部ヘラ記号(-)	カマド裏ラタ土 内	20% PL71
353	須恵器	高台付坏	[161]	6.2	10.4	小礫、石英、針状鉱物	10G5/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ(右)/高台接合後周面にロクロナデ	No.11.29	60% PL72
354	須恵器	蓋	160	(3.1)		長石、石英、小礫、セルロイド状の吹き出し	10G5/1緑灰色	内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ(右)/つまみ添付後周面にロクロナデ	No.6	80% PL72
355	須恵器	蓋	[166]	(3.2)		小礫、黒色粒子、白色粒子、セルロイド状の吹き出し	5R66/1青灰色	内外面ロクロナデ/天井部回転ヘラケズリ(右)/つまみ添付後周面にロクロナデ	3E/ベルト1層	40% PL72
356	須恵器	盤	[21.8]	4.1	[14.8]	小礫、白色粒子、セルロイド状の吹き出し	5B G4/1暗青灰色	内外面ロクロナデ/高台接合後周面にロクロナデ	1E 1E1層 4E/ベルト1層	30%
357	須恵器	盤	(3.0)			小礫、石英、針状鉱物	10G5/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ(右)/高台接合後周面にロクロナデ/高台剥離後皿に転用	No.2.1	30%
358	須恵器	長頸瓶	(8.3)	[12.4]		小礫、白色粒子、セルロイド状の吹き出し	5B G4/1暗青灰色	内外面ロクロナデ/胴部下腹部回転ヘラケズリ(右)/高台接合後周面にロクロナデ	No.5 1E	20%
359	須恵器	蓋	(7.6)			白色粒子	5B G4/1暗青灰色	内外面ロクロナデ/外面に巻掛文(上に成文2単位、下に平行線文1単位)	1E1層 4E	5% PL72
360	土師器	甕	210	(8.5)		器母、白色粒子、小礫、石英	5Y R5/4 にぶい赤褐色	口縁部・腹部内外面ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ	No.31 4E1層 カマド裏ラタ土 内	15% PL72

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
361	土師器	甕	22.6	(7.8)		青母、白色脱子、赤褐色脱子、小礫、石	5YR5/4 にふい赤褐色	口縁部・器部内外面ヨコナテ/胴部内面ヘラナテ/外面ナデ (内面に押さえの圧痕)	No.31 1区1層	10% PL72

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
362	磁石	18.6	8.0	7.5	270	凝灰岩	支脚に転用か。	カマド覆土	

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
461	鎌	(7.2)	4.4	0.3	37.9	鉄	先端欠損/身はやや厚味がある	No.2	
462	刀子	(5.8)	(0.8)	0.25~ 0.4	4.4	鉄	両端欠損	No.13	

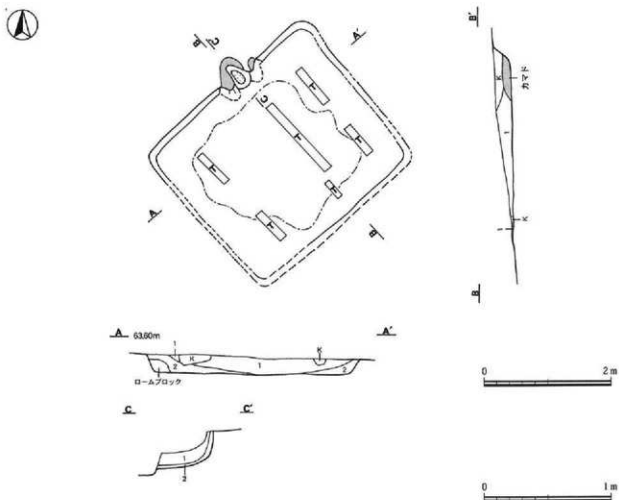
## 第57号住居跡 (第104・105図、第51表、PL30・72)

位置：D調査区C3グリッド、標高63.4m地点にある。

規模・平面形：長軸3.34m、短軸 [2.90] mで長方形を呈する。

主軸方向：N-42° -W

残存壁高：確認面から最大高18cmを測り、外傾して立ち上がる。



第104図 第57号住居跡

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：床面からは支柱穴、出入口ピットともに検出されていない。

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されているが、袖部は耕作用トレンチャーによって壊されている。また焚口部から煙道部までは〔70〕cmである。火床面は床面とほぼ同レベルの位置にあり、赤く硬化している。煙道部は壁外へ30cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、締まり弱い

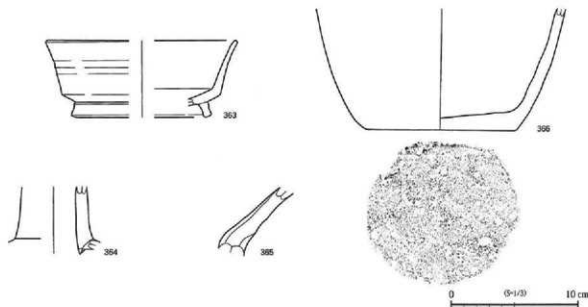
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化物微量、締まり弱い
2. 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量

遺物：須恵器片52点（坏・高台付坏類29点、蓋8点、盤5点、甕類10点）、土師器片117点（坏・高台付坏類7点、甕類110点）。耕作用トレンチャーによって遺物の大半が破壊されており、本跡に伴う遺物か否かは判然としなかった。

所見：遺物は耕作用トレンチャーによって碎かれ時期を特定することはできなかったが、覆土中の須恵器片の中には9世紀後葉に比定されるものが含まれていた。



第105図 第57号住居跡出土遺物



第57号住居跡(表51)

番号	層別	容積	口径	器高	底径	胎土	色調	丁法の形	築造はか	出土位置	検出率
363	灰層跡	高台付坑	[14.8]	6.1	[10.8]	白色粒子、小礫、芯土、針状炭粒	10DG4/1 黄灰色	内外面ロクロナデ/高台付食時に周りにロクロナデ		1区1型	10%
364	灰層跡	直列溝	(5.2)			黒色粒子、白色粒子、セルロイド状の吹き出し	5HG5/1 黄灰色	溝部遺存/ロクロナデ		1区1型	5% PL72
365	灰層跡	溝	(5.7)			白色粒子、小礫	3BC4/1 黄灰色	内外面ロクロナデ/外面に平行條筋文		覆土	3%
366	土層跡	溝	(9.6)	11.7		黒色、白色粒子、赤褐色粒子、石英	ZY26-3 に白い空色	内面ナデ/外面クズリ後ナデ		覆土	10%

## 第58号住居跡(第106・107図、第52表、PL30・31・73～75)

位置：D調査区D2、D3グリッド、標高61.0m地点にある。

重複関係：第60号住居跡を掘り込んでいる。

規模・平面形：長軸7.26m、短軸6.36mで長方形を呈する。

主軸方向：N-28°-W

残存壁高：確認面から最大高70cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝：削平された南壁を除きほぼ全周し、幅28～44cmで巡る。断面は逆台形状またはU字形である。

・検出されていない。

床：ほぼ平床で、本跡西部と中央部がよく硬化している。

ピット：4箇所確認され、いずれも主柱穴で、P1：76×48cm、深さ50cm、P2：60×56cm、深さ52cm、P3：100×72cm、深さ74cm、P4：60×52cm、深さ50cmである。なお、各主柱穴には柱抜き取りの痕跡が認められた。

## P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、黒沼バミス微量、締まり弱い
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量(柱抜き取り痕)
3. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)
3. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

## P3土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化物微量

## P4土層解説

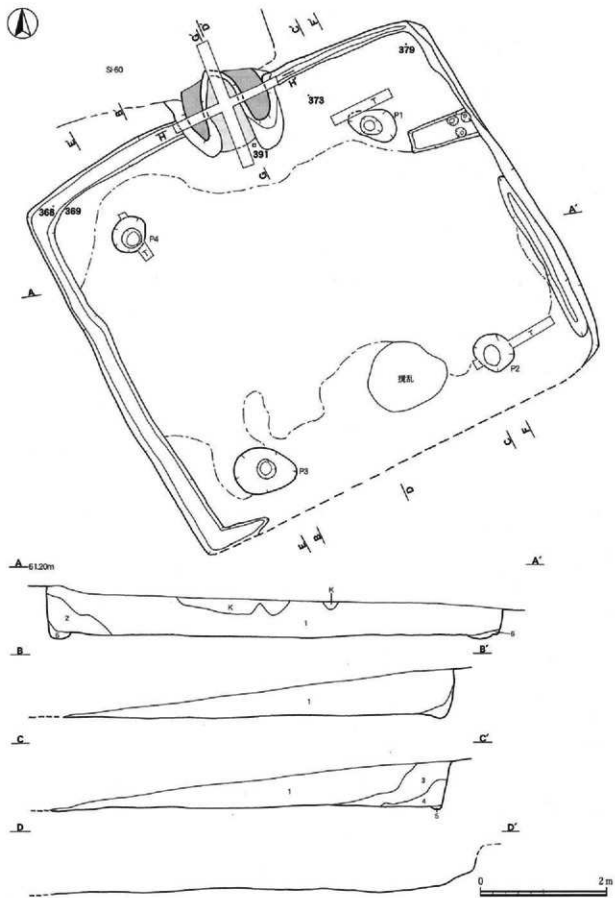
1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い(柱抜き取り痕)
2. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

竈：北壁中央部からやや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは132cmである。

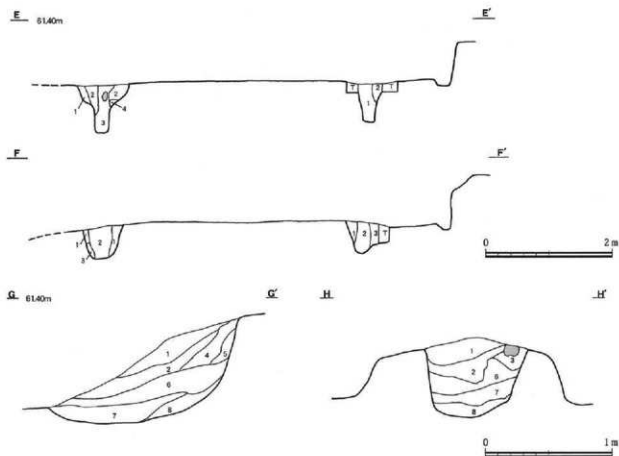
天井部は崩落しており、竈上層断面同中、砂質粘土ブロックや粒子を比較的多量に含む第3・4層が崩落すると考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約154cmである。火床部は床面から15cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ[80]cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

## 土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、締まり弱い
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量



第 106 - 1 图 第 58 号住居跡①



第106—2図 第58号住居跡②

- |         |  |
|---------|--|
| 4. 灰褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック中量、炭化物微量    |
| 5. 黒褐色  | 炭化物少量、炭化粒子中量、焼土粒子微量                            |
| 6. 暗赤褐色 | 炭化物少量、炭化粒子少量、焼土ブロック中量、焼土粒子少量                   |
| 7. 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化物微量、焼土ブロック少量                         |
| 8. 暗赤褐色 | ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、礫まり弱い |

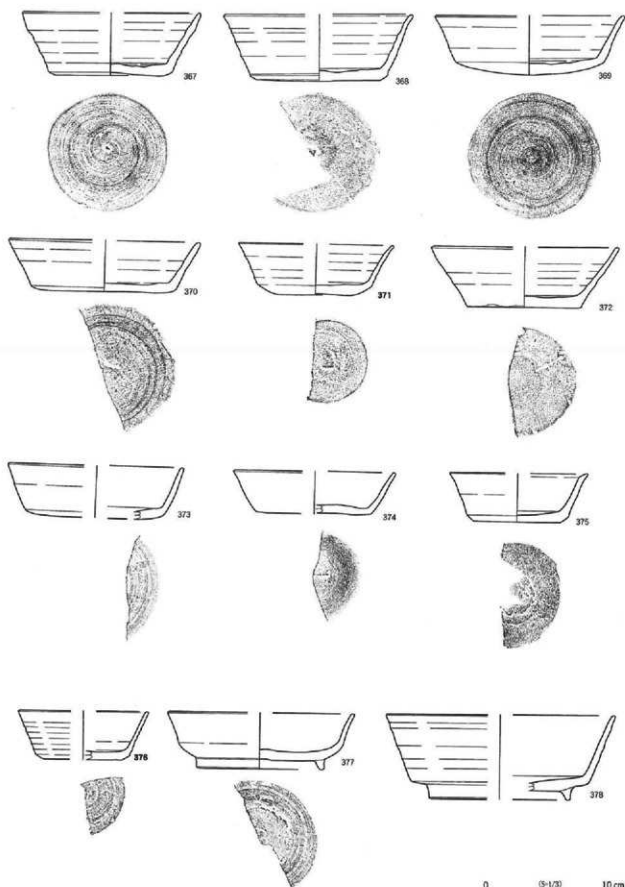
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。断面図中、第6層は壁溝の土層である。

## 土層解説

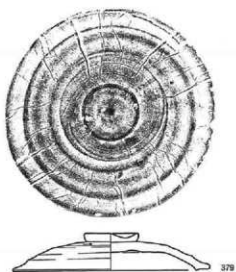
- |        |                            |
|--------|----------------------------|
| 1. 褐色  | ロームブロック中量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量 |
| 2. 褐色  | ロームブロック中量、炭化物微量、焼土ブロック微量   |
| 3. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量           |
| 4. 褐色  | ローム粒子少量                    |
| 5. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量、炭化粒子微量     |
| 6. 褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量           |

遺物：須恵器片432点（坏・高台付坏類306点、蓋79点、盤6点、高盤7点、甕類34点）、土師器片940点（坏・高台付坏類32点、甕類908点）、鉄製品1点（不明）、土製品1点（支脚）、石製品1点（紡錘車）。遺物の大半は埋め戻しの段階で投棄されたものと埋土中に混入していたものであるが、379の須恵器蓋は北東隅の床面から出土している。

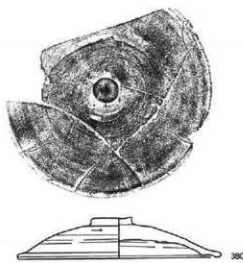
所見：7世紀代の様式を引き継ぐ大型住居である。遺物から住居廃絶時期は8世紀前葉と考えられるが、竈の使用頻度の高さからみても、長期間営まれた住居と推測される。



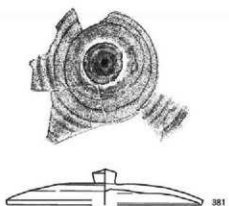
第 107 - 1 図 第 58 号住居跡出土遺物①



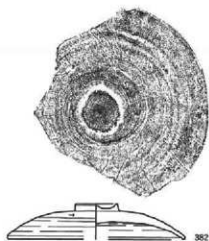
379



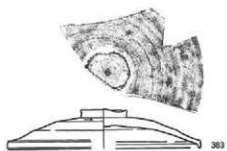
380



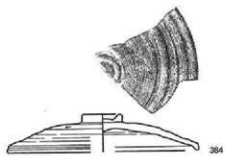
381



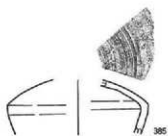
382



383



384



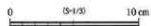
385



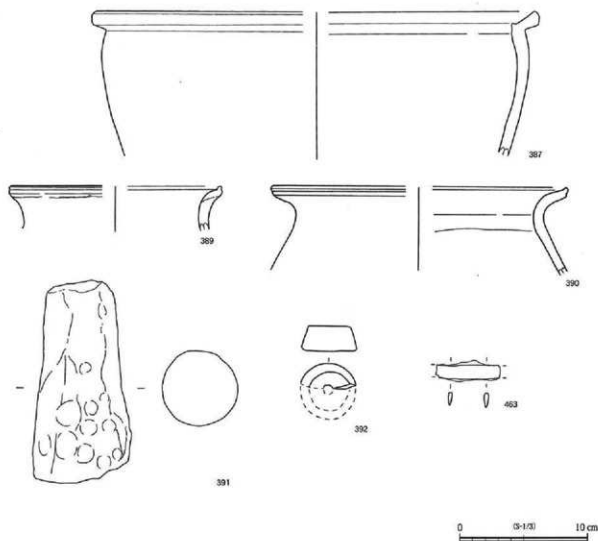
386



388



第 107 - 2 図 第 58 号住居跡出土遺物②



第107-3図 第58号住居跡出土遺物③

第58号住居跡(表52)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
367	須恵器	坏	[140]	5.1	8.2	黒色粒子、白色粒子	5B/G5/1 青灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り	4区1層 3区ベルト 4区ベルト	60% PL73
368	須恵器	坏	[144]	5.3	9.4	黒色粒子、白色粒子、小礫、針状鉱物	5D/G5/1 青灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ(左)	No.10	50% PL23
369	須恵器	坏	[146]	4.7	11.2	白色粒子	10G6/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ(右)	No.11 6区ベルト	30% PL73
370	須恵器	坏	[146]	4.1	[9.8]	黒色粒子、白色粒子	10T7/1 灰白色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ(右)	5区ベルト 4区1層 4区2層 3区ベルト覆土	30% PL73
371	須恵器	坏	[118]	4.0	[6.4]	黒色粒子、白色粒子、小礫	5B/G5/1 青灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ(左)	1区1層 2区ベルト覆土 6区2層 ベルト7区	30%
372	須恵器	坏	[144]	4.7	8.6	黒色粒子、白色粒子	25G6/1 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラケズリ(右)	5区1層	30% PL23

番号	群別	種別	口徑	高さ	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
373	須恵器	杯	[134]	42	[92]	白色粒子、小礫、針状灰物	25G6/1 灰白色	内外面についているコクロナデ底彫刻線ヘラズリ(右)	No4	30% PL73
374	須恵器	平	[124]	34	[88]	黒色粒子、白色粒子、セルロイド状の吹き出し	5G4/1 緑灰色	内外面リクロナデ/底彫刻線ヘラズリ	3E15 3E90 6E11群	30% PL73
375	須恵器	杯	[106]	39	6.5	黒色粒子、白色粒子、赤褐色粒子、石末	25GY7/1 オリーブ灰	内外面リクロナデ(内面は磨いていないが毛羽) / 底彫刻線ヘラズリ	ベルト7ア	40% PL73
376	須恵器	杯	[105]	39	[61]	白色粒子、石末	5G5/1 青灰色	内外面リクロナデ(内面に磨いていないが毛羽) / 底彫刻線ヘラズリ	3E11群	30% PL73
377	須恵器	高台付杯	[144]	44	[98]	黒色粒子、白色粒子、小礫、針状灰物、セルロイド状の吹き出し	5G5/1 青灰色	内外面リクロナデ/底彫刻線ヘラズリ	5E11群 6E11群	30% PL73
378	須恵器	高台付杯	[176]	66	[108]	白色粒子	5B4/1 青灰色	内外面リクロナデ/底彫刻線ヘラズリ(右) / 高台接合時に周囲にリクロナデ	6E11群	10%
379	須恵器	蓋	15.9	3.0		玉石、セルロイド状の吹き出し	bG Y6/1 オリーブ灰	内外面リクロナデ/天井部底彫刻ヘラズリ(右) / つまみ部付後縁部にリクロナデ / 口縁内面に凹凸したかまより/外面に発露時のきり傷/口縁外側に発露時の磨き傷	No1	100% PL74
380	須恵器	蓋	[159]	34		石英、石末、鉄屑	10GY7/1 緑灰色	内外面リクロナデ/天井部底彫刻ヘラズリ / つまみ部付後縁部はリクロナデ / 縁内面に凹凸したかまより/外面に発露時のきり傷 / 口縁外側に発露時の磨き傷	No9直上	70% PL74
381	須恵器	蓋	15.6	2.8		黒色粒子、白色粒子、小礫、針状灰物	10Y5/1 灰色	内外面リクロナデ/天井部底彫刻ヘラズリ(左) / つまみ部付後縁部にリクロナデ	3E11群	60% PL74
382	須恵器	蓋	[140]	2.8		黒色粒子、白色粒子、針状灰物	5B06/1 青灰色	内外面リクロナデ/天井部底彫刻ヘラズリ(右) / つまみ部付後縁部にリクロナデ	1E11群 1E2群	30% PL74
383	須恵器	蓋	[152]	3.2		黒色粒子、白色粒子、針状灰物	10GY6/1 緑灰色	内外面リクロナデ/天井部底彫刻ヘラズリ(右) / つまみ部付後縁部にリクロナデ	No2 ベルト7区	30% 4.7%
384	須恵器	蓋	[151]	3.0		黒色粒子、白色粒子、赤褐色粒子	75Y7/2 灰白色	内外面リクロナデ/天井部底彫刻ヘラズリ(左) / つまみ部付後縁部にリクロナデ	1E3群	30% PL74
385	須恵器	長頸瓶		(5.3)		黒色粒子、小礫、セルロイド状の吹き出し	10G6/1 緑灰色	内面リクロナデ/外面底彫刻ヘラズリ(上)	ベルト7区	0% PL74
386	須恵器	長頸瓶		(3.1)	(84)	黒色粒子、白色粒子	5G6/1 緑灰色	内面リクロナデ/外面底彫刻ヘラズリ(左) / 高台接合時に周囲にリクロナデ / 高台に付いた台の残存	6E11群	5% PL74
387	須恵器	蓋	[346]	(11.4)		白色粒子、小礫	6B4/1 青灰色	磨き上げ/磨き(外面磨き目、内面もて磨き) / 口縁部、須恵器リクロナデ	ホマド土	10% PL74
388	須恵器	蓋	[168]	(5.6)		白色粒子、小礫	5G28/1 灰白色	内外面リクロナデ	3E11群	10% PL74
389	土師器	壺	[164]	(3.2)		管母、白色粒子、石末、白色粒子、黒色粒子	25YR5/6 赤褐色	口縁部、須恵器内外面リクロナデ	2E11群	5% PL75
390	土師器	壺	[231]	(6.9)		白色粒子、小礫、黒色粒子	5YR5/4 いり赤褐色	口縁部、須恵器内外面リクロナデ/須恵器内外面リクロナデ/外面リクロナデ	3E11群	10% PL75

番号	群別	長さ(cm)	最大径(cm)	高さ(cm)	重量(g)	胎土	特徴	出土位置	備考
391	土師器	5.3	(7.7)	15.9	625	管母、小礫、黒色粒子、白色粒子	5YR5/6赤褐色/外面に粉微灰	No6	100% PL75

番号	群別	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
392	須恵器	[44]	2.0	[07]	221	泥岩	中央から欠損	6E11群	40% PL75

番号	群別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
463	土師器	4.9	1.7	0.3	5.3	紙	貫通欠損	直上	

第59号住居跡 (第108・109図、第53表、PL11・12・75)

位置：D調査区C3グリッド、標高63.4m地点にある。

重複関係：西部で第12号土坑を掘り込んでいる。

規模・平面形：耕作用トレンチャーによって壊され正確な規模は把握できなかったが、長軸4.00m、短軸〔3.80〕mで方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-40°-W

残存壁高：確認面から最大高24cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

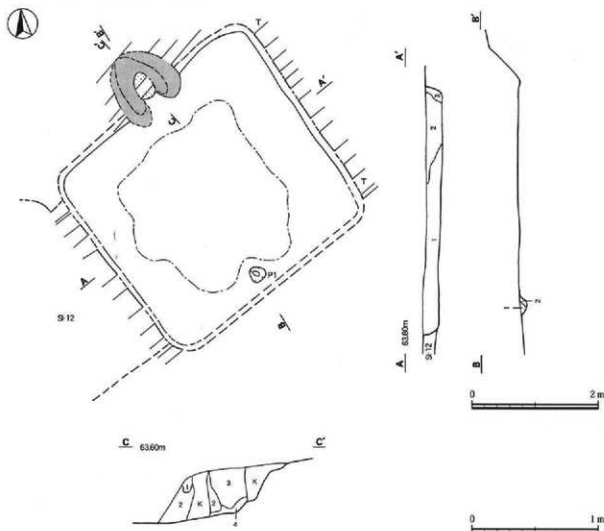
床：ほぼ平坦であったと推測されるが、攪乱によって壊され詳細は不明である。

ピット：1箇所確認され、出入口ピットと考えられる。P1：22×22cm、深さ11cmである。

P1土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、泥沼パリス微量、棒まり弱い
2. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

竈：北壁中央部やや東寄りにあり、砂質粘土で構築されている。耕作用トレンチャーにより大半が壊され、火床部と煙道部の一部が遺存しているのみである。火床面は床面とほぼ同レベルの位置にあったと推測され、その位置に焼土ブロックが多く認められた。煙道部は壁外へ〔70〕cmほど削り出して造られているが、攪乱により壊され規模や形状は不明である。



第108図 第59号住居跡



## 土層解説

1. 褐色 romeブロック中量、rome粒子少量
2. 暗褐色 romeブロック微量、rome粒子少量
3. 暗褐色 romeブロック微量、rome粒子少量、炭化粒子微量、粘性あり
4. 暗赤褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子

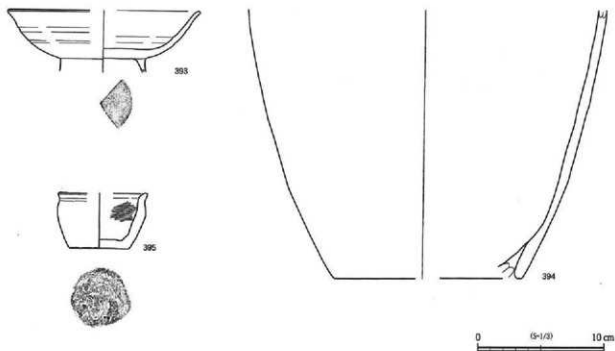
遺構埋没状態：romeブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認された。

## 土層解説

1. 褐色 rome粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量
2. 褐色 romeブロック中量、rome粒子少量
3. 褐色 romeブロック少量、砂質粘土ブロック少量

遺物：須恵器片16点（坏・高台付坏類8点、蓋3点、盤2点、甌2点、甕類1点）、土師器片24点（坏・高台付坏類8点、甕類16点）、ミニチュア土器1点。耕作用トレンチャーにより遺物は碎かれ、すべて細片である。393の土師器高台付坏は覆土中から、394の須恵器甌と395のミニチュア土器は竈内から出土している。

所見：本跡に伴う遺物がなく時期は特定できなかったが、遺物は9世紀中葉から10世紀前半に比定されるものと様々である。



第109図 第59号住居跡出土遺物

第59号住居跡（表53）

番号	種別	器様	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
393	土師器	高台付坏	(15.0)	(4.9)		雲母、赤褐色粒子	25YR5/6褐色	内外面ロクロナデ/外面体部下半回転ヘラケズリ/高台結合後周面にロクロナデ	覆土	20% PL75
394	須恵器	甌		(21.0)	(14.8)	雲母、長石、石英、小礫	25YR5/6褐色	内外高ナデ/底部はヘラ状工具により乳を穿つ	No. 3 カマド覆土	15% PL75
395	土師器	ミニチュア土器	(7.0)	4.4	5.6	雲母、白色粒子、石英、小礫	5YR5/4 におい、赤褐色	内面ヘラナデ・黒色処理/外面・底部ナデ	カマド覆土	50% PL75

第60号住居跡 (第110・111図、第54表、PL31・32・76)

位置：D調査区D2、D3グリッド、標高61.6m地点にある。

重複関係：南部で第58号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸4.78m、短軸4.20mで長方形を呈する。

主軸方向：N-15° W

残存壁高：確認面から最大高50cmを測り、外傾して立ち上がる。

敷溝：南壁際以外で確認でき、幅16～24cmで巡る。断面はU字形である。

床：ほぼ半畳で、竊得素材と推測される砂質の粘土塊が床面に飛散していた。また、壁際を除く全域がよく硬化している。

ビット：4箇所確認され、P1～P4は主柱穴で、P1：50×40cm、深さ46cm、P2：46×42cm、深さ22cm、P3：48×44cm、深さ56cm、P4：42×42cm、深さ42cmである。なお、P3で柱抜き取りの痕跡が認められた。

P1土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化バミス微量
2. 褐色 炭化物微量、炭化粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化バミス微量

P3土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量
2. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、粘性・粘りともに弱い(柱抜き取り痕)

P4土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭化粒子微量、粘りあり
3. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭化粒子微量

竈：北壁中央部東寄りであり、砂質粘土で構築されており、焚山部から煙道部までは130cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックや粒子を比較的多量に含む第5層が崩落土と考えられる。袖部は比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の最大幅は約150cmである。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ50cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化物微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物微量
5. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量、炭化物微量
6. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物微量
7. 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり、粘り弱い
8. 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性・粘りともに弱い

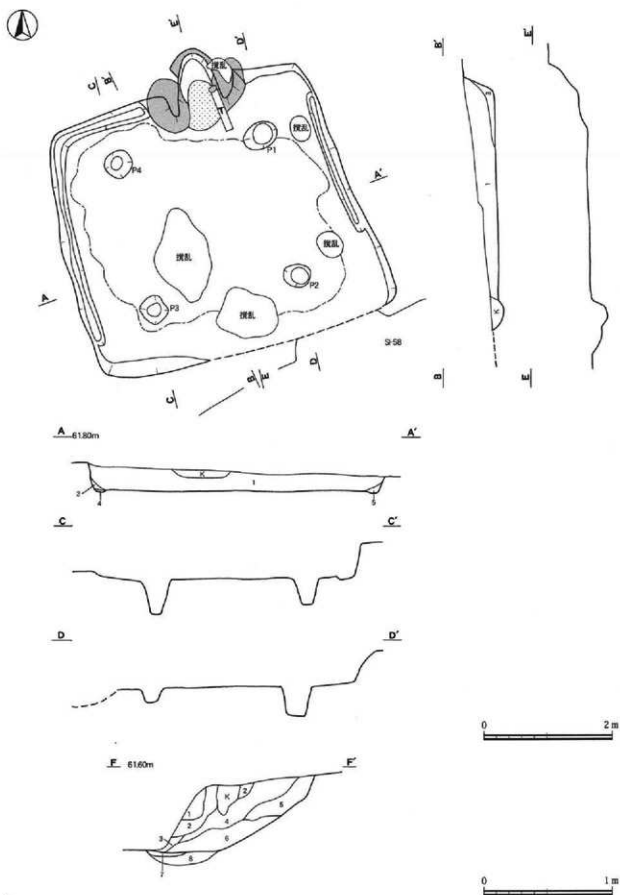
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。また、第4・5層のロームブロックは、壁部の崩落土と考えられる。

土層解説

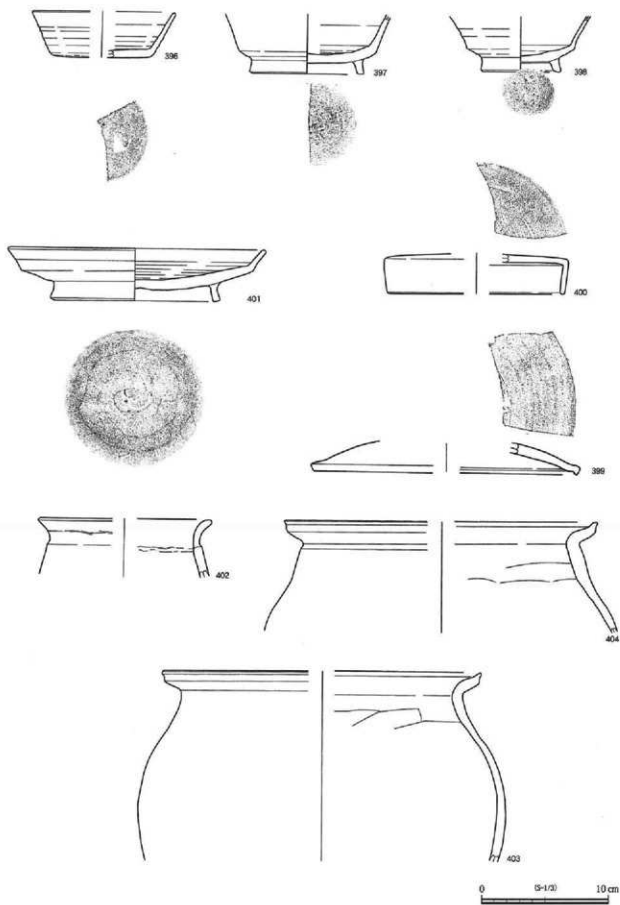
1. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、砂質粘土、焼土ブロック微量
4. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物少量
5. 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量

遺物：須恵器片122点(杯・高台付坏78点、蓋19点、盤3点、高盤1点、甍21点)、土師器片290点(杯・高台付坏24点、甍266点)、鉄製品1点(不明)。竈内と竈周近を主体に散見され、396の須恵器杯や397の須恵器高台付坏が相当する。しかし、火熱を受けておらず、住居廃絶後に投棄されたと考えられる。また401の須恵器蓋は、西壁際から出土したものである。

所見：共済具は須恵器製品で、煮炊具は土師器が主体的である。第53・56号住居跡とは近接しており、同時期に営まれていた住居であると考えられるが、木跡はやや小振りの住居である。



第110図 第60号住居跡



第 111 圖 第 60 号住居跡出土遺物

第60号住居跡(表54)

番号	類別	器種	口径	輪高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
396	須恵器	環	112	3.7	7.4	白色粘土、小礫	10B66/7 青灰色	内外面ロクロナデ/底部留針ヘラ張り ヘラナデ	カマド1/2	20% PL76
397	須恵器	高台付環		(4.8)	8.8	黒色粘土、白色粘土、小礫 針状異物、セムロイド状の 吹き出し	5G6/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部留針ヘラケズリ (石)/高台接合後周壁にロクロナデ	No.7	30% PL76
398	須恵器	高台付環	112	4.7	6.2	黒色粘土、白色粘土、小礫	10Y5/2 オリーブ灰色	内外面ロクロナデ/高台接合後周壁にロ クロナデ	礎土	40% PL76
399	須恵器	壺	20.8	(2.4)		黒色粘土、白色粘土、小礫 とおろし下駄 の吹き出し	5R5/1青灰色	内外面ロクロナデ/天井部留針ヘラケズ リ後ナデ	1区3層	10% PL76
400	須恵器	壺	13.8	(3.1)		白色粘土、赤 褐色粘土	5R65/1 黄灰色	内外面ツタロナデ	2区3層	10% PL76
401	須恵器	壺	30.1	4.2	13.1	砂粒	5O6/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部留針ヘラ張り後 留針ヘラケズリ(石)/高台接合後周壁に ロクロナデ/底部ヘラ記号(+)	No.5	30% PL76
402	土器器	小形壺	13.4	(4.7)		黒粒、小礫	5YR4/2 灰褐色	口縁部、肩部内外面ロクロナデ/胴部内面 ヘラナデ/外面ナデ	3区2層	10% PL76
403	土器器	壺	21.6	(14.9)		黒粒、赤石、 石英	5YR5/4 に濃い褐色	口縁部、肩部内外面ロクロナデ/胴部内面 ヘラナデ/外面ナデ	No.3 1区2層	20% PL76
404	土器器	壺	21.2	(8.8)		黒粒、白色粘土、 赤褐色粘土	2.5YR5/6褐色	口縁部、肩部内外面ロクロナデ/胴部内面 ヘラナデ/外面ナデ	No.3	10% PL76

## 第61号住居跡(第112・113図、第55表、PI.32・77)

位置：D調査区D3グリッド、標高59.3m地点にある。

重複関係：中央部を第9号溝跡に掘り込まれている。

規模・平面形：本跡は中央部を第9号溝跡に掘り込まれ南部が削平されているため、その規模は把握できなかった。しかし当時の住居跡形態からみて、北壁に竈が併設された方形または長方形を基調としたプランが想定される。

主軸方向：N-33° - W

残存壁高：確認面から最大高67cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：遺存部では全範囲で確認でき、幅16～24cmを巡る。断面はU字形である。

床：竈の前部分がよく硬化している。

ピット：遺存している床面からは三柱穴、出入口ピットともに検出されていないが、大半を第9号溝跡に壊されているため不明である。

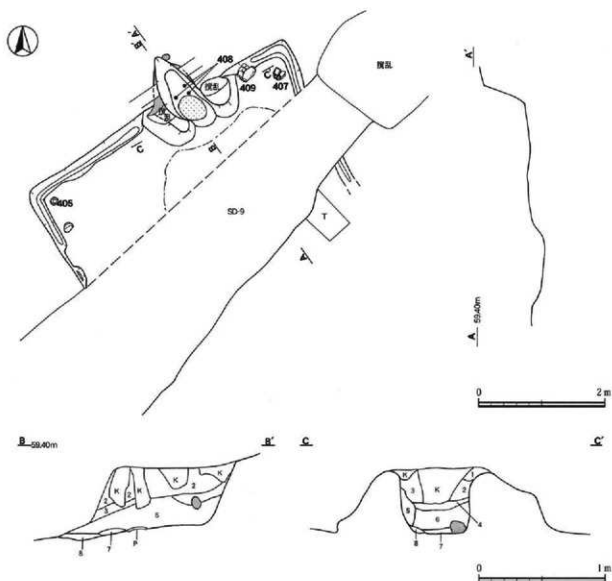
竈：北壁中央部東寄りであり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cmである。天井部は崩落しており、竈上層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第6層が崩落土と考えられる。また竈部の最大幅は約150cmで比較的良好に遺存しており、箱部内面は被熱により赤変している。火床部は床面から5cmほど狭くはめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ60cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

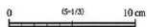
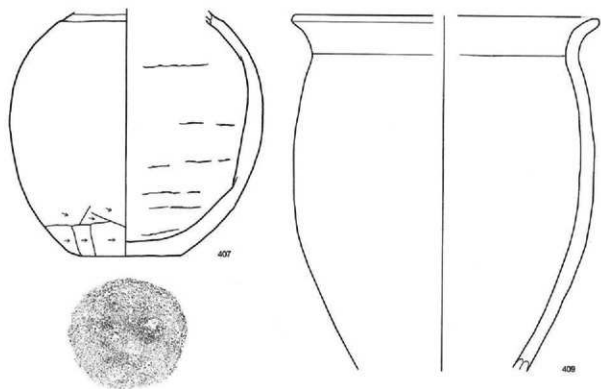
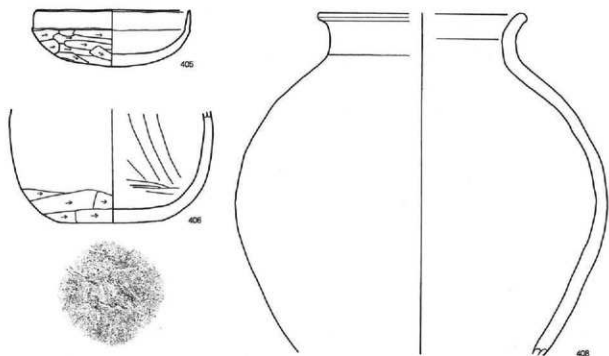
1. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、鹿沼バミスブロック少量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
4. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック微量、焼土粒子微量、炭化物微量
5. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック少量、炭化物微量
6. 灰黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
7. 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性弱い
8. 赤褐色 焼土ブロック微量、焼土粒子中量、炭化物少量、炭化粒子微量、締まり弱い

遺物：須恵器片15点（坏・高台付坏類3点、壺3点、瓶1点、甕類8点）、土師器片32点（坏・高台付坏類8点、甕類24点）。405の土師器坏は北西隅の床面から、407の土師器甕は北東隅の床面から出土している。

所見：本跡は第9号溝跡によって壊されている。時期は床面から出土した遺物からみて7世紀後半と考えられる。



第112図 第61号住居跡



第113図 第61号住居跡出土遺物

第61号住居跡 (表55)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
405	土埴鉢	杯	125	4.5		灰石、石英、赤褐色粒子	25YR4/6 赤褐色	口縁部内外面・底部内面ヨコナデ/底部外面手持ちヘラケズリ	No4	80% FL77
406	土埴鉢	鉢		(9.0)	8.3	灰石、石英	5YR5/6 明るい赤褐色	胴部内面ヘラナデ/外面ナデ/下縁にヘラケズリ		覆土 50% FL77
407	土埴鉢	鉢		(19.3)	8.6	雲母、黒色粒子、白色粒子、赤褐色粒子、小礫	5YR5/3 にぶい赤褐色	胴部内外面ナデ/外面下縁に手持ちヘラケズリ・輪轆み跡が残る	No2 オマド覆土	30% FL77
408	土埴鉢	羹	(15.4)	(27.0)		雲母、黒色粒子	25YR5/6 明赤褐色	口縁部・胴部内外面ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ	No5 No6 No7 オマド覆土	40% FL77
409	土埴鉢	羹	(22.0)	(28.0)		雲母、白色粒子、黒色粒子、小礫	7.5YR6/4 にぶい橙褐色	口縁部・胴部内外面ヨコナデ/胴部内面ヘラナデ/外面ナデ	No1	30%

## 第62号住居跡 (第114・115図、第56表、PL32・33・77・78)

位置：D調査区C2グリッド、標高66.5m地点にある。

重複関係：南部を第63号住居跡に掘り込まれている。

規模・平面形：一部削平されており、また南部を第63号住居跡に壊されているため明確ではないが、長軸6.64m、短軸6.20mの方形と推測される。

主軸方向：N-49° -W

残存壁高：確認面から最大高62cmを測り、垂直に立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。焼失家屋であるため、床面には炭化材や焼土塊が認められる。

ピット：4箇所確認された。いずれも主柱穴で、P1：50×42cm、深さ68cm、P2：64×58cm、深さ56cm、P3：60×56cm、深さ62cm、P4：44×40cm、深さ50cmである。なお、これらのピットからは柱抜き取りの痕跡が認められた。

## P1土層解説

1. 黒褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い (柱抜き取り痕)

## P2土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い (柱抜き取り痕)

## P3土層解説

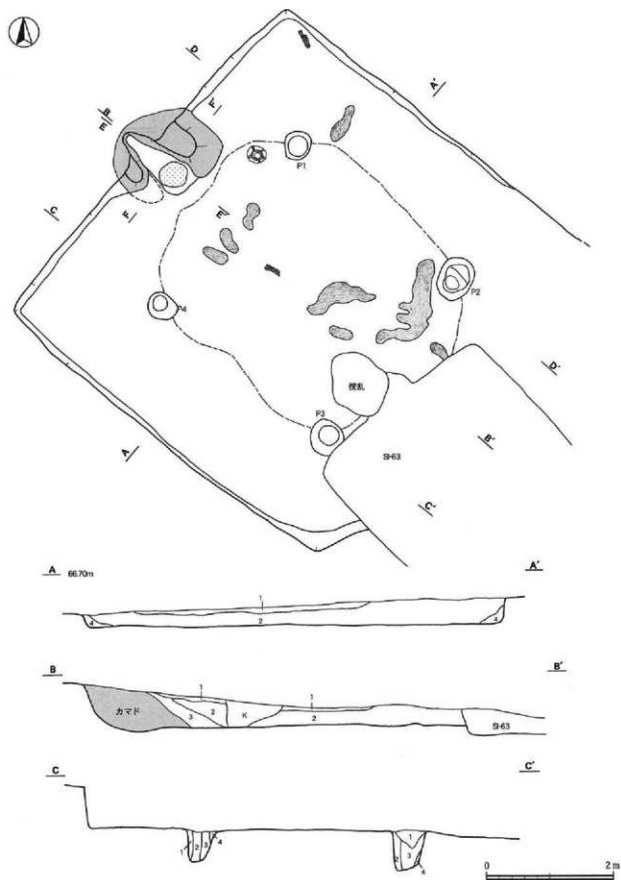
1. 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量
3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い (柱抜き取り痕)
4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、焼土/パミスブロック少量、やや締まりあり

## P4土層解説

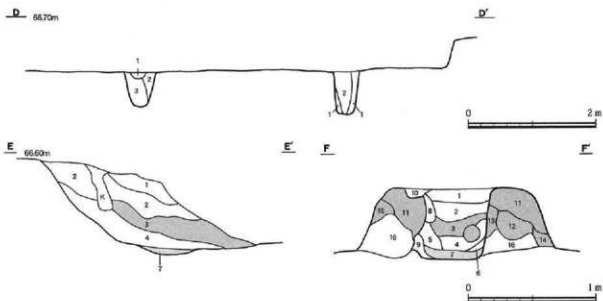
1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、締まり弱い
2. 黒褐色 炭化粒子微量、締まり弱い (柱抜き取り痕)
3. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子微量
4. 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

竈：北壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは126cmである。天井部は崩落しており、竈土層断面図中、砂質粘土ブロックを含む第3層が崩落土と考えられる。袖部の最大幅は約 [160] cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により赤変している。袖部の基礎はロームブロックを芯材と





第 114 - 1 図 第 62 号住居跡①



第114-2図 第62号住居跡②

し周囲を砂質粘土で構築されたもので、土層断面図中、第16層が相当する。また火床部は床面から10cmほど掘りくはめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ40cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量
2. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化物微量
3. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
4. 褐灰色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子少量、焼土ブロック少量、炭化物微量
5. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック少量
6. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック微量、炭化物少量
7. 暗赤褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子少量、炭化物微量、炭化粒子少量、締まり弱い
8. 灰黄褐色 砂質粘土ブロック多量、炭化粒子少量、締まりあり
9. 褐色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり
10. 灰褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
11. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、締まりあり
12. 灰褐色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック多量、締まりややあり
13. 褐灰色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、砂質粘土ブロック少量、炭化物微量
14. 灰黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量
15. 灰黄褐色 ローム粒子微量、砂質粘土ブロック中量、炭化粒子少量
16. 褐色 ロームブロック多量、ローム粒子中量、焼土ブロック微量、締まりあり

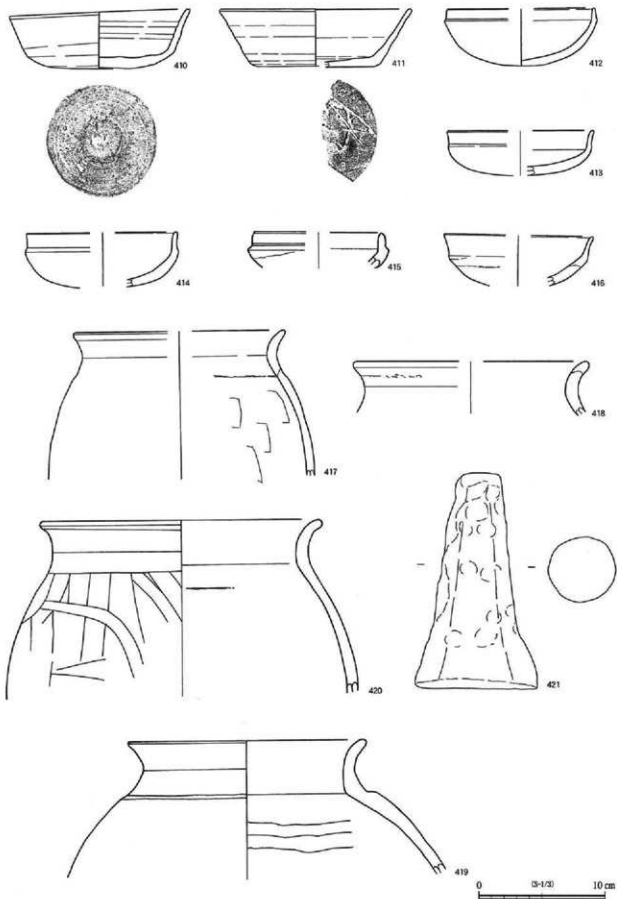
遺構埋没状態：ロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。第3層には竈構築材と考えられる砂質粘土ブロックが確認されている。

土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 褐色 ロームブロック少量、炭化物少量
3. 褐灰色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量、砂質粘土ブロック少量、粘性弱い
4. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片19点（坏・高台付坏類11点、蓋2点、甕類6点）、土師器片443点（坏・高台付坏類53点、甕類390点）、土製品1点（支脚）。竈内及び竈周辺には、焼失後に投棄された遺物が出土しており、417・420の土師器甕が相当する。また中央部の床面には住居構築材や焼土塊が認められた。

所見：焼失家屋である。時期は遺物からみて7世紀後半と考えられる。なお、当遺跡は7世紀後半段階から集落が営まれているが、その多くは標高が高いD区内から確認されている。また、住居の規模はいずれも大型であるが、主軸方向に統一性はない。



第 115 圖 第 62 号住居跡出土遺物

第62号住居跡 (表56)

番号	遺物	器種	口径	器高	口径	出土	色 澤	干 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
410	須恵器	杯	14.2	4.7	8.3	灰石	10G5/1緑灰色	内外面コナナテ/底部縁部ヘナケズリ	No.1	100% PL77
411	須恵器	杯	[14.8]	4.5	[9.2]	黒色粒子	2.5YR6/1 灰褐色	内外面コナナテ/底部縁部ヘナケズリ/底 部ヘナケズリ (ニ)	覆土	100% PL77
412	土師器	杯	[11.6]	4.5		黄土、白色粒子	5YR5/2 灰褐色	口縁部内外面、底部内面コナナテ/内外 面下半コナナテ/底部縁部ヘナケズリ	2区2層 覆土	25% PL77
413	土師器	杯	[11.6]		(6.3)	黄土	5YR3/1 灰褐色	口縁部内外面コナナテ/底部内面ヘナ ケズリ/底部縁部ヘナケズリ	1区覆土	25% PL77
414	土師器	杯	[11.4]		(3.2)	白色粒子	5YR3/1 灰褐色	口縁部内外面コナナテ/底部内面ヘナ ケズリ/底部縁部ヘナケズリ	No.3	25% PL78
415	土師器	杯	[10.6]		(2.4)	黄土	5YR3/3 灰褐色	口縁部内外面コナナテ/底部内面ヘナ ケズリ/底部縁部ヘナケズリ	3区2層 覆土	5%
416	土師器	杯	[11.8]		(4.1)	黄土、白色粒子、F 色粒子	5YR5/4 灰褐色	口縁部内外面コナナテ/底部内面ヘナ ケズリ/底部縁部ヘナケズリ	1区2層	10%
417	土師器	小形茶 臼	[16.6]		(11.5)	黄土、白色粒子、小 石、黒色粒子、小 石	5YR5/4 灰褐色	口縁部・底部内外面コナナテ/底部内面 ヘナケズリ/底部縁部ヘナケズリ	No.13	100% PL78
418	土師器	小形茶 臼	[18.6]		(4.1)	黄土、黒色粒子、 白色粒子、小石 に多い炭化物	5YR5/3 灰褐色	口縁部・底部内外面コナナテ	4区2層覆土	5% PL78
419	土師器	茶 臼	18.4		(11.1)	黄土、石、赤 褐色粒子、小石、 炭石、石灰、赤 褐色粒子、小石	10YR5/6 黄褐色	口縁部・底部内外面コナナテ/底部内面 に炭化物	No.8	45% PL78
420	土師器	茶 臼	[21.4]		(14.0)	黄土、石灰、赤 褐色粒子、小石	5YR7/6 灰褐色	口縁部・底部内外面コナナテ/底部内面 に炭化物/外部ヘナケズリ	No.11 No.9	25% PL78

番号	器 種	器口径 (cm)	器底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	病 土	特 徴	出土位置	備 考
421	支脚	3.0	9.5	17.2	840	石灰、石英、 小石	5YR5/2A褐色/外周指痕あり	No.14	PL78

## 第63号住居跡 (第116・117図、第57表、PL32・33・78)

位置：D調査区C2グリッド、標高66.0m地点にある。

重複関係：第62号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模・平面形：住居跡南部が削平されているため形状は不明であるが、長軸3.32m、短軸(2.36)mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。

主軸方向：N-45°-W

残存壁高：確認面から最大高40cmを測り、垂直に立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平頂で、全体的によく硬化している。

ピット：灰面からは支柱穴、用人Lピットともに検出されていない。

竈：北西壁中央部にあり、砂質粘土で構築されている。竈北西部が乱瓦により壊されている。焚口部から煙道部までは80cmである。袖部の最大幅は約92cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は炭化により赤変している。また火床部は、床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としており、ゴツゴツと赤く硬化している。煙道部は壁外へ25cmほど削り出して造られ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

## 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック散見、ローム粒少量
- 2 赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子少量、炭化物少量、炭化粒子少量、柳まわり

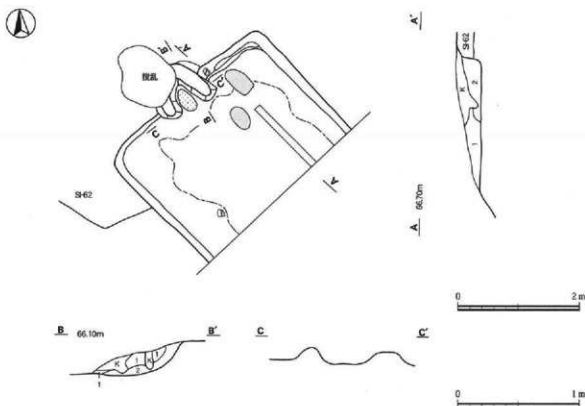
遺構埋没状態：ロームブロック主体で各層に焼土粒子や炭化粒子を含む人為的な堆積状況を示している。

## 土層解説

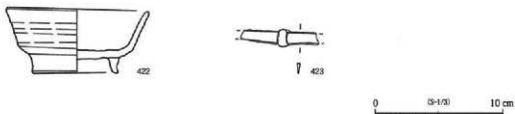
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、砂質粘土少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子少量、炭化粒子少量

遺物：須恵器片31点(杯・高台付杯類16点、蓋6点、甕類9点)、土師器片96点(杯・高台付杯類2点、甕類94点)、鉄製品1点(不明)、土製品1点(支脚)。床面から出土した遺物はなく、住居廃絶後の埋め戻し時に投棄あるいは土中に混入したものである。422の須恵器高台付杯は竈内から、423の刀子は覆土内から確認されたものである。

所見：本跡は第62号住居跡の南部を壊して造られている。また遺物が少なく明確ではないが、時期は須恵器杯の形状から8世紀中葉と推測される。



第116図 第63号住居跡



第117図 第63号住居跡出土遺物

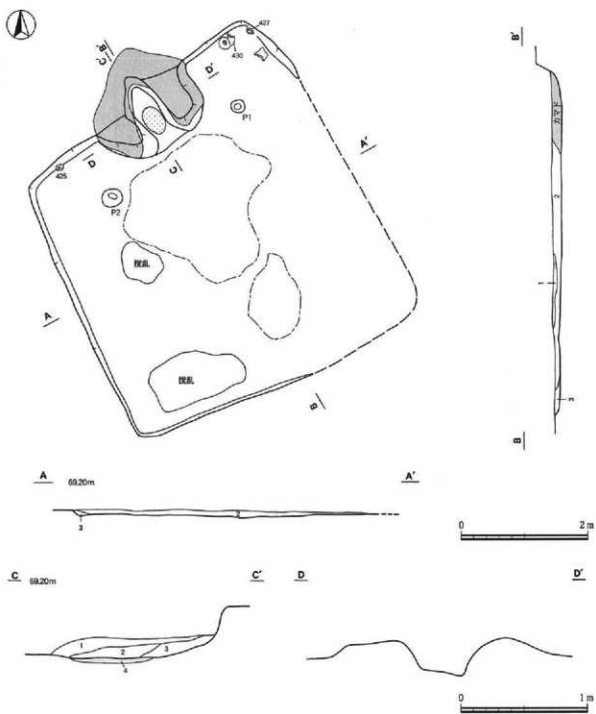
第63号住居跡 (表57)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
422	須恵郡	高台付坪	11.0	5.3	7.2	長石、小礫、 白色粒子、黒色粒子	SBG5/1 青灰色	内外面口クロナテ/底面脚轆へらケズリ (右)/高台接合後側面に口クロナテ	カマド1/2覆土 No1	70% PL78
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考	
423	刀子	(6.0)	0.9		7.1	鉄		覆土	PL78	

## 第64号住居跡 (第118・119図、第58表、PL33・79)

位置：D調査区C2グリッド、標高69.0m地点にある。

規模・平面形：東部が削平され、明確ではないが、長軸4.96、短軸4.90mで方形もしくは長方形を呈するものと推測される。



第 118 图 第 64 号住居跡

主軸方向：N-24° -W

残存壁高：壁面から最大高8cmを測るが、層厚が薄いため立ち上りの傾斜角度は把握できなかった。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、住居中心部がよく硬化している。

ピット：2箇所確認され、P1：20×18cm、深さ12cm、P2：32×30cm、深さ18cmである。主柱は床上にないプランが想定される住居であるため、これらのピットの性格は不明である。

竈：北西半円中央部にあり、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは108cmである。袖部の最大幅は約180cmで比較的良好に遺存しており、袖部内面は被熱により変色している。火床部は床面から4cmほど掘りくぼめて火床面としている。また火熱を受けて変色しているが、硬化はしていない。煙道部は壁外へ40cmほど削り出して造られ、火床部から外傾して立ち上がる。

#### 土層解説

1. 暗褐色 romeブロック微量、rome粒子少量
2. 褐色 炭化物少量、炭化粒子微量、炭化した少量、粘付・粘りともに強い
3. 褐色 炭化物微量、地上ブロック微量、地上粒子微量、砂質粘土ブロック少量、粘りあり
4. 暗赤褐色 地上ブロック少量、地上粒子中量、炭化粒子少量、粘り弱い

遺構埋没状態：層厚が薄く堆積状況は不明である。なお、土層断面図中、第3層は壁部の崩落土である。

#### 土質解説

1. 褐色 romeブロック中量、rome粒子微量、焼土ブロック微量
2. 褐色 romeブロック少量、炭化物微量、焼土ブロック微量
3. 褐色 romeブロック少量、炭化粒子微量

遺物：須恵器片13点（坏・高台付坏類3点、蓋6点、長頸瓶2点、甕類2点）、土師器片76点（甕類）。遺物は少ないものの、東北隅の床面から426・427の須恵器フラスコ瓶と430の土師器甕が出土している。

所見：本跡は遺構確認時にプランを明確に把握できず、主軸方向を見間違った状態で調査を行ってしまった。そのため西壁を捉えきれず掘りすぎしてしまう結果となってしまった。時期は、遺物が少なくしかも遺物に時期差があり判然としなが、7世紀後半～8世紀代の遺物が混じって出土している。

第64号住居跡（表58）

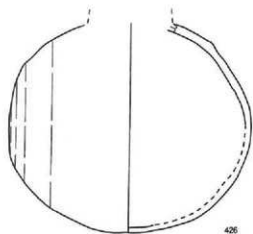
番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
421	須恵器	坏	116.7	43.7		黒色粘土、白色粘土	5C/5/1 オフ・ソフ（灰色）	内外面ロクロナデ	3区灰土	10% PL79
425	須恵器	甕	122	32		赤色粘土、白色粘土、小粒	5B/5/1 古灰色	内外面ロクロナデ/内面中央仕上げナデ/ 天井部縁縁ヘラナデ/足ナデ/つまみ窪 内縁部にロクロナデ	No.2	100% PL79
426	須恵器	長頸瓶		(16.2)		黒色粘土、内 巻粘土	10G/6/1 練灰色	内外面ロクロナデ/壺形時の下部部に 丸 底ヘラナデリ（足）/彫形後土層に立 して蓋ささらにロクロナデ	No.1	90% PL79
427	須恵器	長頸瓶		(14.4)		黒色粘土、白 色粘土	5B/5/1 古灰色	内外面ロクロナデ/彫形時の下部部に 同 底ヘラナデリ（丸）/彫形後土層に立 して蓋ささらにロクロナデ左	No.3	30% PL79
428	土師器	小形甕	115.2	(7.3)		黒色粘土、白 色粘土、小粒	5YR6/4 土に近い棕色	口縁部・頸部内外面コナデ/胴部内面 ナデ/外側ナデ	3区灰土	10%
429	土師器	甕	222	(12.5)		黄母、内色 子、小粒	5YR5/3 土に近い黄褐色	口縁部・頸部内外面コナデ/胴部内面 ヘラナデ/底ナデ（一部ヘラナデ）	ハマト2/2灰土	20% PL79
430	土師器	甕	194.3	(10.8)		赤母、白色 子、小粒	5YR6/4 土に近い棕色	口縁部・頸部内外面コナデ/胴部内面 ヘラナデ/外側ナデ	No.2	10% PL79



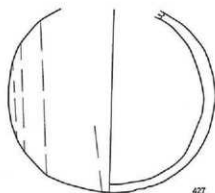
424



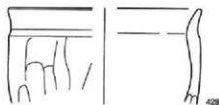
425



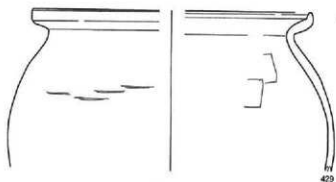
426



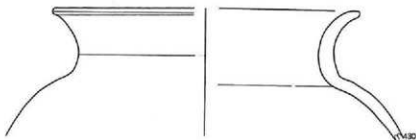
427



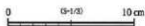
428



429



430



第 119 図 第 64 号住居跡出土遺物



## 第2節 欄列

F区の南西部、標高47.4m地点から1列確認された。平成23年度調査区も含め、当遺跡で検出された欄列は本跡のみである。

## 第1号欄列（第120図、PL35）

位置：F調査区F5グリッド、標高47.4m地点にある。

規模：直線上に4カ所のピットが検出された。

P1：92×48cm、深さ6cm、P2：64×40cm、深さ8cm、

P3：72×70cm、深さ12cm、P4：84×60cm、深さ16cm

である。

方向：N-0°

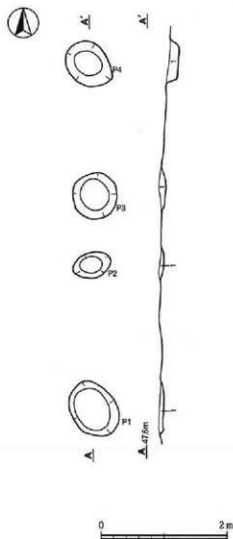
覆土：いずれのピットの覆土も単一層で、粘土に砂粒を混ぜており、突き固めたかのような非常に締まった土である。P1土層解説

1. 褐色 粘土粒子多量、砂粒多量、雜りあり

遺物：検出されていない。

所見：当遺跡で確認された欄列は本跡のみである。掘り込みがあるためピットとしたが、覆土はちょうど古民家の土間を彷彿とさせる土であり、礎石を据える前の基礎固めとして掘り窪め構築したものかも知れない。しかし、遺構確認時には礎石となるような板状の石は検出されていない。また周辺に遺構もないためどのような意図で、いつ構築されたかは不明である。

なお、表土中から検出された瓦塔は、本跡から北方向へ約58m、祭祀土坑は北東方向へ約82mの距離にあるが、得られた情報が少なく、相互の関係は不明である。



第120図 第1号欄列

### 第3節 溝跡

8条の溝跡が確認されたが、そのうち3条は自然流路（落ち込み）である。ここでは人為的に構築された5条の溝跡のうち、昭和40年代に掘られたことが明らかになった1条を除いた4条を掲載する。

#### 第5・6号溝跡（第121図、PL34）

位置：F調査区F2グリッド、標高57.9～59.6m地点にある。

重複関係：第37住居跡南部と第42号住居跡中央部を掘り込んでいる。

規模・平面形：上幅60～110cm、下幅20～32cm、全長約38mで、確認面からの深さは9～36cmである。断面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込みは確認されていない。

方向：N-41°-Eの方向にはほぼ直線的に延びる。

遺構埋没状態：3層からなり、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |      |   |               |
|------|---|---------------|
| 1. 腐 | 色 | ローム粒少量、腐りなし   |
| 2. 埋 | 色 | ローム粒子微細、炭化物微少 |
| 3. 埋 | 色 | 炭化粒子微量、腐りなし   |

遺物：須恵器片7点（坏・高台付坏類1点、蓋1点、甕類5点）、土師器片12点（甕類）、鉄砲玉。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。鉄砲玉は径1.26cm、重量10.6gの鉛製である。

所見：遺構確認時、第5号溝跡と第6号溝跡を別の溝跡と判断し調査を行ったが、第6号溝跡が市西方へ直線的に延びていることが判明し、同一の溝跡であることが明らかとなった。流水の痕跡はなく、根切り溝と推測される。本跡に伴う遺物は認められず時期は不明である。

#### 第7号溝跡（第122・123図、第59表、PL34・79）

位置：F調査区E2・F2グリッド、標高53.5～56.3m地点にあり、北端と南端は調査区外へと延びている。

重複関係：第32住居跡東部、第36号住居跡中央部を掘り込み、第33号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：上幅36～42cm、下幅14～20cm、全長37.5mで、確認面からの深さは40～76cmである。断面は箱葉研状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込み等は確認されていない。

方向：北部はN-44°-Wの方向に延び、南部でクランク状に屈曲する。

遺構埋没状態：2層からなり、自然堆積と考えられる。

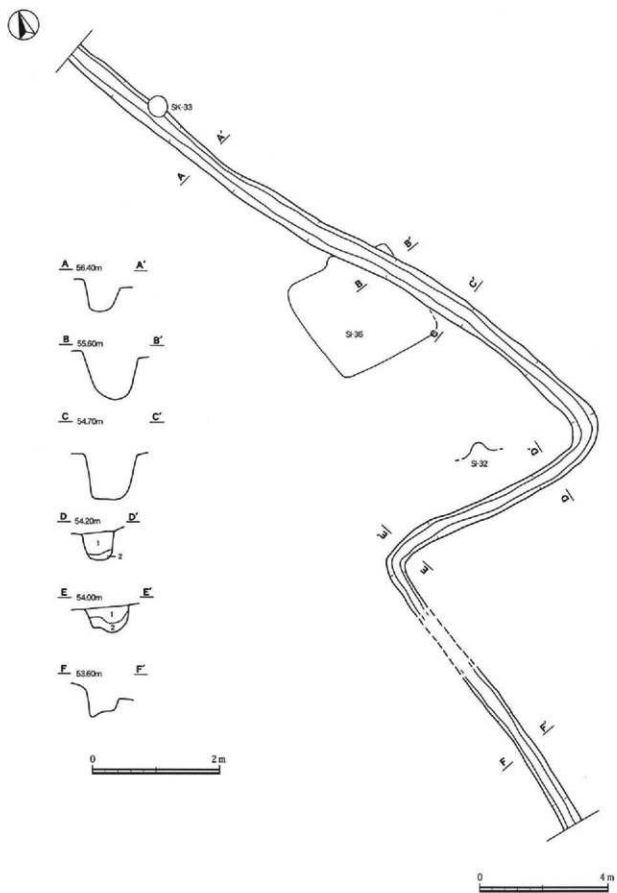
#### 土層解説

- |      |   |              |
|------|---|--------------|
| 1. 埋 | 色 | ローム粒子微細      |
| 2. 埋 | 色 | ローム粒子微量、腐りあり |

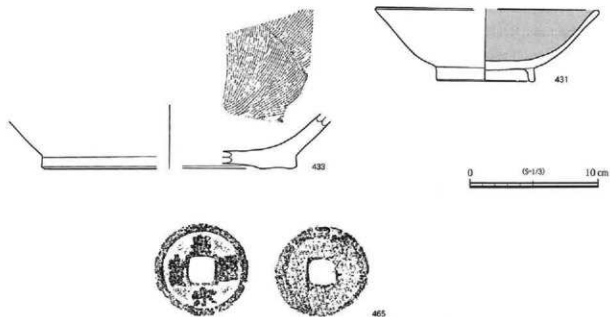
遺物：須恵器片52点（坏・高台付坏類18点、蓋3点、甕類31点）、土師器片92点（坏・高台付坏類32点、甕類60点）、陶器片2点（搦鉢）、磁器片11点（甕類）、古銭1点。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。

所見：流水の痕跡は認められないため、区画溝としての役割があったものと推測される。出土した遺物にはコバルトを使用した染付も見られるため、埋没した時期は近代以降と考えられる。





第 122 图 第 7 号沟迹



0 5-1/3 10 cm

第123図 第7号溝跡出土遺物

第7号溝跡 (表59)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
431	土師器	高台付坏	(17.2)	5.7	7.6	雷母、黒色粒子、白色粒子、小瀬	5YR6/6褐色	内面ヘウミガキ・黒色胎泥/外面は磨滅して観察不可/高台接合後周面にロクロナデ	覆土	40%
433	陶器	すり鉢	(4.2)	(19.8)		砂粒	7.5YR5/4にぶい褐色	胴部外面褐色焼成す輪/高台はケズリだし・外面磨削/量み付きから底部乳白色輪	D区覆土	5% PL79
番号	器種	径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考	
465	銭貨	2.485	0.650	0.145	2.8	銅	○東漢貨	No.1	PL79	

第9号溝跡 (第124, PL34)

位置：D調査区D3グリッド、標高53.9m地点にあり、東端は調査区外へと延びている。

重複関係：第61号住居跡中央部を掘り込んでいる。

規模・平面形：上幅45～120cm、下幅8～40cm、全長14.8mで、確認面からの深さは32cmである。断面は皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からはピット等の掘り込みは確認されていない。

方向：N-45° - Eの方向にほぼ直線的に延びる。

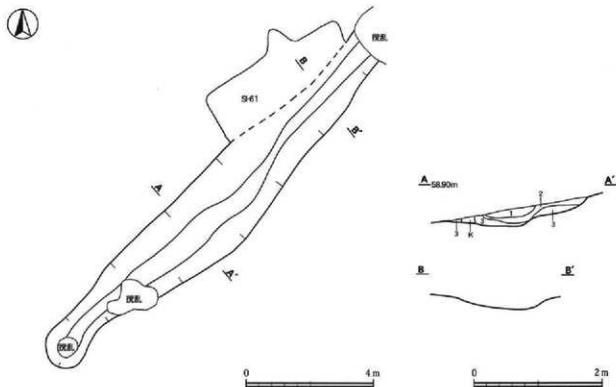
遺構埋没状態：3層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- |    |    |                         |
|----|----|-------------------------|
| 1. | 褐色 | ロームブロック微量、ローム粒子少量、練まりなし |
| 2. | 褐色 | ローム粒子微量、炭化物微量           |
| 3. | 褐色 | ローム粒子微量                 |

遺物：須恵器片49点（坏・高台付坏類28点、蓋4点、甕類17点）、土師器片78点（坏・高台付坏類14点、甕類64点）。出土した遺物はすべて混入したものと推測される。

所見：流水の痕跡はなく、性格は不明であるが、確認された遺物はすべて7世紀から9世紀に比定されるもので占めており、埋没時期は平安時代と考えられる。



第124図 第9号溝跡

## 第4節 土坑

今年度の調査では52基の土坑が確認された。D区で48基、E区で4基である。時期を特定できる遺構は少ないが、第1号土坑は8世紀前葉に廃絶されたものであることが明らかとなり、多数の遺物が出土している。

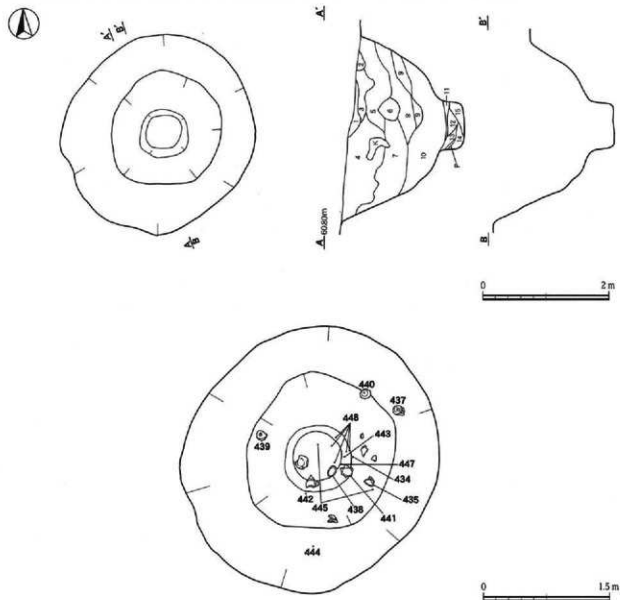
なお、個別に掲載できなかった土坑については一覧表と図で一括して掲載した。

## 第1号土坑（第125・126図、第60表、PL35・80・81）

位置：D調査区B4グリッド、標高60.6m地点にある。

規模・平面形：長径3.15m、短径2.88mの円形で、深さ1.48mの漏斗状を呈する。底部の中心部に径約60cm、深さ30cmほどの窪みをもつ。

壁面：底部の小円形状の窪み部分ではほぼ垂直に立ち上がり、その後は外傾して上端に至る。



第125図 第1号土坑

覆土：剥離後、多数の土器片とともに一括して埋め戻されている。特に第4・10層から遺物の検出が多く、第10層の焼土塊は投棄されたものと考えられる。

#### 土層解説

1. 埋 掘 色 ロームブロック中量、炭化粒少量
2. 埋 掘 色 ロームブロック微量、炭化粒少量、砂りあり
3. 灰 掘 色 ロームブロック微量、炭化粒少量
4. 埋 掘 色 炭化物少量、炭化粒少量、粘性あり、砂り弱い
5. 赤 掘 色 炭化物少量、炭化粒少量、粘性・砂りともに弱い
6. 灰 掘 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、焼土粒少量、炭化物微量
7. 灰 掘 色 ローム粒子少量、炭化物微量、砂り弱い
8. 灰黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
9. 赤 掘 色 ローム粒子少量、炭化粒少量
10. 埋 掘 色 灰上粒中量、赤土ブロック少量、炭化物少量、炭化粒少量、粘性あり、砂り弱い
11. 埋 掘 色 炭化物少量、炭化粒少量、粘性・砂りともに弱い
12. 灰 掘 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭化物微量
13. 灰 掘 色 ロームブロック少量、ローム粒子少量
14. 埋 掘 色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、砂り弱い
15. 埋 掘 色 ロームブロック中量、炭化物微量、粘性弱い

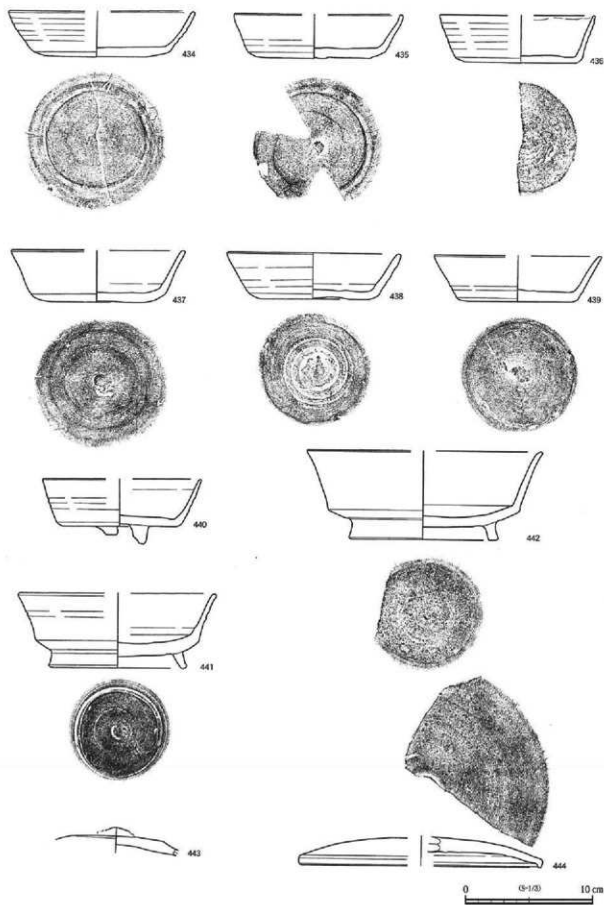
遺物：須恵器片132点（坏・高台付坏類108点、蓋7点、甕類17点）、土師器片167点（坏・高台付坏類8点、甕類159点）。埋め戻しの段階で投棄された遺物が大半を占め、特に第4層と第10層で多数検出されている。なお、これらは7世紀後葉から8世紀前葉までに比定されるもので、残存率50%を超える遺物が多い。また445の須恵器蓋や448の土師器蓋のように覆土下層と上層の破片が接合関係にある遺物も見られ、埋め戻し作業が一気に行われたようである。

所見：本跡は所謂「氷室状土坑」で、本跡で確認された氷室状土坑の中では古い段階のものである。なお、出土遺物の中には、覆土下層と上層の破片が接合関係にあるものが認められており、本跡剥離後に一括して埋め戻されていることが示唆される。

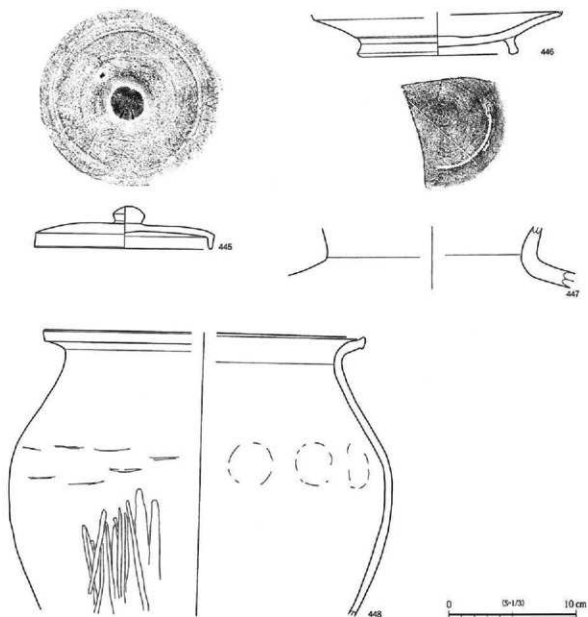
#### 第1号土坑跡（表60）

番号	類別	部数	口径	径深	底径	土 工	色 調	主な特徴はか	出土位置	備考
434	須恵器	坏	[14.3]	3.6	7.6	黒色粒下、白色粒上	10G5/1焼灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ(右)	覆土2F1層	70% PL80
435	須恵器	坏	[13.1]	3.5	8.6	白色粒下	5CV6/2 より、ブ灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ(左)	覆土No.6	50% PL80
436	須恵器	坏	[12.2]	3.8	8.6	黒色粒下、白色粒上	5M13/1 輝黄灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ切取回転ヘラズリ(右)	2B1層	30% PL80
437	須恵器	坏	[13.4]	4.1	7.5	白色粒下	5B6G/1 黄灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ(右)	No.2	50% PL80
438	須恵器	坏	13.4	3.6	8.4	白色粒下、小黒色粒上、小黒色粒	25V7/1 灰白色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ切取	No.38	90% PL80
439	須恵器	坏	[12.8]	3.7	8.8	赤土、白色粒下	25G7/1 赤土	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ切取	No.20	40% PL80
440	須恵器	坏	[12.3]	3.7	8.8	赤色粒下、白色粒上	5B6G/1 赤灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ切取/一部に焼灰の付着物	2C2層	50% PL80
441	須恵器	高台付坏	[15.8]	5.9	10.6	白色粒下、小黒色粒上	5M6/1 黄灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ切取/高内盤合後周面にロクロナデ	No.5	60% PL80
442	須恵器	高台付坏	[18.2]	7.0	11.4	白色粒下、小黒色粒上	5M4/1 輝黄灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ(左)/高台接合後周面にロクロナデ/底部回転ヘラズリ(+)	No.21	40% PL80
443	須恵器	蓋	(20)			白色粒下、小黒色粒上	25G7/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/高内盤回転ヘラズリ(右)/つまみ部付後周面にロクロナデ	No.45	20% PL81
444	須恵器	蓋	[19.0]	(2.0)		赤色粒下、白色粒上、小黒色粒	25G7/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/高内盤回転ヘラズリ/つまみ部付後周面にロクロナデ	No.18	20% PL81
445	須恵器	蓋	13.8	3.3		赤色粒下、白色粒上	25G7/1 緑灰色	内外面ロクロナデ/天井面回転ヘラズリ(右)/つまみ部付後周面にロクロナデ	No.26,39 覆土	98% PL81
446	須恵器	蓋	(3.4)		[12.4]	白色粒下、小黒色粒上	10M4/1 輝黄灰色	内外面ロクロナデ/底部回転ヘラズリ(右)/高台接合後周面にロクロナデ/底部回転ヘラズリ(-)	No.13	30% PL81
447	須恵器	蓋	(5.0)			白色粒下	5M6/1 黄灰色	内外面ロクロナデ	No.11	5% PL81
448	土師器	甕	[25.2]	(22.0)		黄赤、白色粒下、小黒色粒	5Y8/4 に、灰白色	口縁部・肩部内外面ロクロナデ/胴部内面上半ヘラズリ/内面中央部・胴部内面下半ヘラズリ	No.19,45,50,52,53	40% PL81





第126-1図 第1号土坑出土遺物(1)



第126-2図 第1号土坑出土遺物(2)

第2号土坑(第127・128図、第61表、PL35・81)

位置：D調査区B4グリッド、標高60.6m地点にある。

重複関係：西部を第6号土坑に掘り込まれている。

規模・平面形：長軸3.34m、短径2.80mの不整形で、深さ46cmである。

壁面：外傾して立ち上がる。

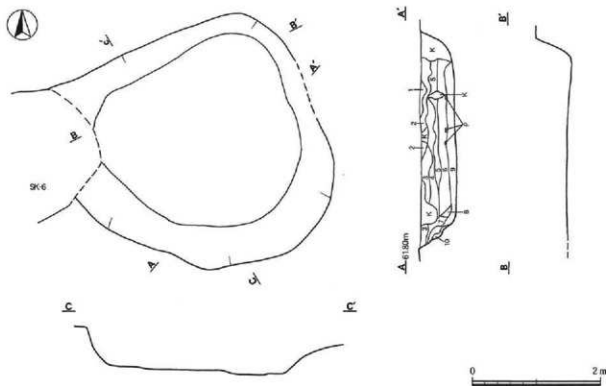
覆土：ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

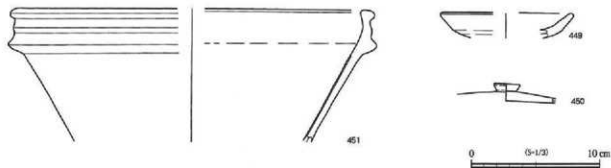
- |        |                             |        |                         |
|--------|-----------------------------|--------|-------------------------|
| 1. 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量            | 6. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子微量       |
| 2. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量            | 7. 褐色  | ローム粒子少量、炭化物微量           |
| 3. 褐色  | ロームブロック微量、炭化粒子微量            | 8. 褐色  | ロームブロック少量、ローム粒子微量、締まりあり |
| 4. 褐色  | ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり | 9. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 5. 暗褐色 | 炭化物少量、炭化粒子少量、粘性あり           | 10. 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量、締まり弱い   |

遺物：須恵器片68点（坏・高台付坏類13点、蓋5点、甕類50点）、土師器片54点（坏・高台付坏類2点、甕類52点）、陶器片4点（摺り鉢）、磁器片11点（碗）。畑土中に混入していたもので、特に覆土下層から中層にかけて多く認められた。

所見：遺構確認時には、隣接する第6号土坑と併せて、その形状から地下式坑を想定し調査を開始したが、まったく別の土坑であることが判明した。性格は不明であるが、埋土中から確認された磁器片などから、近代以降の遺構と考えられる。



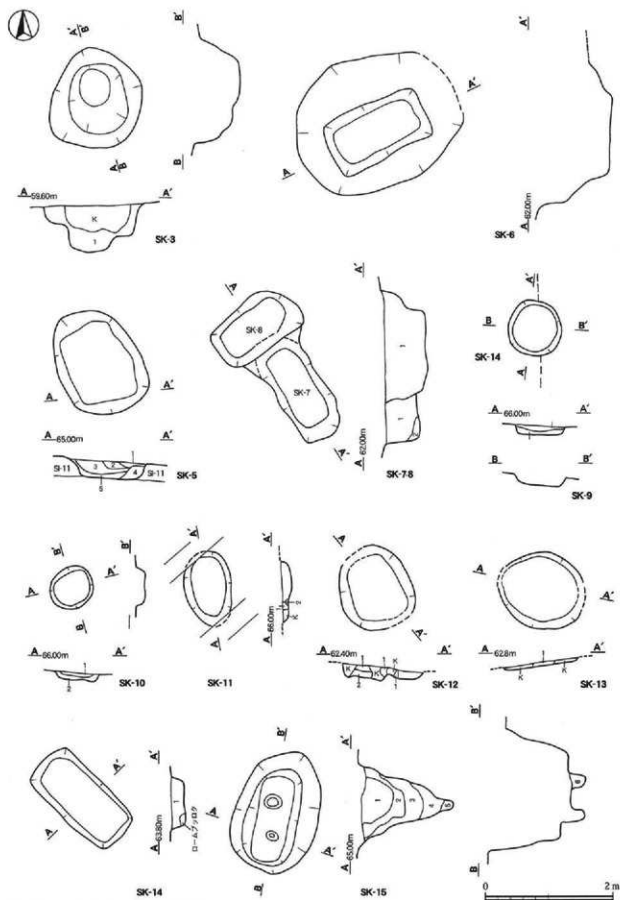
第127図 第2号土坑



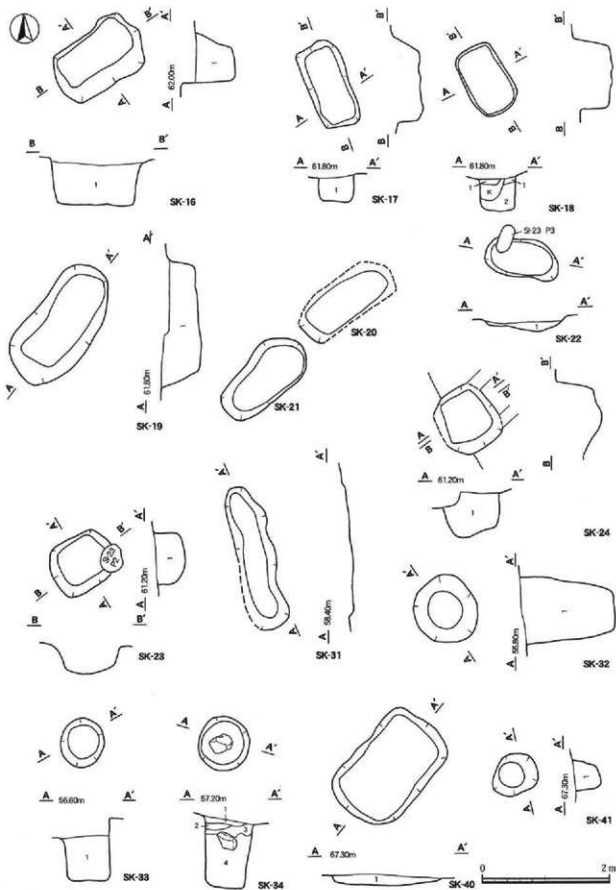
第128図 第2号土坑出土遺物

第2号土坑跡（表61）

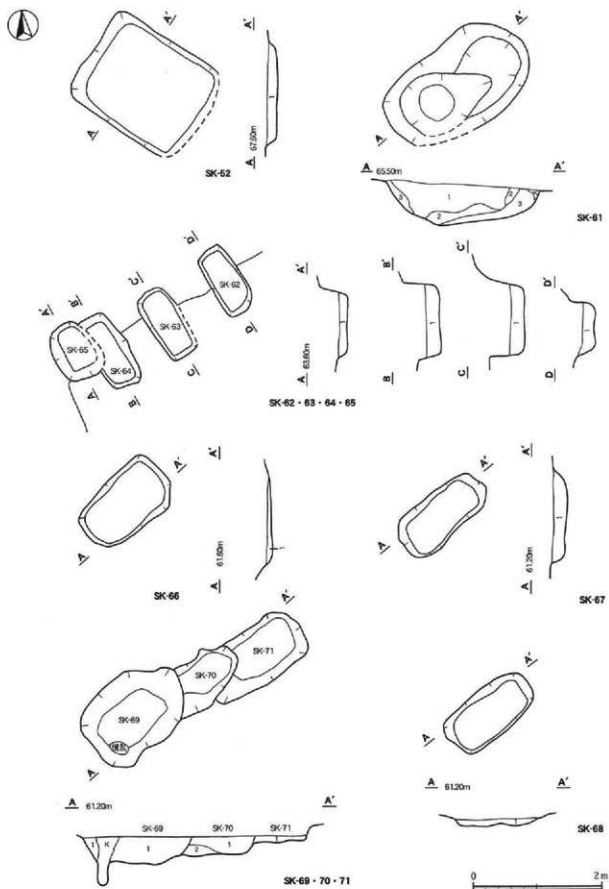
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
449	陶器	甕	10.2	2.0		細砂	5GY7/1明 オレンジ色	外面下層に露胎部分/胎には細かい貫孔	ベルト3層	5% PLR1
450	陶器	蓋		1.4			10YR3/2 黒褐色	天井部トピカンナによる装飾/つまみ係付	下層	10% PLR1
451	陶器	摺鉢	28.4	10.4		白色粒子	10YR4/4褐色	頸部内面から外面全体に施釉	4区下層	30% PLR1



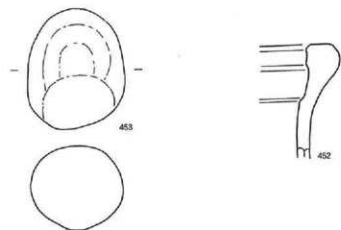
第129-1図 その他の土坑①



第129-2図 その他の土坑②



第129-3図 その他の土坑③



第130図 第6号土坑出土遺物

第6号土坑跡(表2)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
452	陶器	火鉢		(9.6)		白色粘土、小黒褐色	5YR2/1 黒褐色	内面ヨコナデ・口縁部下段に幅27cm・深さ25mmのヘナズリ/外周ヘナズキ	覆土	5%
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考	
453	卵石	9.8	7.5	6.8	625	砂岩		覆土	PL51	

## 第3号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量

## 第5号土坑土層解説

1. 暗褐色 炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、

4. 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

5. 暗褐色 ロームブロック微量

## 第7号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## 第8号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まりあり

## 第9号土坑土層解説

1. 暗褐色 炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

## 第10号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

## 第11号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化物微量、炭化粒子少量

3. 暗褐色 炭化粒子微量、焼土粒子微量

## 第12号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

## 第13号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム炭化粒子微量

## 第14号土坑土層解説

1. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子微量

## 第15号土坑土層解説

1. 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム炭化粒子微量

3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

4. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、やや締まりあり

5. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子微量

6. 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量

## 第16号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量

## 第17号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第18号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

## 第19号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第22号土坑土層解説

1. 暗褐色 炭化物少量、炭化粒子微量

## 第23号土坑土層解説

1. 暗褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

## 第24号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子少量

## 第32号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まりあり

## 第33号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第34号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

3. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、

4. 黒褐色 炭化物微量、炭化粒子微量

## 第40号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量

## 第41号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第52号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

## 第61号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

2. 暗褐色 ロームブロック微量

3. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第62号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第63号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第64号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子少量

## 第65号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第66号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

## 第67号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量

## 第68号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第69号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、炭沼バミス微量

## 第70号土坑土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック微量、締まり弱い

2. 黒褐色 炭化粒子微量、締まり弱い

## 第71号土坑土層解説

1. 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、締まりあり

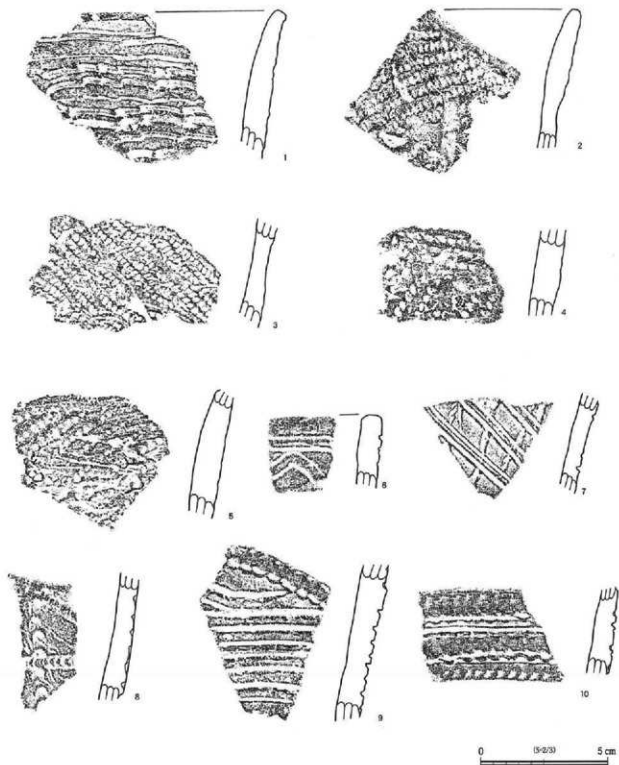
その他の土坑一覧表 (表63)

番号	位置	方位方向	平面形	規模		壁 面	断面	中心以上遺物	備 考 遺構調査(去一削)
				長さ×短さ(m)	深さ(m)				
1	D区B4	N-0°	円形	3.15×2.88	148	外傾	(平庭)	須恵器片136点(高倉付4112・変17・変7)、土師器片167点(変5・変15)	
2	D区B4	N-20°-E	不整形形	3.34×28.00	50	底斜	平庭	須恵器片66点(変13・変10・変5)、土師器片54点(変2・変22、丸瓦土器2点、磁器11点)、瓦器4点	本跡→SK-6
3	D区B4	N-0°	楕円形	1.54×1.60	60	底斜	凹凸	須恵器7点(変3・変4)、土師器片8.75枚、瓦器陶器2点(変)	SI-1→本跡
3	D区A3	N-20°-W	楕円形	1.88×1.30	26	底斜	平庭		SI-11・本跡
5	D区B3・新1	N-60°-E	円形	2.80×2.12	60	底斜	平庭	須恵器5点(変)	
7	D区B3	N-30°-W	楕円形	1.68×0.90	50	直立	平庭		
8	D区D3	N-60°-E	隅丸長方形	1.86×0.84	68	底斜	凹凸		
9	D区A2	N-0°	円形	0.84×0.80	16	外傾	平庭	土師器片2点(変)	SI-14→本跡
10	D区A3	N-6°-W	円形	0.74×0.64	16	外傾	凹凸		SI-13→本跡
11	D区C3	N-3°-W	楕円形	1.30×0.70	8	底斜	平庭	須恵器片1点(変)、土師器片1点(変)	SI-21→本跡
12	D区C3	N-15°-W	楕円形	1.30×1.14	16	外傾	凹凸		
13	D区C3	N-45°-W	円	1.38×1.18	6	底斜	平庭	須恵器片1点(変)	
14	D区C2	N-45°-W	隅丸長方形	1.66×0.82	20	外傾	平庭	須恵器片2枚(変)、土師器片3点(変)、瓦片1点(変)(丸)	
15	D区A3	N-15°-E	楕円形	1.91×1.30	120	外傾	平庭		
16	D区B3	N-30°-E	隅丸長方形	1.62×1.00	72	外傾	平庭		
17	D区D3	N-20°-W	隅丸長方形	1.42×0.70	42	外傾	凹凸	須恵器片1点(変)、土師器片1点(変)	
18	D区B3	N-3°-W	隅丸長方形	1.12×0.70	60	直立	凹凸	須恵器片1点(変)、土師器片3点(変)	
19	D区B4	N-34°-E	楕円形	2.10×0.98	60	外傾	凹凸		
20	D区B4	N-30°-E	楕円形	(1.61)×(0.70)					
21	D区B4	N-45°-E	楕円形	1.64×0.84					
22	D区C3	N-8°-E	楕円形	1.16×0.60	12	底斜	階段		SI-23・24→本跡
23	D区C3	N-6°-E	隅丸長方形	1.06×0.86	48	外傾	階段		SI-23・24→本跡
24	D区C3	N-40°-W	隅丸長方形	1.00×0.92	65	外・傾	階段	須恵器片23点(変10・変3・変1)、土師器片37点(変1・変3)	SI-23・24→本跡
31	D区E2	N 17°-W	楕円形	2.32×0.82	8	底斜	凹凸	須恵器片1点(変)、土師器片91点(変高付1点付21・変70)	
32	E区E2	N-0°	円形	1.06×0.91	130	直立	平庭	須恵器片7点(変1・変3・変2)、土師器片5(変)	
33	E区E2	N-0°	円形	0.76×0.66	100	直立	平庭	土師器片1点(変)	
34	E区E2	N-0°	円形	0.84×0.80	112	直立	平庭	須恵器片1点(変)	
40	D区C2	N-42°-E	隅丸長方形	1.90×1.20	16	底・傾	平庭		
41	D区C2	N-45°-E	楕円形	0.76×0.66	40	直立	平庭		
52	D区E2	N-60°-W	隅丸長方形	2.10×1.66	16	底斜	平庭		
61	D区E2	N-50°-E	楕円形	2.50×1.44	96	底・傾	階段		
62	D区B3	N-35°-W	隅丸長方形	1.12×0.68	12	底・傾	平庭		
63	D区E3	N-35°-W	隅丸長方形	1.18×0.68	24	底・外	平庭		
64	D区E3	N-30°-W	隅丸長方形	1.24×0.68	24	直立	平庭		
65	D区B3	N-30°-W	隅丸長方形	0.94×0.71	22	底・傾	平庭		
66	D区B4	N-58°-E	隅丸長方形	1.56×0.96	10	底斜	平庭		
67	D区H4	N 48° E	隅丸長方形	1.58×0.78	20	底斜	平庭		
68	D区B4	N-60°-E	隅丸長方形	1.68×0.72	12	底斜	凹凸		
69	D区B4	N-50°-E	楕円形	1.80×1.20	54	外傾	凹凸		
70	D区E4	N 50° E	(楕円形)	(1.10)×0.76	30	外傾	凹凸		
71	D区B4	N-52°-E	隅丸長方形	1.74×0.90	10	外傾	凹凸		

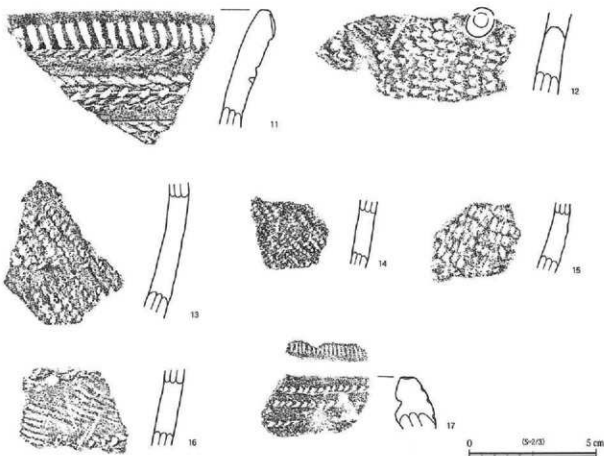


## 第5節 遺構外出土遺物

今回の調査で、遺構に伴わない遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



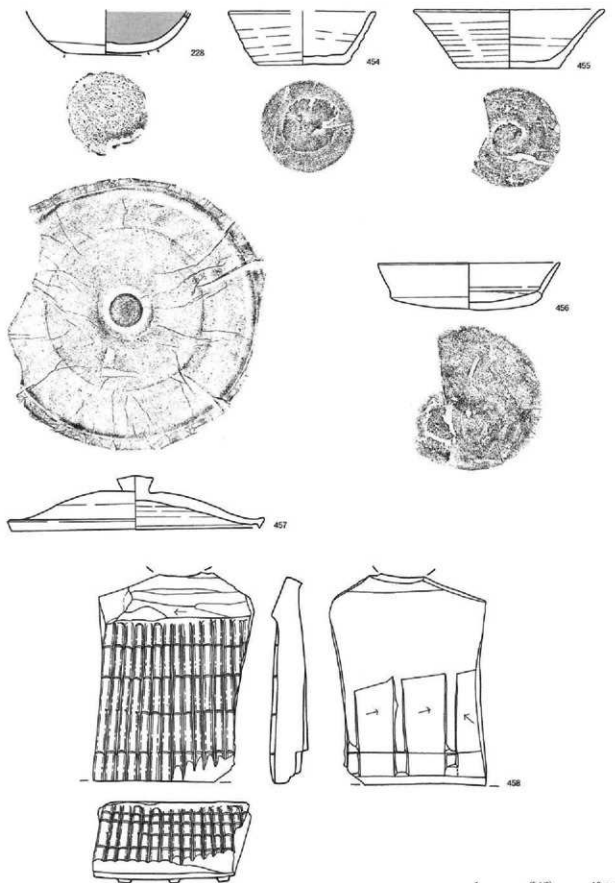
第131-1図 遺構外出土遺物①縄文時代(1)



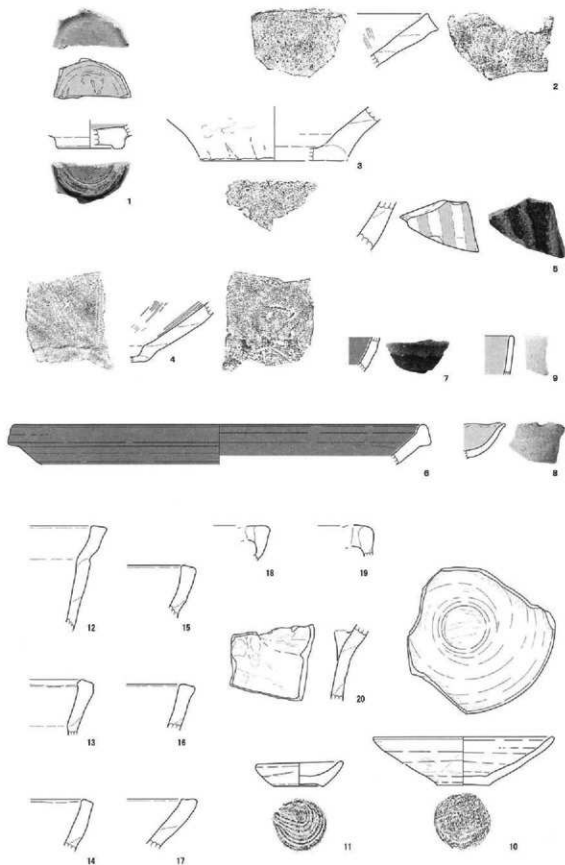
第 131 - 2 図 遺構外出土遺物①縄文時代 (2)

遺構外出土遺物 (縄文時代) (表64)

番号	出土地点	遺物	種別	器種	部位	文様・調整	胎土	色調	焼成	備考
1	SI 15	縄文土器	漆鉢	口縁部	横走する波状文を描く。	繊維、角閃石、白色粒	10YR5/3 褐色色	普通	前期・黒河式 PL83	
2	SI 62	縄文土器	漆鉢	口縁部	波状の口縁部に準節RL縄文を横位に施す。	繊維、角閃石、白色粒	10YR4/3 に濃い黄褐色	普通	前期・黒河式 PL83	
3	SI 2	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を全面に横位に施す。	繊維、白色粒	10YR4/3 に濃い黄褐色	普通	前期・黒河式 PL83	
4	SI 62	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を横位に施す。	繊維、石英	7.5YR5/8 明褐色	普通	前期・黒河式 PL83	
5	SK 61	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を全面に横位に施す。	繊維、石英白 色粒	10YR5/3 暗褐色	普通	前期・黒河式 PL83	
6	SK 13	縄文土器	漆鉢	口縁部	横走波状文と波状文を描く。	石英、砂粒 白色粒	7.5YR5/8 明褐色	普通	前期・浮高1式 PL83	
7	SK 1	縄文土器	漆鉢	胴部	まばらな準承文Lの縄文上に斜位の平行波状文を施す。	石英、白色粒	7.5YR5/8 明褐色	良好	前期・浮高1式 PL83	
8	SK 1	縄文土器	漆鉢	胴部	波節部から刺突文が垂下し、幅狭の爪形文を施す。縄文はの部点文、やや幅狭の受節爪形文による変形モチーフと横定波状文を施す。	石英、白色粒	7.5YR5/8 明褐色	普通	前期・浮高1式 PL83	
9	SI 42	縄文土器	漆鉢	胴部	胴部全面に波状具段文を施す。補飾孔あり。	角閃石、石英、白色粒	10YR5/4 明褐色	普通	前期・浮高2式 PL83	
10	SI 40	縄文土器	漆鉢	胴部	横走波状文と変形爪形文を施す。	石英、赤色粒、白色粒	7.5YR5/6 明褐色	良好	前期・浮高3式 PL83	
11	SI 27	縄文土器	漆鉢	口縁部	口唇部に斜位の節目を付し、以下に幅狭の変形爪形文を施す。	角閃石、石英、白色粒	10YR5/3 暗褐色	普通	前期・浮高3式 PL83	
12	SI 27	縄文土器	漆鉢	胴部	胴部全面に波状具段文を施す。補飾孔あり。	砂粒、白色粒	10YR4/3 に濃い黄褐色	普通	前期・浮高3式 黒河式PL83	
13	SK 1	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を横位に施す。	角閃石、チナ ト、石英、白色粒	10YR5/3 明褐色	普通	前期・黒高古式 PL83	
14	SI 16	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を全面に横位に施す。	砂粒、白色粒	7.5YR5/6 明褐色	普通	前期・黒高古式 PL83	
15	SI 13	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を全面に横位に施す。	雲母、石英白 色粒	10YR5/4 に濃い黄褐色	普通	前期・黒高古式 PL83	
16	SI 28	縄文土器	漆鉢	胴部	準節RL縄文を横位に施し、前縁部刺突文を加える。	角閃石、石英、白色粒	7.5YR5/6 明褐色	普通	前期・黒高古式 PL83	
17	SI 16	縄文土器	漆鉢	口縁部	波状口縁の外縁に押引きによる刺突文を3条、内面には波状文を1条施す。口唇部は外縁反状を呈し、節目を付す。	雲母、石英白 色粒	10YR4/3 に濃い黄褐色	普通	中期・五輪ヶ台式 PL83	

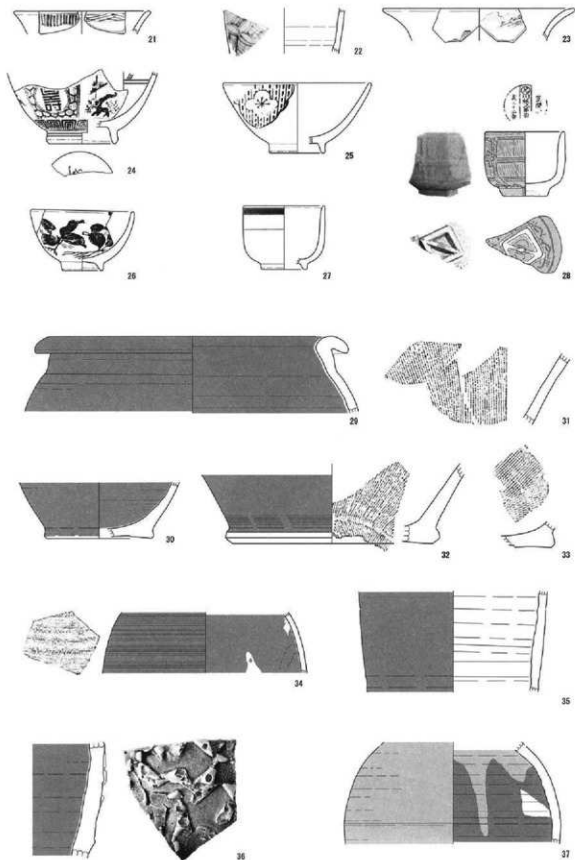


第 132 図 遺構外出土遺物②古代

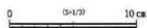


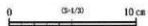
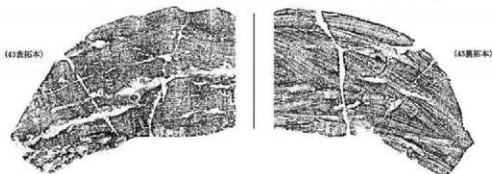
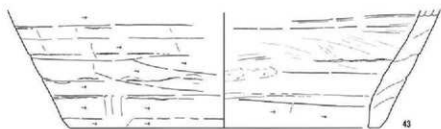
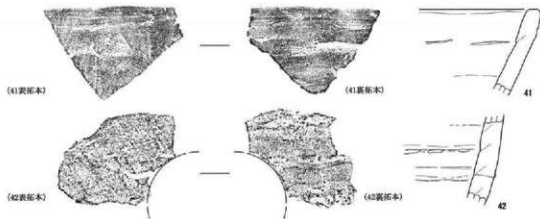
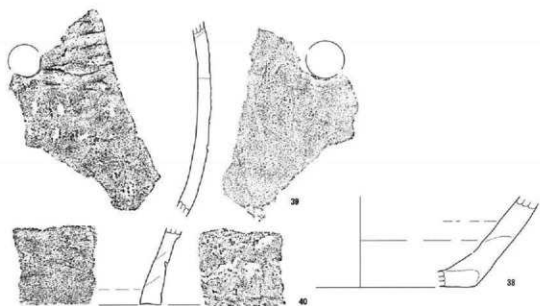
0 5-1/2 10 cm

第 133-1 图 遺構外出土遺物③中・近世 (1)



第 133 - 2 図 遺構外出土遺物③中・近世 (2)





第 133 - 3 圖 遺構外出土遺物③中・近世 (3)

遺構外出土遺物 (表65)

番号	類別	形状	口径	高さ	底径	口上	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
228	土師器	高台付杯		(3.4)		裏面、黒色、 灰石、石灰、 赤褐色、小礫 灰石、小礫、 針状物	2BYR5/6藍色	体部内外面ロクロナデ、内面ヘラミガキ 後黒色処理。体部ノミ部内転ヘラケズリ/ 付高付、片側が底縁部に滑れている	D区	表深 60%
454	須恵器	杯	[11.4]	4.3	6.6		10Gb/1緑灰色	内外面ロクロナデ/底部底縁ヘラ切り (右)	D区	表深 40% PLR2
435	須恵器	杯	14.8	4.7	7.7		5GY6/1 オリーブ棕色	内外面ロクロナデ/底部底縁ヘラ切り (右)	D区	表深 50% PLR2
436	土師器	杯	14.2	3.8	11.2	灰石、石灰、 小礫、白粉砕 子、赤褐色砂	5YR4/1 褐灰色	口縁部内外面ロクロナデ/底面内面ナデ/底 部外周手持ちヘラケズリ	SK-1 No. 43	100% PLR2
457	須恵器	壺	19.2	4.3		灰石、白色砂 子、黒色砂子、 小礫、セルロ イド状の噴出 し	10Y6/1灰色	内外面ロクロナデ/底面外周転ヘラケズ リ(右)/ノミまみ添付後周面にロクロコ ナデ	D区	表深 90% PLR2
458	須恵器	瓦崎	16.6	高さ 3.0	幅 (12.6)	白土、灰石、 小礫	10Y6/1灰色	底面塗料/瓦表側に輪削工具押し込み、垂 本表裏にヘラ削り出し/有表はヘラ削り 出し、ヘラナデ	D区	表深 PLR2

番号	形状	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
459	石版	1.8	2.1	0.4	0.8	黒曜石	ほぼ透明なガラス質で部分的に黒色を呈する	SK-37黄土	等点のみ調査 PLR2

遺構外出土遺物 (中世以降) (表66)

番号	類別	形状	胎土	形状・彫形・調整	産地	時期	備考
1	銅器	鏡	-	銅山古冶/内面見込み銅花文/内外面青銅輪縁(内付・古内 内は鉄製)	中国・ 越前産	12c 後半	大甲冑1型 PLR3
2	陶器	鉢	石灰、灰石(多)	造形形/口縁部内外面ヨコナデ、和感工具ナデ(内面斜削・ 外面二位階位、下位階位)	常滑系	14c 後半 - 15c 前	常滑8-9型式、 口縁直縁
3	陶器	鉢	石灰、灰石、小礫(多)	造形形/体部外面上位ヨコナデ、押削所痕、下縁斜削工具用 ナデ/汽煎使用による厚底/底面砂目痕	常滑系	14 - 15c	口内直縁直 PLR3
4	陶器	鉢	石灰、白色砂子(多)	造形形/体部外面上位ヨコナデ・指頭出度多い、内周溝リ 目(一帯位/本々)、使用による輪削/底面砂目痕	常滑系	15c 後半 - 16c 前	常滑10 - 11型式、 口内直縁直
5	陶器	壺	灰石(少)	縁造形/外面自然磨成/内面ヨコナデ	常滑系	12 - 13c	
6	陶器	銅鉢	-	ロクロ底面/内外面鉄輪縁(てかり強い)	瀬戸焼流系		PLR3
7	陶器	天目茶碗	-	内外面鉄輪縁	瀬戸焼流系	16 - 17c 前	
8	陶器	碗	-	口縁部輪花文/内外面鉄輪縁	肥前系	17c 初	肥前II - III PLR3
9	陶器	碗	-	内外面鉄輪縁	肥前系	17c 後半 - 18c 前	只縁手組
10	土師質土器	皿	黄閃石、白色砂子、 石灰(多)、赤丹、赤 褐色砂子(少)	体部ヨコナデ/底には不定方向ナデ見える・口縁部：体部 下縁強いヨコナデ/底面外見込み斜削ナデ後一方ナデ、 底外面有指削痕/裏転江京	-	15c 中 - 後	
11	土師質土器	皿	赤丹、石灰、白色砂 子(多)、黄閃石、赤 褐色砂子(少)	縁造形/体部外面上位ヨコナデ/底内面見込み形両ナデ、 底外面有指削痕/裏転江京	-	-	
12	土師質土器	溝	黄閃石、石灰、赤丹、 赤褐色砂子(少)	縁部外面下位ナデナデリ、一部押削所痕/内外面丁寧なヨコ ナデ/底の溝部を滑す	-	15 - 16c	胎土白色味強い
13	土師質土器	溝	黄閃石、石灰、赤丹、 赤褐色砂子(少)	縁部内外面丁寧なヨコナデ	-	15 - 16c	12c 銅鉢、同一製 体
14	土師質土器	溝	黄閃石、赤丹、石灰、 灰石(多)、赤丹、赤 褐色砂子(少)	口縁部外面斜削工具ナデ/内外面ヨコナデ	-	15 - 16c	
15	土師質土器	溝	石灰、灰石(多)、黄 閃石、針状物(少)	口内面ヨコナデ、口縁部外縁は強いヨコナデ(工具ナデ) /底面外面指削痕	-	15 - 16c	外周縁付着
16	土師質土器	溝	黄閃石、赤丹、石灰、 灰石(多)、針状物、白 色砂子(少)	内外面ヨコナデ、粘性して調整不明瞭	-	15 - 16c	外周縁付着、胎土 白色味強い
17	土師質土器	溝	石灰、灰石(多)、黄 閃石、針状物(少)、 赤丹、赤褐色砂子、 赤褐色砂子(少)	内外面ヨコナデ	-	-	
18	土師質土器	溝	黄閃石、赤丹、石灰、 灰石(多)、針状物、白 色砂子、赤褐色砂子 (多)	内外面ヨコナデ/耳貼付	-	15 - 16c	外面縁付着、胎土 口内味強い

番号	類別	部	材	土	成形・盛形・調整	産地	時期	備考
19	十連貫土器	扉		角閃石、石英(多)、 白色磁子、赤褐色磁 子(少)	内外面ココナデ/耳貼付	-	15～16c	外面塗付、胎土 白色味強い
20	土師製土器	扉		角閃石、輝石、石英 (多)、針状物あり、白 色磁子(少)	内面上位ココナデ、下位副位ノコナデ/耳貼付後、ナデ、指 環正表面磨る/外面磨りし気味不明	-	15～16c	外面塗付、胎土 白色味強い
21	磁器	皿		-	内外面塗釉、赤付け(外面磨れた花卉文、内面磨れた四方部 文等)	江戸美濃系	19c中	「地反鏡」
22	磁器	碗		-	内外面塗釉、赤付け	肥前系	19c前	伊豆ノ類、「そば 壺口」
23	磁器	鉢		-	内外面塗釉、赤付け(内面山水文)	江戸美濃系	19c前～中	
24	磁器	皿		-	内外面塗釉、赤付け/高台塗付磨光、高台内面磨あり	-	20c前(2Q)	新製
25	磁器	碗		-	内外面塗釉、赤付け(ソム印) /高台塗付磨光	-	20c前(1Q)	板橋直前産
26	磁器	皿		一部成形あり	内外面塗釉、上絵付け(赤・ピンク)/高台 塗付磨光	-	20c前	子匠茶碗
27	磁器	皿		-	内外面塗釉、赤付け	-	20c前	足否み碗
28	磁器	皿		一部成形あり	内外面塗釉、外面一合の内、底付クワ曹磁 胎、外面全体に浮草状の文様/高台磨り成形に作る、花付部 磨光/胎土磨り及赤付け「室町朝/尾瀬白ノ磁器(心五香)」	-	20c前 (2Q～3Q)	丸瀬湯中七郎形
29	陶器	茶		黒色磁子(多)、白色 磁子(少)	内外面鉄(稀) 釉施無	伊勢磁子系 (笠間)	19c後～	
30	陶器	茶		黒色磁子(多)、石英 (少)	内外面鉄(稀) 釉施無、高台部分化粧赤付	伊勢磁子系 (笠間)	19c後～	
31	陶器	楕鉢		黒色磁子、石英(多)	内面磨目(一単位28cm以上)、外面鉄(稀) 釉施無	伊勢磁子系 (笠間)	19c後～	
32	陶器	楕鉢		黒色磁子、石英(多)、 白色磁子(少)	内面磨目、外面鉄(稀) 釉施無、高台部分化粧赤付	伊勢磁子系 (笠間)	19c後～	
33	陶器	楕鉢		-	内面磨目、外面鉄(稀) 釉施無	伊勢磁子系 (笠間)	19c後～	
34	陶器	土瓶		石英(少)	伊勢中位を基調的に磨り上/内外面鉄釉	伊勢磁子系	19c後～	「赤目土瓶」カ
35	陶器	不詳 (花笠 類)		黒色磁子、白色磁子、 赤褐色磁子(少)	外面鉄(稀) 釉施無、内面鉄化粧	伊勢磁子系	19c後～	
36	陶器	不詳 (花笠 類)		黒色磁子(多)、白色 磁子(少)	内面鉄(稀) 釉施無、外面鉄化粧下地に文様磨目	伊勢磁子系	19c後～	
37	陶器	壺		-	内面供用下地とし、灰釉施れ込む 外面灰釉施無	伊勢磁子系	19c後～	
38	土師製土器	煮炊器		白色磁子、赤褐色磁 子、輝石、石英、 角閃石、石英、尖石 (少)	内外面磨り滑しく調整不詳	-		
39	土師製土器	石臼類		角閃石、輝石、石英、 白色磁子、赤褐色磁 子(多)、黒石(少)	一部成形/底面磨光する「土製、形/外面下位ココナデ、上位部 は滑りナデ、内面ナデ(新・深)/上形磨目	-	19c～	同一個体、胎土白 色味強い
40	土師製土器	石臼類		角閃石、輝石、石英、 黒石、白色磁子、赤 褐色磁子(多)、尖石、 砂(多)		-	19c～	
41	土師製土器	石臼類				-		同一個体、胎土白 色味強い
42	土師製土器	石臼類				-	19c～	
43	土師製土器	石臼類				-		



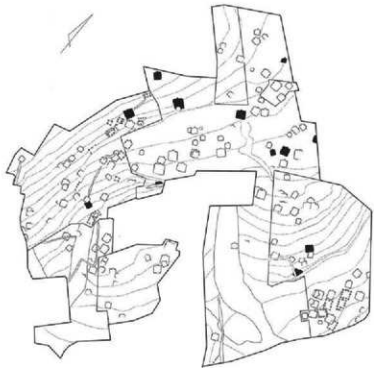
## 第6節 総括

寺上遺跡は平成22年度に第一次調査が行われ、先行して刊行された「寺上遺跡」によれば、竪穴住居跡88軒、掘立柱建物跡14棟、溝跡4条、土坑14基、井戸跡1基が確認されている。今回の調査では、竪穴住居跡61軒、横列1列、溝跡8条、土坑41基が確認され、当遺跡は7世紀後半～10世紀の間に計149軒もの竪穴住居を主体とする集落が営まれていたことが明らかとなった。

ここでは2年間に渡る調査の結果を踏まえ、住居跡の変遷を中心に当集落跡の特徴及び性格について迫っていきたいと思う。

## (1) 7世紀

12軒の住居跡が確認された。A区2軒、C区2軒、D区8軒である。これらは当集落では最も古い年代の住居であり、当集落の最盛期である8世紀～9世紀へと移行する前段階となる。当該期住居は、すべて標高の高い地点（50～67m）の斜面部に立地しており、標高50m以下の低い地点には8世紀以降の住居や掘立柱建物が占有している。また当該期の住居はすべて7世紀後半代に比定され、住居内に4本の主柱穴を持ったやや大型の建物である。しかし住居の主軸方向は一様ではなく、真北軸から西に大きく振れるもの（A区21、C区13、D区6・62・64）、わずかに西に振れるもの（C区21・13・D区15・16・25・27・61）、東に振れるもの（A区2）など様々である。当該期は集落の萌芽期で住居数は少なく閑散としており、まだ集落としての機能は確立されていない。その結果、他地域から集落が移動する際に建物の規模や構造等の住居形態は引き継がれているが、住居の主軸方向の差違に関しては地理的要因が優先されるため、規制は生じていないためであろう。つまり当集落は起伏が激しい山間部にあるため、住居跡の主軸方向は地理的要因により大きく左右されると考えられる。しかし付け加えるのであれば、各地点にまばらに立地する当該期住居の主軸方向は、近接する8世紀代の住居へと引き継がれているようで、当該期を経て住居形態のひとつの特徴として主軸の方向が加味され始めたと考えられる。



第134図 「寺上遺跡の住居配置」(7世紀)

## (2) 8世紀

57軒の住居が確認された。A区16軒、B区3軒、C区17軒、D区19軒、E区2軒である。この中には、鬼高様式とも言われる、床にローム土を厚く貼った大型住居が多数含まれるが、これらは7世紀後半～8世紀初頭に建てられ8世紀前葉頃に廃絶された住居と推測される。しかし8世紀前葉に比定される住居はまだ少ない

なお、当遺跡の南側の谷を介し対峙する行者遺跡は、古墳時代前期～中期を主体とした集落であるが、8・9世紀代に住居はほとんど見あたらない。逆に当遺跡は8・9世紀代には多くの住居が建ち並ぶ最盛期を迎えるが、古墳時代前期～後期にかけての住居は1軒（B区4号住居）しか検出されていない。以上を踏まえ、また双方の位置的な関係から見ても、行者遺跡から当遺跡へと集落が移行した可能性もあるが判然とはせず、周辺遺跡の今後の調査が待たれるところである。

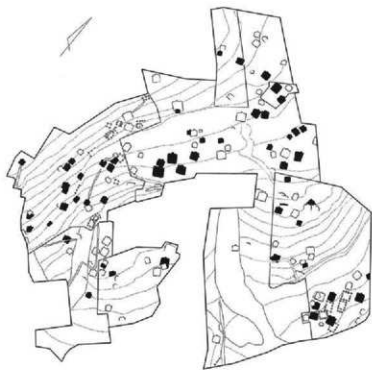
当該期の出土遺物は7世紀の第3四半期以降のものが大半を占め、8世紀以降の住居跡覆土からも埋土中に混入した土師器非ロクロ環が認められる。また平成23年度の報告書によれば、山田窯製品より古く東海村馬頭根窯製品より新しいもので、胎土に海綿骨針が含まれる須恵器蓋（A区7）が報告されており、笠間市周辺に在地窯による須恵器生産が行われていたものと推測される。

(A区14、B区4、C区3・17・23・29・33、D区7・11・58、E区42)。8世紀中葉以降になると住居数は増え、特に遺跡西部に位置するA区では掘立柱建物群を併い急激な増加傾向を示している。また住居形態にも大きな変化がある時期で、住居内に主柱穴を持つ大型住居跡と、住居規模はやや小さく竪穴外柱を有するタイプにはほぼ二分されるが、大型住居にいくつかの小型住居と掘立柱建物が付帯する配置形態は認められていない。

また当該期の住居の主軸方向は一様ではなく、A区は主に真北方向に、C区南部はやや北西方向寄り、D区北部はやや北東寄りあるいは真北方向に、D区西部は南西方向に向いている。

想像の域を出るものではないが、その理由として2点想定した。まず最初の理由としては、地形を強く意識した配置となっている点であり、標高が比較的高いエリア(A区北部・D区)では、山頂部を意識して建てられていると推測され、北方向に山頂部があるA区はほぼ真北に主軸を向け、D区西部は山頂部が北西方向にあるため主軸はやや北西方向に主軸を向けていると推測される。しかし集落を構成している都合上、すべての住居が山頂部方向を向いているのではなく、当然集落の端部エリアでは集落の中心や比較的低標高の低いエリアに対しても意識せざるを得ないため、D区北部のような真北方向に主軸を向けている住居も存在する。つまりD区北部の住居配置から、当エリアは当集落の東北端に位置し、東側には当該期の住居跡はなかったとも推測できよう。

2点目の理由としては、標高が比較的低いエリアでは、集落の外側を意識した配置にならざるを得ないということである。当遺跡の南側は谷部となっており、湿地帯が広がっていたと推測される。当該期以降のC区南部が掘立柱建物跡を配置したエリアとな



第 135 図 「寺上遺跡の住居配置」(8世紀)

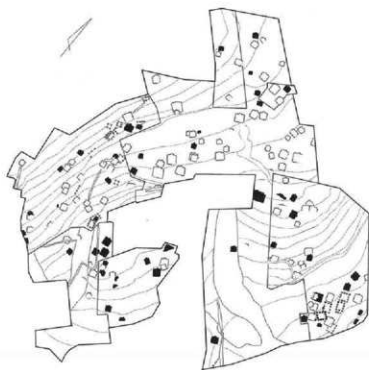
なっていることから、このようなエリアは、水田耕作、物流拠点等の経済的理由による建物配置が重要となであろうし、対外的にも集落の玄関的役割を担っていたと推測されるからである。

遺物を見ると胎土に海綿骨針を含む在地産須恵器製品を主体とし、8世紀前半代の住居からは一部雲母を含む新治産製品が混じっており、また土師器では口縁部を積み上げる常総型系統の在来器と、県央、県北に残存している口縁部が外反する長頸甕が見られる。なお、当遺跡からは窯の溶解層が付着した須恵器製品が2点出土している。B区4号住居跡の長頸甕とD区第1号土坑出土の甕である。他にも焼き歪みの激しい甕なども多く確認されている。製品として遠域には流通しえない不良製品の継続的利用が見られることから、遺跡周辺に新たな窯跡の存在が指摘される。また、当遺跡からは刀子や鎌などの鉄製品や石製紡錘車等が住居跡から出土している。

### (3) 9世紀

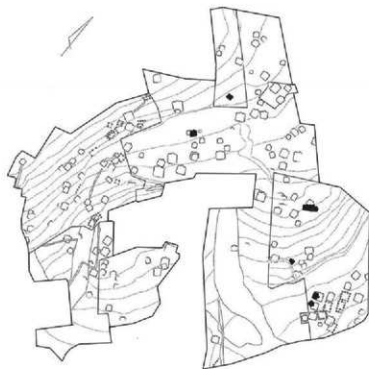
52軒の住居が確認された。A区11軒、B区9軒、C区16軒、D区8軒、E区4軒、F区4軒である。これらの住居は8世紀代の大型住居が9世紀初頭に廃絶されたものと、新たに8世紀後葉以降に出現した竪穴外柱建物に分けられるが、この床上に主柱を持たない住居が主体となる。また竪穴外柱建物にも大型のものや小型のものに細分されるが、大型住居跡の主軸方向はほぼ北を向き、その周辺に小型の住居が見られる。また、東麓部に竈を持つ住居も出現する(A区1、C区15・40、E区33)。

なお、遺跡南東部のC区南部では掘立柱建物群が認められるが、平成23年度刊行の「寺上遺跡」ではC区39号住居とともに村落内寺院の可能性を示唆している。現在、茨城県内出土の瓦塔は数点確認されているが、土浦市・根鹿北遺跡からは、130点を超える瓦塔片が出土しており、池田敏安氏によって根鹿北遺跡における瓦塔及び仏具関連遺物の出土状況の検討が行われている。池田敏安氏によれば根鹿北遺跡の仏堂関連遺物は掘立柱建物跡4棟、竪穴住居跡5軒、火葬基1基であり、基壇状遺構は確認されていない。また仏具関連遺物



第136図 「寺上遺跡の住居配置」(9世紀)

9世紀前半段階で少量見られ、9世紀後半以降須恵器の供養具と数量が急増する。また、上記の鉄鉢形須恵器は形状に若干の相違はあるが、笠岡市内の遺跡では城谷遺跡、寺崎台地遺跡等で数点確認されている。なお、墨書土器は9世紀後半頃に見られる。



第137図 「寺上遺跡の住居配置」(10世紀)

として鉄鉢形須恵器や土師器小皿(灯明具)が出土しており、瓦塔は掘立柱建物跡内に安置され、鉄鉢形須恵器や土師器小皿(灯明具)は、第2号掘立柱建物跡で行われたであろう仏事に使用されたものとしている。これら村落内寺院または仏教的な様相を示唆する特徴的遺物は当遺跡からも多数出土している。刀子、円面硯、鉄鉢型土器、墨書土器、瓦塔等である。瓦塔は屋蓋部破片で、C区西端部の耕作土中から出土したものである。屋蓋部は幅0.7cm、深さ0.4cmの竹管状工具によるもので丸瓦のみを表現している。これらの遺物の大半は、住居の覆土中や表土中に混入していたものであるが、当集落内での村落内寺院の可能性を十分に示唆する遺物として大いに注目されるであろう。なお、当遺跡での村落内寺院についての詳細は、先行する報告書「寺上遺跡」(松田ほか2012)を参照されたい。

当該期の出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、金属製品がある。土師器の供養具は8世紀後半から

#### (4) 10世紀

8軒の住居が確認された。C区7軒、D区1軒である。当集落の消滅期であり、山頂部周辺エリアでは住居の形跡はまったくなくなり、村落内寺院の存在が示唆されるC区の掘立柱建物群周辺に散見される程度である。

また住居形態はすべて堅穴外柱建物となっており、竈や床の造りも簡略化されている。また、C区43・44号住居跡は東壁部に竈を持つ構造となっている。なお、当集落内の最終期遺構は、1・2号祭祀土坑で、遺物年代は10世紀第3四半期としているが、この時期をもって当集落は消滅する。

当遺跡の性格については、墨書土器や刀子の存在等から郡衙関連遺跡としての特徴とも一部合致するが、住居構造に古墳時代後期の影響が継続して窺われる点や倉庫としての掘立柱建物が少ない点、紡績車に鉄製のものが見られないことなど、未だ不明瞭な点も多く、どちらかと言えば「郷」単位の一一般集落に近い様相を示していると言え

らだろう。また、当集落内の最終期は10世紀第3四半期頃であるが、小田出現段階も含め、中世の遺物が表採され、同時に、当遺跡が所在する小原地区には小原城が新たに出現するなど、中世以降も継続して小原地域の人々の足跡は残されていくのである。

なお、当遺跡の調査では村落寺院の存在が明らかになったが、遺跡名でもある「寺上」は遺跡が所在する小字名であり、また谷を挟んで対峙する「行者」や南方にある「丘寺」など、当地域には寺院に関する地名が多い。しかし確認された墨書土器には「寺」や「佛」などの直接的に寺院の存在を示唆する文字は記されていない。言い換えれば、村落寺院自体は郷レベルの一般集落には付設されているものであり、当集落もまた特異な存在ではないのだろう。しかし、寺院に関する地名が多いことを考えれば、想像の域は出ないものの当集落内にある「村落寺院」消滅後、10世紀以降新たに「山寺」的施設が造られ始めた可能性もあろう（群馬県・黒船中西遺跡、静岡県・大知波神鹿寺、石川県・浄水寺遺跡等 池田敏宏2003）。また12世紀以降全国的に広がっていった「中世寺院」へと変貌を遂げていった可能性もあり、その結果、これらの地名が新たに生まれたとも考えられるのではないだろうか。（宮田）

○寺上遺跡出土の墨書

釈文	山上遺構名	釈文	出土遺構名
「家」	A区9号住	「右後」カ	C区40号住
「ち」?	A区19号住	「井」カ	CF区2号掘立
「L」	C区4号住	墨痕	C区1号掘立
「口」	C区9号住	「家」	D区30号住
墨痕	C区12号住	「七家」2点	D区44号住
墨痕	C区19号住	「七L」	D区44号住
「山人」	C区39号住	墨痕	D区45号住

参考文献

- ・川井正一ほか2011『茨城県域における文字資料集成12』『阿蘇文化財部年報』30
- ・平川南2000『墨書土器の研究』吉川弘文館
- ・池田敏宏1999A『関東地方瓦葺墓年と他地域瓦葺墓年と比較・検討ー関東地方瓦葺墓年検定作業を中心にー』『研究紀要』第7号 關東水素文化振興事業阿蘇文化財センター
- ・池田敏宏1999B『仏土遺跡群における瓦塔出土状況(素案)ー上浦市・黒船北遺跡山上瓦塔の検討を中心にー』『上浦市立博物館紀要』第9号 茨城県土器市立博物館
- ・今泉浩ほか1993『埼玉県児玉郡栗原町東山五跡出土瓦塔・瓦葺佛体修復報告書』埼玉県教育委員会
- ・小林修ほか2006『群馬県指定史跡・三原山御訪上遺跡瓦塔遺跡仏教遺構出土瓦葺・瓦葺 調査報告書』群馬県教育委員会
- ・財団法人茨城県教育財団 奈良・平安時代研究班1991『8世紀～9世紀前半の葬儀構成について』『研究ノート』第17号 財団法人茨城県教育財団
- ・浅井哲也1994『東国の古代の集落』『茨城県史研究』72集 茨城県立歴史館
- ・小笠原好彦1989『古墳時代の墓穴住居集落にみる単位集団の移動』『立歴史民俗博物館研究報告』第22集
- ・山中敏史2000『地方官衙と木棺支配』『茨城考古学協会誌』第12号
- ・松村恵司1998『律令国家の未開文配と集落』『律令国家の地方未開文配機構をめぐってー研究集会の記録ー』奈良国立文化財研究所
- ・松村恵司1995『古代東国集落の諸相……村と郷の暮らしぶり』『第9回企画展国語古代集落 しもつけのムラとその生活』樹木原立しもつけ風土記の丘資料館年報
- ・浅井哲也1992『茨城県域内における奈良・平安時代・平安時代の土器(1)』『研究ノート』創刊号
- ・浅井哲也1993『茨城県域内における奈良・平安時代・平安時代の土器(Ⅱ)』『研究ノート』2号
- ・佐々木龍樹2009『武田遺跡群における平安時代土器器形・小原編年』『奈良考古学』第31号 奈良県考古学同人会
- ・菅生南1998『古代集落と仏教信仰』『仏のすまう区間ー古代遺跡の仏教信仰ー』上高津(塚ふるさと歴史の広場)
- ・富永水樹の1994『村落内寺院の展開ー地方に於ける仏教の受容(上)』神奈川考古学第30号神奈川考古学同人会
- ・松田政基ほか2012『寺上遺跡』笠岡市教育委員会(右)毛野考 古学研究所
- ・土生明治ほか2011『行者遺跡ー京宮類造り総合整備事業に伴う発掘調査報告書ー』笠岡市教育委員会(右)毛野考古学研究所
- ・大貫純ほか2010『長崎西遺跡』笠岡市教育委員会、有限会社句工工房
- ・土生明治ほか2011『第Ⅲ巻 総括 第4節平安時代』『松谷遺跡2ー京宮類造り総合整備事業に伴う発掘調査報告書ー』笠岡市教育委員会(右)毛野考古学研究所
- ・高野浩之2008『解谷遺跡』笠岡市教育委員会、阿蘇地域文化財コンサルタント
- ・土生明治2010『長崎東遺跡』笠岡市教育委員会、(右)毛野考古学研究所
- ・古田寿ほか2005『小原遺跡』友部町小原記録調査会、大成エンジニアリング株式会社

## 第V章 行者遺跡2

## 第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は3軒確認された。2軒は弥生時代に、1軒は古墳時代に比定される住居跡である。

## 第1号住居跡（第139・140図、第67表、PL84・86）

位置：C0・C1グリッド、標高50.4m地点にある。

規模・平面形：長軸3.20m、短軸2.96mの長方形である。

主軸方向：N-39°-W

残存壁高：確認面から最大高12cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：平坦で、硬化はしていない。しかし、炭化粒子や焼土粒などの生活面としての汚れが見える。

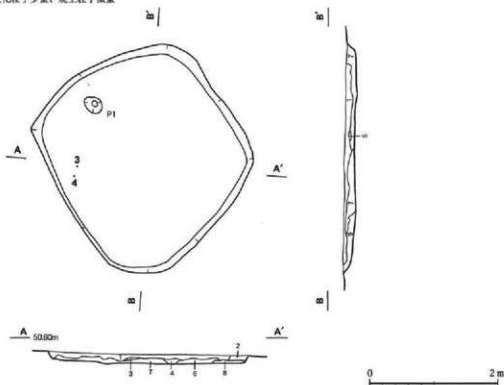
ピット：本跡北西部の壁際から1箇所確認されたが、本跡に伴うものかどうかは明確には分からなかった。28×24cm、深さ49cmで、覆土は暗褐色土の単一層である。

炉：検出されていない。

遺構埋没状態：覆土は浅く、埋没状況は不明である。

## 土層解説

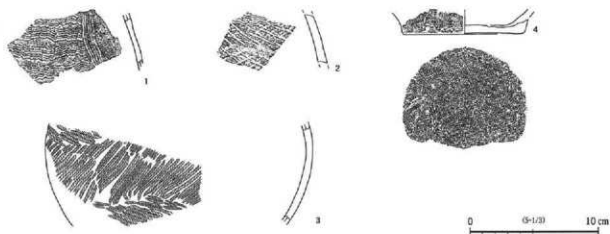
- |        |                       |        |                         |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1. 暗褐色 | ロームブロック微量、ローム粒子少量     | 6. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物少量、炭化粒子少量  |
| 2. 暗褐色 | ロームブロック微量、炭化粒子微量      | 7. 褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3. 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子微量 | 8. 褐色  | ローム粒子中量、炭化物少量、炭化粒子少量    |
| 4. 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 9. 褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量          |
| 5. 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量         |        |                         |



第139図 第1号住居跡

遺物：弥生土器片（甕）5点。1・2の胴部片は北盤際から重なった状態で、3の胴部片と4の底部片は床面からやや浮いた状態で出土している。これらはすべて十王台式土器で、1は縦位の4条の区画内に5条単位の櫛指波状文を描いており、2は胴部下位に5本以上の櫛指波状文による区画文を描き、以下に付加条2種を施している。3は無節縄文R、L、Rを羽条に施文し、4は底面に細かい布目痕が見える。

所見：出土遺物数は少なく炉も検出されていないため、住居とするには十分ではないが、床面に焼土粒子や炭化粒子が見えたため、わずかな生活の痕跡と捉え住居跡とした。時期は弥生時代後期の十王台式期と考えられる。



第140図 第1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表（表67）

番号	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様・調整	胎土	色調	焼成	出土位置	残存	備考
1	弥生土器	甕	胴部				縦位の4条の区画内に5条単位の櫛指波状文を描く。	雲母、砂粒、赤色粒、白色粒	10YR3/1 黒褐色	普通	NO.1		十王台式 PL86
2	弥生土器	甕	胴部				胴部下位に5本以上の櫛指波状文による区画文を描き、以下に付加条2種L+L、R+Rを施す。	角閃石、チャート、石英、白色粒	10YR3/3 暗褐色	普通	置土下層		十王台式 PL86
3	弥生土器	甕	胴部				無節縄文R、L、Rを羽状に施文。	角閃石、チャート、石英、白色粒	10YR3/3 暗褐色	普通	NO.3	10%	十王台式 PL86
4	弥生土器	甕	底部			9.5	胴部は外傾して立ち上がる。底面に細かい布目痕。	雲母、石英、砂粒、赤色粒	10YR5/3 濃い黄褐色	普通	NO.4	10%	十王台式 PL86

### 第2号住居跡（141・142図、第68表、PL84・86）

位置：C 0・C 1グリッド、標高50.1m地点にある。

規模・平面形：東半分が調査区外にあるため明確ではないが、長軸（4.4）m、短軸（4.2）mほどの方形と推測される。

主軸方向：N - [27]° - W

残存壁高：確認面から最大高42cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：ほぼ平坦で、炉跡周辺はやや硬化している。

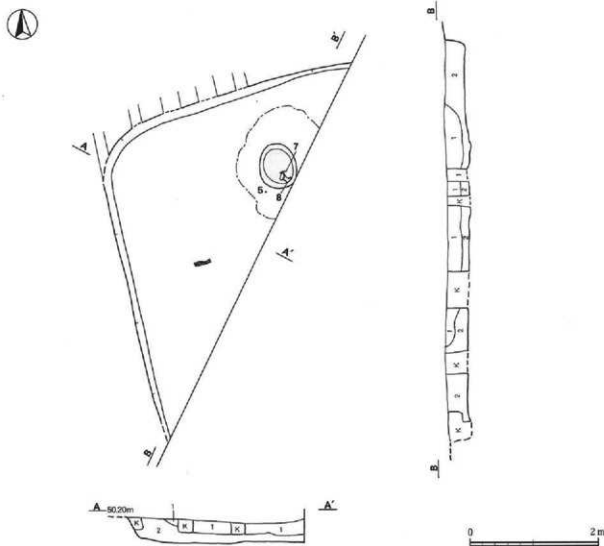
炉：調査エリアの境界線上にあり、長径76cm、短径60cmの楕円形を呈し、深さは6cmほどである。被熱は顕著でゴツゴツしている。また、炉の中央南西寄りに炉器台が横位で確認された。

遺構埋没状態：覆土下層ではロームブロック主体の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

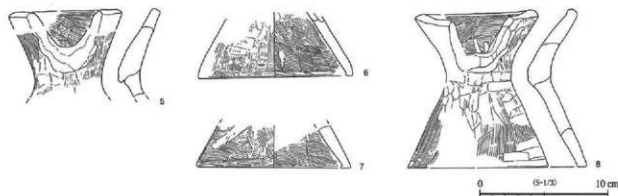
1. 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量、粘性あり、締まりなし
2. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子少量、粘性、締まりともにあり

遺物：土師器片7点（炉器台4点、高坏1点、不明細片2点）、炭化材1点。図化した遺物はすべて炉器台片で、5は炉の西側から、6～8は炉内から出土したもので、8は倒れた状態で確認されている。



第141図 第2号住居跡

所見：時期は炉内出土の遺物からみて古墳時代前期と考えられる。なお、行者遺跡からは古墳時代前期から中期にかけて5軒の住居が検出されているが、大型住居1軒を除き他は小型で主柱を竪穴床面上にもたない建物構造となっており、本跡もその特徴をもつ住居である。



第142図 第2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表(表68)

番号	種別	部様	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様・調整	胎土	色調	施地	出土位置	残存	備考
5	土埴器	炉器台	口縁部	18cm			口縁は脚部上位から外傾して立ち上がる。脚部は下方に開く。口縁外面に縦位のハケナダ、内面に横・斜位のハケナダ、口縁下部にU字状の抉り込みを付す。	重晶、石英、砂粒、赤色粒	5YR5/6 明赤褐色	普通	NO.1	30%	古墳時代前期 PL86
6	土埴器	炉器台	脚部	112cm			脚部はハの字状に開き、脚部は平坦に作出される。脚外面に縦位のハケメ、内面に横位のハケナダを施す。	角閃石、チャート、石英、白色粒	7.5YR7/6 褐色	普通	NO.3	5%	古墳時代前期
7	土埴器	炉器台	脚部	112cm			脚部はハの字状に開き、脚部は平坦に作出され、内側に突出する。脚外面に縦・横位のハケメ、内面に横位のハケナダを施す。	角閃石、チャート、石英、赤色粒	10YR5/4 にぶい黄褐色	普通	NO.2	5%	古墳時代前期
8	土埴器	炉器台	口縁部 脚部	19cm	124	110	口縁は脚部上位から外傾して立ち上がる。脚部はハの字状に開く。口縁外面に縦位のハケメ、内面に横位のハケナダ、口縁下部にU字状の抉り込みを付す。脚部外面に縦位のハケメ、内面に横位のハケナダを施す。	角閃石、チャート、石英、赤色粒	10YR5/4 にぶい黄褐色	普通	NO.4	80%	古墳時代前期 PL86

### 第3号住居跡(第143・144図、第69表、PL84～87)

位置：C0グリッド、標高60.4m地点にある。

規模・平面形：長軸5.60m、短軸4.80mの楕円形を呈する。

主軸方向：N-12°-W

残存壁高：確認面から最大高24cmを測り、外傾して立ち上がる。

壁溝：検出されていない。

床：耕作用トレンチャーによって壊されているが、ほぼ平坦であったものと推測される。

ピット：6箇所確認されており、北東部を除き壁柱穴のように壁際を巡っているが、本跡に伴うかどうかも含め不明である。深さはP1：8cm、P2：9cm、P3：10cm、P4：29cm、P5：22cm、P6：19cmとなっており、大きさも深さも一定ではない。

炉：中央部やや北寄りにあり、長径56cm、短径(28)cmの楕円形で深さ14cmである。土層観察の結果、火熱を受けて炉床が厚く焼土化しているのが確認された。



## 土層解説

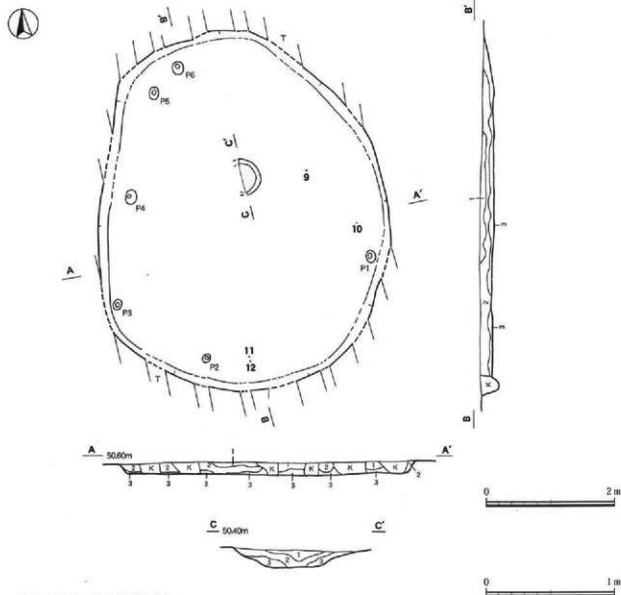
1. 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量、粘性弱い
2. 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量、炭化粒子微量、締まりあり
3. 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック微量、締まりあり、粘性弱い

遺構埋没状態：覆土が浅く、堆積状況は不明である。

## 土層解説

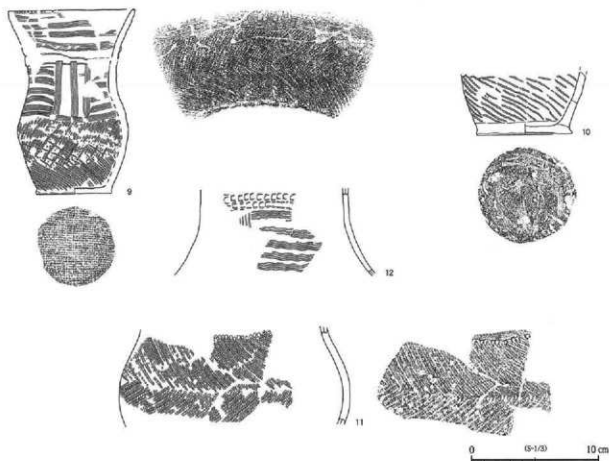
1. 黒褐色 ローム粒子微量、焼土粒子微量
2. 暗褐色 ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化粒子微量
3. 褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量

遺物：弥生土器片78点（壺）。9は中央部東寄りの床面から、10は東壁際の床面から、11は南壁際の床面からそれぞれ出土している。これらはすべて十王台式土器で、9は口唇部に刻目を付し、5条単位の4段の横走文、以下に2条の縦線をめぐらし、頸部には5条単位3列の縦位区画文を3単位施し、区画内に褥描波状文を充填している。また胴部下位に5条単位の横走文をめぐらし、胴部上位に付加条2種LR+LR、下位には付加条1種RL+Rを施している。10は胴部に付加条2種LR+LとRL+Rを羽条に施している。11は胴部上位に付加条2種RL+R、下位に付加条1種LR+Lを施している。



第143図 第3号住居跡

所見：本跡は耕作用トレンチャーによって大きく壊され、建物のプランを明確には把握できなかった。時期は弥生時代後期の十王台式期と考えられる。



第144図 第3号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表 (表69)

番号	種別	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様・調整	胎土	色調	焼成	出土位置	残存	備考
9	弥生土器	甕	口縁 - 底部	10.0	14.5	6.0	小型広口甕。口唇部に刻目を付し、口縁は筋彫からゆるやかに外傾して開く。底部はゆるく凸出。胴部上位で少し張り、平底に垂走。口縁は5条単位4段の縦走文、以下に2条の横線をめぐらす。胴部には5条単位3列の縦走文を3単位隔し、区画内に帯状波状文を充填する。胴部下部に5条単位の横走文をめぐらす。胴部上位に付加条2種LR+LR、下部には付加条1種RL+Rを施す。底面に布目焼。	角閃石、チャート、石英	10YR3/3 暗褐色	普通	NO.1	80%	十王台式 PL87
10	弥生土器	甕	胴 - 底部			7.5	胴部に付加条2種LR+LとRL+Rを羽垂に施す。底面には布目焼。その上に基状工具で円形モチーフや斜紋の沈線文と網焼文を加える。	角閃石、チャート、砂粒、白色泥	10YR5/3 にぶい黄褐色	普通	NO.2	30%	十王台式 跡として再利 用PL97
11	弥生土器	甕	胴部				胴部無文帯。胴部上位に付加条2種RL+R、下部に付加条1種LR+Lを施す。	角閃石、チャート、砂粒、白色泥	10YR3/3 暗褐色	普通	NO.3A	10%	十王台式 PL87
12	弥生土器	甕	胴部				胴部に彫刻刺突文を2列施し、以下、縦走区画内に4条単位の帯状波状文を充填する。	雲母、石英、砂粒、白色泥	10YR7/4 にぶい黄褐色	普通	NO.3B	5%	十王台式 PL87

## 第2節 溝跡

2条の溝跡が確認されたが、そのうち1条は、平成21年度に先行して調査が行われた1号堀との関係が窺われる。

### 第1号溝跡（第145・146図、第70表、PL85・87）

位置：B0・C0グリッド、標高50.0m地点にある。

規模・平面形：上幅270～360cm、下幅60～140cmで、確認面からの深さは120～140cmである。断面は箱葉研状を呈し、壁はRを掘いて立ち上がる。また、壁面からは5カ所でピット状の穴が、西部の底面からは、長径140cm、短径84cmの楕円形状の窪みがそれぞれ確認されている。

方向：N-40°-Wの方向に延び、中央部で南西方向へ大きく屈曲する。

ピット：壁面からは5カ所でピットが穴が確認されているが、樑脚や建物柱としては十分な深さや全周性に乏しく、用途は不明である。

#### P1土層解説

1. 褐色 ローム粒子少量、やや締まりあり

#### P2土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

#### P3土層解説

1. 褐色 ロームブロック少量

#### P4土層解説

1. 褐色 ローム粒子微量

#### P5土層解説

1. 黒褐色 ローム粒子微量、炭化粒子微量、締まり弱い

遺構埋没状態：6層からなる。中層までは人為的な堆積状況を示しているが、その後は徐々に埋没しており、自然堆積の様相を示している。

#### 土層解説

1. 黒褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
2. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子少量、炭土粒子微量、炭化物微量
3. 暗褐色 ロームブロック微量、ローム粒子微量、炭土粒子微量、炭化粒子微量
4. 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量、炭化粒子少量
5. 暗 灰 炭化物少量、炭化粒子少量
6. 明褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量、炭土粒子微量

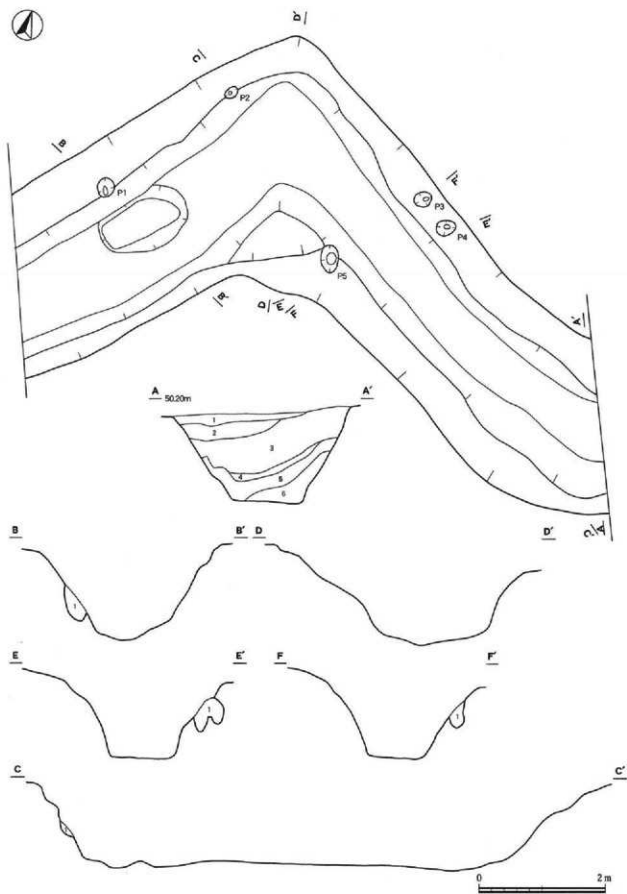
遺物：須恵器片4点（坏・高台付坏類2点、甕2点）、土師器片78点（坏・高台付坏類12点、甕類66点）、カワラケ1点、馬歯骨。出土した遺物は逆め戻し段階で投棄あるいは土中に混入していたものと推測される。馬歯骨は、東部の覆土中層から出土している。

所見：覆土にカワラケ、馬歯骨などが出土しており16世紀の所産と考えられる。形状は平成21年度の調査で確認された1号堀と酷似しているが、2号堀もまた16世紀に掘られものと考えられており、双方はほぼ同時期に機能していた可能性が高い。また先行して報告された「行者遺跡」（土生ほか2011）では、1号堀について、16世紀に掘られた防衛のための掘り割りと言及している。当該期は南西方向に小原城の主郭があり、また木造は外郭の虎門と想定される十干堂からもほど近い距離にあり、城下の集落を北東方向からの敵襲から防衛するための施設であったと推測される。なお、本跡の東側は平成21年度調査区に延びていると考えられるが、検出されたという報告はなされていない。

### 第2号溝跡（第147図、PL85）

位置：C0グリッド、標高50.4m地点にある。

規模・平面形：上幅210～240cm、下幅160～224cmで、確認面からの深さは12～18cmである。断面は皿状を呈する。壁の傾斜角度は遺存部分が少なく不明である。溝の底面からは6カ所でピット状の掘り込みが確認された。



第145图 第1号沟迹

方向：N-10°-Wの方向にほぼ直線的に延びる。

ピット：規模や形状に一致は見られず、不規則な並びであるため、性格は不明である。

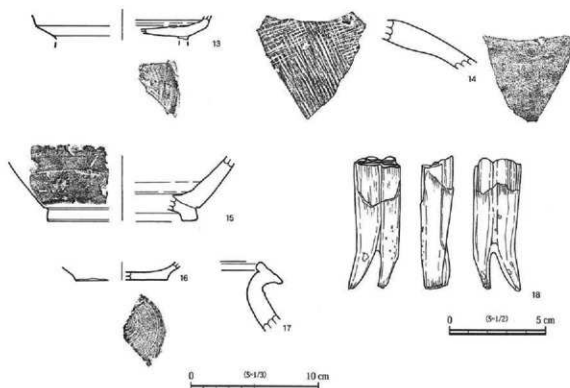
遺構埋没状態：単層である。層厚は薄く、堆積状況は不明である。

## 土層解説

1. 褐色 ローム粒子微量、砂りなし

遺物：遺物は検出されていない。

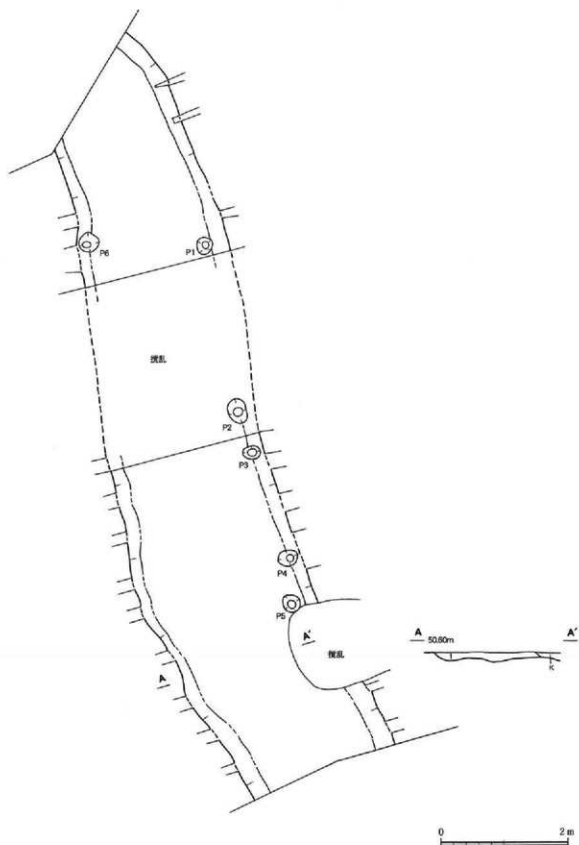
所見：覆土が浅く遺構のプランがかろうじて確認できた状態であった。出土遺物はなくまた平成21年度調査区では確認されていないため、本跡の性格や時期は不明である。



第146図 第1号溝跡出土遺物

第1号溝跡出土遺物観察表(表70)

番号	種類	部種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	文様・調整	胎土	色相	焼成	出土位置	残存	備考
13	須恵器	高台付坪	底部			(1.9)	内・外面ロクロナデ。高台部欠損。	白色・小礫針状紋物	10YR5/2 灰青褐色	普通	覆土中	10%	PL87
14	須恵器	甕	肩部			(4.0)	体部外面縁位の叩き傷、履位の叩き自然軸。	白色・セルロイド状の吹き出し	2.5Y5/1 黄灰色	良好	覆土中	-	PL87
15	須恵器	長頸瓶	底部	[11.6]	(5.2)		内面ロクロナデ。外側回転ヘラクエリ。	白色・小礫セルロイド状の吹き出し	2.5Y6/2 灰青色	良好	覆土中	10%	PL87
16	土師質土器	カワラケ	底部	[7.0]	(1.4)		体部ロクロナデ。底部外面右側回転切り。	石灰・黄緑針状紋物	7.5YR7/4 灰白色	良好	覆土中	15%	PL87
17	陶器	甕	口縁部			5.5	常滑系。内・外面自然軸。内面ロクロナデ。	白色・小礫	5YR4/3 にぶ赤褐色	良好	覆土中	5%	PL87
18	瓦管筒		下顎白歯部。歯冠部のセメント質一部剥離。歯根部良好に遺存。歯長7.1cm、歯幅2.7cm、重さ28.4g								覆土中	5%	



第 147 图 第 2 号沟迹

## 第3節 土坑

今年度の調査では1基の土坑が確認された。

## 第2号土坑 (第148図、PL85)

位置：C Oグリッド、標高50.20m地点にある。

規模・平面形：長軸1.20m、短軸1.08mの方形で、深さ32cmである。

壁面：外傾して立ち上がる。

覆土：単層である。ロームブロック主体の人為堆積である。

## 土層解説

1. 暗褐色 ロームブロック少量、ロームブロック少量、黄土粒子微量

遺物：検出されていない。

所見：遺物は検出されておらず、時期は不明であるが、芋穴等の埋土に見られるようなロームブロックの混じり具合から、比較的新しい土坑の印象を受けた。



第148図 第2号土坑

## 第4節 総括

行者遺跡は、笠洲市小原地内の標高45.5m～51mの丘陵斜面上にあり、平成21年度から調査が開始された。先行して平成22年度に刊行された『行者遺跡』によれば、竪穴住居跡11軒、古墳5基、溝跡4条、土坑9基、堀跡1条、溝跡5条、井戸3基が確認されている。今回の調査では、竪穴住居跡3軒、溝跡2条（堀跡1条・溝跡1条）、土坑1基が確認された。ここでは2年間に渡る調査の結果を踏まえ、時代ごとに当集落跡の変遷を追っていきたいと思う。

### 旧石器時代

遺構は検出されなかったが、表土中からナイフ形石器が出土している。また当遺跡から東へ400m地点にある長峰西遺跡では珪質頁岩製のナイフ形石器が、北東へ870m地点にある塚谷遺跡では数十点のナイフ形石器や石核、不定形剥片が集中するユニットが確認されており、小原地区の丘陵や台地上には旧石器時代の人々の生活の跡が窺われる。

### 縄文時代

縄文時代の遺構はなかったが、前期前半の黒浜式土器、後期の堀之内式土器、加谷利B式土器が数点出土している。また当遺跡の北側の谷を挟んで対峙する守上遺跡からは、草創期～後期の土器が出土しており、特に黒浜式と浮島式の土器が総数の70パーセントを占めている。また長峰東遺跡からは前期中葉の関山Ⅱ式土器や黒浜式が、塚谷遺跡からは前期中葉の住居跡が確認されている。以上から、遺構は確認できなかったものの、縄文時代の特に前期には当遺跡周辺に集落が営まれていたことが想定される。

### 弥生時代

今回の調査では、弥生時代の住居跡が2軒（1・3）、遺跡全体では3軒の住居跡が確認され、いずれも後期後半の十下台式期の住居跡と考えられる。今回の調査で確認された第1号住居跡は、床面上にわずかではあるが焼土粒子や炭化粒子等の生活面の汚れが見られ、第3号住居跡からは火熱を受けて炉床が厚く焼土化しているのが確認されている。また平成21年度調査で確認された1号住居跡からは、炭化した淮の実が出土している。

なお、当遺跡周辺を見渡すと、近接する塚谷遺跡からも後期後半の十三台式期に比定される住居跡が79軒確認されている。他には同じく近接する長峰東遺跡から同時期の住居跡11軒が確認されており、当該期には広範囲で集落が営まれていたと推測され、大洗町黙峯遺跡や上浦市原田遺跡群同様、加増の規模を要する地域であると言える。

### 古墳時代

今回の調査では、炉の上にはほぼ完形のままの炉器台が損傷で出土している。古墳時代前期の住居跡1軒（2）が確認された。平成21年度の調査では、住居跡5軒、古墳5基が確認されているが、古墳の内訳は、前期が径12mほどの小円墳2基、後期が径20mほどの円墳2基、時期不明1基となっている。特に後期の円墳2基（1・2）は埴輪を伴っており、先に造られた2号墳からは赤褐色を呈する2条3段の円筒埴輪が出土している。続いて造られた1号墳は3条4段の円筒埴輪のほか、形象埴輪（人・馬）が出土している。これらの古墳は、近接する高寺古墳群を構成していたものと推測される。

### 奈良・平安時代

今回の調査では確認されていないが、前回の調査では3軒の住居跡が確認され、時期は9世紀前半～10世



紀前葉頃のものである。なお、隣接する寺上遺跡では、当該期に比定される住居跡だけでも60軒程を数える集落が展開しており、これらの住居跡もまたこの集落に所属していたのかもしれない。

中世以降

今度の調査では、前回の調査で確認された1号堀と酷似した第1号溝跡が確認され、1号堀/河原、16世紀頃の掘削と考えられる。当該期は早見氏が小原城を構えていた時期で、16世紀前半頃に早見義俊が小原城と城下を整備している（友部町史）。穴戸氏に属する早見氏が、江戸氏や佐竹氏を意図し防御を目的とした整備に力を注いでいたのであろう。想像の域を出ないが、これらの堀跡もその防御施設のひとつだったのかもしれない。なお、当遺跡とその周辺地域を取り巻く中世～近世初頭の情勢については、『中世の小原城と小原地区に関して』を参照されたい。

(加藤)

## 参考文献

海老澤稔 2000『茨城県における弥生後期の土器埋年』

『東日本弥生時代後期の土器編年』第2分冊 茨日本埋蔵文化財研究会

茨城県考古学協会・十王町教育委員会 1999『茨城県における弥生時代研究の到達点～弥生時代後期の集落構成から～』

大賀健ほか 2010『長峰西遺跡』笠岡市教育委員会・有限会社勾玉工房Mogi

鈴木素行 2010『弥生時代後期「十王台式」の集落構造』『武田遺跡群 総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会

高野浩之 2008『壱谷遺跡』笠岡市教育委員会・柳地域文化財コンサルタント

土生匠治 2010『長峰東遺跡』笠岡市教育委員会・柳毛野考古学研究所

青田寿ほか 2005『小原遺跡』友部町小原遺跡調査会・大成エンジニアリング株式会社

土生匠治ほか 2011『行者道跡』笠岡市教育委員会・柳毛野考古学研究所

茨城県教育委員会 1985『重要遺跡調査報告書Ⅰ（城跡跡）』

大賀健ほか 2010『長峰西遺跡』笠岡市教育委員会・有限会社勾玉工房Mogi

笠岡市史編さん専門委員会 2011『新 笠岡市の歴史』笠岡市教育委員会

芳賀友博ほか 2009『小幡城跡 茂新堀遺跡 前新堀B遺跡 諏訪山塚群 藤止塚』東関東自動車道水戸線（茨城IC～茨城JCT）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 茨城県教育財団文化財調査報告第314集・財団法人茨城県教育財団

市村高男 2007『内海論からみた中世の東国』『中世東国の内海世界』高志書院

茨城中世考古学研究会 2005『茨城県の中世居館』『茨城県考古学協会誌 第17号』茨城県考古学協会

岩間町史編さん委員会 2002『岩間町史』岩間町

内原町史編さん委員会 1996『内原町史 通史編』内原町

## 『中世の小原城と小原地区に関して』

行者遺跡において今回の調査で検出された第1号溝跡が、第1次調査で確認された1号原（1996年）と関連するものと思われる。これらの遺構の小原城との関係を検討し、それが構築された背景を、城主里見氏の系譜なども含め文献資料を援用して分析したい。また、小原地区の中世の景観を過去の発掘調査成果と文献資料から素性してみたい。

### 1. 小原城の立地と構造（第1図）

小原城は、行者遺跡の南西500mに位置する。丘陵部の西端に位置し、西側は瀬沼前川の低地に面し、三方向は平地である。低地部との比高は2m前後である。現在御城稲荷社が鎮座する方50m四方の曲輪が主郭と推定され、周囲を取り巻く水堀の跡と、長さ26m、高さ3mの土塁が残存している。ここを中心とした東西400m、南北350mほどが城域と考えられており、随所に折を設け主に北東方向に三重に曲輪を連ねていたと推定され、断片的に土塁や空堀、水堀が残っている。地名としては、館・精進場・櫓・木戸橋・瀬向・竹の下（館の下と推定される）などがあり、北に古宿、新宿、北西に久保宿があり、城下集落と思われる。北側500mには城主里見氏が建立した菅洞宗廣慶寺が位置し、その北方の小原越と東方の坂場に館があったという。また、現在の国道50号線に沿った北東1.5kmの和尙塚、北西1.6kmの坂場、そして、現在の県道193号線に相当する道筋が、北東方向から来て低地を越え、小原地区の台地上がる地点に相当する北東600mの橋場の二か所に見張り場を置いたという（友部町1990、笠間市2011）。

全体的に、現在の国道50号線の通る北側と、北東方向に対する警戒が厳重であるが、これは仮想敵の方向を示している可能性と、西側から南にかけてはかつて広大な湿地帯であり、この方面の防衛はあまり重要ではなかった地形的な要因も考えられる。

### 2. 行者遺跡検出遺構の構造

第1号溝は、南東から北西に7m延び、90°南東に折れて7m調査区外に続いている。上幅2.7～3.6m、下幅0.6～1.4m、深さ1.2～1.4mを測り、横面に不規則にピットが穿たれている。カワラケ、銭貨、馬骨などが出土しており、16世紀の所産と考えられる。

1号堀は、確認された範囲では、北西から南東方向に全長93mにわたり掘削されており、調査区外南東方向にさらに続いているものと思われる。幅は2.5から2.7m、深さは2m内外を測る。断面形は、底幅の狭い栗研堀である。北西端は丘陵部の裾近くまで延びており、この堀が丘陵下の緩斜面部の区画が目的であったことは明瞭である。また、北西端から45mの地点に、クランク状に堀を屈折させた折が設けられている。この折より南東方面の部分では、堀が半ば近くまで埋没した時点で、葦茂木のようなものが構築されていたと推定されるピット群が検出されている。

主な出土遺物は、洪武通宝や内耳銅、古瀬戸部皿などである。形状や出土遺物から、16世紀に掘られた防衛のための掘り割りと考えられる（土生はか前掲書）。

共に断片的な検出であり、軸方向及び断面構造も違うため、この二つの遺構が同一河時期のものだと判断するのは拙速であるが、共通項として16世紀代の遺物を持ち、横欠掛けを意図した折れ構造を取っている。そして第1号溝跡は、現在は盛土されているが、北側にあった東の低地から西の廣慶寺に向けて入り込んでいた谷津方向に備えており、同様に東から北東の低地方向に備えていた1号堀との関連性を想起させる。

### 3. 小原城と周辺遺跡発見の痕跡

第1号溝跡と1号堀は、小原城の主郭より北東に500m、外郭の虎口と想定される下堂付近からも300mと、いわゆる小原城の城内とされる範囲の外側に位置している。このことから、これらの堀は、廣慶寺や城下の集落を北東方向からの敵襲から防衛するための施設と考えられる。遺構自体は断片的な検出に過ぎないため、この堀が直ちに小原の城下集落を包摂する想構を形成していたとは断定できない。しかし先述のように、小原城そのものが、主に北東方向に対して幾重にも防衛線を形成していた点を踏まえるならば、集落の防衛方



第149図 小原城と周辺の堀

向も同様であったと考えるのが妥当であろう。

また、行者遺跡より東の低地を挟んだ対岸900mに位置する堀谷遺跡では、東側の低地部から台地が上がってきた地点において同様の遺構が確認されている（常深ほか2011）。

南北方向に延びる5、8・9号溝がそれに相当する。前者が長さ60m、上面幅0.4～1.3m、下面幅0.3～1m、深さ20cm以下で、底面に不規則なピットが多数穿たれている。後者は、8号溝を9号溝が廻める新旧関係ではあるが併走し、長さ66～70m、上面幅が1～2m、下面幅が0.3～1m、深さが36～91cmを測る断面逆台形の大溝で、底面にはやはり不規則にピットが穿たれる。5号溝南端と8・9号溝北端との間に、4mほどの幅で地山が掘り残された部分があり、そこに対して東側の低地から延びる7号溝が取りついていた。この7号溝は、全長29.4m、上面幅2～2.8m、下面幅0.3～1.5m、深さ10～65cmを測り、底面が厚く硬化していたことから、道路としての利用が想定されている（常深ほか前同書）。遺物については、7号溝の覆土中より13世紀後から14世紀前半の常滑甕の口縁部片が出土している。

これらの遺構は、行者遺跡の堀と比較すると規模は劣るものの、その立地や方向、逆茂木の構築も想定できる点などを含めて、同様の意図を持った構築物である可能性が考えられる。構築時期については、断面形などから1号堀に先行する可能性があるものの、小原城と城下集落の前衛防衛線的な位置付けをできるのではないだろうか。

近年、主に鹿行地方の戦国期の城館において、城郭より離れた位置に単独で所在する堀切や土塁などが多く報告されている（石崎2006・2007・2012、芳賀ほか2009など）。これらは、街道を閉塞・遮断する他、城下集落の防衛線などの目的があったものと推定されているが、1号堀や堀谷遺跡の溝群についても同様の機能があった可能性がある。

#### 4. 小原地区の中世の景観

鹿島神宮造営費用調達のため、常陸国内の財力のある者（富裕仁）75名を書き上げた、永享7年（1435）8月9日付の「常陸国中富裕仁等人数注文」に、「志多利柳郷 右衛門三郎 里見四郎知行」の記述がある。「志多利柳郷」は小原地区に比定されており、当地域に「富裕仁」が存在していたことがわかる。「右衛門三郎」なる者がどのような階層の人物かは判然としないが、当時の「有徳人」或いは「富裕仁」と呼ばれた人々は、金融業や水運業者、有力農民、官途名を名乗るような有力武士や役人、僧侶や神官などが多かったという（友部町1990、笠岡市2011）。また「富裕仁」の居住地が豊ヶ浦を中心とした「常海の内海」やそこに繋がる河川流域とかなり重複している点から、流通経済の担い手であった「海夫」（漁労・舟運など多角的経営を行う海の民）の有力者から成長したものが含まれていた可能性が高い（市村2007）。

小原地区は、現在でも北に門道50号線、南に常磐線が通過する交通の要衝であり、中世段階では、陸路のみならず、北西方向以外は全て低湿地に囲まれた半島状の地形であるという立地から、沼瀬川を中心としたかつての湿地帯から下流で沼瀬に至り、太平洋とも繋がる水運のネットワーク上に位置していたと想像される。「右衛門三郎」は、こうした環境の中で富を蓄積したのではないと思われる。

小原神社所蔵の室町時代の作とされる宝篋印塔8基なども、当該期の活発な経済活動を物語るものとして捉えられる（笠岡市前同書）。

発掘調査において中世の痕跡が確認された事例としては、行者遺跡の東方対岸400mに位置する長峰西遺跡があげられる。ここでは地下式土坑や土坑、ピット、溝などが検出され、カワラケ、内耳鍋、陶磁器、茶臼などが出土した（大貫ほか2010）。

また先述の瑞谷遺跡では、前記の溝のほか、地下式坑7基、土坑2基、井戸3基などが検出され、カワラケや内耳鍋、古瀬戸や常滑の陶器類が出土した（常深ほか2011）。

行者遺跡の北西上の丘陵に位置する寺上遺跡では、土師質土器や陶器が出土した（松田ほか2012）。

このように、小原周辺では、低地に面した台地先端部に沿って中世の遺構が比較的多く確認されている。水田耕作の便と、交通の要衝であったことがその背景にあると思われる。

この小原を15世紀前半に押領したのが、里見氏であった。

#### 5. 小原城主里見氏について

里見氏は、新田義宗の庶長子義俊を祖とし、上野国群馬郡里見郷を本貫地とする新田氏の一族である。その末裔は、上野を始め越後や美濃に広がり、新田氏に従い南朝方として行動するが、一方で北朝方に属する者たちもいた（館山市立博物館2000）。常陸乎那郷（高萩市）の地頭であった里見則少輔家基もその系統であり、鎌倉公方足利持氏の奉公衆として、反持氏方の出入一揆の鎮圧に活躍した。将に依り上城（大了灯）の攻略の功により、永享元年（1429）那珂西郡に所領を与えられた。当時、小原は志多利（柳）郷と呼ばれて那珂西郡に属していたが、家基は、弟（叔父とも）の民部少輔満俊（致）をこの地に置いて支配に当たさせたという（『新編常陸国誌』、高萩市1969ほか）。

因みにこの家基は、同11年の永享の乱において、持氏に殉じて鎌倉に死すとも、享吉元年（1441）の結城合戦において討死したともいうが、その遠兄が安房に逃れて同地を平定。戦国人名簿経里見氏の祖となった義実とされている（館山市立博物館前同書）。

小原城主の里見氏は、満俊以降の動向は不明確であるが、永享7年（1435）8月9日付の「常陸国中富裕仁等人数注文」に、「志多利柳郷 右衛門三郎 里見四郎知行」とあり、この「里見四郎」が満俊（致）かその次代であろう。

文龜2年（1502）（或いは大永5年（1525）とも）、里見七郎義俊が、兼堂社首を開山として菅洞宗住古山小原院康康寺を創建したという（『内原町史』【新笠岡市史】）。そしてこの頃、館を中心以小原城の整備を行い、坂場、和尚塚、橋場（不戸場）の三か所に見張り場を置いたという。この義俊は、穴戸大田町の榮福寺仁王像の文明12年（1480）2月付胎内墨書紙片に「源義俊、子息二郎義治、並に三郎里景、豊下里元殿」とあり、穴戸氏の当主で里見の持里、持久ら穴戸一族に次いで記載されている。（『友部町史』）。

このことから、満俊は安房里見氏や常陸佐竹氏と同様に「義」の字を通字としている一方、二男以下の「里

の字は、宍戸持里よりの偏諱と思われ、宍戸氏との一定の主従関係もうかがうことができる。いずれにせよ、寺社の建立・修築や、城館の整備など、義後の時代が小原里見氏の盛期であったことは間違いないであろう。

この後の里見氏の動向は不明である。『友部町史』では、後年の作ではあるが、天文年間（1532～1555）の宍戸氏の軍事編成を知る手がかりとして「小田一家風記」を引用している。これによると、宍戸城主宍戸政家の旗下に、岩間、真家、市原らの館主が列記されているが、その中に小原、長兎路などの館（城）主の記載がみられない点から、「小原のほか、長兎路、仁古田、柏井あたりはこの頃勢力を拡大しつつあった江戸氏の支配下にくみいれられていたことによるのではなからうか」としている。

また『内原町史』所収の「江戸氏旧臣録」という後年の史料には「二百貫 小原村 飯嶋伊豆」という記載があり、小原村内に江戸氏の家臣飯嶋氏の知行地が設定されている。これは、拡大しつつある江戸氏の勢力が宍戸氏の領域にも及び、同氏を併呑する勢いを示している（『岩間町史』）と思われる。里見氏については、後年のものではあるが、江戸氏旧臣録木家所蔵文書の家臣団書き上げ中に「小原 里見四郎殿」とある（『内原町史』）。同史料にある他の江戸氏家臣と違い、「殿」付けで敬称されている点からみて、元々古河公方の直臣たる奉公衆であったという家格の高さをうかがわせ、また依然として小原に在城していたことを示すものと理解される。慶長3年（1598）10月、江戸重通は亡命先の結城で自害するが、その際に殉死した16名の江戸旧臣中に「里見阿波守」が存在する（『前同書』）。

これらの点から、典拠は明確ではないが天正19年（1591）秋に佐竹氏により滅ぼされた（茨城県教育委員会1985）とされる里見氏は、おそらく16世紀に入り、主家の宍戸氏に江戸氏の影響が強く及ぶに従い、江戸領と境目であるという立場からも、次第にその支配下に入ったものと思われる。そして、天正末年の江戸氏滅亡に伴って佐竹氏の掃討を受け、小原城で滅亡ないし同地を追われたものと推測されるが、詳しい史料はなく詳細は不明である。いずれにせよ、小原城はこれ以後廃城となったものと思われる。

## 6. 周辺諸勢力との関係と小原城の位置付け（第2図）

第2図で示したように、宍戸城を中心とした15世紀代の宍戸氏領国の中において、規模構造や立地からいっても、小原城は北から北東にかけての「境目の城」として位置付けられる。

そして小原地区の北東に位置するのは、水戸の江戸氏、そして佐竹氏である。小原里見氏が属する宍戸氏は、この両者ある時は緊張状態にあり、後に同盟、傘成、そして被官化という道筋を辿る。15世紀末から16世紀半ばにかけては、共に拡大政策をとる小田氏と江戸氏の対立が深刻であり、小田支族の宍戸氏としては、宗家と共に行動している。以下、歴史的事例を抽出する（友部町1990、内原町1996、岩間町2002、笠間市2011など）。



第150図 宍戸荘と主な城館（友部町 1990年に加筆）

文明13年(1481)5月、南下する江戸通長は小幡城を攻め、小幡氏は同族である小田成治に援軍を要請。成治は穴戸、笠岡、小栗、貞壁、大榑氏などの連合軍3千で小幡原(茨城町)において合戦に及んだ。双方に死傷者多数を出したが、結局小幡氏は江戸氏に従属した。この戦いにおいて、穴戸持久は、小田方の平代を務めたという。

享禄4年(1531)2月、鹿子原(石岡市)において、小田政治は江戸通長を破る。

天文15年(1546)5月、小田政治は、府中人猿渡幹の攻撃に出陣。江戸氏の救援を得た大榑氏に鬼鹿塚(石岡市)で撃退される。穴戸持里も小田方で出陣するが、家老以下多数の死者を出す。

永禄5年(1562)10月、小田氏治の後北条氏掃蕩を受け、佐竹義昭は穴戸氏との所領境へ出兵し圧力をかけた。これ以降、穴戸氏は佐竹方に帰属する。

このように、穴戸氏は小田氏を支える一方で、台頭著しい江戸氏と大きく境を接している以上、同氏との友好路線を模索する必要があり、16世紀に入り穴戸政家、政里の2代にわたり江戸氏と姻戚関係を結び、自家の保全を図っていた。特に、政里の養子となった義綱は、江戸一族で小原にも近接する河刈氏から迎えられており、天正18年(1590)12月の江戸氏滅亡に際しては、佐竹軍に急襲された同氏の援軍として出撃し、勝倉(ひたちなか市)において戦死している。

穴戸氏そのものは、佐竹方であった一族の養子が継ぎ存続しているが、江戸氏や義綱と関係が深かった小原見氏は追討を受けたのではないかと思われる。

先にみたように、16世紀の前半ごろ里見義俊が小原城と城下を整備したのは、小幡原合戦前後の拡大する江戸氏に対し、穴戸領の北東「境目の城」として備えるためであったと考えられる。しかしこれ以降、穴戸氏及び城主の里見氏が、佐竹氏とそれに「一家同位」である江戸氏に従属していく過程において、「境目の城」としての役割は失っていったものと考えられる。いずれにせよ、最終的には警戒方向であった佐竹氏により小原城と里見氏の命脈は立たれてしまった。(小野)

#### (参考文献)

石崎勝三郎 2006『鹿行地方の掘切状遺構と新堀・大堀』(茨城城郭研究会 2006『国史茨城の城郭』国書刊行会)

2007『地名の向こうに遺構が見えた』(『茨城県考古学協会誌 第19号』茨城県考古学協会)

2012『常陸台地上の掘切遺構』(『中世城郭研究』第26号 中世城郭研究会)

市村高男 2007『内海論からみた中世の東国』(『中世東西の内海世界』高志書院)

茨城県教育委員会 1985『重要遺跡調査報告書Ⅱ(城館跡)』

茨城中世考古学研究会 2005『茨城域の中世居館』(『茨城県考古学協会誌 第17号』茨城県考古学協会)

岩間町史編さん委員会 2002『岩間町史』・岩間町

内原町史編さん委員会 1996『内原町史 通史編』内原町

大宮健ほか 2010『長峰西遺跡』笠岡市教育委員会 有限会社玉工工房Mogi

笠岡市史編さん専門委員会 2011『新 笠岡市の歴史』笠岡市教育委員会

芳賀友博 須賀川正一 杉澤孝規 2009『小幡城跡 前新堀遺跡 前新堀B遺跡 諏訪山家群 藤山塚』東

茨城自動車道水戸線(茨城IC～茨城JCT)建設事業地内里見文化財調査報告書Ⅲ 茨城県教育財団文化財調

査報告第314集・財団法人茨城県教育財団

高萩市史編さん委員会 1969『高萩市史 上巻』高萩市役所

籠山市立博物館 2000『さとみ物語 戦国の房総に君臨した里見氏の歴史』

常深尚ほか 2011『鴻谷遺跡2』笠岡市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所

友部町史編さん委員会 1990『友部町史』・友部町

土生朝治ほか 2011『行着遺跡』笠岡市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所

宮崎報恩会 1976『新編常陸国誌』・流書房

松田政基ほか 2012『寺上遺跡』笠岡市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所

# 写 真 图 版



調査区全景



PL2

寺上遺跡



D区全景



E区全景



F区全景



第1号住居跡完掘状況（南東から）



第1号住居跡土層（南から）



第1号住居跡竈完掘状況（南東から）



第1号住居跡ピット2土層（北東から）



第2号住居跡完掘状況（南から）



第2号住居跡遺物出土状況（南から）



第2号住居跡土層（南東から）



第2号住居跡竈完掘状況（南東から）

PL4

寺上遺跡



第2号住居跡竈土層 (南東から)



第2号住居跡竈断ち割り (南東から)



第2号住居跡ビット5土層 (東から)



第2号住居跡ビット3土層 (東から)



第3号住居跡完掘状況 (南から)



第3号住居跡遺物出土状況 (南から)



第3号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第3号住居跡土層 (南西から)



第3号住居跡竈完掘状況（南から）



第3号住居跡竈遺物出土状況（南から）



第3号住居跡竈土層（南東から）



第4号住居跡完掘状況（南から）



第4号住居跡遺物出土状況（南から）



第4号住居跡遺物出土状況（北西から）



第4号住居跡遺物出土状況（南から）



第4号住居跡土層（南西から）

PL6

寺上遺跡



第4号住居電掘方土層 (南から)



第5号住居跡完掘状況 (南東から)



第5号住居跡遺物出土状況 (南から)



第5号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第5号住居跡土層 (南から)



第5号住居跡電掘完掘状況 (南東から)



第5号住居跡電土層 (南東から)



第5号住居跡電掘方土層 (南から)



第6号住居跡完掘状況（南東から）



第6号住居跡竈土層（南東から）



第6号住居跡ピット1土層（東から）



第7号住居跡完掘状況（南から）



第7号住居跡遺物出土状況（南から）



第7号住居跡遺物出土状況（南から）



第7号住居跡遺物出土状況（南から）



第7号住居跡土層（南東から）

PL8

寺上遺跡



第8号住居跡完掘状況（南から）



第8号住居跡遺物状況（南から）



第8号住居跡遺物出土状況（北から）



第8号住居跡遺物出土状況（南から）



第8号住居跡遺物出土状況（北から）



第8号住居跡遺物出土状況（南東から）



第8号住居跡土層（東から）



第8号住居跡土層（南東から）



第8号住居跡竈完掘状況（南から）



第8号住居跡竈遺物出土状況（南から）



第8号住居跡竈土層（南東から）



第8号住居跡竈土層（南から）



第9号住居跡完掘状況（南から）



第9号住居跡ピット1土層（北東から）



第9号住居跡ピット2土層（北東から）



第9号住居跡竈完掘状況（南から）



PL10

寺上遺跡



第10号住居跡完掘状況（南から）



第10号住居跡遺物出土状況（南から）



第10号住居跡遺物出土状況（南西から）



第10号住居跡土層（南から）



第11号住居跡完掘状況（南東から）



第11号住居跡遺物出土状況（南東から）



第11号住居跡遺物出土状況（北東から）



第11号住居跡遺物出土状況（北東から）



第11号住居跡土層 (南から)



第11号住居跡ピット1土層 (北東から)



第11号住居跡ピット3土層 (北東から)



第11号住居跡竈完掘状況 (南東から)



第11号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第11号住居跡竈土層 (南東から)



第12・59号住居跡完掘状況 (南東から)



第12・59号住居跡土層 (東から)

PL12

寺上遺跡



第59号住居跡完掘状況（南から）



第13号住居跡完掘状況（南東から）



第13号住居跡土層（南東から）



第14号住居跡完掘状況（南から）



第14号住居跡ピット1土層



第14号住居跡完掘状況（南から）



第15号住居跡完掘状況（南東から）



第15号住居跡土層（南西から）



第15号住居跡竈完掘状況（南東から）



第16号住居跡完掘状況（南東から）



第16号住居跡土層（南東から）



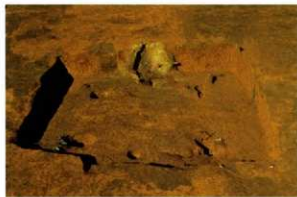
第16号住居跡遺物完掘状況（北東から）



第16号住居跡完掘状況（南東から）



第17号住居跡完掘状況（南東から）



第17号住居跡遺物出土状況（南東から）



第17号住居跡遺物出土状況（北東から）

PL14

寺上遺跡



第17号住居跡土層 (北東から)



第17号住居跡ビット2土層 (北東から)



第17号住居跡ビット3土層 (北東から)



第17号住居跡竈完掘状況 (南東から)



第17号住居跡竈土層 (西から)



第17号住居跡竈掘方土層 (南東から)



第18号住居跡完掘状況 (南東から)



第18号住居跡土層 (北東から)



第18号住居跡竈完掘状況 (南東から)



第18号住居跡土層 (南から)



第19号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第19号住居跡土層 (西から)



第19号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第19号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第19号住居跡土層 (西から)



第20号住居跡完掘状況 (南東から)

PL16

寺上遺跡



第20号住居跡遺物出土状況（南東から）



第20号住居跡土層（南西から）



第21号住居跡完掘状況（南東から）



第21号住居跡完掘状況（南から）



第21号住居跡土層（南から）



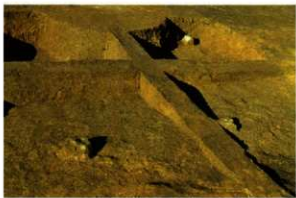
第22号住居跡完掘状況（南から）



第22号住居跡遺物出土状況（南東から）



第22号住居跡遺物出土状況（南から）



第22号住居跡土層 (西から)



第22号住居跡竈完掘状況 (南から)



第22号住居跡竈土層 (南から)



第23・24住居跡完掘状況 (南東から)



第23・24号住居跡掘方完掘状況 (南から)



第23・24号住居跡土層 (南西から)



第23号住居跡竈完掘状況 (南南東から)



第23号住居跡土層 (北東から)



PL18

寺上遺跡



第23号住居跡ピット2 (北東から)



第23号住居跡ピット3土層 (北東から)



第24号住居跡竈完掘状況 (南西から)



第24号住居跡竈土層 (南東から)



第24号住居跡竈土層 (西から)



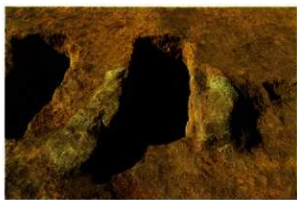
第25号住居跡完掘状況 (南東から)



第25号住居跡土層 (南東から)



第25号住居跡ピット4土層 (北東から)



第25号住居跡竈完掘状況（南東から）



第25号住居跡竈土層（東から）



第26号住居跡遺物出土状況（南南東から）



第26号住居跡土層（北東から）



第28号住居跡完掘状況（東から）



第28号住居跡遺物出土状況（南東から）



第28号住居跡遺物出土状況（南東から）



第28号住居跡土層（北東から）

PL20  
寺上遺跡



第29号住居跡完掘状況（南西から）



第29号住居跡土層（南東から）



第29号住居跡ピット3土層（北東から）



第29号住居跡ピット4土層（北東から）



第29号住居跡土層（西から）



第29号住居跡竈完掘状況（南西から）



第29号住居跡竈土層（南から）



第30号住居跡完掘状況（南東から）



第30号住居跡土層（東から）



第30号住居跡竈完掘状況（南東から）



第30号住居跡竈土層（南東から）



第31号住居跡遺物出土状況（南から）



第31号住居跡遺物出土状況（南東から）



第32号住居跡完掘状況（南から）



第32号住居跡竈完掘状況（南から）



第32号住居跡土層（南から）

PL22

寺上遺跡



第33号住居跡完掘状況（南から）



第33号住居跡土層（東から）



第35号住居跡完掘状況（西から）



第35号住居跡遺物出土状況（西から）



第35号住居跡遺物出土状況（南東から）



第35号住居跡土層（南から）



第35号住居跡完掘状況（西から）



第35号住居跡電土層（南西から）



第36号住居跡完掘状況（南から）



第36号住居跡完掘状況（南から）



第36号住居跡遺物出土状況（南から）



第36号住居跡土層（東から）



第37号住居跡遺物出土状況（南から）



第37号住居跡土層（南から）



第38号住居跡完掘状況（南西から）



第40号住居跡遺物出土状況（南から）

PL24

寺上遺跡



第40号住居跡土層 (東から)



第40号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第40号住居跡土層 (東から)



第40号住居跡遺物出土状況 (南から)



第41号住居跡遺物出土状況 (東から)



第41号住居跡土層 (西から)



第42号住居跡遺物出土状況 (南西から)



第42号住居跡遺物出土状況 (北東から)



第42号住居跡遺物出土状況 (南東から)



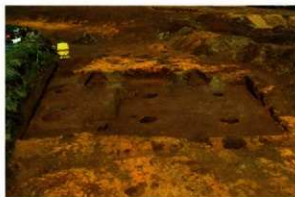
第43号住居跡発掘状況 (南から)



第43号住居跡土層 (東から)



第43号住居跡発掘完了状況 (南から)



第44・45号住居跡発掘状況 (南東から)



第44・45号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第44号住居跡遺物出土状況 (南東から)



第44号住居跡遺物出土状況 (東から)



PL26

寺上遺跡



第44号住居跡遺物出土状況（北から）



第44号住居跡遺物出土状況（北東から）



第44号住居跡遺物出土状況（北から）



第45号住居跡遺物出土状況（南東から）



第45号住居跡遺物出土状況（東から）



第45号住居跡土層（南から）



第45号住居跡遺物出土状況（南東から）



第45号住居跡土層（南から）



第52号住居跡発掘状況（南から）



第52号住居跡土層（東から）



第53号住居跡発掘状況（南から）



第53号住居跡遺物出土状況（南東から）



第53号住居跡遺物出土状況（南東から）



第53号住居跡遺物出土状況（東から）



第53号住居跡土層（南東から）



第53号住居跡土層（南東から）

PL28

寺上遺跡



第53号住居跡ピット4土層（北東から）



第53号住居跡竈完掘状況（南から）



第53号住居跡竈遺物出土状況（南から）



第53号住居跡竈土層（南東から）



第53号住居跡竈掘方土層（北西から）



第54号住居跡完掘状況（南東から）



第55号住居跡完掘状況（北東から）



第55号住居跡土層（南東から）



第56号住居跡完掘状況（南から）



第56号住居跡遺物出土状況（南東から）



第56号住居跡遺物出土状況（東から）



第56号住居跡遺物出土状況（東から）



第56号住居跡遺物出土状況（東から）



第56号住居跡遺物出土状況（北東から）



第56号住居跡土層（南東から）



第56号住居跡ピット2土層（北東から）

PL30

寺上遺跡



第56号住居跡ピット3土層（北東から）



第56号住居跡竈完掘状況（南から）



第56号住居跡竈土層（南東から）



第56号住居跡竈掘方土層（西から）



第57号住居跡完掘状況（南から）



第57号住居跡土層（南東から）



第57号住居跡竈完掘状況（南東から）



第58号住居跡完掘状況（南から）



第58号住居跡遺物出土状況 (南から)



第58号住居跡遺物出土状況 (南西から)



第58号住居跡土層 (南東から)



第58号住居跡ピット2 (南東から)



第58号住居跡竈完掘状況 (南から)



第58号住居跡土層 (北東から)



第60号住居跡完掘状況 (南から)



第60号住居跡土層 (東から)



第60号住居竈完掘状況（南から）



第60号住居跡遺物出土状況（南から）



第60号住居跡竈土層（北東から）



第61号住居跡完掘状況（南東から）



第61号住居跡遺物出土状況（南から）



第61号住居跡遺物出土状況（南から）



第61号住居跡竈完掘状況（南東から）



第62・63号住居跡完掘状況（南から）



第62・63号住居跡遺物出土状況（南から）



第62号住居跡遺物出土状況（南から）



第63号住居跡竈掘方状況（南東から）



第64号住居跡完掘状況（南東から）



第64号住居跡遺物出土状況（北西から）



第64号住居跡遺物出土状況（北東から）



第64号住居跡竈完掘状況（南東から）



第64号住居跡竈土層（東から）



PL34

寺上遺跡



第5・6号溝跡完掘状況（東から）



第5号溝跡土層（南から）



第7号溝跡完掘状況（北から）



第9号溝跡完掘状況（南西から）



第7号溝跡土層（東から）



第9号溝跡土層（北東から）



第1号槽列完掘状況（東から）



第1号槽列ビット1土層（東から）



第1号土坑完掘状況（北から）



第1号土坑遺物出土状況（南西から）



第1号土坑遺物出土状況（南から）



第1号土坑土層（西から）



第2号土坑完掘状況（西から）

PL36

寺上遺跡



第3号土坑完掘状況 (南東から)



第6号土坑完掘状況 (南から)



第7・8号土坑完掘状況 (北から)



第9号土坑完掘状況 (東から)



第11号土坑完掘状況 (南東から)



第34号土坑完掘状況 (南東から)



第34号土坑土層 (南から)



第36号土坑完掘状況 (北から)



1 (1住)



2 (1住)



3 (2住)



4 (2住)



5 (2住)



6 (2住)



7 (2住)



8 (2住)



10 (2住)

PL38

寺上遺跡



11 (2住)



14 (3住)



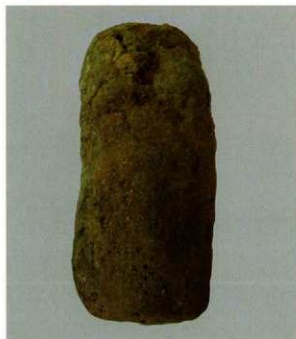
12 (2住)



9 (2住)



16 (3住)



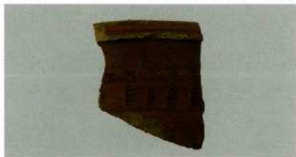
13 (2住)



17 (3住)



18 (3住)



19 (3住)



20 (3住)



21 (3住)



22 (3住)



23 (3住)



25 (4住)



24 (3住)



26 (4住)



27 (4住)

PL40  
寺上遺跡



28 (4住)



29 (4住)



30 (4住)



32 (4住)



33 (4住)



36 (5住)



33 (4住)



34 (4住)



37 (5住)



38 (5住)



39 (5住)



40 (5住)



41 (5住)



42 (5住)



43 (5住)



44 (5住)



46 (5住)



47 (5住)



PL42  
寺上遺跡



48 (5住)



49 (5住)



50~52 (5住)



53 (5住)



54 (6住)



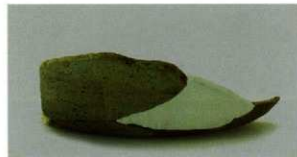
56 (6住)



58 (6住)



57 (6住)



60 (7住)



63 (7住)



64 (7住)



65 (7住)



66 (7住)



66 (7住)



67 (8住)



68 (8住)



69 (8住)



70 (8住)

PL44

寺上遺跡



71 (8住)



72 (8住)



74 (8住)



75 (8住)



77 (8住)



78 (8住)



79 (8住)



80 (8住)



81 (8住)



82 (8住)



86 (9住)



87 (10住)



88 (10住)



89 (10住)



90 (10住)



91 (10住)



92 (10住)

PL46

寺上遺跡



93 (10住)



94 (10住)



95 (10住)



96 (11住)



98 (11住)



97 (11住)



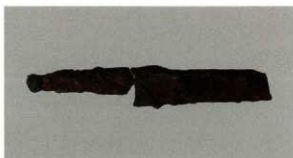
99 (11住)



100 (11住)



102 (11住)



105 (11住)



106 (11住)



107 (12住)



108 (12住)



111 (13住)



112 (13住)



110 (12住)



113 (14住)



114 (14住)

PL48

寺上遺跡



115 (14住)



116 (15住)



117 (15住)



118 (15住)



119 (16住)



120 (16住)



121 (16住)



122 (16住)



123 (17住)



124 (17住)



125 (17住)



128 (17住)



126 (17住)



129 (17住)



127 (17住)



132 (18住)



130 (17住)



131 (17住)



PL50

寺上遺跡



133 (18住)



135 (18住)



136 (18住)



137 (18住)



138 (18住)



139 (18住)



140 (18住)



142 (18住)



141 (18住)



148 (19住)



144 (18住)



143 (18住)



145 (19住)



147 (19住)



149 (19住)



146 (19住)

PL52

寺上遺跡



150 (20住)



151 (20住)



152 (20住)



153 (20住)



156 (22住)



154 (21住)



157 (22住)



158 (22住)



159 (22住)



160 (22住)



161 (22住)



162 (22住)



163 (23住)



161 (22住)



164 (23住)



165 (23住)



169 (23住)



174 (23住)



175 (23住)

PL54

寺上遺跡



176 (23住)



177 (23住)



178 (23住)



166 (24住)



167 (24住)



168 (24住)



179 (25住)



181 (25住)



182 (25住)



183 (25住)



186 (26住)



187 (26住)



188 (26住)



189 (26住)



191 (26住)



192 (26住)



193



194 (26住)



197 (27住)

PL56

寺上遺跡



195 (26住)



198 (27住)



195 (26住)



199 (27住)



200 (27住)



201 (28住)



202 (28住)



206 (28住)



204 (28住)



205 (28住)



208 (29住)



209 (29住)



210 (29住)



211 (29住)



212 (29住)



214 (30住)



213 (29住)



215 (30住)



216 (30住)



PL58

寺上遺跡



217 (30住)



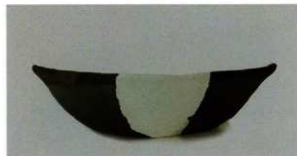
218 (31住)



219 (31住)



220 (31住)



221 (31住)



222 (31住)



223 (31住)



224 (31住)



225 (31住)



226 (32住)



227 (32住)



229 (32住)



230 (32住)



229 (32住)



231 (32住)



233 (33住)



234 (34住)



235 (34住)



236 (35住)



237 (35住)

PL60

寺上遺跡



238 (35住)



239 (35住)



240 (35住)



241 (35住)



243 (35住)



244 (35住)



242 (35住)



245 (35住)



245 (35住)



246 (36住)



247 (36住)



248 (36住)



249 (37住)



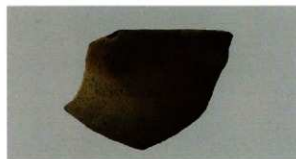
250 (37住)



251 (37住)



252 (38住)



253 (40住)



254 (40住)

PL62

寺上遺跡



255 (40住)



259 (41住)



255 (40住)



258 (40住)



260 (41住)



262 (41住)



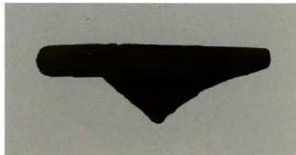
262 (41住)



263 (41住)



268 (42住)



264 (41住)



269 (42住)



265 (41住)



270 (42住)



266 (41住)



271 (42住)



267 (41住)



272 (42住)

PL64

寺上遺跡



273 (42住)



275 (42住)



274 (42住)



276 (42住)



274 (42住)



277 (42住)



278 (42住)



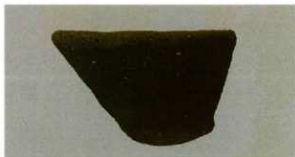
281 (44住)



279 (42住)



281 (44住)



280 (43住)



282 (44住)



285 (44住)



283 (44住)



286 (44住)



284 (44住)



286 (44住)



284 (44住)



291 (44住)



292 (44住)



PL66

寺上遺跡



287 (44住)



287 (44住)



288 (44住)



289 (44住)



290 (44住)



295 (44住)



290 (44住)



293 (44住)



296 (44住)



297 (44住)



298 (44住)



300 (44住)



303 (45住)



304 (45住)



305 (45住)



304 (45住)



306 (45住)



307 (45住)



308 (45住)



310 (45住)

PL68

寺上遺跡



311 (45住)



313 (45住)



314 (48住)



315 (51住)



316 (52住)



317 (52住)



318 (52住)



324 (53住)



319 (52住)



325 (53住)



320 (53住)



327 (53住)



320 (53住)



328 (53住)



321 (53住)



329 (53住)



322 (53住)



330 (53住)



323 (53住)



331 (53住)

PL70

寺上遺跡



332 (53住)



333 (53住)



334 (53住)



335 (53住)



336 (53住)



337 (53住)



339 (53住)



340 (53住)



339 (53住)



341 (55住)



343 (56住)



344 (56住)



345 (56住)



346 (56住)



347 (56住)



348 (56住)



349 (56住)



352 (56住)



351 (56住)



352 (56住)



350 (56住)



354 (56住)



353 (56住)



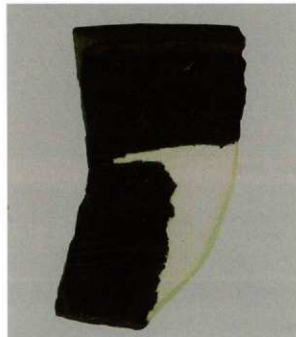
355 (56住)



363 (57住)



360 (56住)



359 (56住)



361 (56住)



364 (57住)



367 (58住)



368 (58住)



369 (58住)



370 (58住)



372 (58住)



373 (58住)



374 (58住)



375 (58住)



376 (58住)



377 (58住)



PL74

寺上遺跡



379 (58住)



380 (58住)



381 (58住)



382 (58住)



383 (58住)



384 (58住)



385 (58住)



387 (58住)



386 (58住)



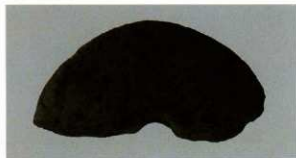
388 (58住)



389 (58住)



390 (58住)



392 (58住)



392 (58住)



391 (58住)



393 (59住)



395 (59住)



394 (59住)

PL76

寺上遺跡



396 (60住)



397 (60住)



398 (60住)



399 (60住)



400 (60住)



401 (60住)



402 (60住)



404 (60住)



403 (60住)



405 (61住)



406 (61住)



408 (61住)



407 (61住)



410 (62住)



411 (62住)



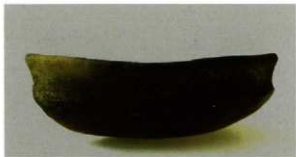
412 (62住)



413 (62住)

PL78

寺上遺跡



414 (62住)



418 (62住)



417 (62住)



419 (62住)



420 (62住)



421 (62住)



422 (63住)



423 (63住)



424 (64住)



425 (64住)



426 (64住)



427 (64住)



429 (64住)



430 (64住)



464 (5溝)



433 (7溝)



465 (7溝)



433 (7溝)

PL80

寺上遺跡



434 (1土坑)



435 (1土坑)



436 (1土坑)



437 (1土坑)



438 (1土坑)



439 (1土坑)



440 (1土坑)



441 (1土坑)



440 (1土坑)



442 (1土坑)



443 (1土坑)



444 (1土坑)



445 (1土坑)



446 (1土坑)



447 (1土坑)



448 (1土坑)



449 (2土坑)



450 (2土坑)



451 (2土坑)



453 (6土坑)





454 (遺構外)



455 (遺構外)



456 (遺構外)



457 (遺構外)



458 (遺構外)



458 (遺構外)



459 (遺構外)



463 (遺構外)



遺構外 (縄文 1~17)



中・近1



中・近3



中・近1



中・近6



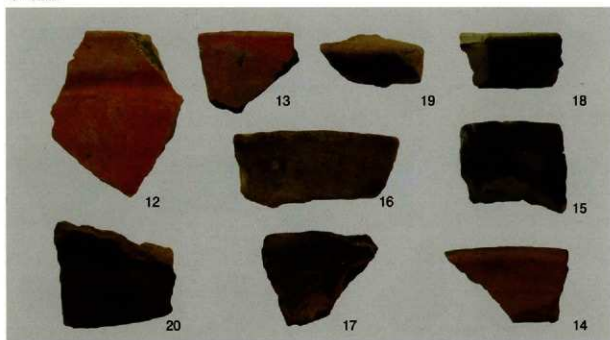
中・近1



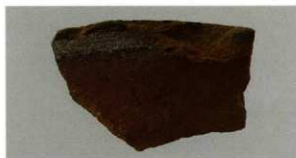
中・近8

PL84

寺上遺跡



遺構外[鍋類] (中・近12~20)



中・近2



中・近2



中・近7



中・近7



中・近5



中・近10



中・近11



中・近30



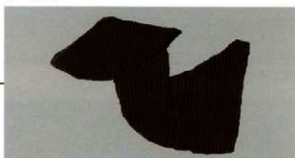
中・近11



中・近30



中・近31



中・近31



中・近33



中・近33



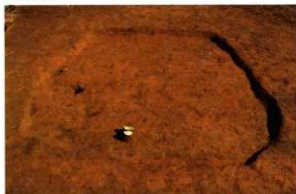
中・近37



中・近37

PL86

行者遺跡



第1号住居跡遺物出土状況（南から）



第1号住居跡層（南西から）



第1号住居跡遺物出土状況（南西から）



第2号住居跡遺物出土状況（北東から）



第2号住居跡層（北から）



第2号住居跡遺物出土状況（北から）



第2号住居跡遺物出土状況（北から）



第3号住居跡遺物出土状況（南から）



第3号住居跡層（南東から）



第3号住居跡遺物出土状況（西から）



第3号住居跡遺物出土状況（東から）



第1号溝跡完掘状況（西から）



第1号溝跡層（西から）



第1号溝跡ビット完掘状況（南から）



第2号溝跡完掘状況（西から）



第2号土坑完掘状況（南西から）

PL86

行者遺跡



1 (1住)



2 (1住)



3 (1住)



4 (1住)



5 (2住)



4 (1住)



8 (2住)



10 (2住)



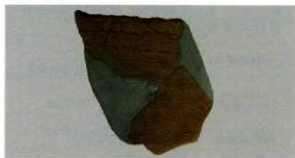
10 (2住)



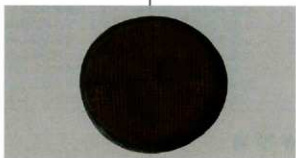
9 (3住)



11 (3住)



12 (3住)



9 (3住)



14 (1溝)



15 (1溝)



16 (1溝)



17 (1溝)



16 (1溝)



## 報告書抄録

ふりがな	てらがみいせき2
書名	寺上遺跡2
副書名	県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	笠岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	宮田和男、小野麻人、鹿島直樹
編集機関	関東文化財振興会株式会社
所在地	〒308-0846 茨城県笠岡市布川1012
発行機関	笠岡市教育委員会
所在地	〒309-1792 茨城県笠岡市中央三丁目2番1号
発行年月日	平成25年3月15日

所収遺構名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村遺跡番号						
寺上遺跡	笠岡市小原 2331番地外	0832194		36° 22' 04"	140° 19' 23"	2011.10.25 ～ 2012.03.15	17,000㎡	県営畑地帯 総合整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
寺上遺跡	集落	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代  中世・近世 不明	竪穴住居跡 竪穴住居跡 溝跡 土坑 溝跡 溝列 土坑 溝跡	8軒 53軒 1条 2基 2条 1列 39基 5条	縄文土器 土師器、須恵器、 土製品、鉄製品 土師器、須恵器、 灰釉陶器、瓦塔、 刀子、鉄滓 土師質土器、陶器 磁器、銭貨	独立柱建物跡を伴う奈良・平安時代の集落遺跡で、三股盛斜面上に立地する。7世紀に集落が誕生し、9世紀頃に最盛期を迎え、10世紀に消滅する。9世紀代には瓦塔の歴史部片や磨き土器、刀子等が出土している。		

## 報告書抄録

ふりがな	ぎょうじやいせき2							
書名	行者遺跡2							
副書名	県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	笠岡市文化財調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	加藤忠、佐々木藤雄、小野麻人							
編集機関	関東文化財振興会株式会社							
所在地	〒308-0846 茨城県笠岡市布川1012							
発行機関	笠岡市教育委員会							
所在地	〒309-1792 茨城県笠岡市中央三丁目2番1号							
所収遺構名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村遺跡番号						
行者遺跡	笠岡市小原 2299番地外	08321093		36° 23' 49"	139° 52' 44"	2011.10.25 ～ 2012.03.15	1,200㎡	県営畑地帯 総合整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
行者遺跡	集落	弥生時代 古墳時代  中世・近世 不明	竪穴住居跡 竪穴住居跡 土坑 溝跡 溝跡	2軒 1軒 1基 1条 1条	弥生土器(煮) 土師器(沓器台)  土師質土器、陶器 馬骨壺	弥生時代後期の生居跡内から十五台式土器が出土している。第1号溝跡は江戸時代中期には埋没している。覆土からは馬骨壺や土師質土器、陶器が出土している。		

茨城県笠岡市

寺 上 遺 跡 2  
行 者 遺 跡 2

県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書

平成 25 年 3 月 10 日 印刷

平成 25 年 3 月 15 日 発行

編集 関東文化財振興会株式会社  
〒308-0846 茨城県筑西市布目11012  
電話 0296-28-7737 FAX 0296-28-7551

発行 笠岡市教育委員会  
〒309-1792 茨城県笠岡市中央一丁目2番1号  
電話 0296-77-1101

印刷 山三印刷株式会社  
〒311-4153 茨城県水戸市河和田町4433-33  
電話 029-252-8481

